青森県埋蔵文化財調査報告書 第466集

砂子瀬遺跡
水上(3)遺跡
水上(4)遺跡

―津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告―

２００９年３月

青森県教育委員会

序

世界自然遺産として知られる白神山地がある西目屋村では、数多くの遺跡が登録されており、太古からブナの森の恵みとともに人々が生活していたと思われます。

当センターでは、津軽ダム建設事業に伴い平成15年度から埋蔵文化財の発掘調査を実施していますが、平成18年度には美山湖右岸地区と砂子瀬遺跡、平成19年度には砂子瀬遺跡・水上(3)遺跡・水上(4)遺跡の発掘調査を行いました。

本報告書は、これらの調査結果をまとめたものです。

砂子瀬遺跡は、礫層を掘り込んで作られた配石遺構や土器埋設遺構などが確認されました。

特に屋外配石炉は、礫を方形状に組み合わせたもので、県内では青森市の小牧野遺跡に次いで２例目となります。

また、水上(4)遺跡では、縄文時代の沢から多量の縄文土器が出土しました。

今後も引き続いて周辺の発掘調査が行なわれる予定であり、豊かな自然と厳しい環境の中での縄文時代の人々の生活が明らかになることと思われます。

この調査報告書が、青森県の文化財の保護と研究に役立つことができれば幸いに存じます。

発掘調査の実施及び報告書の作成にあたり、ご指導、ご協力いただきました多くの方々に対しまして深く感謝の意を表します。

平成２１年３月

青森県埋蔵文化財調査センター

所　長　伊　藤　博　文

例　　言

1　本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが津軽ダム建設事業に伴い、平成 18・19年度に調査を実施した西目屋村美山湖右岸地区及び砂子瀬遺跡の確認調査と砂子瀬遺跡、水上(3)遺跡、水上(4)遺跡の発掘調査報告書である。なお、平成 18年度の確認調査の結果、美山湖右岸地区は上流域が水上(2)遺跡、中流域が水上(4)遺跡、下流域が水上(3)遺跡として青森県遺跡台帳に新規登録された。

2　遺跡の所在地及び青森県遺跡番号は以下の通りである。

砂子瀬遺跡　　青森県中津軽郡西目屋村大字砂子瀬字宮元　(青森県遺跡番号　25008)

水上(3)遺跡　　青森県中津軽郡西目屋村大字砂子瀬字水上　(青森県遺跡番号　25026)

水上(4)遺跡　　青森県中津軽郡西目屋村大字砂子瀬字水上　(青森県遺跡番号　25029)

3　本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。なお、執筆者名は依頼原稿については文頭に、その他は必要に応じて文末に付した。

4　発掘調査及び整理作業・報告書作成の経費は、調査を受託した国土交通省東北整備局津軽ダム工事事務所が負担した。

5　挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付してある。なお、遺物写真の縮尺は統一していない。

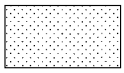
6　土層等の色調観察には農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖(小山正忠・竹原秀雄　2006)』を使用した。

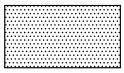
7　出土遺物の石質鑑定は国立大学法人弘前大学の柴正敏氏に依頼した。

8　本書に掲載した地図は、国土地理院発行の２万５千分の１の地形図を複製したものである。

9　図中で用いたスクリーントーンは、以下のとおりである。

スリ範囲(石　器)


タタキ・凹み範囲(石　器)


被熱範囲(石　器)

10　引用・参考文献については巻末に収めた。文中に引用した文献名については著者名と西暦年で示した。

11　発掘調査における出土遺物・実測図・写真等は現在青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。

12　発掘調査及び本報告書作成にあたり、次の機関並びに諸氏からご教示、ご指導を受けた。

青森県立郷土館、秋田県埋蔵文化財センター、滝沢村埋蔵文化財センター、西目屋村教育委員会
泉 択良(国立学校法人 京都大学 大学院教授)、井上 雅孝(滝沢村埋蔵文化財センター)、岩井 浩介・成田 正彦・岡本 康嗣(弘前市教育委員会)、岡村 道雄(奥松島縄文村歴史資料館 名誉館長)、小笠原 雅行(青森県教育委員会 文化財保護課 三内丸山対策室)、小笠原 豊(平川市教育委員会)、児玉 大成(青森市教育委員会)、小久保 拓也(八戸市教育委員会)、小林 克・高橋 学・菅野 美香子・宇田川 浩一(秋田県埋蔵文化財センター)、島影 壮憲(大館市郷土館)、須藤 隆(前国立学校法人 東北大学 大学院教授)、中田 書矢(鯵ヶ沢町教育委員会)、八木 勝枝(岩手県立博物館)

目　次

序
例言
目次
第１章　平成 18年度の発掘調査
　第１節　調査に至るまでの経過 …… 1
　第２節　調査要項 …… 2
　第３節　調査方法と整理方法…… 2
　第４節　調査経過…… 3
　第５節　遺跡の位置と周辺の遺跡…… 4
　第６節　調査トレンチと基本層序…… 5
　第７節　検出遺構と出土遺物
　　第１項　検出遺構…… 6
　　第２項　出土遺物…… 9
　第８節　まとめ…… 15
第２章　平成 19年度の発掘調査
　第１節　調査要項…… 16
　第２節　調査方法と整理方法…… 17
　第３節　調査経過…… 18
第３章　砂子瀬遺跡
　第１節　基本層序…… 19
　第２節　検出遺構と出土遺物
　　第１項　検出遺構…… 20
　　１．竪穴住居跡　２．土坑　３．配石遺構　４．屋外配石炉　５．土器埋設遺構
　　第２項　出土遺物…… 62
　　１．土器　２．石器　３．土製品　４．石製品
第４章　水上（３)遺跡
　第１節　基本層序…… 71
　第２節　検出遺構と出土遺物
　　第１項　検出遺構…… 72
　　第２項　出土遺物…… 73
　　１．土器　２．石器
第５章　水上（４)遺跡
　第１節　基本層序…… 77
　第２節　検出遺構と出土遺物
　　第１項　検出遺構…… 78
　　１．土坑　２．ピット　３．配石遺構　４ .遺物捨て場
　　第２項　出土遺物…… 82
　　１．土器　２．石器
第６章　理化学的分析
　第１節　放射性年代測定結果報告書…… 90
第７章　まとめ…… 93
　　遺物観察表…… 95
　　写真図版 …… 101
報告書抄録

第 1章　平成 18年度の発掘調査

第 1節　調査に至るまでの経過

岩木川総合開発の事業の一環として建設される津軽ダムは、昭和 35年に完成した目屋ダムの度重なる計画規模を超えた出水による洪水や渇水の被害などを繰り返さないため、昭和 58年から建設省東北地方建設局青森工事事務所による予備調査や実施計画調査が行なわれ、平成 5年 11月に「ダム基本計画」が公示された。

平成 14年には、国土交通省東北地方整備局津軽ダム工事事務所から青森県教育庁文化財保護課へ、津軽ダム建設予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の取扱いに関する協議の依頼があり、これを受けて同年７月に、津軽ダム工事事務所、県文化財保護課、西目屋村教育委員会の 3者により、現地踏査と津軽ダム建設工事の工程・内容、津軽ダム建設予定地内の埋蔵文化財調査の進め方等についての協議が行われた。その後、文化財保護課による分布調査が実施され、津軽ダム建設予定地常時満水区域内の埋蔵文化財調査対象範囲を 12地区、総面積約 768,000㎡と確定した。

発掘調査は、青森県埋蔵文化財調査センターが担当して実施することになり、平成 15年度は、大川添 (1)・(2)遺跡、川原平 (1)・(4)遺跡の範囲・性格・内容等の確認調査、平成 16年度～ 18年度には水上遺跡の調査が行われた。

平成 18年 7月に国土交通省津軽ダム工事事務所から、工事用道路及び骨材置き場予定地の要望が出された。これを受けて、県文化財保護課と県埋蔵文化財調査センターで協議をした結果、確認調査であれば 9月～ 10月に対応が可能であることを回答し、同年 9月 5日から調査を開始した。確認調査の結果、美山湖右岸地区の上流域は水上(②遺跡、下流域は水上(③遺跡として青森県遺跡台帳に新規登録された。

平成 18年 11月に津軽ダム工事事務所及び県文化財保護課、県埋蔵文化財調査センターによって今後の発掘調査予定についての協議が行われ、平成 19年度の発掘調査は、砂子瀬遺跡の湯ノ沢橋付け替え道路区域と水上(③遺跡の及び美山湖右岸地区中流域のダム本体工事用道路拡幅区域を対象として発掘調査が行われることになった。なお、この調査によって美山湖右岸地区中流域は、水上(④遺跡として新規登録されている。

平成 19年度の 5月 8日から開始したが、周知の埋蔵文化財包蔵地に対する土木工事のための発掘に関する通知は砂子瀬遺跡と水上(③遺跡が平成 19年 4月、水上(④遺跡については同年 10月に国土交通省津軽ダム工事事務所長から提出され、青森県教育委員会から事前の記録保存のための発掘調査を実施するよう指示がなされている。また、工事に伴う事前の準備や発掘調査時の安全管理及び設計変更に伴う調査区域の変更などについても、その都度関係諸機関と協議を行いながら調査を進めた。

第 2節　調査要項

1　調査目的　　津軽ダム建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する美山湖右岸地区外の発掘調査を行い、その記録を保存して、地域社会の文化財活用に資する。

2　調査期間　　平成 18年 9月 5日（火）から同年 10月 27日（金）まで

3　遺跡名及び所在地　　美山湖右岸地区（青森県遺跡番号　未登録）
中津軽郡西目屋村大字砂子瀬字水上ほか
砂子瀬村元遺跡（青森県遺跡番号　25014）
中津軽郡西目屋村大字砂子瀬字村元
砂子瀬遺跡　　（青森県遺跡番号　25008）
中津軽郡西目屋村大字砂子瀬字宮元

4　調査面積　　美山湖右岸地区　　約 5,000㎡（調査対象面積約 155,000㎡）
砂子瀬村元遺跡　　約　300㎡（調査対象面積約　20,000㎡）
砂子瀬遺跡　　約 2,200㎡（調査対象面積約　50,000㎡）

5　調査委託者　　国土交通省　東北地方整備局　津軽ダム工事事務所

6　調査受託者　　青森県教育委員会

7　調査担当機関　　青森県埋蔵文化財調査センター

8　調査体制　　調査指導員　藤 沼　邦 彦　　国立大学法人 弘前大学 人文学部教授（考古学・平成 20年３月退職）
調　査　員　島 口　天　　青森県立郷土館　学芸主査（地質学）
調査担当者　青森県埋蔵文化財調査センター
所　　長　　白 鳥　隆 昭 (現青森県立郷土館館長)
次長 (調査第一 GL兼務)三 浦　圭 介 (平成 19年３月退職)
総務ＧＬ　　櫻 庭　孝 雄
総括主幹　　成 田　滋 彦 (現副参事)
文化財保護主幹　　中 嶋　友 文 (現総括主幹)
調 査 補 助 員　　小 幡　育 恵・渡 辺　陽 一・赤 坂　啓 明

第 3節　調査方法と整理方法

(調査方法)

平成 18年度の調査は、当初津軽ダムの満水区域に所在する美山湖右岸地区（青森県遺跡台帳に未登録の３地域）について、包含層の厚さ及び遺構・遺物の分布密度の把握と遺跡範囲を確定ための調査である。しかし、 10月上旬の豪雨により美山湖の水位が上昇したため、 10月中旬から美山湖右岸地区の調査を中断して、砂子瀬遺跡の範囲確認調査に変更している。

グリッド設定については、津軽ダム工事の下請け業者が、津軽ダム貯水池用地測量で設置した４級水準点から、公共座標軸（旧日本測地系）に合わせて 50mメッシュで基準杭を設置した（後の測量結果では西に 70mほどずれているのが判明している）。また、標準原点を平成 12年度付替県道実施

路線測量で設置した KBM.3(H=185.6m)を与点として調査区内に数カ所設置した。

調査は基準杭を基点として、基準杭の両脇 10mの立木の伐採と萱などの下草刈り行い 4m幅で 20～ 30mのトレンチを設定した。表土の除去や遺構・遺物に支障ない部分の掘り下げには重機を使用し、便宜上地域ごとにトレンチ番号を付けた。

遺構は、その種類に応じて仮の表記を付した。竪穴住居跡；ＳＩ、土坑；ＳＫ、焼土遺構；ＳＮ等であるが、精査していないため遺構かどうか判断できない風倒木痕などの落ち込みもとりあえず記載してある。

遺物の取り上げは、トレンチごとに層単位で行った。基本層序の注記は『標準土色帖』を用いた。

写真の撮影にあたっては、35㎜の一眼レフカメラとデジタルカメラを併用し、フイルムはモノクローム、カラーリバーサルの各フィルムを使用した。

（整理方法）

整理は、当センターにて美山湖右岸地区及び砂子瀬遺跡から出土した遺物を水洗いし、乾燥させ、注記をした後、地区ごとに分けて作業を行った。土器は地区ごとの接合作業が終了後に、復元実測の可能な土器と器種・時期がある程度分かる土器破片を選択し断面実測及び拓本を行った。石器は地区ごとに、器種や代表的な形態ものを選択し実測した。また、土製品・石製品はすべて実測し掲載した。なお、掲載遺物には観察表を付している。

第 4節　調査経過

9月　5日　現場開始日。調査器材を搬入し周辺の整備を行うとともに、美山湖右岸地区上流域を重機（バックホー）によるトレンチの掘り下げを行う。

9月　6日　本日より重機を２台稼働させる。作業員はトレンチの遺構確認を行う。

9月 19日　美山湖右岸地区の重機によるトレンチの掘り下げを終了する。

9月 20日　砂子瀬村元遺跡の重機によるトレンチの掘り下げを開始する。

9月 22日　美山湖右岸地区上流域、砂子瀬村元遺跡のトレンチ脇の排土が、増水時に流出しないよう重機で填圧する。

9月 28日　美山湖右岸地区から中流地区への通路を確保するため草刈りを行う。

10月 10日　10月 6日からの豪雨により、美山湖右岸地区の上流域の一部を除いて、中流域、下流域、砂子瀬村元遺跡が水没したため、津軽ダム工事事務所担当者と協議の結果、 10月 17日より砂子瀬遺跡の重機によるトレンチの掘り下げを開始し、順次遺構確認を行うこととなった。

10月 12日　藤沼調査指導員と島口調査員による現地指導が行われる。

10月 20日　津軽ダム工事事務所にて、工務課、県文化財保護課、県埋蔵文化財調査センターの三者による今後の工事予定及び調査予定の協議が行なわれた。

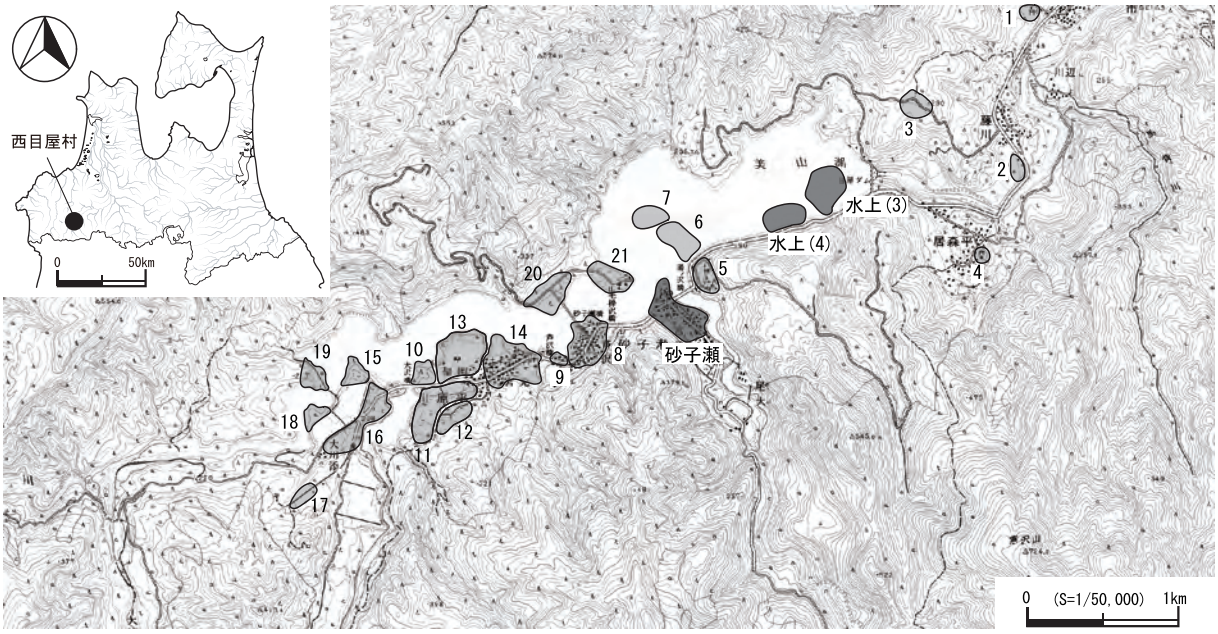
10月 27日　調査終了日。発掘調査器材及び出土遺物等を当センターに搬出して調査を終了した。

（中嶋）

第 5節　遺跡の位置と周辺の遺跡（図 1）

西目屋村には現在 29の遺跡が登録（平成 20年 12月現在）されており、特に目屋ダムのある美山湖周辺に 14の遺跡が周知されており、今後確認調査が必要な区域も 4カ所存在する。

平成３年に、青森県教育委員会が分布調査を実施し、砂子瀬地域では、水上遺跡、芦沢(1)・(2)遺跡、川原平地域では、大川添(1)・(2)遺跡、川原平(3)・(4)・(5)といった遺跡が新たに発見されている。平成 18年度の確認調査結果から、新たに水上(2)・(3)・(4)遺跡が青森県の遺跡台帳に登録され、従来の水上遺跡は水上 (1)遺跡に名称が変更となった。



番号	遺跡名	遺跡番号	時代	種別	番号	遺跡名	遺跡番号	時代	種別
	砂子瀬遺跡	25008	縄文	散布地	10	川原平(1)遺跡	25009	縄文	散布地
	水上(3)遺跡	25026	縄文	散布地	11	川原平(2)遺跡	25010	平安	散布地
	水上(4)遺跡	25029	縄文	散布地	12	川原平(3)遺跡	25016	縄文	散布地
1	稲葉(2)遺跡	25006	平安	散布地	13	川原平(4)遺跡	25022	縄文	散布地
2	瀬の上遺跡	25024	縄文	散布地	14	川原平(5)遺跡	25023	縄文	散布地
3	芦苞遺跡	25007	縄文	散布地	15	大川添(1)遺跡	25018	縄文	散布地
4	寒沢遺跡	25015	縄文	散布地	16	大川添(2)遺跡	25019	縄文	散布地
5	水上遺跡	25017	縄文	集落跡	17	焼山遺跡	25011	縄文	散布地
6	水上(2)遺跡	25025	縄文	集落跡	18	大川添右岸	未登録		
7	砂子瀬村元遺跡	25014	縄文	散布地	19	大川添左岸	〃		
8	芦沢(1)遺跡	25020	縄文	散布地	20	美山湖左岸(中流域)	〃		
9	芦沢(2)遺跡	25021	縄文	散布地	21	美山湖左岸(下流域)	〃		

図１　津軽ダム周辺の遺跡

第 6節　調査トレンチと基本層序（図 2）

砂子瀬遺跡と美山湖右岸地区（上流域・中流域・下流域)は、広範囲な上に削平や造成が行われているため、本節では各試掘箇所 (図 4)の堆積状況に図示する。

水上 (2)遺跡（美山湖右岸地区上流域)
Ⅰ層：造成による盛土　層厚 10～ 45cm。
Ⅱ層：褐色土　10YR4/4　層厚 20～ 70cm。礫（φ～ 10cm)を含む粘土質土。一部砂質土を含む。
Ⅲ層：黄褐色土　10YR5/6　層厚 70cm～。調査区の東側にのみ検出される粘土層、一部に小礫（φ～ 5.0cm)を少量含む。
Ⅳ層：にぶい黄褐色土　10YR5/4　層厚不明。砂質土。礫層（φ～ 30cm)。

水上 (3)・(4)遺跡（美山湖右岸地区中流域・下流域)
Ⅰ層：水没による二次堆積土　層厚 10～ 20cm。
Ⅱ層：暗灰色土　10YR4/1　層厚 15～ 20cm。旧耕作土。
Ⅲ層：暗褐色土　10YR3/3　層厚 10～ 30cm。小礫（φ～ 5.0cm)、炭化物を微量に含む。
Ⅳ層：黄褐色土　10YR5/4　層厚 20～ 40cm 粘土質土。小礫（φ～ 5.0cm)を微量含む。
Ⅴ層：にぶい黄褐色土　10YR5/4　層厚不明。砂質土。礫層（φ～ 30cm)。

砂子瀬遺跡
Ⅰ層：造成による盛土　層厚 10～ 80cm。
Ⅱ層：暗褐色土　10YR3/3　層厚 10～ 40cm。小礫（φ～ 3.0cm)、炭化物を微量に含む。
Ⅲ層：褐色土　10YR4/4　層厚 10～ 20cm。小礫（φ～ 5.0cm)、炭化物を微量に含む。
Ⅳ層：黄褐色土　10YR5/8　層厚不明。粘土質土。小礫（φ～ 2.0cm)、炭化物を微量に含む。
Ⅴ層：にぶい黄褐色　10YR5/4　層厚不明。砂質土。礫層（φ～ 70cm)。

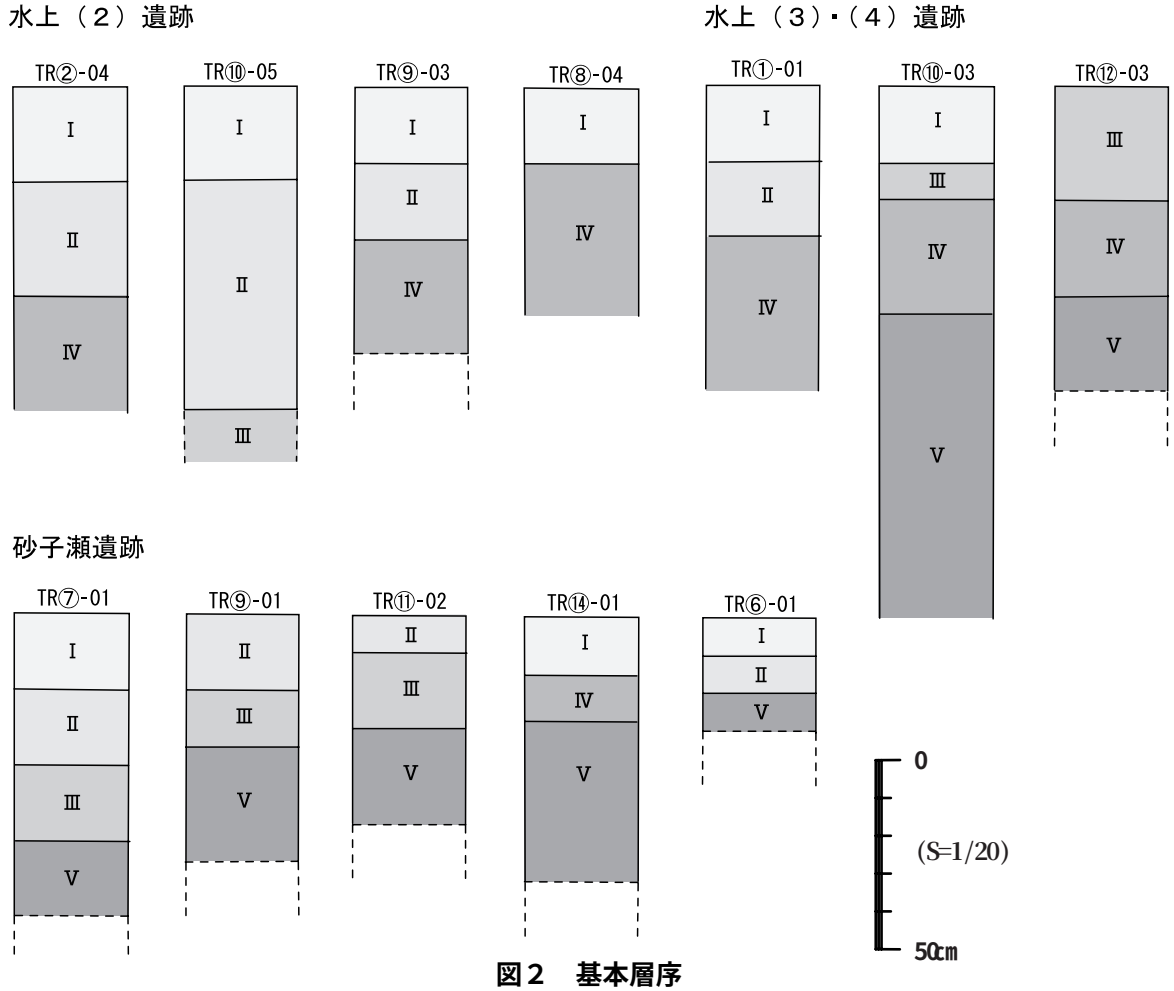


図２　基本層序

第 7節　検出遺構と出土遺物

第１項　検出遺構（図 3）

水上（2）遺跡（美山湖右岸上流地区）では、確認調査トレンチから縄文時代の竪穴住居跡 1軒、石棺墓 2基を確認できたが、水上（3）遺跡（美山湖右岸下流地区 ）・水上（4）遺跡（美山湖右岸中流地区）では、豪雨により充分な試掘調査ができなかったため遺構は確認されていない。砂子瀬村元遺跡では、確認調査トレンチから旧集落の石積みや礎石が確認したが、それ以上掘り下げていないため遺構の有無は不明である。また、砂子瀬遺跡では、確認調査トレンチから縄文時代と思われる土坑 2基を確認した。

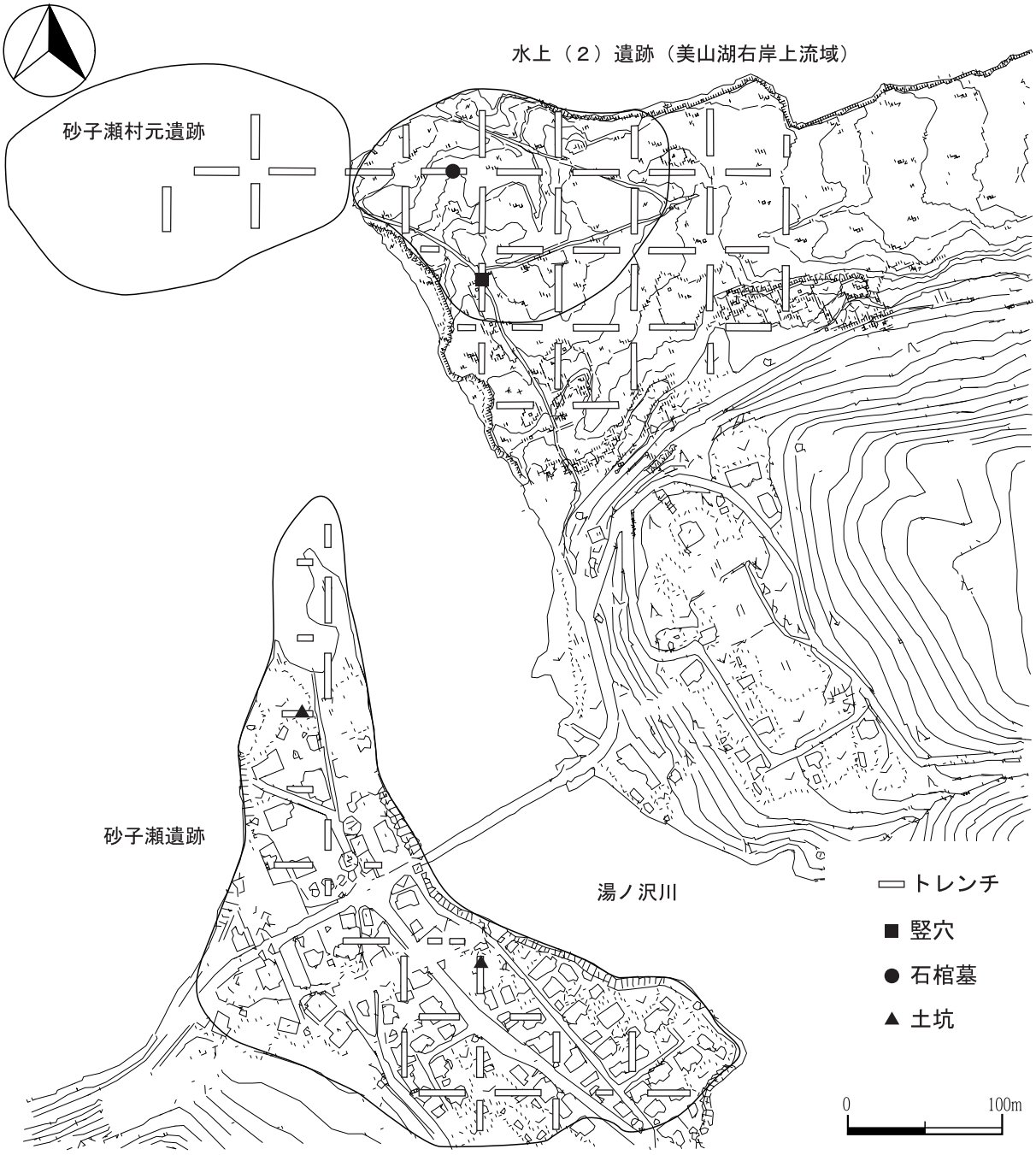


図３　確認調査での検出遺構

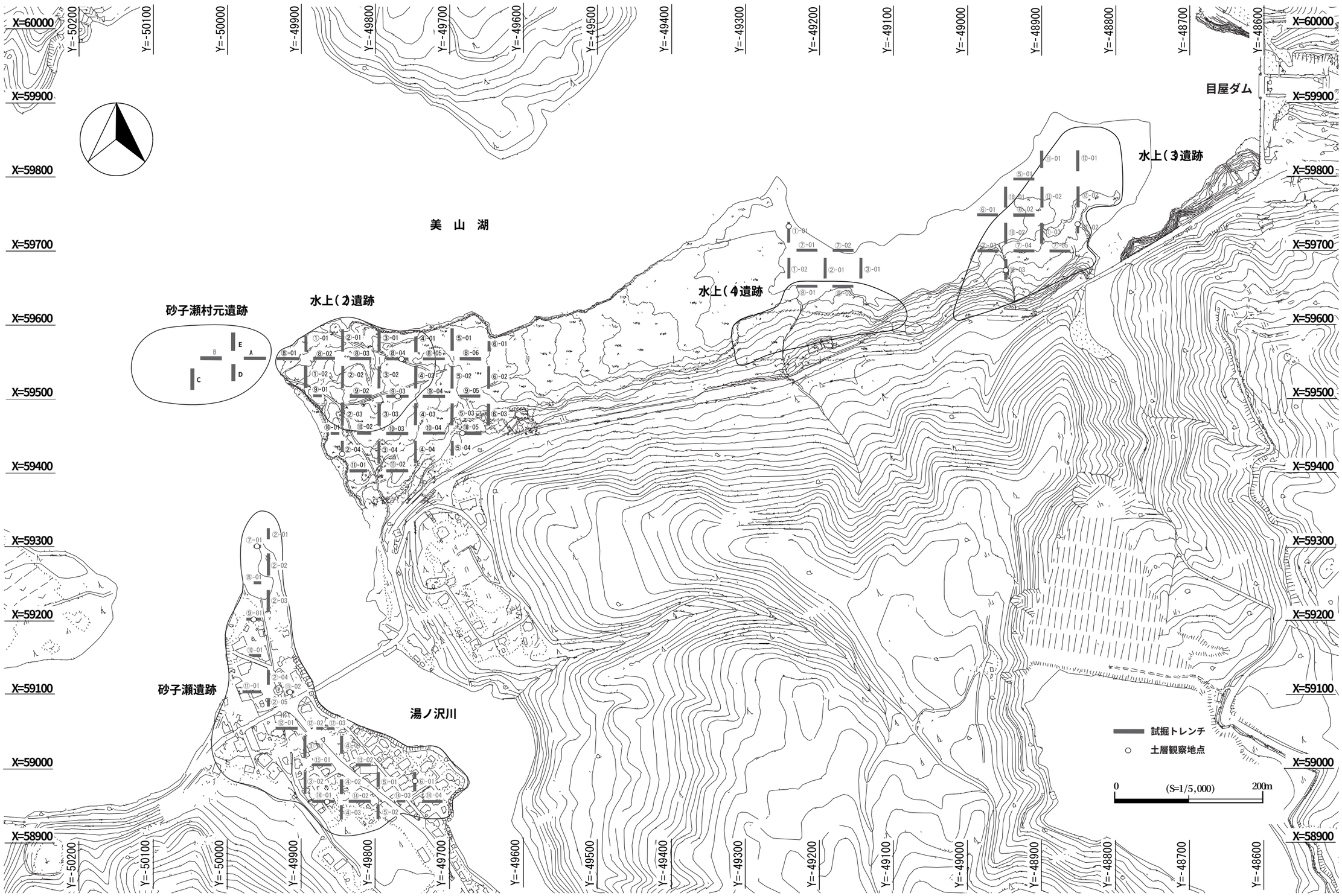

X=60000
Y=-50200
Y=-50100
Y=-50000
Y=-49900
Y=-49800
Y=-49700
Y=-49600
Y=-49500
Y=-49400
Y=-49300
Y=-49200
Y=-49100
Y=-49000
Y=-48900
Y=-48800
Y=-48700
Y=-48600
X=59900
X=59800
X=59700
X=59600
X=59500
X=59400
X=59300
X=59200
X=59100
X=59000
X=58900
目屋ダム
水上（３）遺跡
美　山　湖
水上（４）遺跡
水上（２）遺跡
砂子瀬村元遺跡
砂子瀬遺跡
湯ノ沢川
試掘トレンチ
土層観察地点
0
(S=1/5,000)
200m

図４　トレンチ配置図

第 2項　出土遺物

１　土器（図 5～ 6）

今回の調査で出土した縄文土器は、段ボール箱で 12箱分である。水上 (2)遺跡（美山湖右岸上流地区)から 9箱、水上 (3)遺跡（美山湖右岸下流地区)で数点、砂子瀬村元遺跡と砂子瀬遺跡からそれぞれ 1箱が出土している。出土した土器は、各遺跡によって時期的に若干の違いがみられる。

縄文土器については、下記のとおり分類した。

第Ⅰ群　縄文時代早期の土器

第Ⅱ群　縄文時代前期の土器

第Ⅲ類　縄文時代中期の土器

第Ⅳ群　縄文時代後期の土器

１類　後期初頭から前葉の土器　２類　後期中葉の土器　３類　後期後葉の土器

第Ⅴ群　縄文時代晩期の土器

１類　晩期前葉の土器　２類　晩期中葉の土器　３類　晩期後葉の土器

水上 (2)遺跡（美山湖右岸上流地区 ）

当該地区で出土した縄文土器は、中期から後期を中心に段ボール箱で 9箱分であり、第Ⅰ群の土器は出土していない。

第Ⅱ群　縄文時代前期の土器（図 5－ 1・2）

いずれも口縁部に側面圧痕が施されるものである。

第Ⅲ群　縄文時代中期の土器（図 5－ 3～ 25・32）

第Ⅲ群では、中期後半の土器が比較的多く出土し、 25・32は円筒上層 d式、 19～ 21は最花式とみられる。

第Ⅳ群　縄文時代後期の土器（図 5－ 26～ 30）

１類　後期初頭から前葉の土器

26は切断蓋付土器の紐を通す把手と思われる。 14は沈線、 32は条線文で後期前半の十腰内Ⅰ式土器とみられる。

第Ⅴ群　縄文時代晩期の土器（図 5－ 31）

小型の深鉢でやや薄手の土器である。

水上 (3)遺跡（美山湖右岸下流地区)(図 6－ 1～ 4)

当該地区での縄文土器は、後期後半から晩期とみられる土器破片が数点出土している。

砂子瀬村元遺跡（図 6－ 1～ 4)

当該地区で出土した縄文土器は、中期後半（ 5～ 9）と後期初頭から前葉（ 10～ 12）の土器で、 11は沈線文、 12は網目状でいずれも後期前半の十腰内Ⅰ式土器とみられる。

砂子瀬遺跡（図 6－ 13～ 40)

当該地区の縄文土器は、後期から晩期の土器が出土しており、 19・20は鍵状沈線と櫛歯状条線、 22～ 24は網目状、 33～ 37は壺形で、いずれも後期前半の十腰内Ⅰ式土器とみられる。 40は晩期前葉の土器である。　（中嶋）

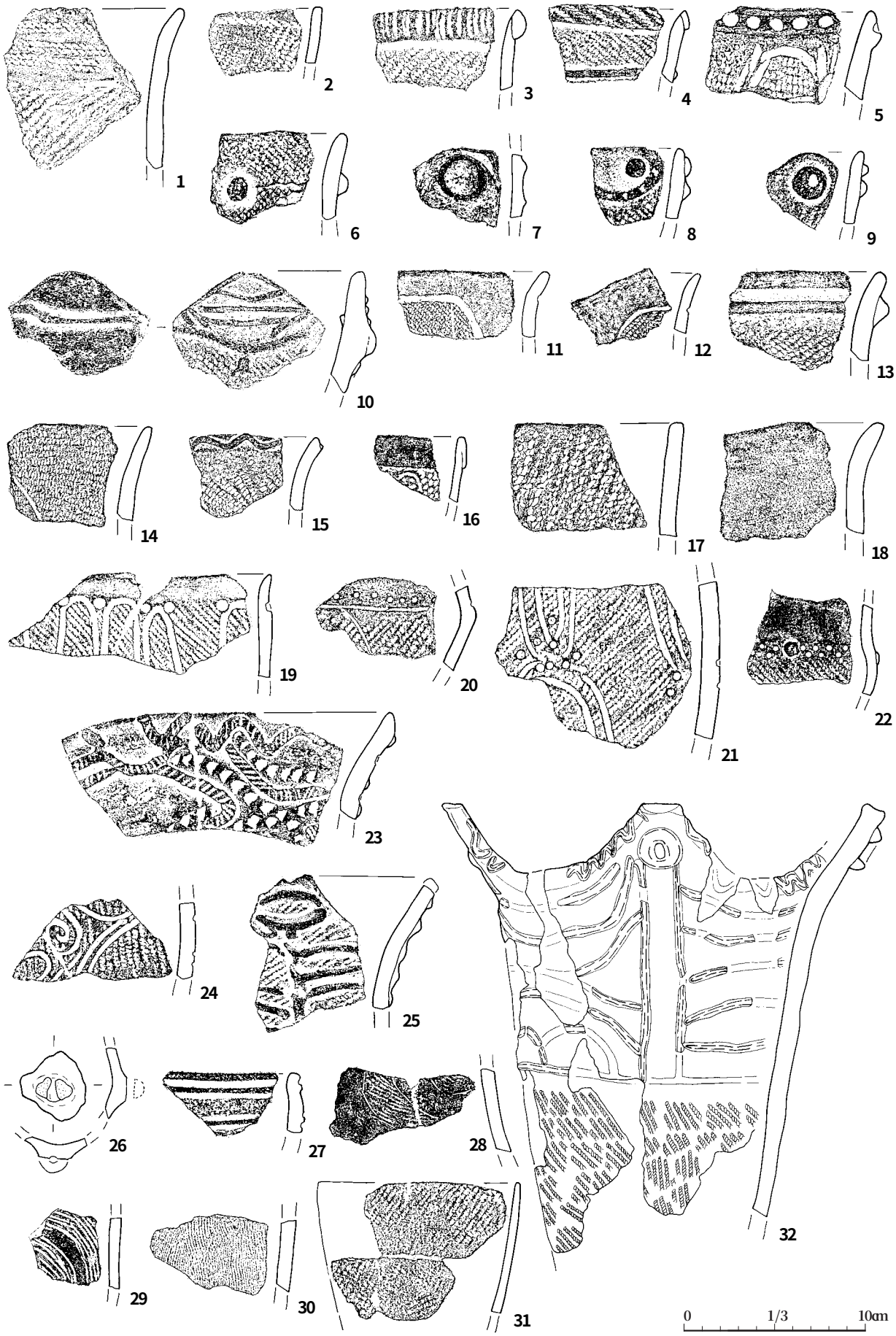

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
0
1/3
10cm

図５　出土遺物１

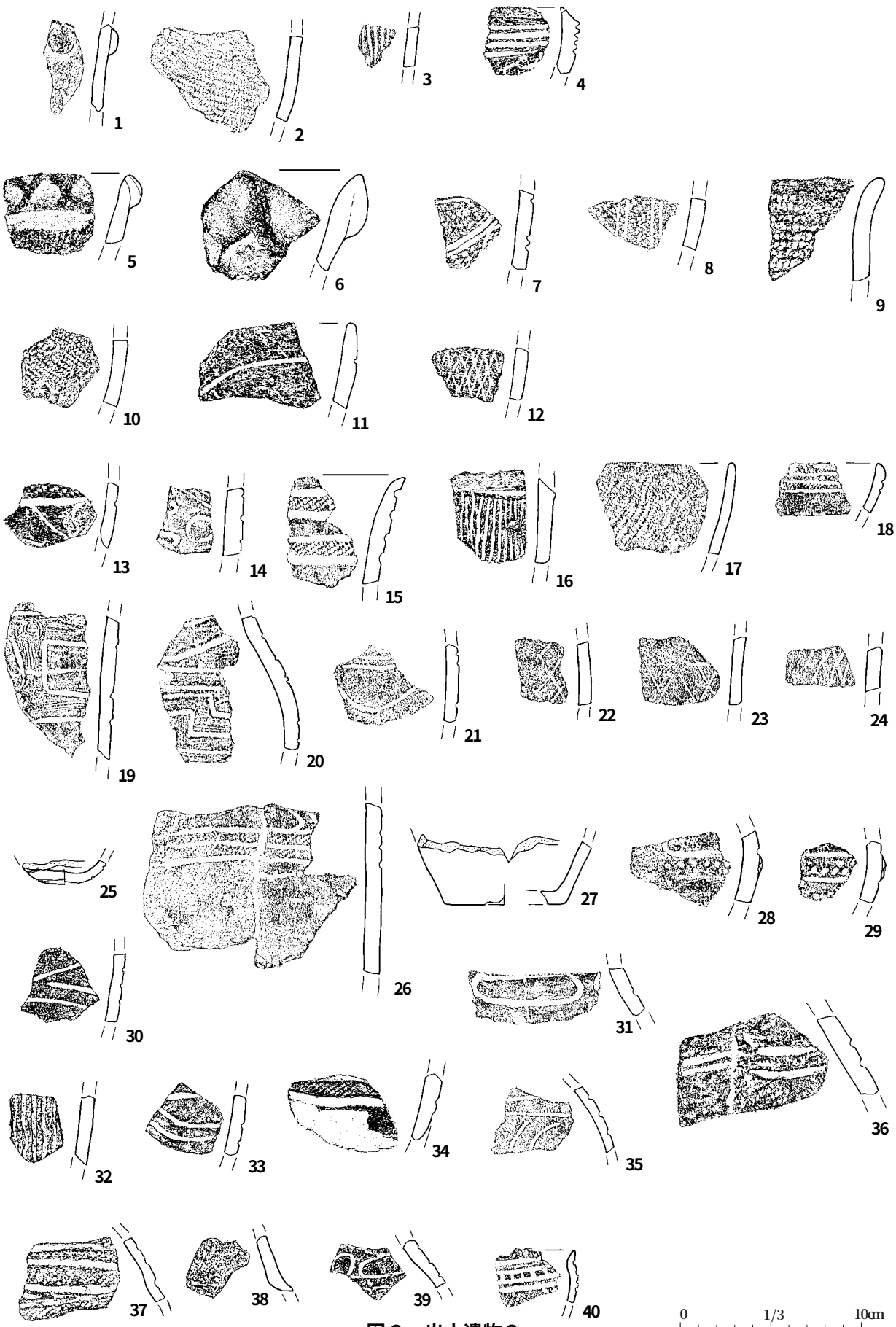

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
0
1/3
10cm

図６　出土遺物２

2　石器（図 7・8）

水上（2）遺跡（美山湖右岸上流地区）

段ボール箱にして 6箱分が出土した。剥片石器は 20点を、礫石器は 11点を図示した。

剥片石器（図 7－ 1 ～ 20）　1～ 5は凹基石鏃、 6～ 8が有茎石鏃である。 1～ 3は両面の基部にアスファルトが残る。 9は形状と大きさから石槍とした。 10、 11は石篦で、 10は撥型、 11は全体形不明である。 12は横型の石匙である。 13～ 15は掻器で 13と 14は下端部に急角度の刃部を形成しているが、 15は幅広の洋梨型で石材のほぼ全周縁を調整して円形の刃部を作り出している。 13は側縁を削器としていた可能性もある。 16～ 20は削器で側縁に刃部を作る。

礫石器（図 8－ 1～ 9）　敲磨器類が大半を占める。使用痕により、次のように分類した。

Ⅰ類　使用痕が擦りのみのもの：1は円柱形の礫の 2面を使用し、端のややすぼまった太鼓のような形に整形され、整形時の打痕や研磨、使用時の擦痕が、使用面も含め全体に残っている。 2は円礫の 3面、 3はしゃもじ形の礫の平坦面 1面を使用している。

Ⅱ類　使用痕が擦り＋叩きのもの：4は側縁～下端部に叩き、残存する自然面には弱い擦痕が見られる。 5は角柱状の礫の稜線部に擦り、端部の平坦面 1面に叩きの使用痕が見られる。 6は球状礫の 1面ずつに叩きと擦りの使用痕が見られる。

Ⅲ類　使用痕が擦り＋凹みのもの：出土していない。

Ⅳ類　擦り＋叩き＋凹みのもの：出土していない。

Ⅴ類　使用痕が叩きのみのもの：7は石篦の再利用品で、 2側縁を使用している。

Ⅶ類　使用痕が凹みによるもの：いずれも扁平な楕円礫を用い、 8は表面 1面、 9は表裏 2面を使用している。

磨製石斧（図 8－ 10）　基部が欠損しているもので刃部には擦痕と刃こぼれが見られる。断面は隅丸長方形に近い。裏面に整形時の叩き痕が残る。

石皿（図 8－ 11）　側縁部と表面に使用痕が見られるもので、裏面側縁部の一部に炭化物のような付着物が確認できる。縁の有無は不明である。

砂子瀬村元遺跡

段ボール箱で 1箱分が出土し、剥片石器 4点を図示している。

剥片石器（図 7－ 21～ 24）　石鏃は有茎と平基が 1点ずつで、 23、 24は削器で側縁を使用している。

砂子瀬遺跡

段ボール箱で 1箱分が出土している。このうち剥片石器が 5点中 4点、礫石器 2点を図示した。

剥片石器（図 7－ 25～ 28）　28は有茎の石鏃で、基部の抉りが浅い。 25は器体の上部と下部で幅が違い、石篦の未製品か再加工品と思われる。 26は削器で側縁を使用している。 27は掻器で下端部を加工している。

礫石器（図 8－ 12、 13）　敲磨器類のⅠ類が 1点、Ⅴ類が 1点出土した。 12はデイサイト製で、円柱状の礫の両端部を使用している。 13は凝灰岩製で、卵形の礫の下端部を使用している。

（佐藤・菅原）

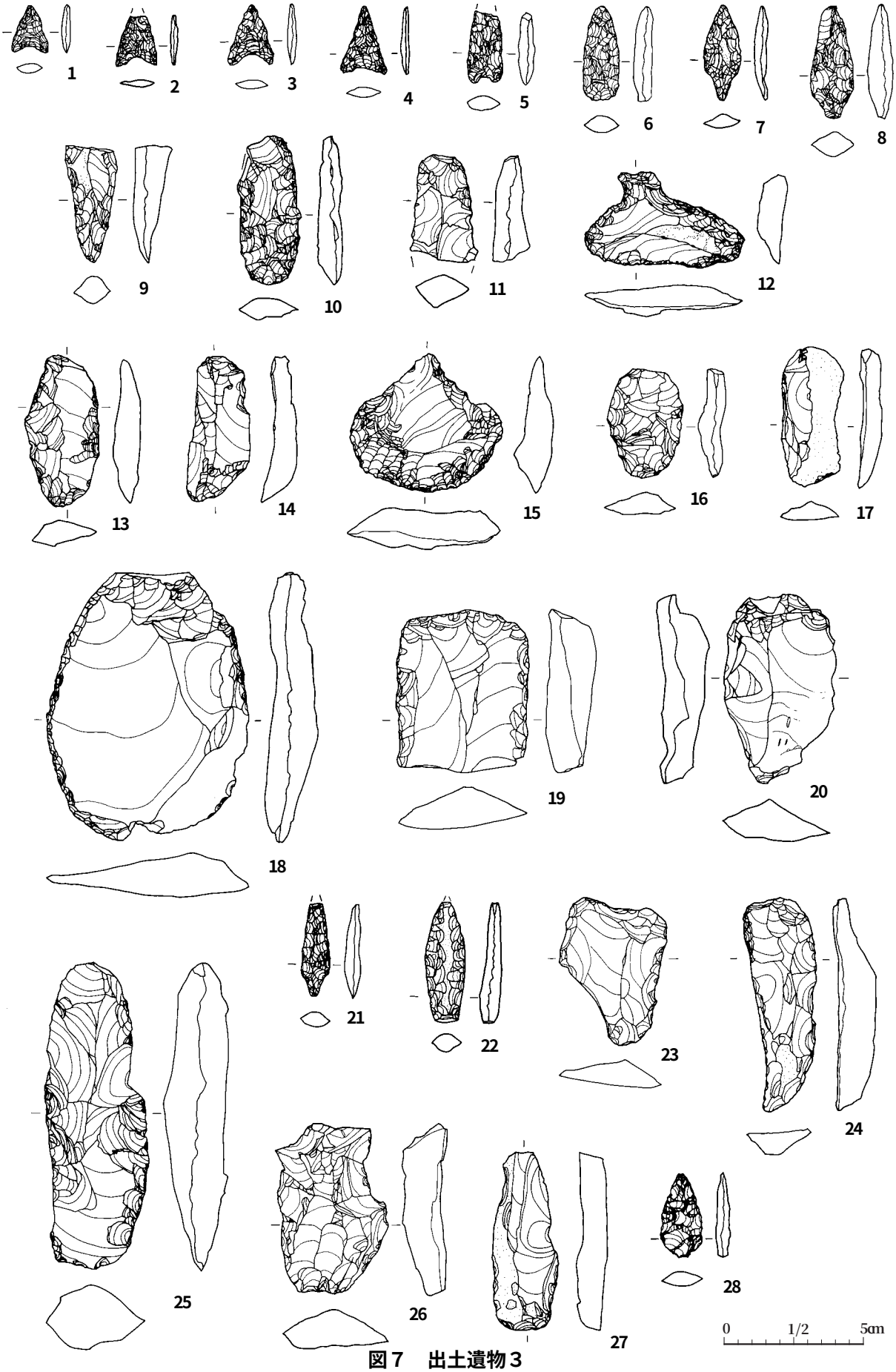

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
0
1/2
5cm

図７　出土遺物３

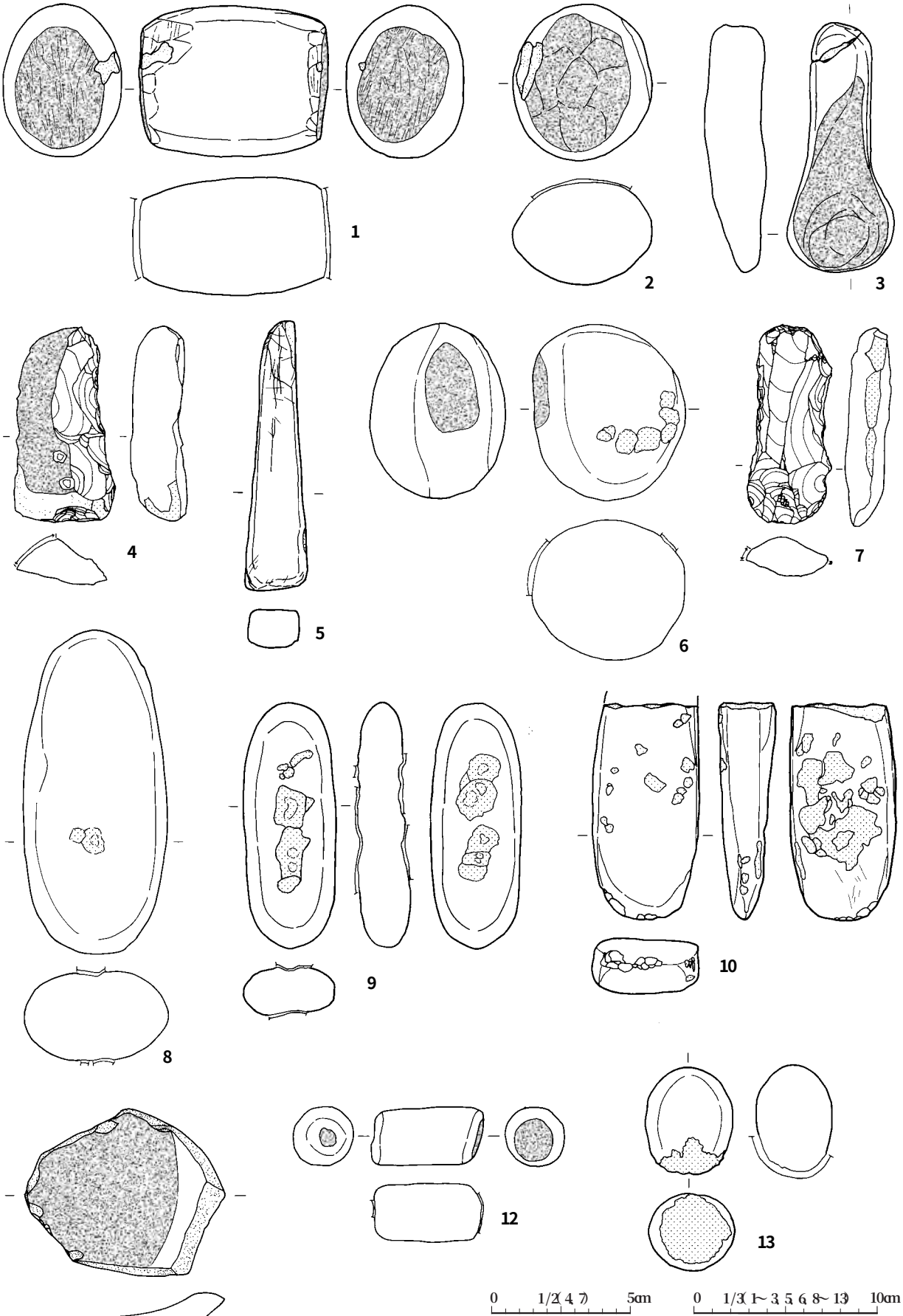


図８　出土遺物４

第８節　確認調査のまとめ

今回の確認調査によって美山湖右岸地区の上流域は水上 (2)遺跡、中流域が水上 (4)遺跡、下流域が水上 (3)遺跡として新規登録された。以下に調査成果について記述する。

１　遺跡の立地

白神山地の東部に位置する砂子瀬遺跡と美山湖右岸地区の遺跡は、岩木川右岸の河岸段丘上に位置する。調査区の標高は 160～ 200mの緩やかな緩斜面で、砂子瀬遺跡を除いた美山湖右岸地区及び砂子瀬村元遺跡はダム湖の増水期には大部分が水没しており、特に砂子瀬村元遺跡は渇水期のみ確認できる状況である。現況は、砂子瀬遺跡は宅地や畑地であるが、美山湖右岸地区は旧砂子瀬集落が移転し 40年以上が経っているため、里山のような雑木林と萱原が広がっている。また、砂子瀬村元遺跡は、旧集落跡に 1m以上の泥が堆積している状況であった。

２　検出遺構

確認調査で検出した遺構は、水上 (2)遺跡で竪穴住居跡１軒と石棺墓２基を確認している。水上 (3)遺跡及び水上 (4)遺跡では、 10月上旬の集中豪雨により調査を継続できなっかたため遺構は確認されていない。砂子瀬村元遺跡も、堆積している泥を掘り下げ、旧集落の石積み跡まで確認したが、増水したためそれ以上の調査はできなかった。ダム湖の水位に直接関係のない砂子瀬遺跡では、縄文時代と思われる土坑を 2基確認している。

３　出土遺物

出土した遺物は、おもに縄文時代の土器や石器で、水上 (2)遺跡が段ボール箱で 19箱、水上 (3)遺跡、砂子瀬村元遺跡、砂子瀬遺跡でそれぞれ段ボール箱で１箱づつ出土している。

４　まとめ

調査の結果、砂子瀬村元遺跡を除く調査対象区域の大部分が、旧砂子瀬集落の宅地や畑地の造成による影響と目屋ダム建設時の盛土や削平を受けていることが判明した。

水上 (2)遺跡は、一部礫層まで削平されている区域がみられるものの、岩木川や湯ノ沢川に接する縁辺部には遺構や遺物を確認でき、次年度以降の調査必要面積は約 20,000㎡と想定される。

水上 (3)遺跡と水上 (4)遺跡では、調査の途中でトレンチが水没したため詳細は不明である。しかし、確認できたトレンチは、田畑の造成により礫層まで削平されていた。次年度以降の範囲確認を含めた調査対象面積は、水上 (3)遺跡が 27,000㎡、水上 (4)遺跡　が約 16,000㎡である。

砂子瀬村元遺跡は、旧集落の確認面で縄文時代の遺物が出土しており調査必要面積は約 20,000㎡と考えられる。

砂子瀬遺跡の平坦部は、旧砂子瀬集落の人々がダム建設に伴い移転した時、かなり大規模な宅地や畑地の造成が行われており、一部、湯ノ沢川縁辺部に遺構や遺物がみられる。本調査が必要な面積は約 25,000㎡で、未買収などにより確認できなかった区域の面積は約 9,000㎡である。

第 2章　平成 19年度の発掘調査

第 1節　調査要項

1　調査目的　　津軽ダム建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する西目屋村砂子瀬遺跡外の発掘調査を行い、その記録を保存して、地域社会の文化財活用に資する。

2　調査期間　　平成 19年 5月 8日 (火)から同年 10月 31日 (金)まで

3　遺跡名及び所在地　　砂子瀬遺跡　（青森県遺跡番号　25008）
中津軽郡西目屋村大字砂子瀬字宮元 9外
水上 (3)遺跡（青森県遺跡番号　25026）
中津軽郡西目屋村大字砂子瀬字水上
水上 (4)遺跡（青森県遺跡番号　25029）
中津軽郡西目屋村大字砂子瀬字水上

4　調査面積　　砂子瀬遺跡　約 13,300㎡（調査対象面積約 22,000㎡）
水上 (3)遺跡　約 2,100㎡（調査対象面積約 27,000㎡）
水上 (4)遺跡　約 4,500㎡（調査対象面積約 16,000㎡）

5　調査委託者　　国土交通省　東北地方整備局　津軽ダム工事事務所

6　調査受託者　　青森県教育委員会

7　調査担当機関　　青森県埋蔵文化財調査センター

8　調査体制

調査指導員	藤沼　邦彦	国立大学法人 弘前大学 人文学部教授（考古学・平成 20年 3月退職 ）
調査員	葛西　勵	前青森短期大学教授（考古学）
調査員	島口　天	青森県立郷土館　学芸主査（地質学）

調査担当者　青森県埋蔵文化財調査センター

所長	末永　五郎 (平成 20年 3月退職)
次長 (調査第一 GL兼務)	三宅　徹也 (平成 20年 3月退職)
総務ＧＬ	櫻庭　孝雄
総括主幹	中嶋　友文
文化財保護主査	工藤　忍
文化財保護主査	佐藤　純子
文化財保護主事	神　昌樹 (現文化財保護主査)
調査補助員	西本　結美・館山　昌生・小鹿　伸輔
〃	野月　夕湖・新矢　直之・成田　厳人
〃	齋藤　裕恵・成田　舞子

第 2節　調査方法と整理方法

(調査方法)

平成 19年度の調査は、砂子瀬遺跡が湯ノ沢橋付け替え工事用道路部分の発掘調査とダム工事用道路の拡幅に伴う水上 (4)遺跡と水上 (3)遺跡の範囲確認を含めた発掘調査である。

グリッド設定は、砂子瀬遺跡は工事用基準杭 (T1, T2)より移設した。水上 (3)・(4)遺跡も工事図面に設けられた道路のセンター杭より移設し、公共座標軸 (世界測地系)で位置を把握した。標準原点は平成 12年度付替県道実施路線測量で設置した KBM.3(H=186.3m)を与点として砂子瀬遺跡と水上 (3)・(4)遺跡の調査区内に数カ所設置した。

砂子瀬遺跡及び水上 (3)・(4)遺跡の調査は、平成 18年度の調査で確認したトレンチの層序を参考にして表土の除去には重機を使用した。また、基準杭を基点としたグリッド法を用い、４m四方のグリッドを設定した。グリッドは東西方向に算用数字、南北方向にローマ数字とアルファベットを組み合わせて付し、その呼称は南西隅の杭番号を使用している。

遺構は、その種類に応じて仮の表記を付した。竪穴住居跡；ＳＩ、土坑；ＳＫ、焼土遺構；ＳＮ、埋設土器；ＭＰ、配石 (集石)；ＳＱ等である。

遺物の取り上げは、トレンチごとに層単位で行った。基本層序の注記は『標準土色帖』を用いた。

写真の撮影にあたっては、 35㎜の一眼レフカメラとデジタルカメラを併用し、フイルムはモノクローム、カラーリバーサルの各フィルムを使用した。

(整理方法)

整理は、当センターにて水上 (3)・(4)遺跡及び砂子瀬遺跡出土の土器・石器を水洗いし、乾燥させ注記をした後、地区ごとに分けて作業を行った。土器は地区ごとの接合作業が終了後復元実測の可能な土器と器種・時期がある程度分かる土器破片を選択し断面実測及び拓本を行った。石器は地区ごとに、器種や代表的な形態ものを選択し実測した。また、土製品・石製品はすべてを実測し掲載した。遺物の実測が終了次第、写真撮影を行っている。なお、報告書の掲載遺物には観察表を付している。

第 3節　調査経過

5月　7日～ 24日　砂子瀬遺跡Ｃ地区の重機による表土処理及び排土移動を開始する。

5月　8日　現場開始日、調査器材を搬入し周辺の整備を行い、午後から遺構確認を開始し、グリッド杭の敷設、ベンチ・マークの移動も並行して行った。

5月 29日～ 31日　砂子瀬遺跡Ｄ地区の重機による表土処理及び排土移動を行う。

6月 13日　西目屋村村長、村会議員ほか二十数名が現場を視察する。

6月 19日～ 27日　水上 (4)遺跡の重機によるトレンチの掘り下げを行う。

6月 21日　島口調査員による地質の現地指導を行う。

7月　4日　砂子瀬遺跡Ｄ区のラジコンヘりによる空中写真撮影を行う。

7月　5日　現場プレハブにて、津軽ダム工務課、工事課、工事担当者、埋文センターによる今後の予定についての協議が行われる。

7月 10日～ 26日　砂子瀬Ｃ区の表土処理及び排土移動を行う。

7月 26日～　8月 24日　水上 (4)遺跡の重機による表土処理及び排土移動と遺構確認を行う。

8月　2日　水上 (3)遺跡の優先地区の調査を開始する。

8月　7日　前日からの豪雨により美山湖の水位が上昇し、水上 (3)遺跡の調査を一時中止する。

9月 12日　水上 (3)遺跡の優先地区の調査を終了する。

9月 19日　水上 (4)遺跡の発掘調査を開始する。

10月 10日　現場事務所にて、津軽ダム工務課、県文化財保護課工事課、県埋蔵文化財センターによる今後の予定についての協議が行われる。

10月 26日　水上 (4)遺跡の発掘調査を終了する。

10月 29日　豪雨の中、名古屋教育次長が現場を視察する。

10月 30日　砂子瀬Ｃ区、Ｅ区の未調査部分をシートで保護し、午後から発掘調査器材等を越冬プレハブに収納する。

10月 31日　発掘調査器材の一部と出土遺物等を当センターに搬出し、調査を終了する。　（中嶋）

第 3章　砂子瀬遺跡

第 1節　基本層序（図 9）

砂子瀬遺跡の平坦部は、旧砂子瀬集落が移転する際に造成したため削平や盛土による影響を受けており、基本層序のⅡ層やⅢ層が確認できない区域も存在する。

Ⅰ層：造成による盛土　層厚 10～ 80cm

Ⅱ層：暗褐色土　10YR3/3　層厚 10～ 20cm　小礫（φ～ 3.0cm）・炭化物を微量に含む。

Ⅲ-1層：褐色土　10YR4/4　層厚 10～ 20cm　粘土質土　小礫（φ～ 5.0cm）・炭化物を微量に含む。

Ⅲ-2層：黄褐色土　10YR5/6　層厚 20～ 30cm　砂質土　小礫（φ～ 5.0cm）・炭化物を微量に含む。

Ⅳ層：黄褐色土　10YR5/8　層厚 30～ 60cm　粘土質土　小礫（φ～ 2.0cm）・炭化物を微量に含む。

Ⅴ層：にぶい黄褐色土　10YR5/4　層厚 50～ 80cm　砂質土　礫層（φ～ 50cm）

Ⅵ層：褐灰色土　10YR5/1　層厚不明　砂質土　礫層（φ～ 70cm）

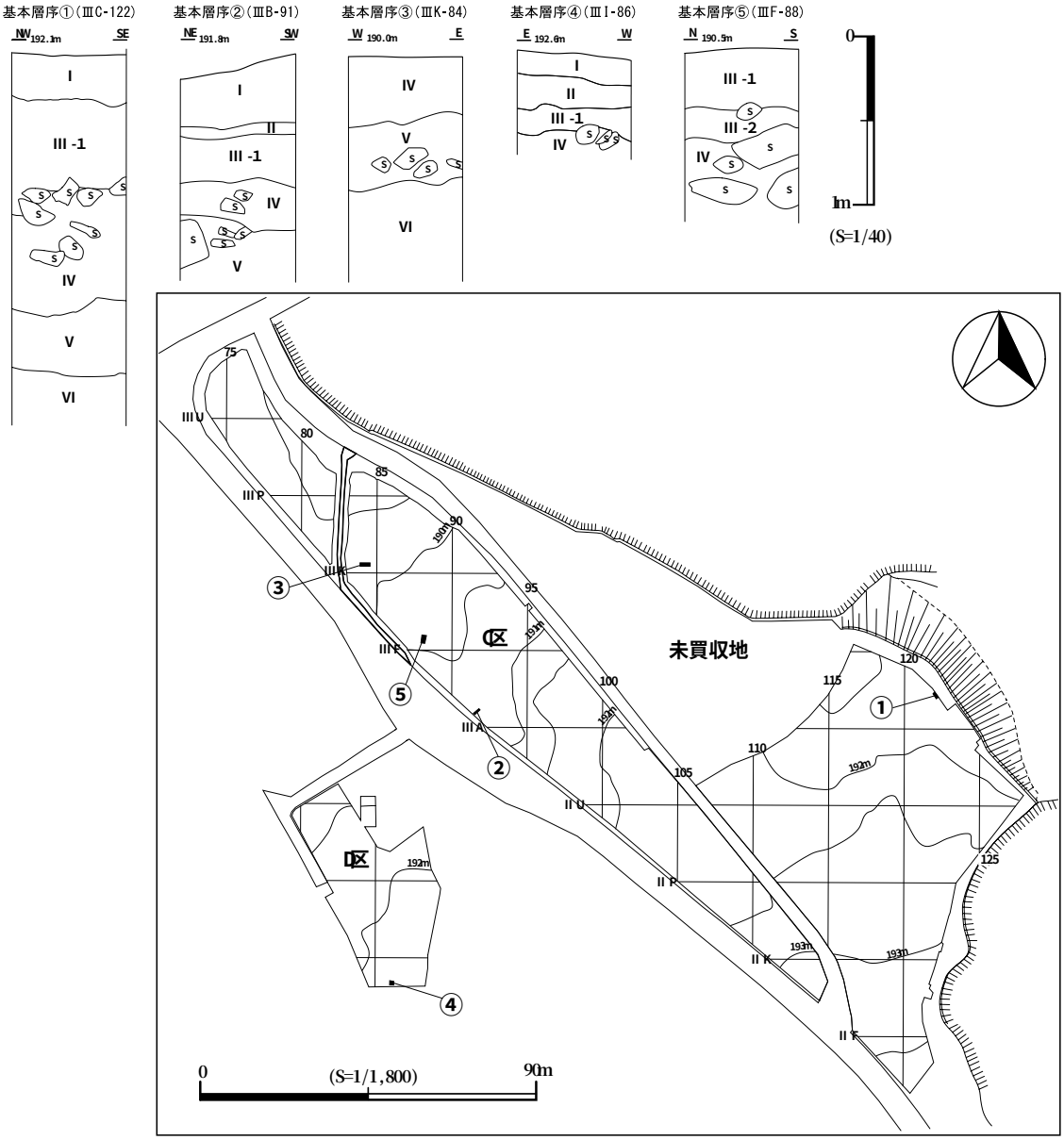


図９　基本層序

第 2節　検出遺構と出土遺物

砂子瀬遺跡の発掘調査では、対象区域が広範囲におよぶため、便宜上道路で分断されている区域からＡ～Ｅ区として区別している。

縄文時代の遺構は湯ノ沢川に面した川沿いに確認され、Ｃ区からは竪穴住居跡１軒、土坑 30基、配石遺構５基、土器埋設 14基、屋外配石炉１基、Ｄ区から土坑３基が検出された。なお、今後の整理の都合上、Ｃ区検出遺構については平成 19年度に調査が終了できず、平成 20年度に調査が行われた土坑 11基と土器埋設遺構１基も本報告書に記載してある。

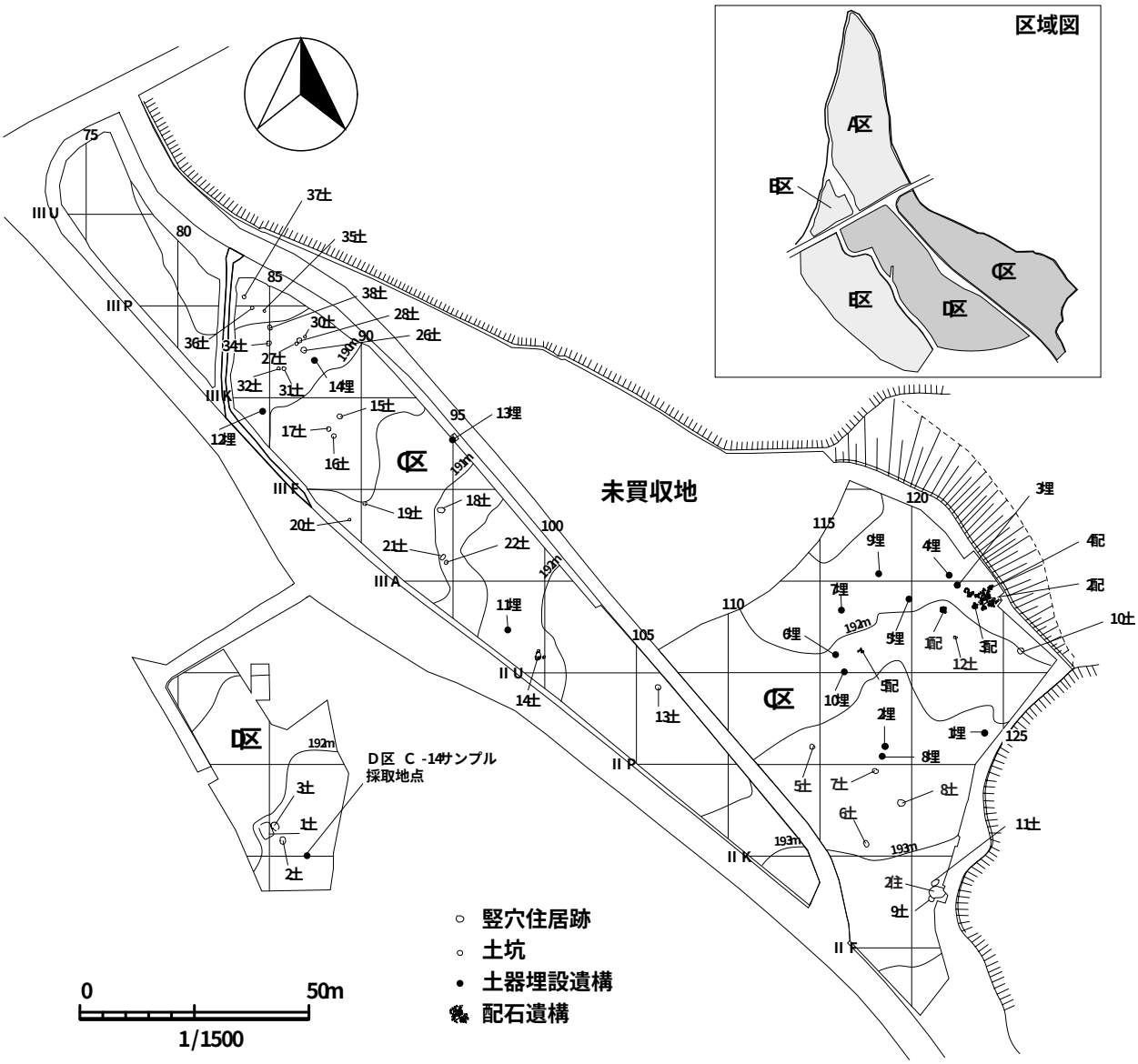


図 10　遺構配置図

第 1項　検出遺構（調査区Ｃ区）

１　竪穴住居跡

第１号竪穴住居跡は第１号屋外配石炉に変更したため欠番

第２号竪穴住居跡（図 11・12）

[位置]調査Ｃ区南東側のⅡＪ・Ⅱ Ⅰ－ 120・121グリッドに位置している。

[重複]南西側で第 9号土坑・北側で第 11号土坑、床下で第 23号土坑と重複し、本遺構が最も新しいと考えられる。（※土坑の記載については、２土坑の項に記載した。）

[平面形・規模]東側は現代の建物の基礎によって削平されているが、残存部分から東西の長さが約 3m 60㎝、南北の長さが 2m 50㎝の楕円形と推定される。

[壁・床面]残存する壁の高さは、約 35㎝で、底面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は礫層を掘り込んでいるため凹凸が見られる。

[炉]住居跡のほぼ中心部に地床炉を検出した。規模は 45× 45㎝で、深さ 7㎝である。赤褐色土の堆積土である。

[ピット]床面からのピットは確認できなかった。

[堆積土]確認できた堆積土は 6層に分層され、いずれの層にも炭化物と礫が含まれている。

[出土遺物]覆土から土器と石器及び土製品が出土している。

[時期]出土した遺物から縄文時代後期前半と考えられる。

２　土坑

第１号土坑～第４号土坑まで攪乱のため欠番

第５号土坑（図 13・18）

［位置]調査Ｃ区のⅡＰ・ⅡＱ－ 114グリッドに位置している。

［形態・規模]平面形は直径約 1mの不整形で、深さは約 46㎝である。

［堆積土]確認できた堆積土は炭化物を含んだ 2層に分層される。

［出土遺物]覆土から土器破片と剥片、礫が出土している。

第６号土坑（図 13・18）

［位置]調査Ｃ区のⅡＫ－ 117グリッドに位置している。

［形態・規模]平面形は長軸約 1m 40㎝、短軸約 1mの楕円形で、深さは約 50㎝である。

［堆積土]確認できた堆積土は炭化物を含んだ 2層に分層される。

［出土遺物]覆土から土器破片と礫が出土している。

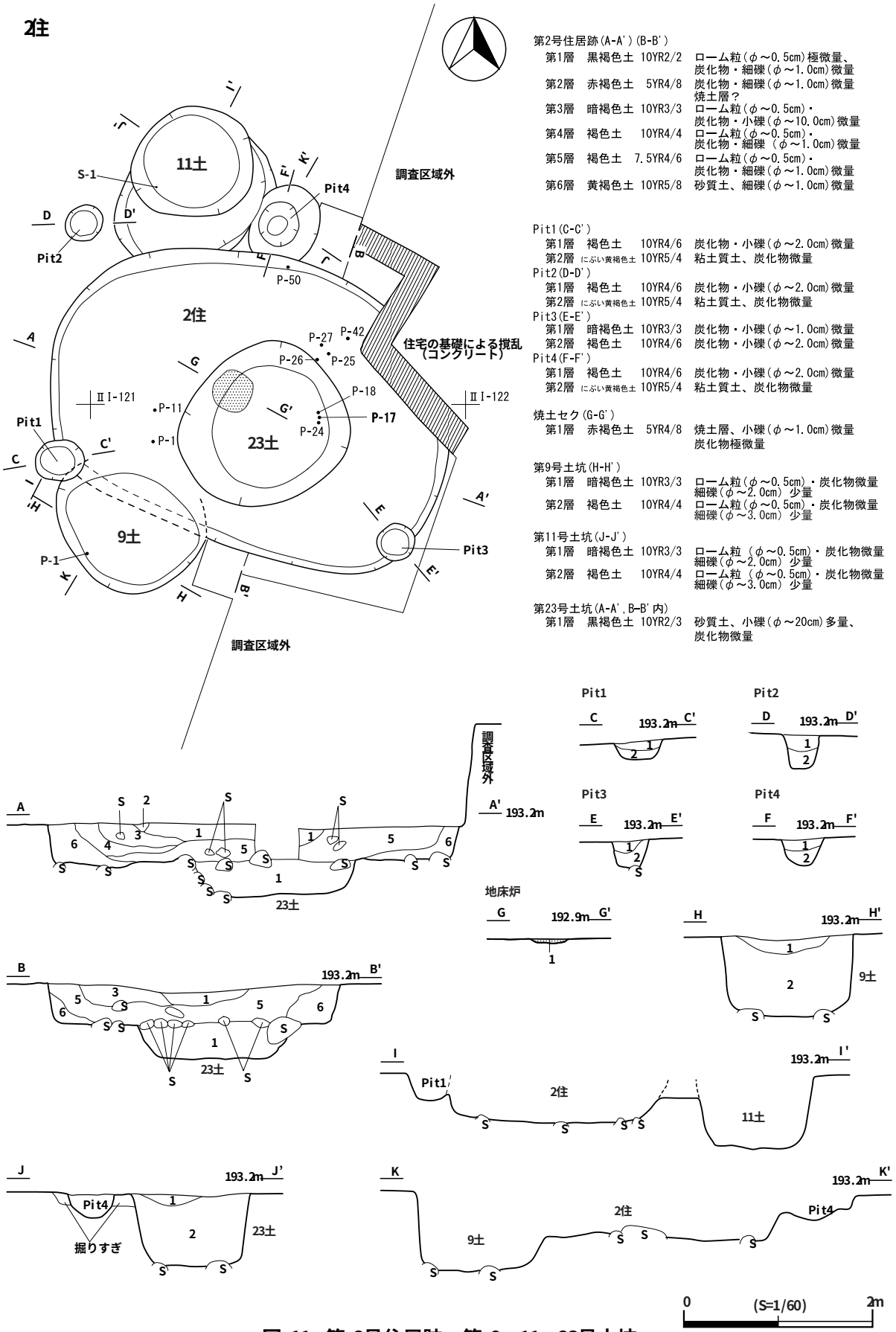
第７号土坑（図 13）

[位置]調査Ｃ区のⅡＯ－ 117・118グリッドに位置している。

[形態・規模]平面形は長軸約 1m 40㎝、短軸約 95㎝の楕円形で、深さは約 15㎝である。

[堆積土]確認できた堆積土は 2層に分層される。

[出土遺物]覆土から礫が出土している。



第2号住居跡(A-A')(B-B')
- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(φ～0.5cm)極微量、炭化物・細礫(φ～1.0cm)微量
- 第2層 赤褐色土 5YR4/8 炭化物・細礫(φ～1.0cm)微量 焼土層？
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(φ～0.5cm)・炭化物・小礫(φ～10.0cm)微量
- 第4層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(φ～0.5cm)・炭化物・細礫 (φ～1.0cm)微量
- 第5層 褐色土 7.5YR4/6 ローム粒(φ～0.5cm)・炭化物・細礫(φ～1.0cm)微量
- 第6層 黄褐色土 10YR5/8 砂質土、細礫(φ～1.0cm)微量

Pit1(C-C')
- 第1層 褐色土 10YR4/6 炭化物・小礫(φ～2.0cm)微量
- 第2層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 粘土質土、炭化物微量

Pit2(D-D')
- 第1層 褐色土 10YR4/6 炭化物・小礫(φ～2.0cm)微量
- 第2層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 粘土質土、炭化物微量

Pit3(E-E')
- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・小礫(φ～1.0cm)微量
- 第2層 褐色土 10YR4/6 炭化物・小礫(φ～2.0cm)微量

Pit4(F-F')
- 第1層 褐色土 10YR4/6 炭化物・小礫(φ～2.0cm)微量
- 第2層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 粘土質土、炭化物微量

焼土セク(G-G')
- 第1層 赤褐色土 5YR4/8 焼土層、小礫(φ～1.0cm)微量 炭化物極微量

第9号土坑(H-H')
- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(φ～0.5cm)・炭化物微量 細礫(φ～2.0cm) 少量
- 第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(φ～0.5cm)・炭化物微量 細礫(φ～3.0cm) 少量

第11号土坑(J-J')
- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒 (φ～0.5cm)・炭化物微量 細礫(φ～2.0cm) 少量
- 第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒 (φ～0.5cm)・炭化物微量 細礫(φ～3.0cm) 少量

第23号土坑(A-A',B-B'内)
- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 砂質土、小礫(φ～20cm)多量、炭化物微量

図 11 第 2号住居跡・第 9・ 11・ 23号土坑

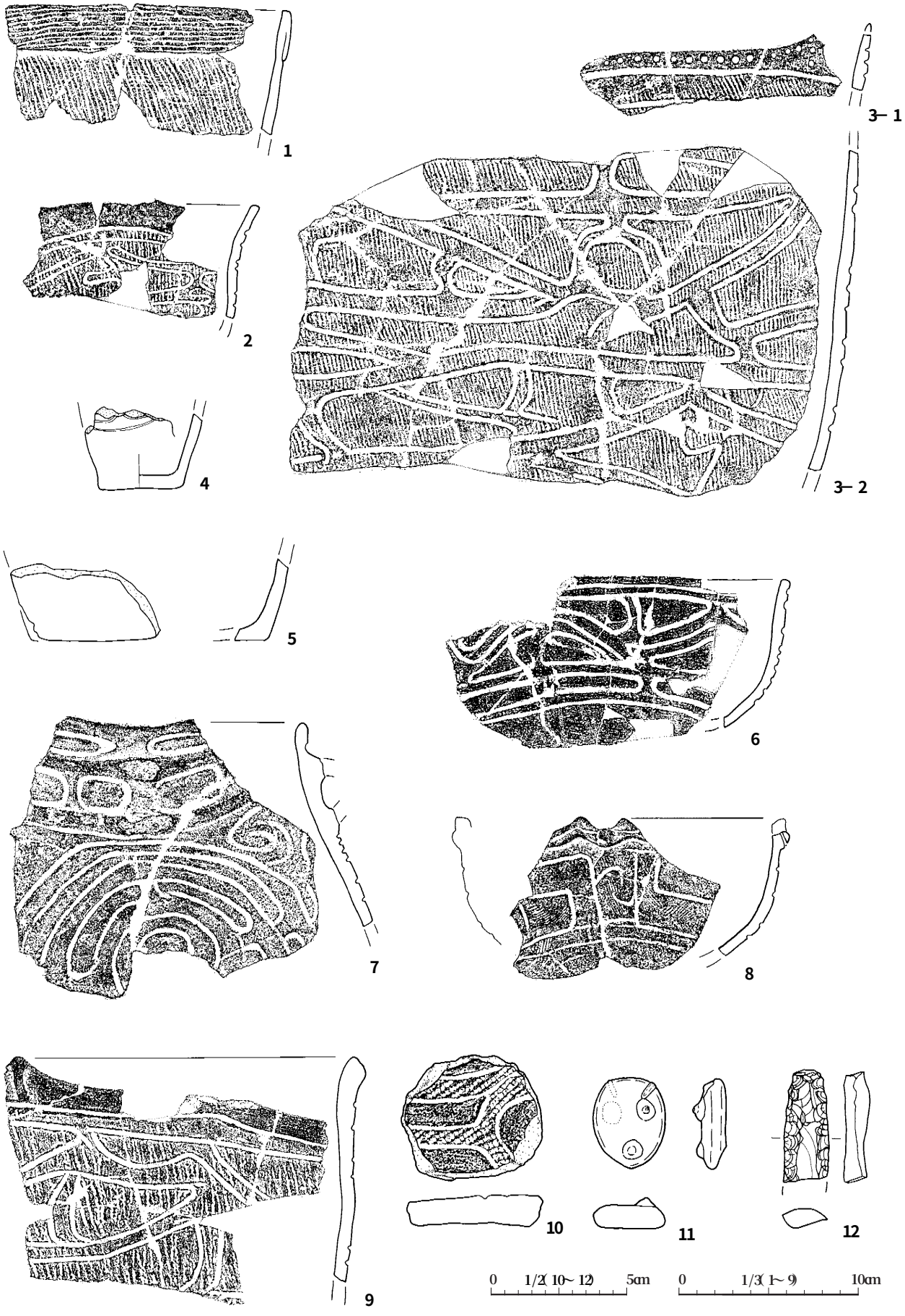
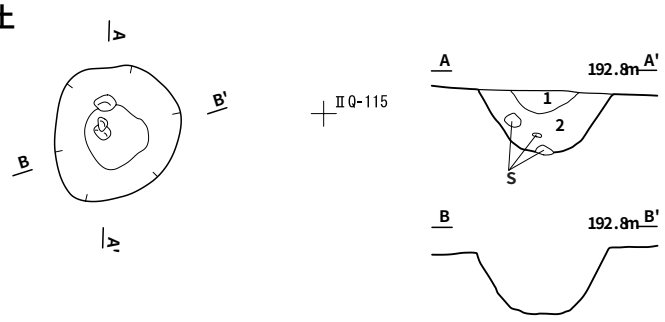


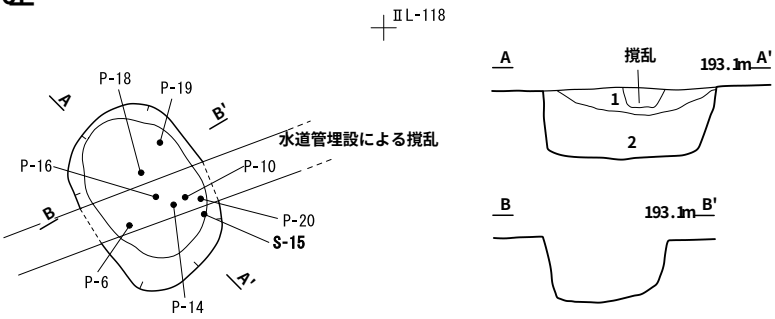
図 12　第 2号竪穴住居跡 出土遺物

5土



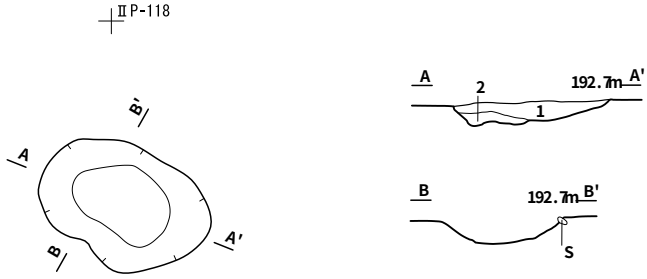
第5号土坑
第1層　明褐色土　7.5YR5/8
ローム粒(φ～1.0cm)、炭化物微量、
小礫(φ～5.0cm)少量、粘質土
第2層　暗褐色土　10YR3/3
ローム粒(φ～1.0cm)、炭化物微量、
礫(φ～10.0cm)少量、シルト質土

6土



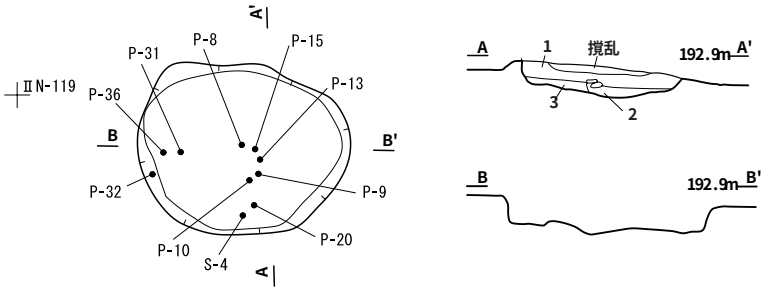
第6号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/4
ローム粒・炭化物微量、細礫(φ～1.0cm)少量
第2層　褐色土　10YR4/4
ローム粒・炭化物・細礫(φ～1.0cm)微量

7土



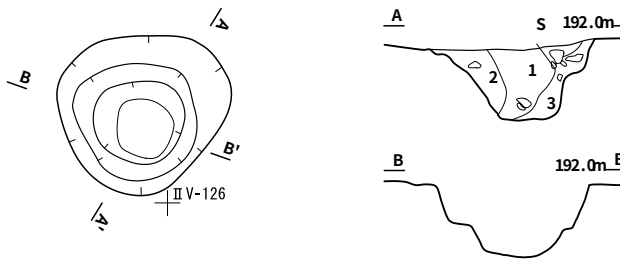
第7号土坑
第1層　灰黄褐色土主体　10YR4/2
炭化物微量、礫(φ0.5～1.0cm)少量混入、
B-Tm下部に中量混入
第2層　暗褐色土主体　10YR3/3
礫(φ1.0～1.5cm)微量混入

8土



第8号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/4
礫(φ1～5cm)少量混入、炭化物微量、
小礫(φ～10cm)少量
第2層　褐色土　10YR4/4
礫(φ～5cm)混入
第3層　黄褐色土　10YR5/6
礫(φ1～3cm)少量混入、炭化物微量

10土



第10号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/4
礫(φ0.5～1cm)中量混入、炭化物微量
第2層　褐色土　10YR4/4
大礫(φ10cm)少量混入、礫(φ0.5～1cm)少量
第3層　暗褐色土　10YR3/3
礫(φ10～15cm)少量混入

0　(S=1/60)　2m

図13　土坑（1）

第８号土坑（図 13・18）

［位置 ］調査Ｃ区のⅡＭ・ⅡＮ－ 119グリッドに位置している。

［形態・規模 ］平面形は長軸約 1m 70㎝、短軸約 1m 30㎝の不整円形で、深さは約 20㎝である。

［堆積土 ］上部は攪乱されており、堆積土は炭化物を含んだ 3層に分層される。

［出土遺物 ］覆土から土器破片と礫が出土している。

第９号土坑（図 11・18）

［位置 ］調査Ｃ区のⅡＨ－ 120・121グリッドに位置している。第 2号竪穴住居跡と南西側で重複し、本土坑が古い。

［形態・規模 ］平面形は直径約 1m 50㎝のほぼ円形で、残存する深さは約 90㎝である。

［堆積土 ］確認できた堆積土は 2層に分層され、いずれも炭化物が含まれている。

［出土遺物 ］覆土から土器破片が出土している。

第 10号土坑（図 13）

[位置 ］調査Ｃ区のⅡＶ－ 125・126グリッドに位置している。

[形態・規模 ］平面形は直径約 1m 20㎝の円形で、深さは約 55㎝である。

[堆積土 ］確認できた堆積土は 3層に分層され、炭化物が含まれている。

[出土遺物 ］覆土から礫が出土している。

第 11号土坑（図 11・18）

［位置 ］調査Ｃ区のⅡⅠ－ 121グリッドに位置している。第 2号竪穴住居跡と北側で重複し本土坑が古い。

［形態・規模 ］平面形は直径約 1m 50㎝のほぼ円形で、深さは約 80㎝である。

［堆積土 ］確認できた堆積土は炭化材を含んだ 2層に分層された。

［出土遺物 ］覆土から剥片石器が出土している。

第 12号土坑（図 14・18）

［位置 ］調査Ｃ区のⅡＶ－ 122グリッドに位置している。

［形態・規模 ］平面形は長軸約 80㎝、短軸約 50㎝の不整形で、深さは約 25㎝である。

［堆積土 ］確認できた堆積土は炭化物と礫を含んだにぶい黄褐色土の層である。

［出土遺物 ］覆土から土器破片が出土している。

第 13号土坑（図 14）

[位置 ］調査Ｃ区のⅡＴ－ 106グリッドに位置している。

[形態・規模 ］平面形は直径約 1mの円形で、深さは約 25㎝である。

[堆積土 ］確認できた堆積土は炭化物と小礫を含んだ暗褐色土の層である。

[出土遺物 ］覆土から礫が出土している。

第 14号土坑（図 14・19）

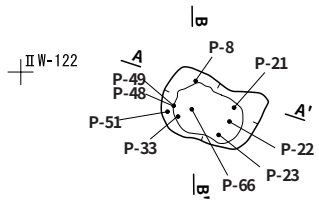
［位置 ］調査Ｃ区のⅡＵ・ⅡＶ－ 99グリッドに位置している。周辺にピットを 2基確認した。本土坑に伴うかは不明である。

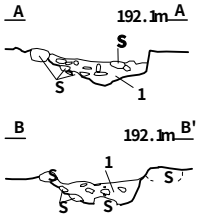
［形態・規模 ］平面形は長軸約 1m 20㎝、短軸約 1mの楕円形で、深さは約 50㎝である。

［堆積土 ］確認できた堆積土は炭化物を含んだ 2層に分層された。

［出土遺物 ］覆土から土器破片と礫が出土している。

12土

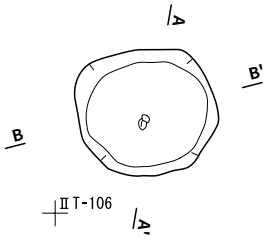


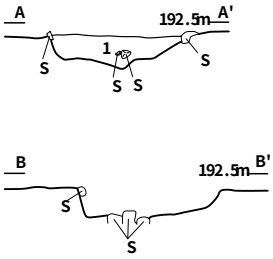


第12号土坑
第1層　にぶい黄褐色土　10YR4/3
礫 (φ 5cm)少量、炭化物 (φ 1cm)微量

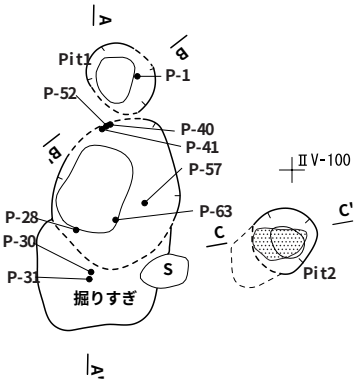
13土

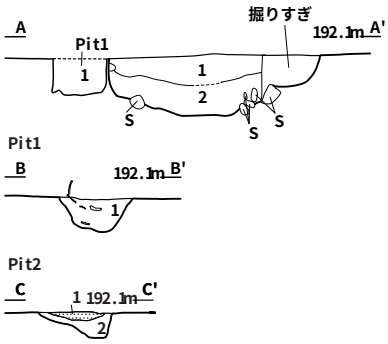
第13号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/4
炭化物・小礫 (φ～5.0cm) 微量、
粘土ブロック混入





14土





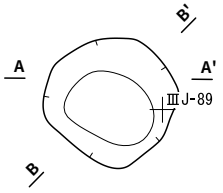
第14号土坑 (A-A')
第1層　暗褐色土　10YR3/4
炭化物・小礫 (φ～2.0cm)微量
第2層　にぶい黄褐色土　10YR5/4
粘土質土、炭化物・小礫 (φ～2.0cm)微量

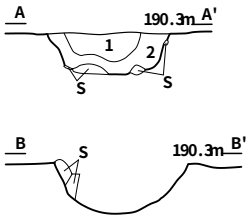
Pit1(B-B')
第1層　黄褐色土　10YR5/8
粘土質土、小礫(φ～2.0cm)微量

Pit2(C-C')
第1層　明赤褐色土　5YR5/8
焼土層、炭化物・小礫 (φ～0.5cm)微量
第2層　暗褐色土　10YR3/4
炭化物・小礫 (φ 3cm)微量

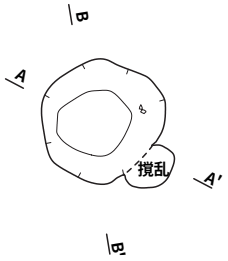
15土

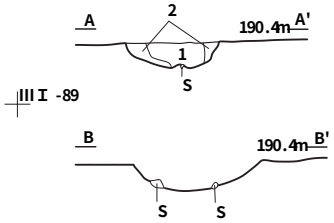
第15号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/3
礫(φ5～10cm)中量、粘土質土
第2層　にぶい黄褐色土　10YR4/3
礫 (φ 1～ 10cm)中量、ローム少量、粘土質土





16土





第16号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/3
礫 (φ 0.5～ 10cm) 中量、粘土質
第2層　にぶい黄褐色土　10YR4/3
礫 (φ 1～ 10cm) 中量、ローム少量、粘土質

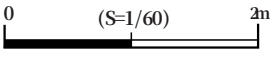


図 14　土坑（2）

第 15号土坑（図 14・19）

［位置 ］調査Ｃ区のⅢＩ・ⅢＪ－ 88・89グリッドに位置している。

［形態・規模 ］平面形は直径約 90㎝のほぼ円形で、深さは約 35㎝である。

［堆積土 ］確認できた堆積土は粘土質の 2層に分層される。

［出土遺物 ］覆土から土器破片が出土している。

第 16号土坑（図 14）

[位置 ］調査Ｃ区のⅢＨ・ⅢＩ－ 88グリッドに位置している。

[形態・規模 ］平面形は直径約 1mのほぼ円形で、深さは約 20㎝、壁はやや緩やかに立ち上がる。

[堆積土 ］確認できた堆積土は 2層に分層される。

[出土遺物 ］覆土から礫が出土している。

第 17号土坑（図 15）

［位置 ］調査Ｃ区のⅢＩ－ 88グリッドに位置している。

［形態・規模 ］平面形は直径約 90㎝のほぼ円形で、深さは約 35㎝である。

［堆積土 ］確認できた堆積土は炭化材を含んだ 4層に分層された。

［出土遺物 ］覆土から土器破片が出土している。

第 18号土坑（図 15・19）

［位置 ］調査区Ｃ区のⅢＤ -94グリッドに位置し、大きな礫とともに落ち込みを確認した。

［形態・規模 ］平面形は長軸約１ｍ 60㎝、短軸約１ｍ 10㎝の楕円形で、深さは約 30㎝である。

［堆積土 ］確認できた堆積土は 2層に分層され、ともに細礫を含んだ粘土質土の層である。

［出土遺物 ］覆土から土器破片が出土している。

第 19号土坑（図 15・19）

[位置 ］調査区Ｃ区のⅢＥ－ 90グリッドに位置している。

[形態・規模 ］平面形は直径約 80㎝のほぼ円形で、深さは約 25㎝である。

[堆積土 ］確認できた堆積土は炭化物を微量に含んだ暗褐色土の層を確認した。

[出土遺物 ］覆土から土器破片が出土している。

第 20号土坑（図 15・19）

［位置 ］調査区Ｃ区のⅢＤ－ 89グリッドに位置し、礫とともに落ち込みを確認した。

［形態・規模 ］平面形は長軸約 65㎝、短軸約 55㎝の円形で、深さは約 20㎝である。

［堆積土 ］確認できた堆積土は炭化物を含んだ暗褐色土の層である。

［出土遺物 ］覆土から土器破片と礫が出土している。

第 21号土坑（図 15・19）

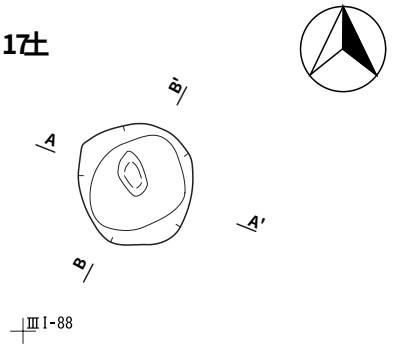
［位置 ］調査区Ｃ区のⅢＡ－ 94グリッドに位置している。

［形態・規模 ］平面形は長軸約１ｍ 40㎝、短軸約 80㎝の楕円形で、深さは約 30㎝である。

［堆積土 ］確認できた堆積土は 2層に分層され、ともに炭化物と細礫を含んだ層である。

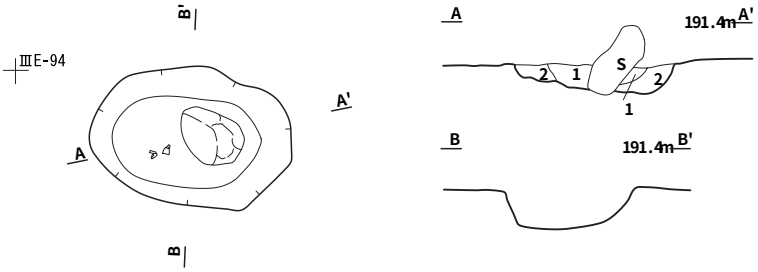
［出土遺物 ］覆土から土器破片と礫が出土している。

17土



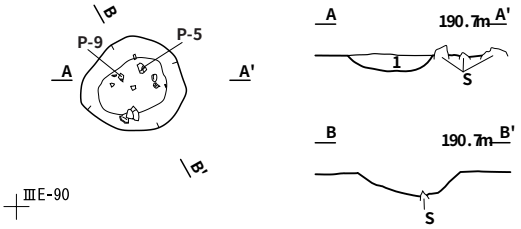
第17号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/3
細礫(φ0.3～0.5cm)極少量、
炭化物(φ0.5cm程度)極少量
第2層　暗褐色土　10YR3/3
小礫(φ1～5cm)少量、
炭化物(φ0.3～0.5cm)少量、粘土質土
第3層　褐色土　10YR4/4
細礫(φ0.1～0.3cm)極少量
第4層　にぶい黄褐色土　10YR4/3
小礫(φ1～3cm)極少量
L.B.　褐色土　10YR4/6

18土



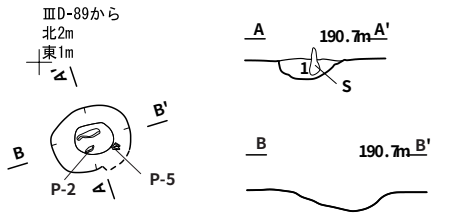
第18号土坑
第1層　黒褐色土　10YR2/3
礫(φ0.5～10cm)中量、粘土質
第2層　にぶい黄褐色土　10YR4/3
礫（φ1～10cm）中量、ローム少量、粘土質

19土



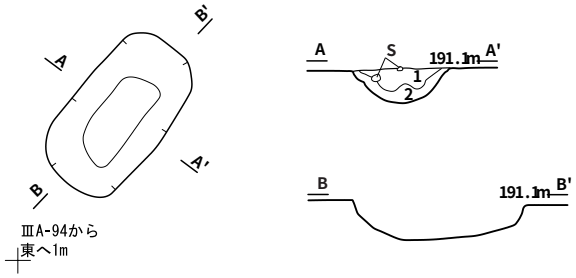
第19号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/3
炭化物・小礫(φ～3.0cm)微量

20土



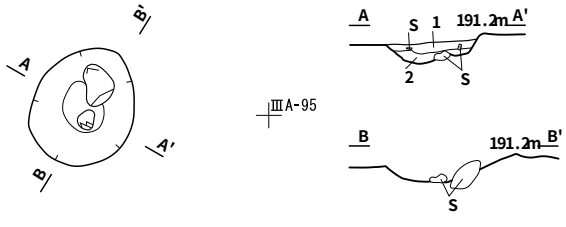
第20号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/3
炭化物・小礫(φ～2.0cm)微量、粘土質土

21土



第21号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/4
炭化物・小礫(φ～3.0cm)微量
第2層　褐色土　10YR4/4
炭化物・小礫(φ0.1～1.0cm)微量、粘土質土

22土



第22号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/4
炭化物・小礫(φ～3.0cm)微量
第2層　褐色土　10YR4/4
炭化物・小礫(φ0.1～1.0cm)微量、粘土質土

0　(S=1/60)　2m

図15　土坑（3）

第 22号土坑（図 15）

[位置]調査区Ｃ区のⅢＢ－ 94グリッドに位置し、大きな礫とともに落ち込みを確認した。

[形態・規模]平面形は長軸約 90㎝、短軸約 80㎝の円形で、深さは約 30㎝である。

[堆積土]確認できた堆積土は 2層に分層され、ともに炭化物と細礫を含んだ層である。

[出土遺物]遺物は出土していない。

第 23号土坑（図 11）→第 2号竪穴住居跡の貼床下の土坑

［位置]調査区Ｃ区のⅢＨ・ⅢＩ -121グリッドに位置している。第 2号竪穴住居跡と重複し、本土坑が古い。

［形態・規模]平面形は直径約１ｍ 70㎝のほぼ円形で、住居跡の床面からの深さは約 35㎝である。

［堆積土]確認できた堆積土は細礫と炭化物を含んだ砂質土の層である。

［出土遺物]遺物は出土していない。

第 24号土坑・第 25号土坑・・・欠番

第 26号土坑（図 16）

[位置]調査Ｃ区のⅢＭ－ 85グリッドに位置している。

[形態・規模]平面形は直径約 1m 30㎝の不整形で、深さは約 50㎝、西よりの壁はやや内側に抉り込んで立ち上がる。

[堆積土]確認できた堆積土は 3層に分層される。

[出土遺物]覆土から土器片と礫が出土している。

第 27号土坑（図 16）

［位置]調査Ｃ区のⅢＭ－ 86グリッドに位置している。

［形態・規模]平面形は長軸約 80㎝、単軸約 60㎝の楕円形で、深さは約 15㎝である。

［堆積土]確認できた堆積土は 2層に分層され、第 1層に炭化物を含んでいる。

［出土遺物]遺物は出土していない。

第 28号土坑（図 16）

［位置]調査区Ｃ区のⅢＮ－ 86グリッドに位置している。

［形態・規模]平面形は直径約 1m 10㎝の円形で、深さは約 20㎝である。

［堆積土]確認できた堆積土は 2層に分層され、ともに小礫を含んだ層である。

［出土遺物]遺物は出土していない。

第 29号土坑・・・欠番

第 30号土坑（図 16）

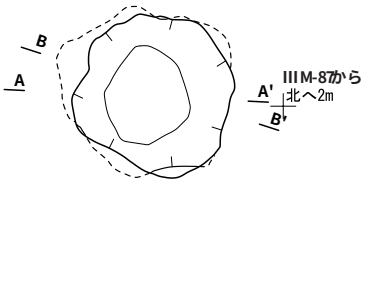
［位置]調査区Ｃ区のⅢＮ -86グリッドに位置している。

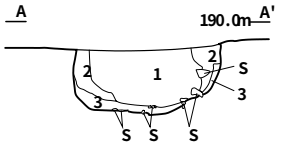
［形態・規模]平面形は直径約 60㎝のほぼ円形で、深さは約 15㎝である。

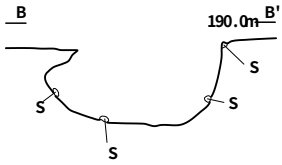
［堆積土]確認できた堆積土は 2層に分層され、ともに炭化物と細礫を含んだ層である。

［出土遺物]遺物は出土していない。

26土



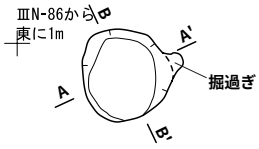


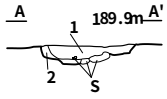


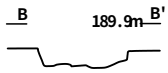
第26号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/4
炭化物(φ0.5～1.0cm)中量・礫(φ5.0～10.0cm)少量
第2層　褐色土　10YR4/4
礫(φ2.0～3.0cm)微量
第3層　褐色土　10YR4/6
炭化物(φ0.5～1.0cm)微量・礫(φ2.0～6.0cm)微量

27土

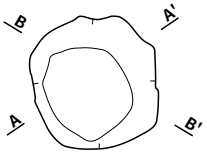
第27号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/3
炭化物(φ～0.5cm)極微量・小礫(φ～4.0cm)極微量
第2層　にぶい黄褐色土　10YR4/3
小礫(φ～0.5cm)極微量



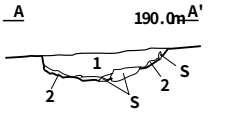


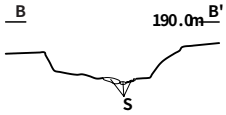


28土



ⅢN-87

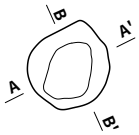


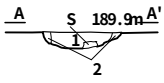


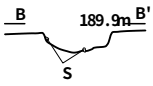
第28号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/3
炭化物(φ～0.5cm)極微量・小礫(φ～2.0cm)極微量
第2層　にぶい黄褐色土　10YR4/3
小礫(φ～5.0cm)極微量

30土

第30号土坑
第1層　黒褐色土 10YR2/3
炭化物(φ～0.5cm)極微量・小礫(φ～11.0cm)極微量
第2層　暗褐色土 10YR3/3
炭化物(φ～0.5cm)極微量・小礫(φ～1.0cm)極微量

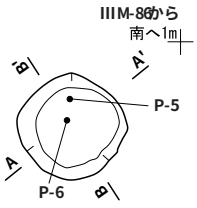


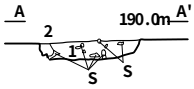


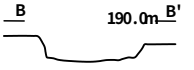


ⅢN-87

31土







第31号土坑
第1層　黒褐色土 10YR3/2
炭化物(φ～1.0cm)極微量・小礫(φ～5.0cm)少量
第2層　暗褐色土 10YR3/4
小礫(φ～8.0cm)極微量

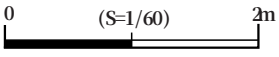


図16　土坑（4）

第 31号土坑（図 16・19）

［位置 ］調査区Ｃ区のⅢＭ－ 86グリッドに位置している。

［形態・規模 ］平面形は直径約 80㎝の円形で、深さは約 20㎝である。

［堆積土 ］確認できた堆積土 2層に分層され、ともに小礫を含んだ層である。

［出土遺物 ］覆土から土器片が出土している。

第 32号土坑（図 17）

［位置 ］調査区Ｃ区のⅢＬ－ 85グリッドに位置している。

［形態・規模 ］平面形は長軸 70㎝、短軸 60㎝の楕円形で、深さは約 20㎝である。

［堆積土 ］確認できた堆積土は 2層に分層され、ともに炭化物と細礫を含むにぶい黄褐色土の層である。

［出土遺物 ］遺物は出土していない。

第 33号土坑・・・欠番

第 34号土坑（図 17・19）

［位置 ］調査Ｃ区のⅢＭ・ⅢＮ－ 84・85グリッドに位置し、大きな礫とともに落ち込みを確認した。

［形態・規模 ］平面形は長軸約 1m、単軸約 80㎝の楕円形で、深さは約 20㎝である。

［堆積土 ］確認できた堆積土は炭化物と小礫を含むにぶい黄褐色土である。

［出土遺物 ］覆土から土器片が出土している。

第 35号土坑（図 17）

［位置 ］調査Ｃ区のⅢＯ－ 84グリッドに位置している。

［形態・規模 ］平面形は直径約 60㎝のほぼ円形で、深さは約 10㎝である。

［堆積土 ］確認できた堆積土は小礫を含むにぶい黄褐色土である。

［出土遺物 ］遺物は出土していない。

第 36号土坑（図 17）

［位置 ］調査Ｃ区のⅢＯ－ 83・84グリッドに位置している。

［形態・規模 ］平面形は直径約 70mのほぼ円形で、深さは約 20㎝である。

［堆積土 ］確認できた堆積土は 2層に分層され、ともに炭化物と小礫を含んでいる。

［出土遺物 ］遺物は出土していない。

第 37号土坑（図 17・19）

［位置 ］調査Ｃ区のⅢＰ－ 83グリッドに位置している。

［形態・規模 ］平面形は直径約 90㎝のほぼ円形で、深さは約 30㎝である。

［堆積土 ］確認できた堆積土は 2層に分層され、ともに炭化物と小礫を含んでいる。

［出土遺物 ］覆土から土器片と剥片石器が出土している。

第 38号土坑（図 17・19）

［位置 ］調査区Ｃ区のⅢＮ－ 84・85グリッドに位置している。

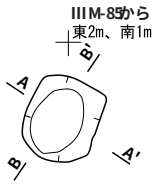
［形態・規模 ］平面形は長軸約１ｍ 20㎝、短軸約 90㎝の楕円形で、深さは約 10㎝である。

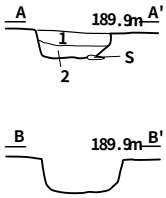
［堆積土 ］確認できた堆積土は、炭化物と小礫を含んだにぶい黄褐色土の層である。

［出土遺物 ］覆土から土器片が出土している。

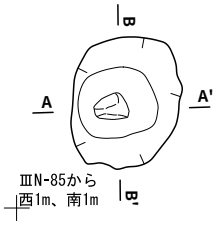
32土

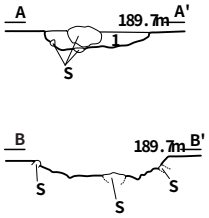
第32号土坑
第1層　にぶい黄褐色土　10YR4/5
炭化物少量・小礫(φ～5.0cm)少量
10YR5/8黄褐色土少量
第2層　にぶい黄褐色土　10YR4/3
砂質土、炭化物極微量・小礫(φ～4.0cm)少量
10YR5/8黄褐色土と10YR5/6黄褐色土中量混入





34土

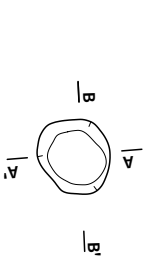


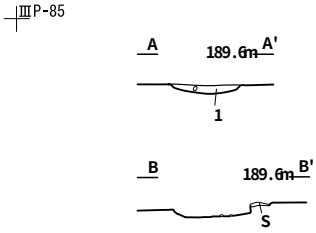


第34号土坑
第1層　にぶい黄褐色土　10YR4/3
炭化物(φ～0.5cm)極微量・小礫(φ～10.0cm)極微量

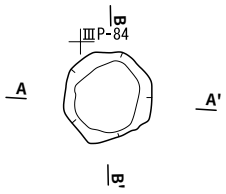
35土

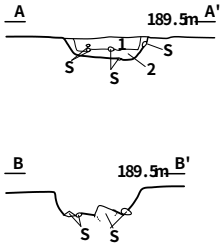
第35号土坑
第1層　にぶい黄褐色土　10YR5/4
小礫(φ～0.2cm)微量





36土

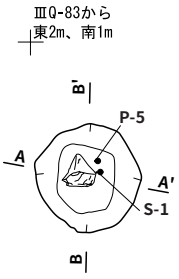


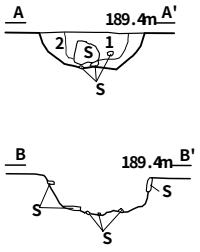


第36号土坑
第1層　暗褐色土　10YR3/3
炭化物(φ～0.5cm)極微量・小礫(φ～4.0cm)極微量
第2層　にぶい黄褐色土　10YR4/3
炭化物(φ～2.0cm)微量・小礫(φ～3.0cm)極微量

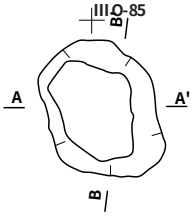
37土

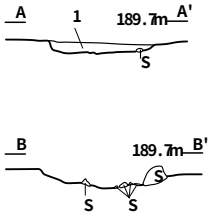
第37号土坑
第1層　褐色土　10YR4/4
炭化物(φ～0.5cm)微量・礫(φ～0.3cm)微量、
下位に小石(φ4cm)と石(φ20cm)混入
第2層　灰黄褐色土　10YR4/2
炭化物(φ～0.5cm)中量・礫(φ3.0～10.0cm)微量





38土





第38号土坑
第1層　にぶい黄褐色土　10YR5/4
炭化物(φ～0.2cm)微量・礫(φ～5.0cm)微量

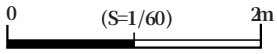


図17　土坑(5)

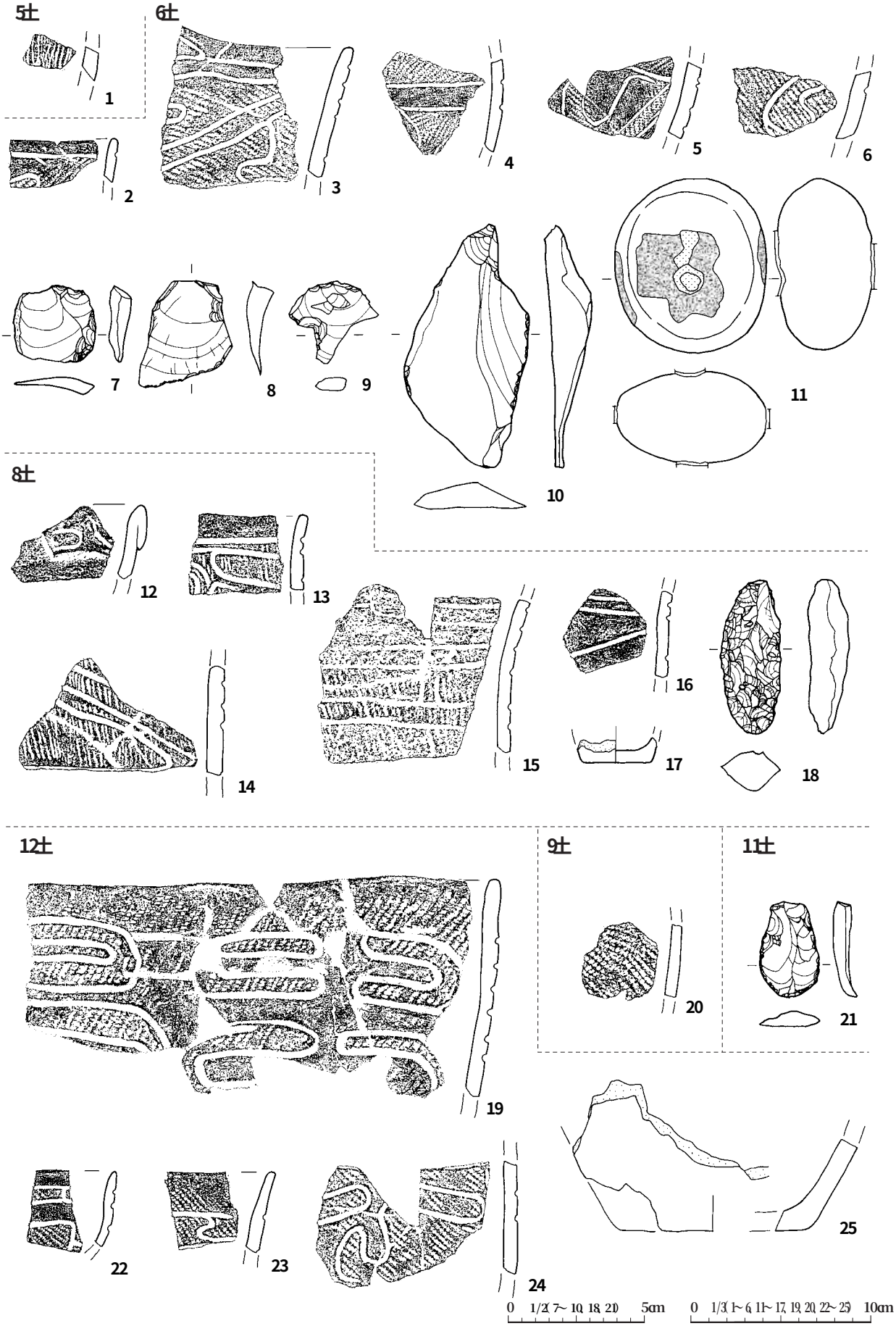

5土
6土
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
8土
12
13
14
15
16
17
18
12土
9土
11土
19
20
21
22
23
24
25
0 1/2(7～10 18 20) 5cm
0 1/3(1～6 11～17 19 20 22～25) 10cm

図 18　土坑出土遺物（１）

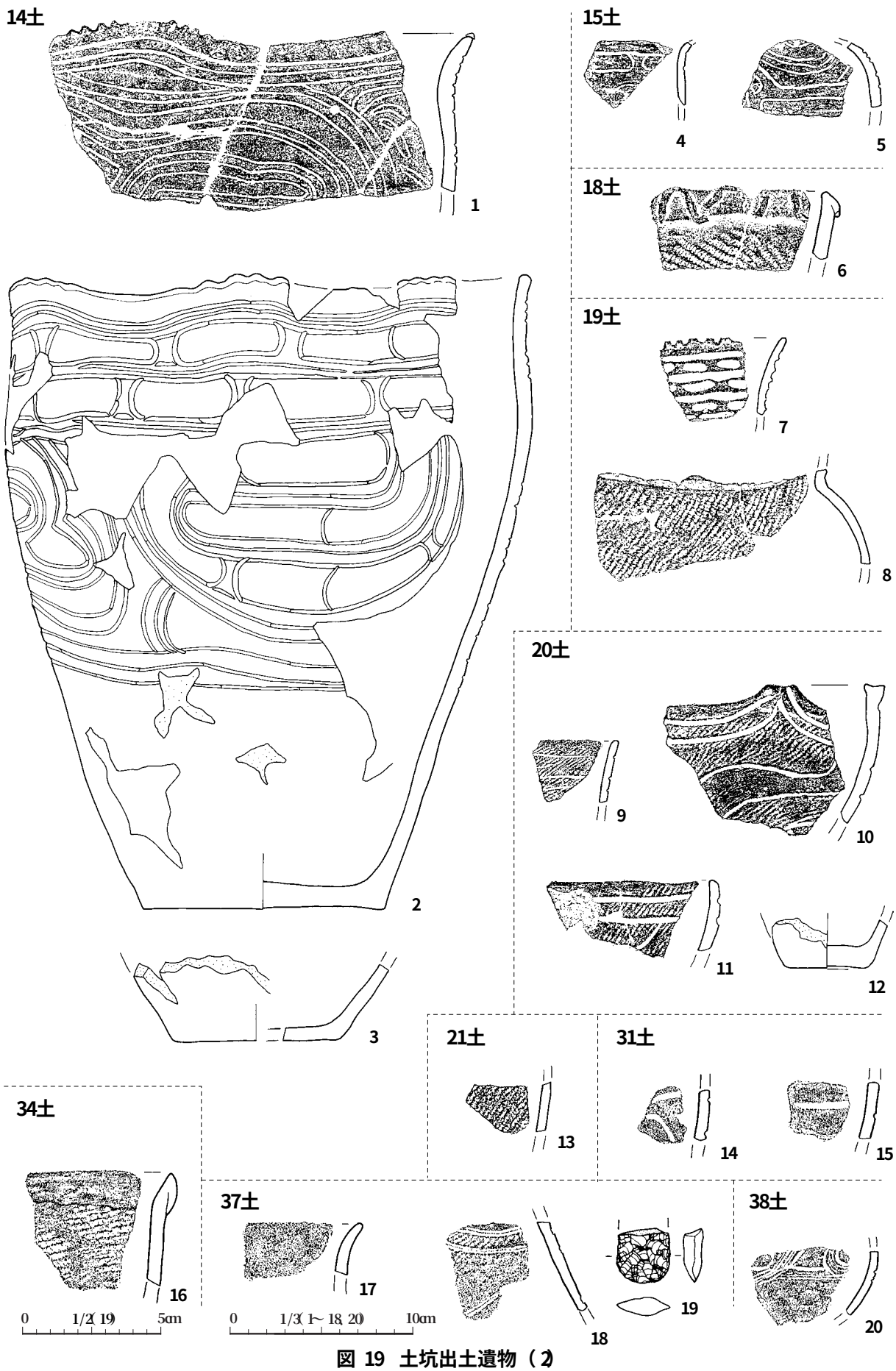

14土
1
2
3
15土
4
5
18土
6
19土
7
8
20土
9
10
11
12
21土
13
31土
14
15
34土
16
37土
17
18
19
38土
20
0 1/2(19) 5cm
0 1/3(1~18,20) 10cm

図 19 土坑出土遺物（2）

３　配石遺構

第１号配石遺構（図 20）

[位置]調査区Ｃ区のⅡＸ－ 121グリッドに位置している。

[形態・規模]扁平な川原石を立てて箱形に配置したもので、掘り方の規模は、平面形は直径約１m 30㎝の円形で、深さは約 40㎝である。礫の大きさは約 40～ 50㎝、重さが約 20～ 50kgである。底面はやや起伏がみられるスリ鉢状である。

[堆積土]掘り方の堆積土は 2層に分層され、いずれも炭化物を含んでいる。

[出土遺物]確認面から土器破片と石鏃が出土している。

第２号配石遺構（図 21）

[位置]調査区Ｃ区のⅡＸ・ⅡＹ－ 123・124グリッドに位置している。

[形態・規模]第１号配石遺構や第３号配石遺構とは違い、平面形及び規模としてとらえることは難しく、約 5m四方の中に大きさが約 10～ 30㎝ほどの川原石が約 270個集中している。部分的に方形や長方形にまとまっている様に受けとれるが、とりあえず図示した。掘り方と思われる掘り込みは確認できず、基本層序第Ⅲ層を掘り込み礫を配置していると考えられる。

[堆積土]確認できなかった。

[出土遺物]遺物は出土していない。

第３号配石遺構（図 22）

[位置]調査区Ｃ区のⅡＸ－ 123グリッドに位置している。

[形態・規模]扁平な川原石を立てて箱形に配置したもので、掘り方の規模は、平面形は長軸 65㎝、短軸 55㎝の不整形で、深さは約 30㎝である。礫の大きさは約 40～ 60㎝、重さが約 20～ 80kgである。底面はやや起伏がみられるものの概ね平坦である。

[堆積土]掘り方の堆積土は、炭化物を含んだ暗褐色土の層である。

[出土遺物]確認面から土器破片が出土している。

第４号配石遺構（図 22）

[位置]調査区Ｃ区のⅡＹ－ 123グリッドに位置している。

[形態・規模]大きさが約 10～ 30㎝の扁平な川原石を列状に立てて並べているもので、三列確認できた。掘り方と思われる掘り込みは確認できず、基本層序第Ⅲ層を掘り込み礫を配置していると推測できる。

[堆積土]確認できなかった。

[出土遺物]確認面から土器破片が出土している。

第５号配石遺構（図 23）

[位置]調査区Ｃ区のⅡＶ－ 117グリッドに位置している。

[形態・規模]大きさ約 10～ 40㎝の扁平な川原石を立てて配置しているもので、掘り方と思われる 20～ 30㎝ほどの掘り込みがそれぞれ確認できた。いずれも基本層序第Ⅲ層を掘り込んでいる。また、南西部に直径約 80㎝の焼土が検出されたが、配石に伴うかは不明である。

[堆積土]掘り方の堆積土は、炭化物と焼土粒を含んだ褐色土の層である。

[出土遺物]遺物は出土していない。

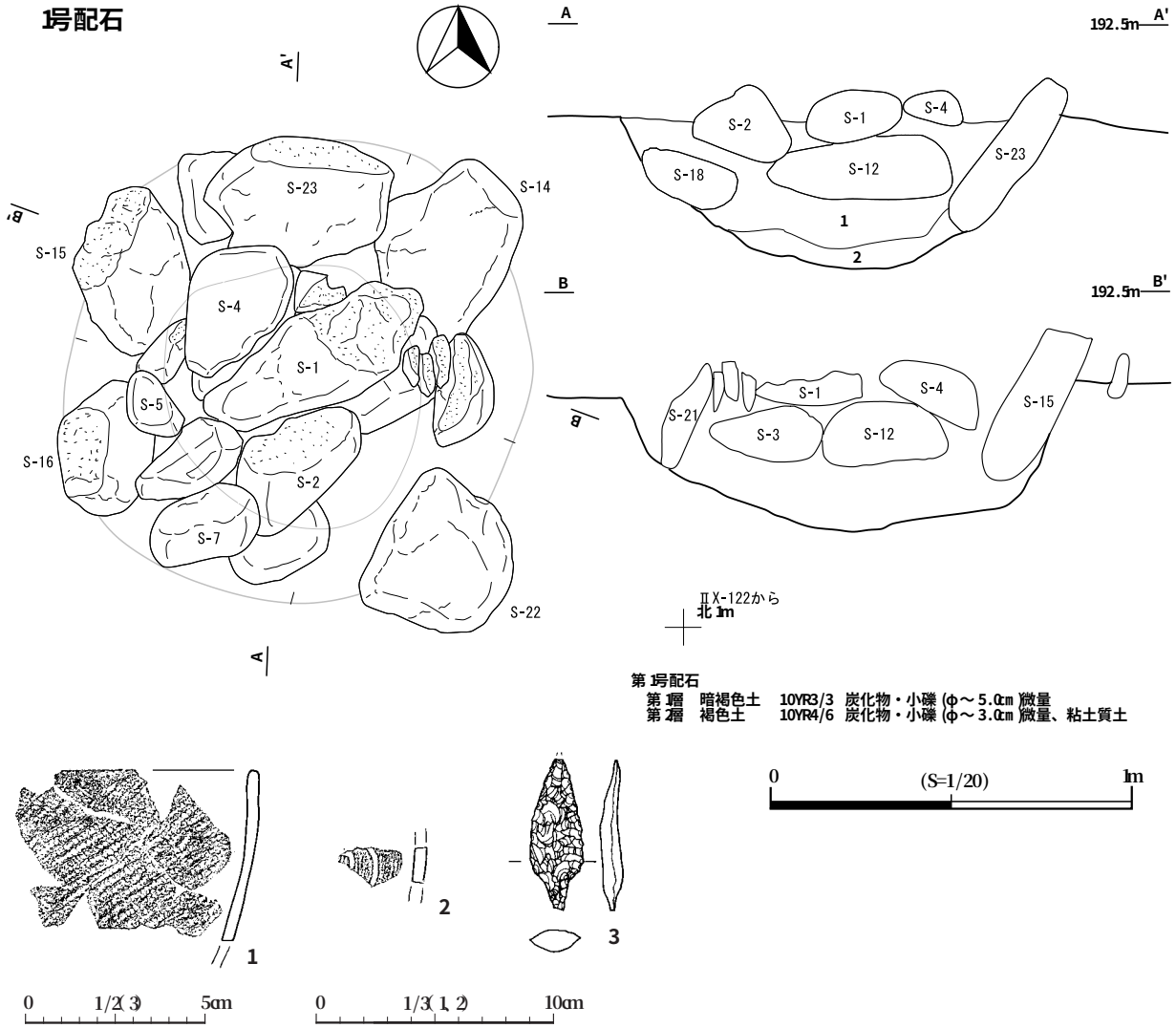

1号配石
A
A'
192.5m
S-2
S-1
S-4
S-23
S-18
S-12
1
2
B
B'
192.5m
S-21
S-1
S-3
S-4
S-12
S-15
S-23
S-14
S-15
S-4
S-1
S-5
S-16
S-2
S-7
S-22
ⅡX-122から
北 1m
第 1号配石
第 1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・小礫 (φ～ 5.0cm)微量
第 2層 褐色土 10YR4/6 炭化物・小礫 (φ～ 3.0cm)微量、粘土質土
0 (S=1/20) 1m
1
2
3
0 1/2(3) 5cm
0 1/3(1、2) 10cm

図 20 配石遺構 (1)

2号配石

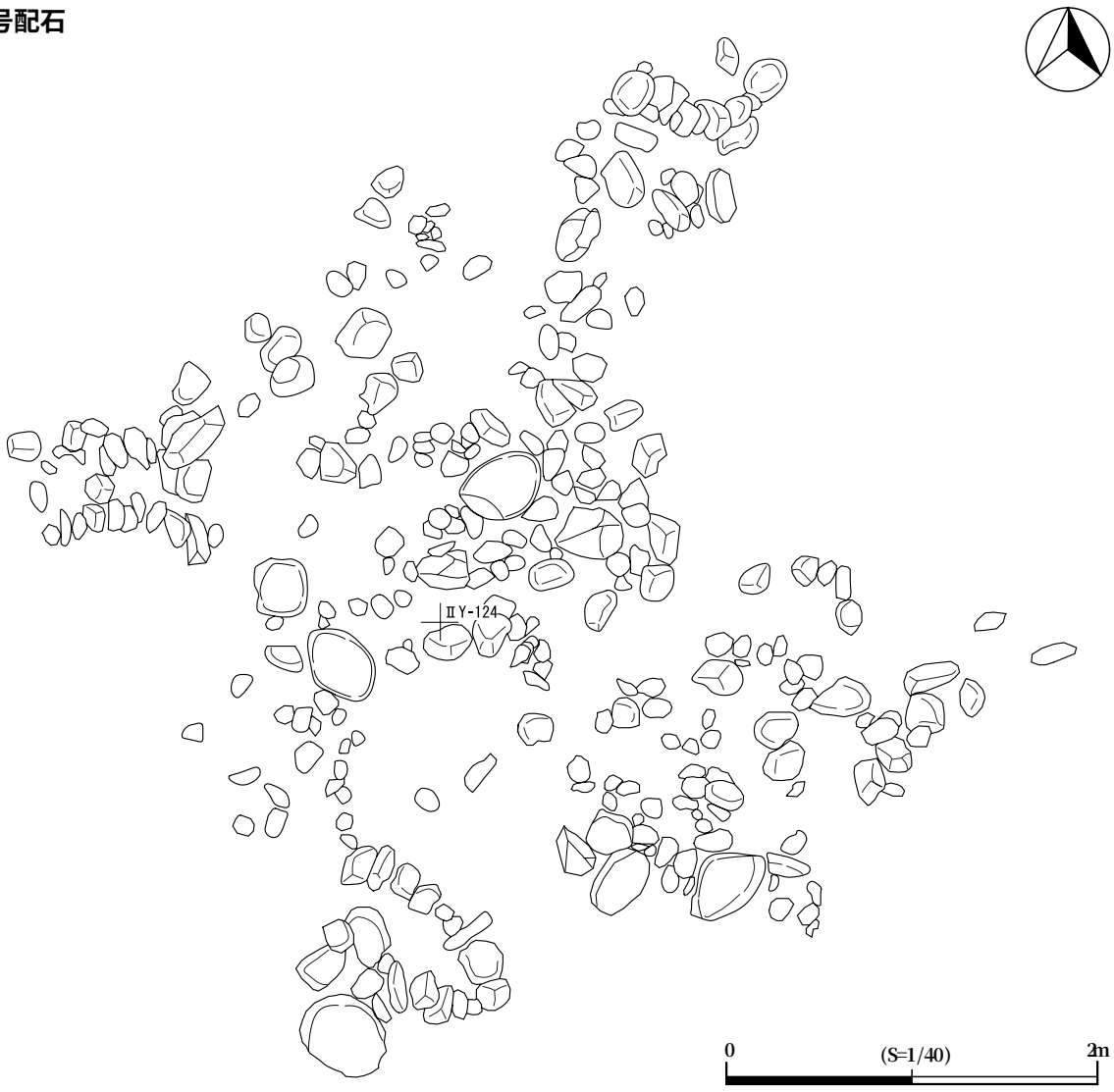
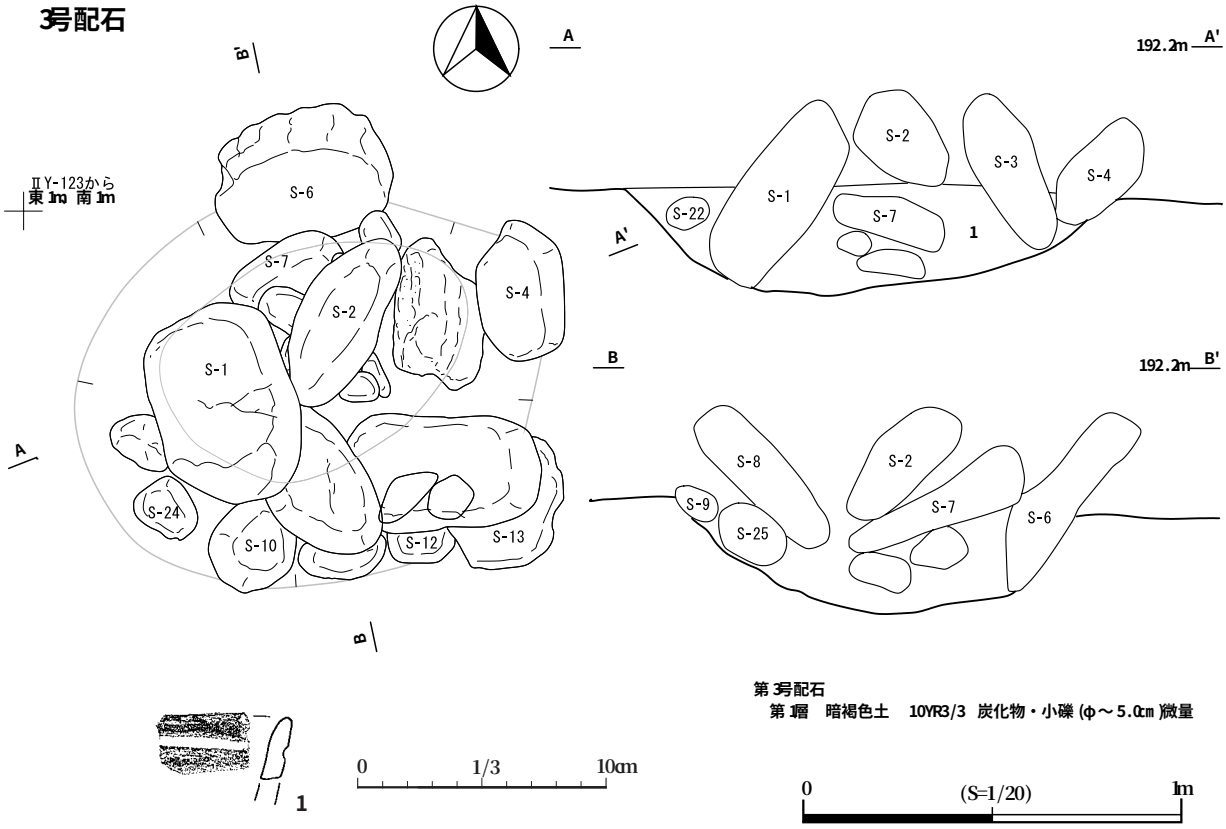


図 21　配石遺構（２）


3号配石
A
A'
B
B'
192.2m
ⅡY-123から
東 1m 南 1m
S-6
S-7
S-2
S-4
S-1
S-24
S-10
S-12
S-13
S-22
S-3
S-8
S-9
S-25
1
第 3号配石
第 1層　暗褐色土　10YR3/3　炭化物・小礫 (φ～ 5.0cm)微量
0
1/3
10cm
(S=1/20)
1m

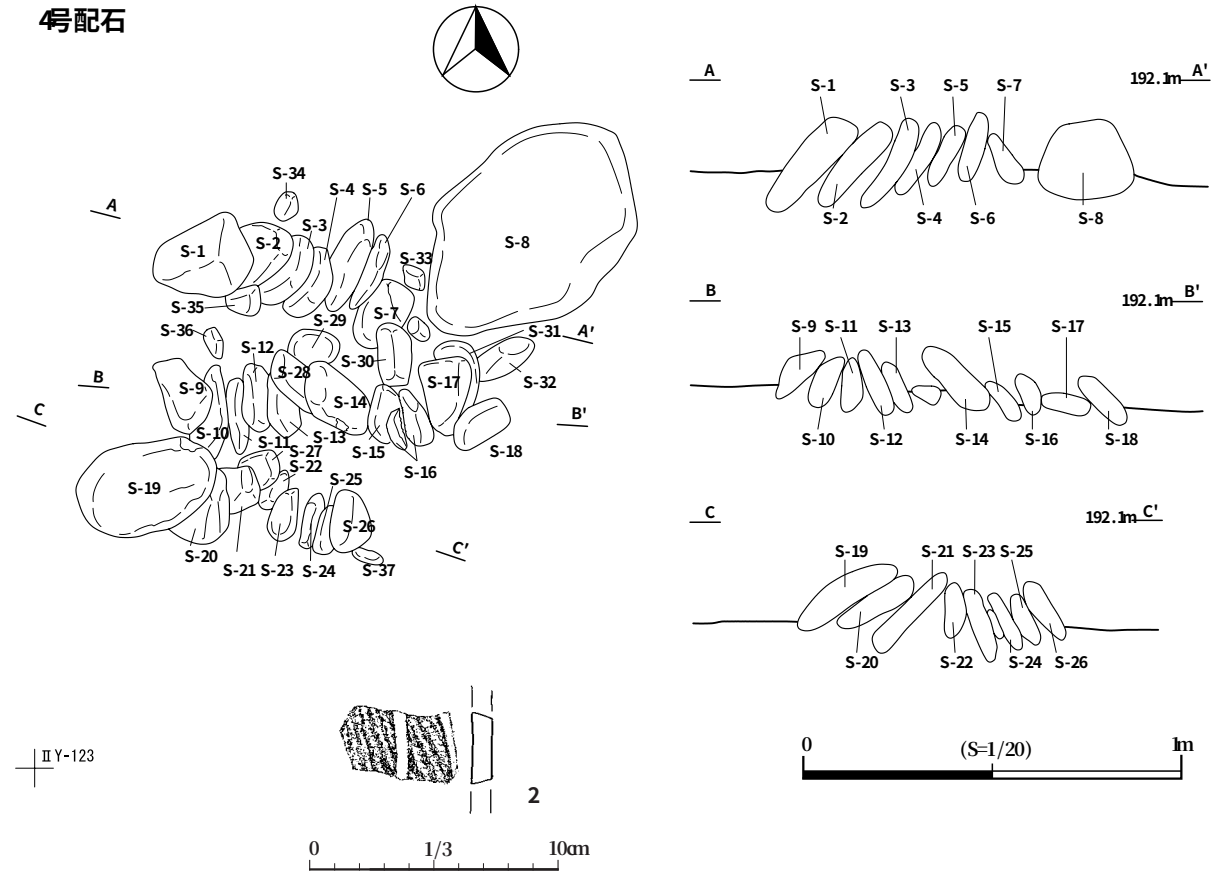

4号配石
A
A'
B
B'
C
C'
192.1m
S-34
S-4
S-5
S-6
S-3
S-1
S-2
S-8
S-33
S-35
S-29
S-7
S-36
S-12
S-31
S-28
S-30
S-17
S-32
S-9
S-14
S-10
S-11
S-27
S-13
S-15
S-18
S-22
S-16
S-25
S-19
S-26
S-20
S-21
S-23
S-24
S-37
S-11
S-13
S-15
S-17
S-10
S-12
S-14
S-16
S-18
S-21
S-23
S-25
S-22
S-24
S-26
ⅡY-123
2
0
1/3
10cm
(S=1/20)
1m

図 22　配石遺構（3）

5号配石

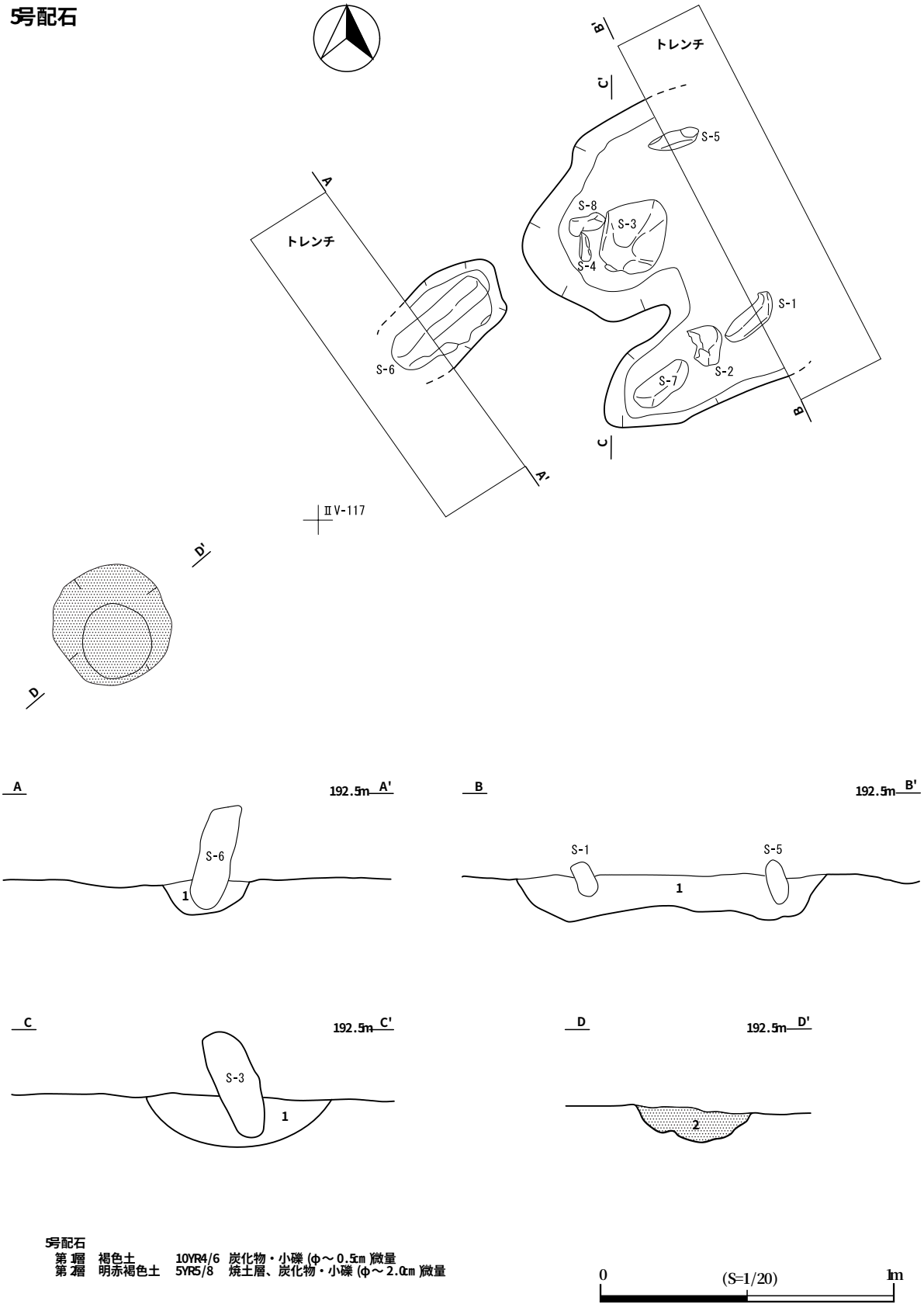


図 23　配石遺構（４）

4　屋外配石炉

第 1号屋外配石炉（図 24～ 27）

[位置]調査区Ｃ区のⅡＹ－ 122・123グリッドに位置している。

[形態・規模]大きさ約 10～ 30㎝、重さ約 300g～ 5kgのやや扁平な礫を 32個を用い横に 2個、縦に 1個と規則正しく方形に配置されている。規模は一辺が約 1mで、ほとんどの礫は被熱を受けているため赤変しており、炉として用いられていたと考えられる。南西部の一部に、礫は確認できず、当初から配置されず焚き口のように開いていたと思われる。また、南西部に長軸約 70㎝短軸約 50㎝の焼土が検出されたが、屋外配石炉に伴うかどうかは不明である。

[堆積土]掘り方は、基本層序の第Ⅲ層を掘り込み礫を配置していると推測される。

[出土遺物]確認面から後期前葉の土器片が出土している。

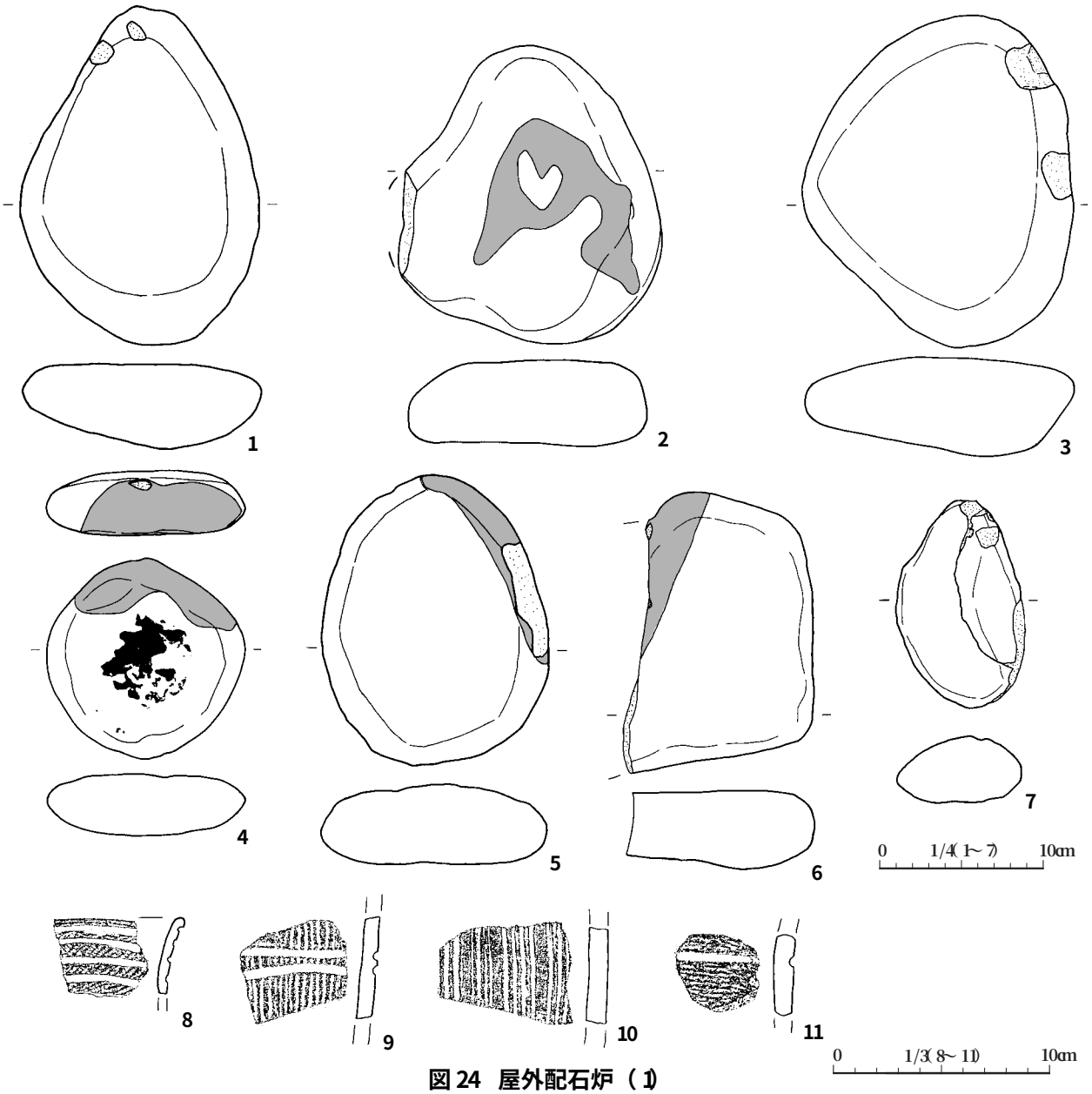
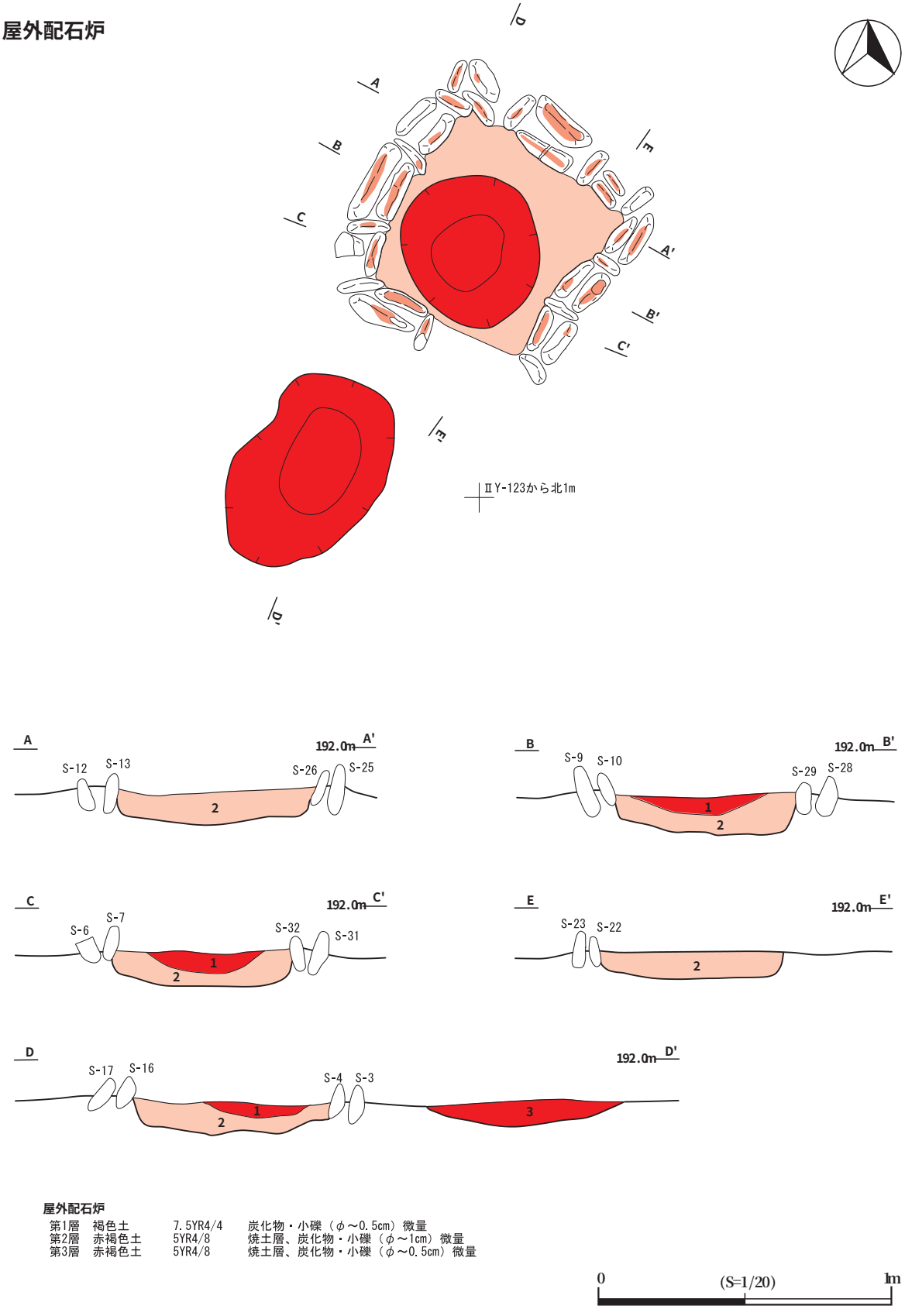


図 24　屋外配石炉（1）

屋外配石炉



屋外配石炉

第1層	褐色土	7.5YR4/4	炭化物・小礫（φ～0.5cm）微量
第2層	赤褐色土	5YR4/8	焼土層、炭化物・小礫（φ～1cm）微量
第3層	赤褐色土	5YR4/8	焼土層、炭化物・小礫（φ～0.5cm）微量

図 25　屋外配石炉（２）

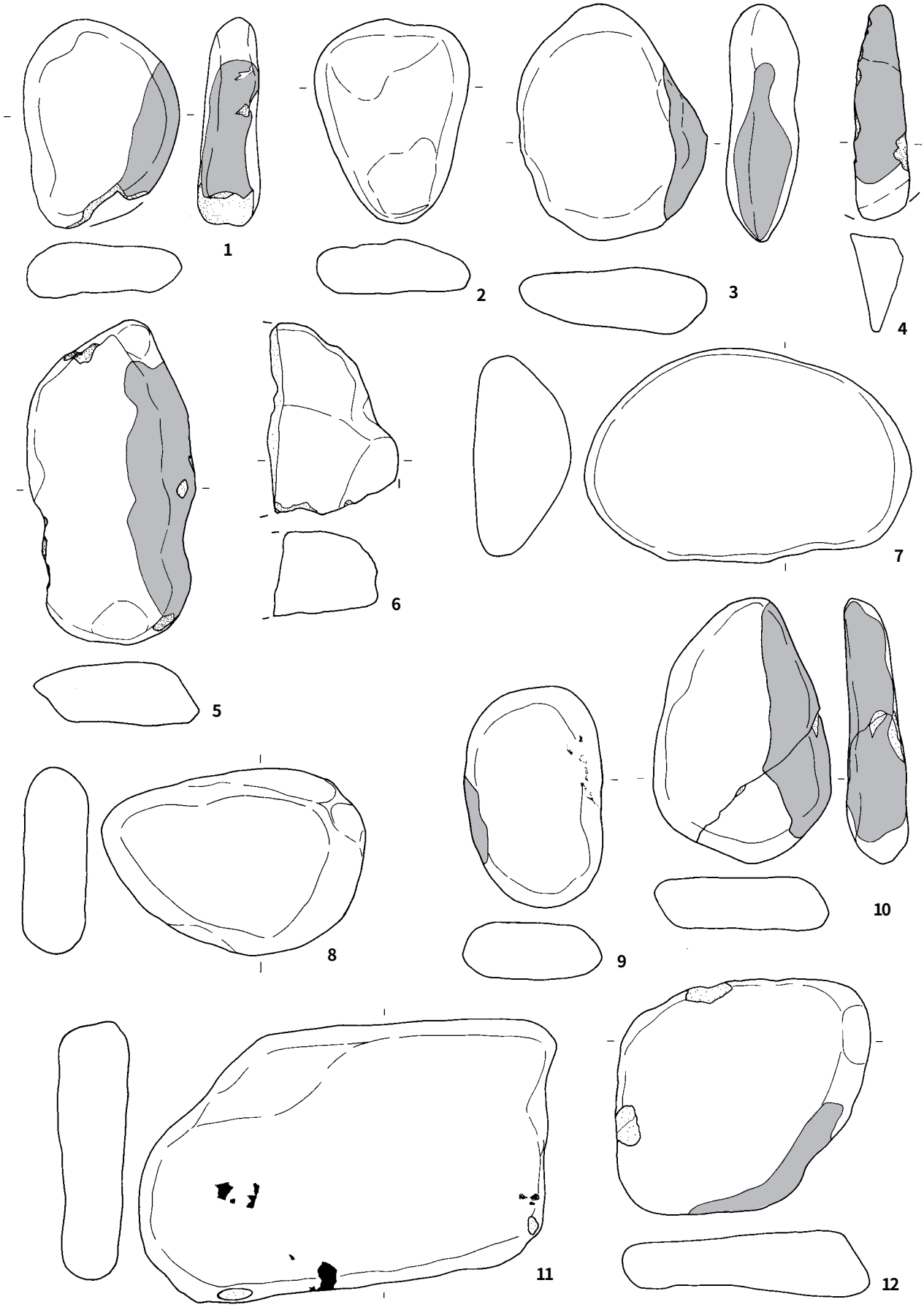


図 26　屋外配石炉（3）

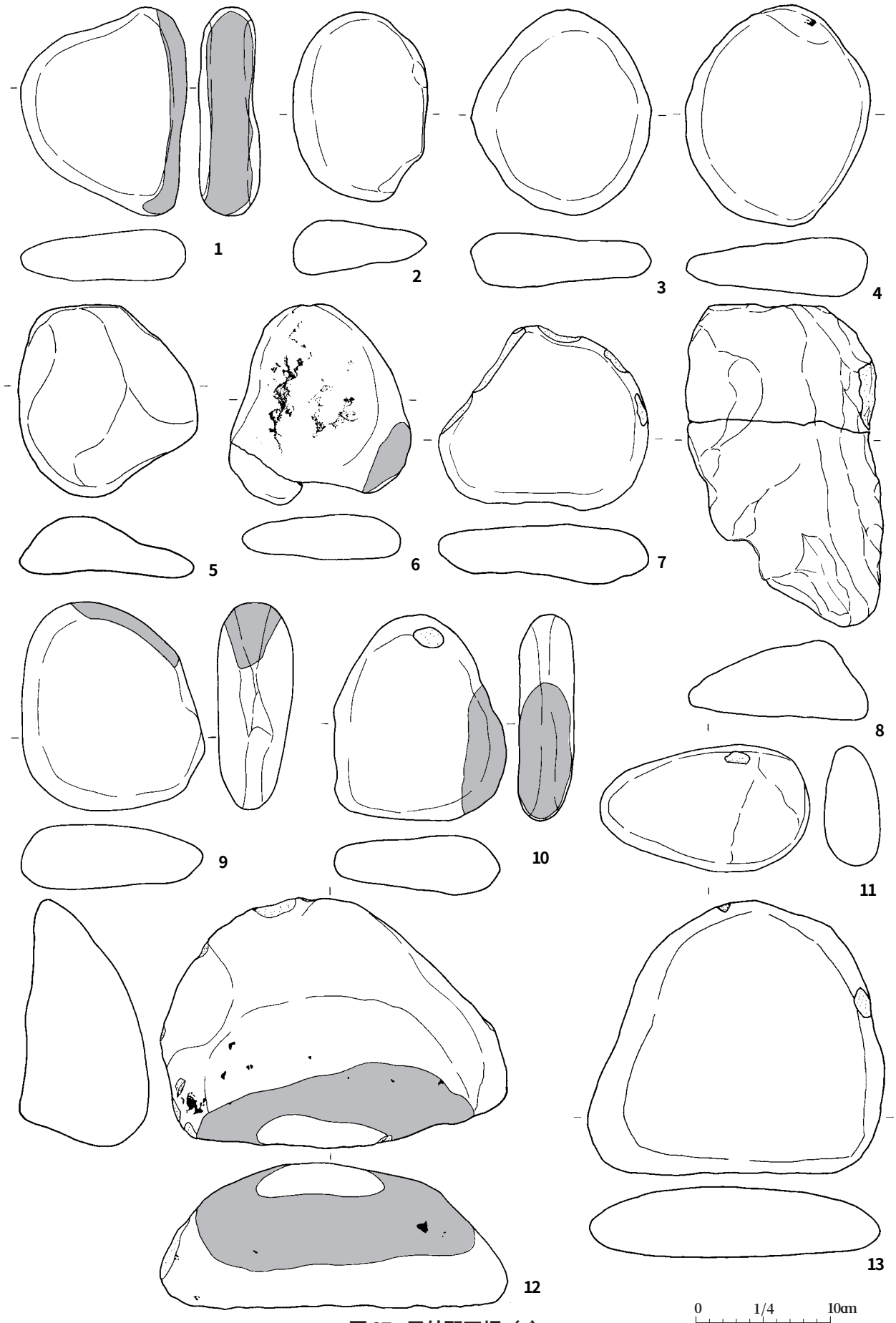


図 27　屋外配石炉（4）

５　土器埋設遺構

第１号土器埋設遺構（図 28）

[位置]調査Ｃ区のⅡＱ－ 123グリッドに位置している。

[検出状況]第Ⅲ層上面の礫層で確認できた。

[埋設状況・掘り方]深鉢土器を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約 20㎝の円形で、確認できた深さは約 5㎝である。

[埋土]掘り方の埋土は炭化物と焼土粒を含んだ暗褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ黄褐色土の層が確認されている。

[出土遺物]土器内部及び掘り方から遺物は出土していない。

第２号土器埋設遺構（図 29）

[位置]調査Ｃ区のⅡＰ－ 118グリッドに位置している。

[検出状況]第Ⅲ層上面の礫層で確認できた。

[埋設状況・掘り方]深鉢土器を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約 50㎝の円形で、確認できた深さは約 20㎝である。

[埋土]掘り方の埋土は炭化物と焼土粒を含んだ暗褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物]土器内部及び掘り方から遺物は出土していない。

第３号土器埋設遺構（図 30）

[位置]調査Ｃ区のⅡＹ－ 122グリッドに位置している。

[検出状況]第Ⅲ層上面の礫層で確認できた。

[埋設状況・掘り方]深鉢土器を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約 35㎝のほぼ円形で、確認できた深さは約 15㎝である。

[埋土]掘り方は埋土の炭化物と焼土粒を含んだ褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物]土器内部及び掘り方から遺物は出土していない。

第４号土器埋設遺構（図 31）

[位置]調査Ｃ区のⅢＡ－ 122グリッドに位置している。

[検出状況]第Ⅲ層上面の礫層で確認できた。

[埋設状況・掘り方]深鉢土器を正立させた状態で埋設している。掘り方は長軸約 25㎝、単軸約 20㎝の楕円形で、確認できた深さは約 30㎝である。

[埋土]掘り方の埋土は炭化物と焼土粒を含んだ褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物]土器内部及び掘り方から遺物は出土していない。

第５号土器埋設遺構（図 32）

[位置]調査Ｃ区のⅡＸ・ⅡＹ－ 119グリッドに位置している。

[検出状況]第Ⅲ層上面の礫層で確認できた。

[埋設状況・掘り方]深鉢土器を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約 30㎝のほぼ円形

で、確認できた深さは約 10㎝である。

[埋土]掘り方の埋土は炭化物と焼土粒を含んだ褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物]土器内部及び掘り方から遺物は出土していない。

第６号土器埋設遺構（図 33）

[位置]調査Ｃ区のⅡＵ・ⅡＶ－ 115グリッドに位置している。

[検出状況]第Ⅲ層上面の礫層で確認できた。

[埋設状況・掘り方]深鉢土器を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約 40㎝の不整形で、確認できた深さは約 25㎝である。

[埋土]掘り方の埋土は炭化物と焼土粒を含んだ黒褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物]土器内部及び掘り方から遺物は出土していない。

第７号土器埋設遺構（図 28）

[位置]調査Ｃ区のⅡＸ－ 116グリッドに位置している。

[検出状況]第Ⅲ層上面の礫層で確認できた。

[埋設状況・掘り方]深鉢土器の底部を埋設していると思われる。掘り方は確認できなかった。

[埋土]掘り方及び土器内部充填土は確認できなかった。

[出土遺物]土器内部及び掘り方から遺物は出土していない。

第８号土器埋設遺構（図 34）

[位置]調査Ｃ区のⅡＰ－ 118グリッドに位置している。

[検出状況]第Ⅲ層上面の礫層で確認できた。

[埋設状況・掘り方]深鉢土器を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約 40㎝の円形で、確認できた深さは約 15㎝である。

[埋土]掘り方の埋土は炭化物と焼土粒を含んだ暗褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物]土器内部及び掘り方から遺物は出土していない。

第９号土器埋設遺構（図 35・37）

[位置]調査Ｃ区のⅢＡ－ 118グリッドに位置している。

[検出状況]第Ⅲ層上面の礫層で確認できた。

[埋設状況・掘り方]深鉢土器を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約 40㎝の円形で、確認できた深さは約 30㎝である。

[埋土]掘り方の埋土は炭化物と焼土粒を含んだ暗褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。

[出土遺物]土器内部から球形の礫（図 37－ 6)などが出土している。

第 10号土器埋設遺構（図 36・37）

[位置]調査Ｃ区のⅡＵ－ 116グリッドに位置している。

[検出状況]第Ⅲ層上面の礫層で土器埋設Ａを、掘り方の底面で土器埋設Ｂを確認した。

[埋設状況・掘り方]土器埋設Ａは深鉢土器を正立させた状態で埋設し、掘り方は直径約 40㎝の円形で、確認できた深さは約 20㎝である。土器埋設Ｂは深鉢土器の底部で、掘り方は直径約 20㎝の円形、深さは約 10㎝である。以前作られた土器埋設Ｂの上面に土器埋設Ａが新たに作られたと考えられる。

[埋土]土器埋設Ａの掘り方の埋土は炭化物と焼土粒を含んだ暗褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだ暗褐色土の層が確認されている。土器埋設Ｂの掘り方の埋土は炭化物と小礫を含んだ褐色土で、土器内部充填土は黄褐色土の層が確認されている。

[出土遺物]土器内部及び掘り方から遺物は出土していない。

第 11号土器埋設遺構（図 38）

[位置]調査Ｃ区のⅡＷ－ 97・98グリッドに位置している。

[検出状況]第Ⅳ層上面の粘土質の層で確認できた。

[埋設状況・掘り方]深鉢土器を正立させた状態で埋設している。掘り方は直径約 30㎝の円形で、確認できた深さは約 10㎝である。

[埋土]掘り方の埋土は炭化物と焼土粒を含んだ黄褐色土、土器内部充填土は炭化物を含んだにぶい黄褐色土の層が確認されている。

[出土遺物]土器内部及び掘り方から遺物は出土していない。

第 12号土器埋設遺構（図 39）

[位置]調査Ｃ区のⅢＪ－ 84グリッドに位置している。

[検出状況]第Ⅳ層上面の粘土質の層で確認できた。

[埋設状況・掘り方]台付土器の底部と考えられ、掘り方も確認できないことから土器埋設でない可能性が高い。

[埋土]確認できなかった。

[出土遺物]土器内部及び掘り方から遺物は出土していない。

第 13号土器埋設遺構（図 39）

[位置]調査Ｃ区のⅢＨ－ 94・95グリッドに位置している。

[検出状況]第Ⅳ層上面の粘土質の層で確認できた。

[埋設状況・掘り方]深鉢土器の底部のみの検出で、掘り方は確認できなかった。

[埋土]確認できなかった。

[出土遺物]土器内部及び掘り方から遺物は出土していない。

第 14号土器埋設遺構（図 40）

[位置]調査Ｃ区のⅢＭ－ 87グリッドに位置している。

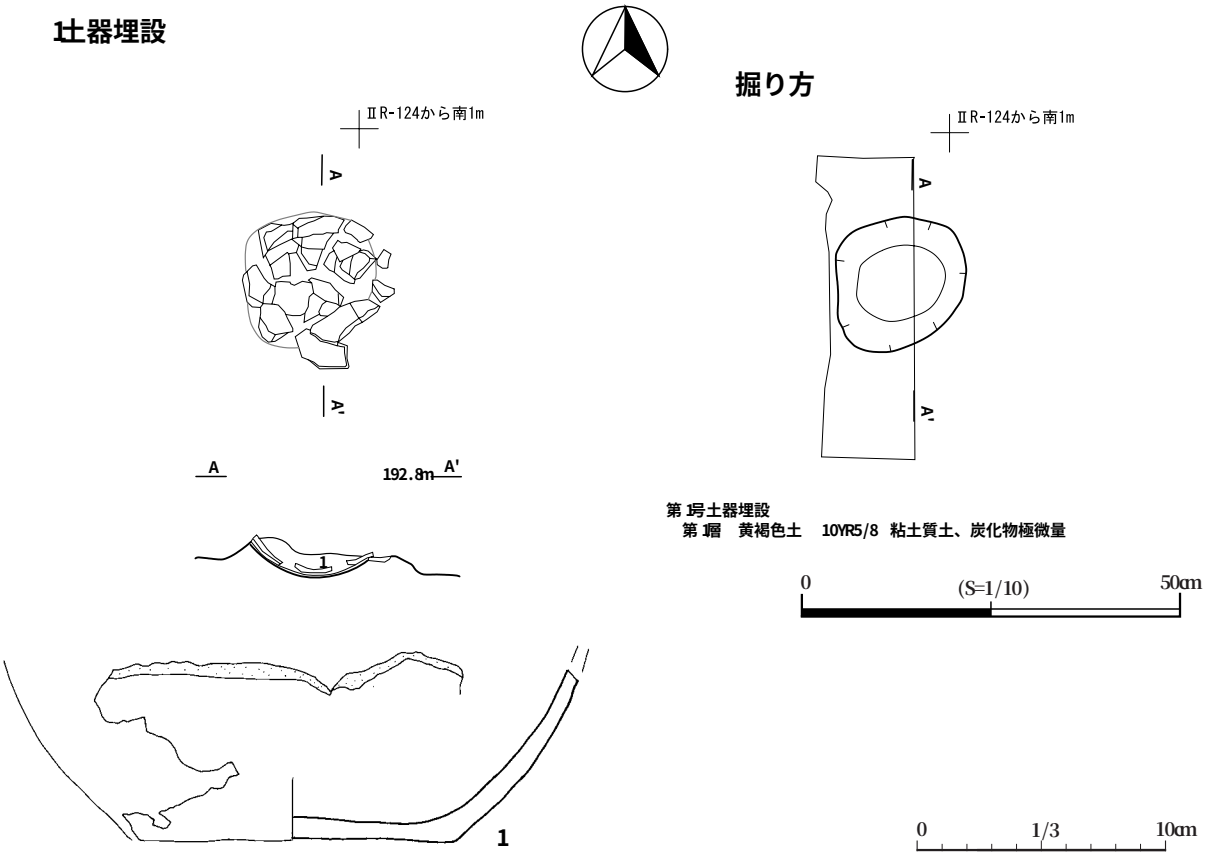
[検出状況]第Ⅳ層上面の粘土質の層で確認できた。

[埋設状況・掘り方]深鉢土器の底部のみの検出で、掘り方は確認できなかった。

[埋土]確認できなかった。

[出土遺物]土器内部及び掘り方から遺物は出土していない。

1土器埋設



7土器埋設

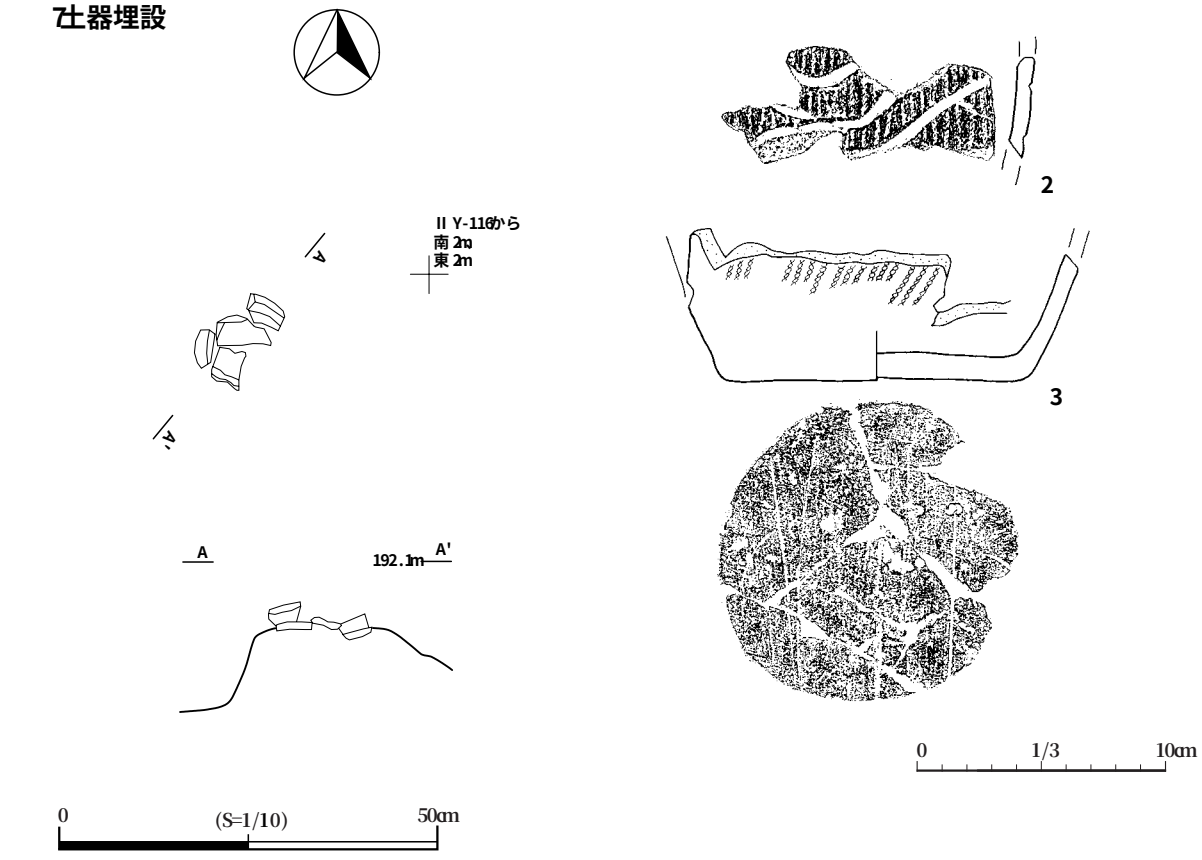
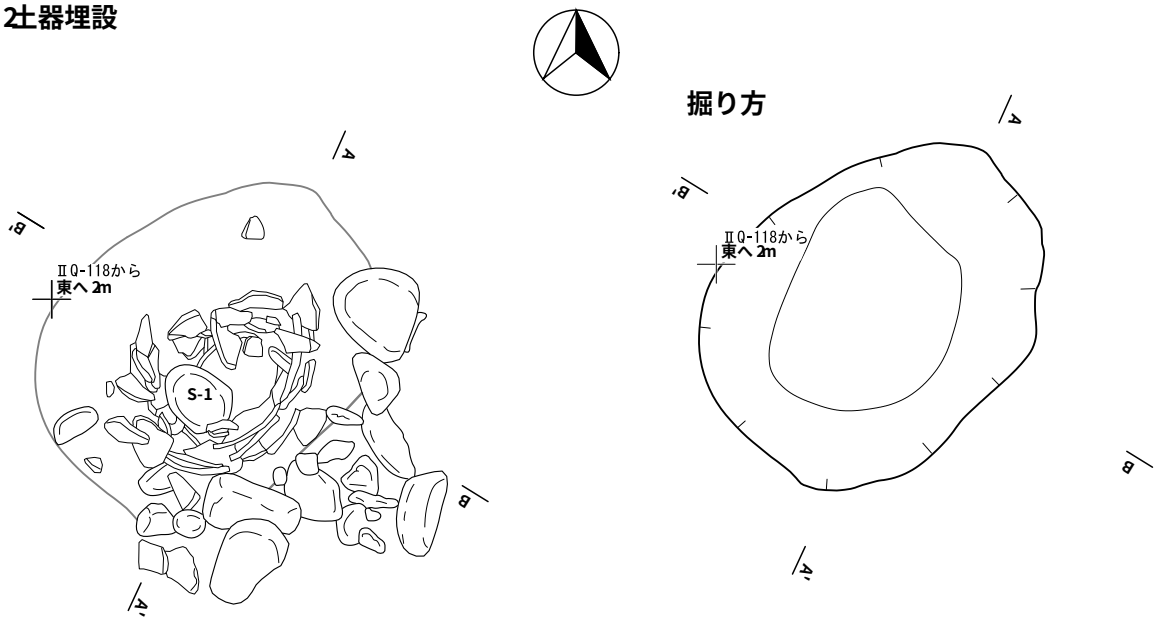


図28　第1･7号土器埋設

2土器埋設



第 2号土器埋設
第 1層　暗褐色土　10YR3/3　細礫 (φ～ 1.0cm)炭化物微量
第 2層　暗褐色土　10YR3/3　細礫 (φ～ 1.0cm)炭化物微量
第 3層　褐色土　10YR4/6　基本層序第Ⅱ層下埋め戻し土、礫 (φ～ 10cm)少量、粘土質土

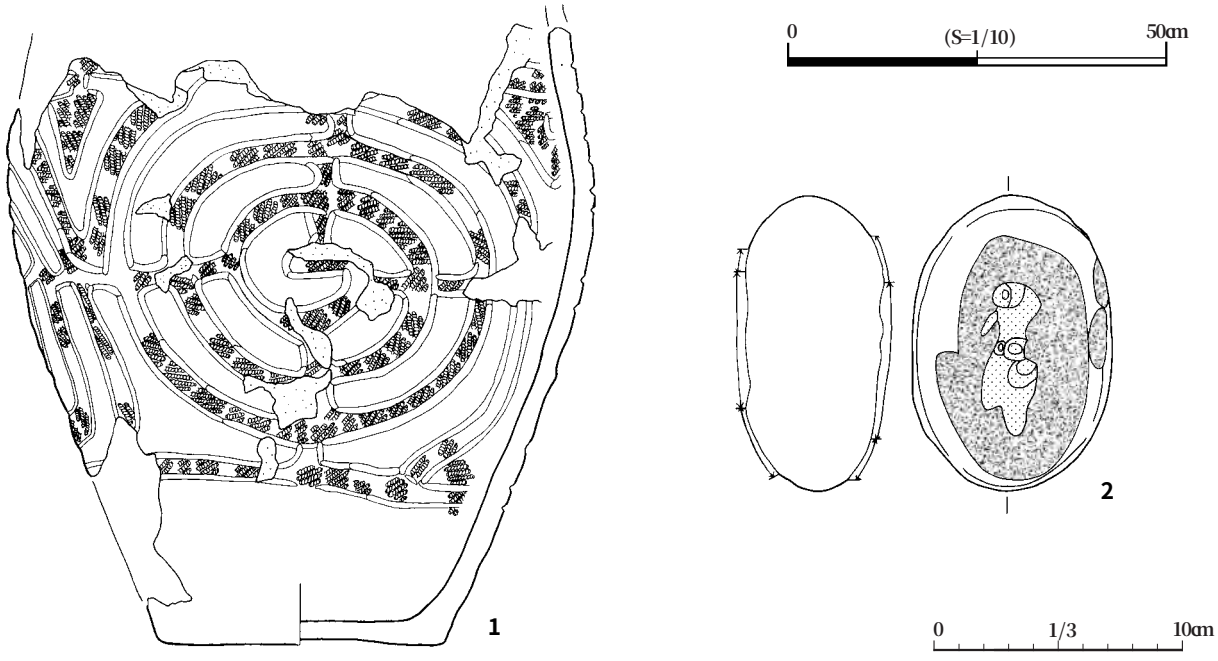


図 29　第 2号土器埋設

3土器埋設

掘り方

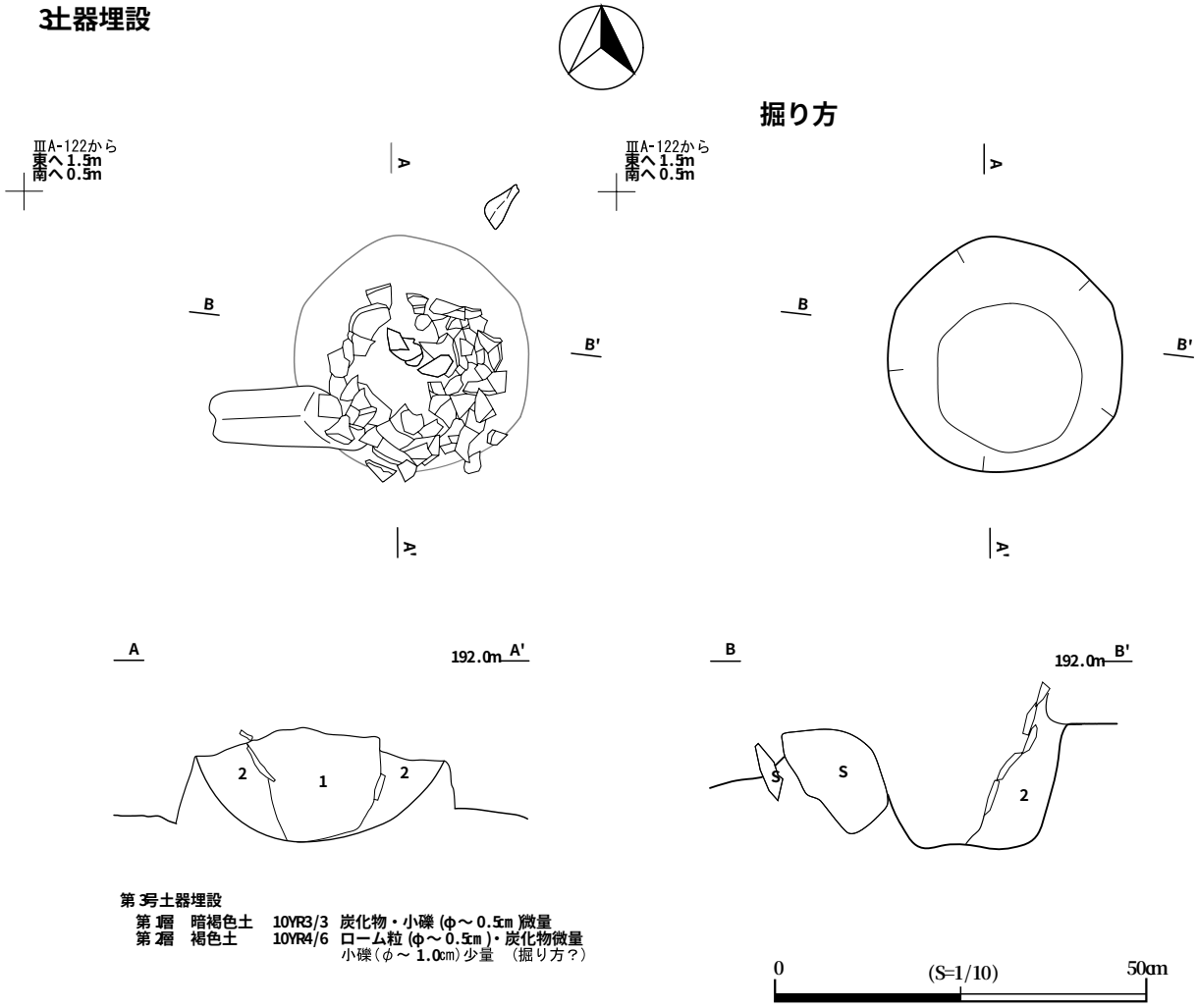
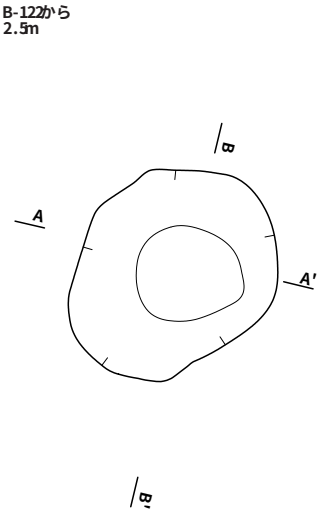
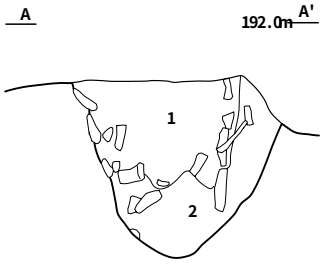


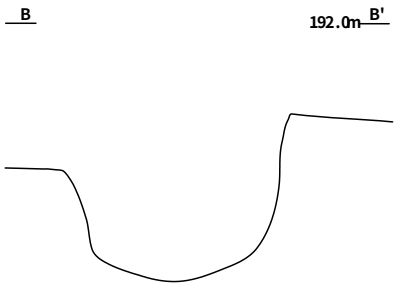
図30　第3号土器埋設

4土器埋設

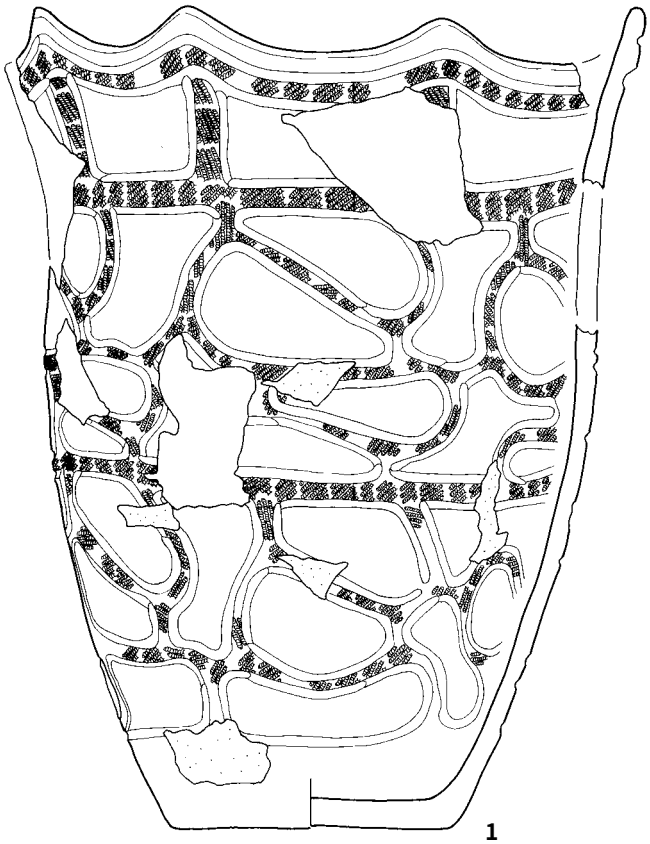
掘り方







第4号土器埋設
第1層　暗褐色土　10YR3/3　細礫(φ～1.0cm)・炭化物微量
第2層　褐色土　10YR4/4　細礫(φ～1.0cm)・炭化物微量



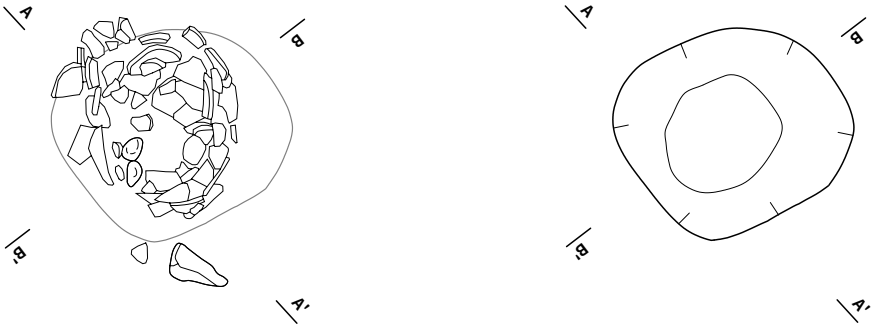
0　(S=1/10)　50cm

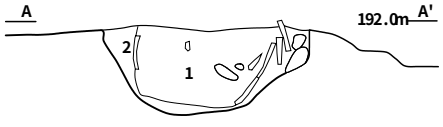
0　1/3　10cm

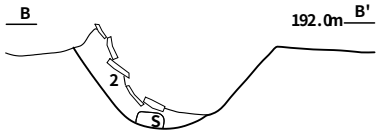
図31　第4号土器埋設

5土器埋設

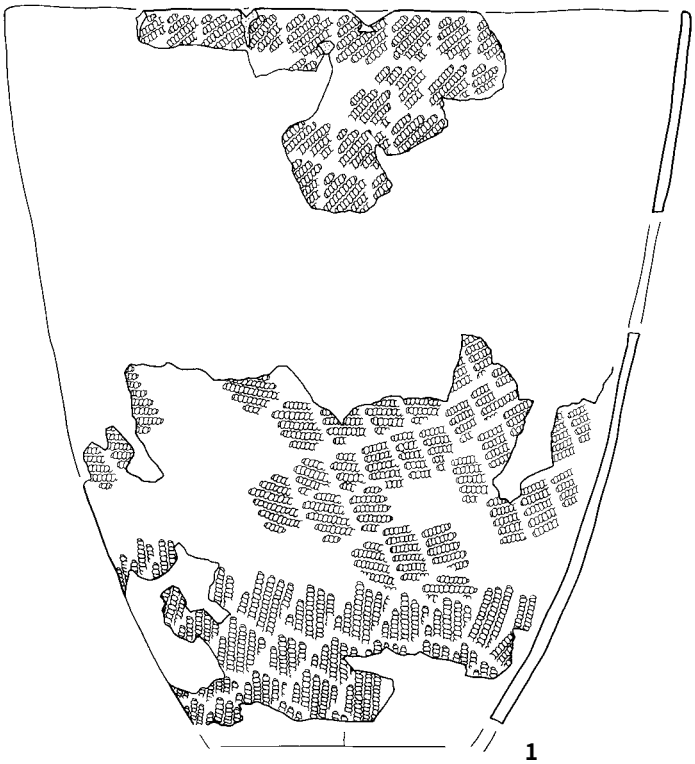
掘り方

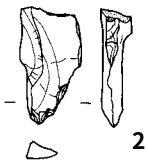


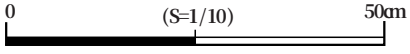


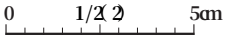


第5号土器埋設
第1層　暗褐色土　10YR3/4　炭化物・小礫（φ～1.0cm）微量
第2層　褐色土　10YR4/6　炭化物・小礫（φ～2.0cm）微量









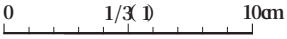
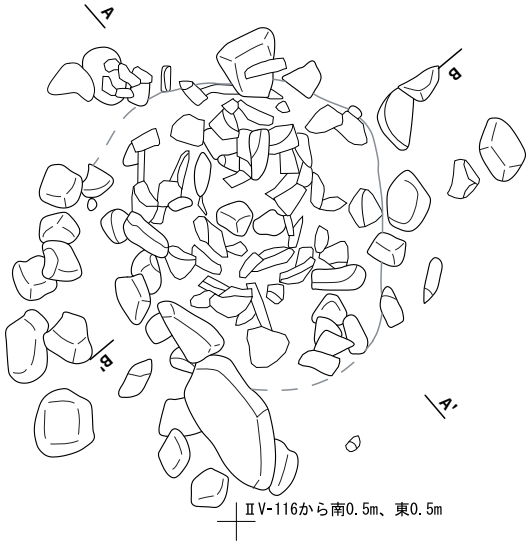
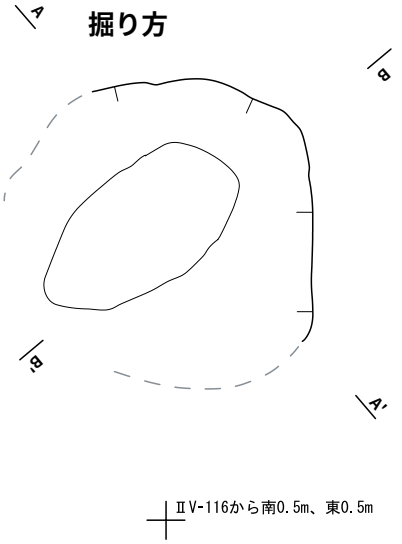
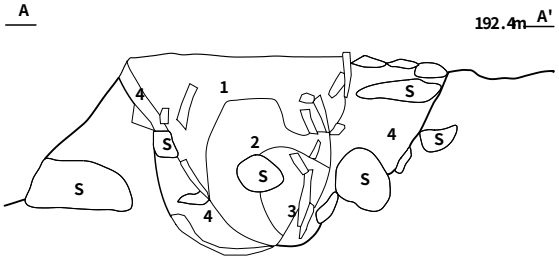


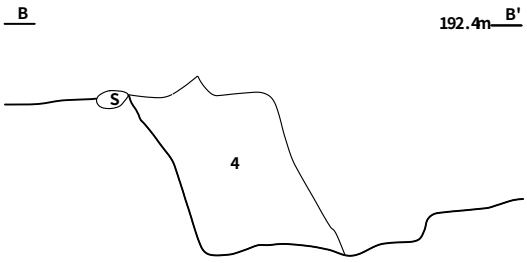
図 32　第 5号土器埋設

6土器埋設



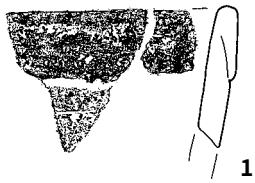


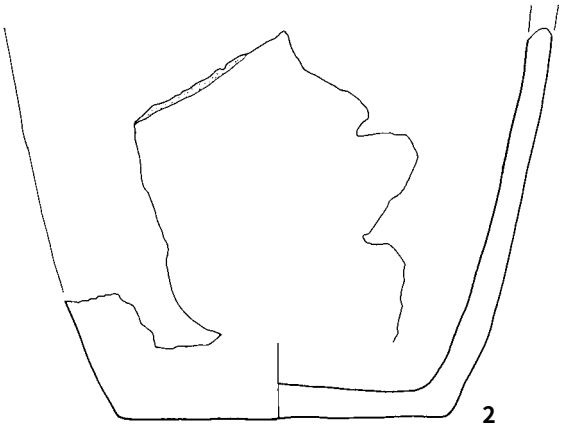


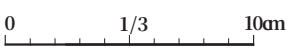


第6号土器埋設

第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・小礫(φ～2.0cm)微量
第2層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物・小礫(φ～2.0cm)微量、粘性ややあり
第3層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物・小礫(φ～2.0cm)微量、粘性ややあり
第4層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・小礫(φ～3.0cm)微量







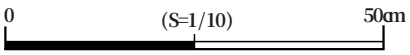
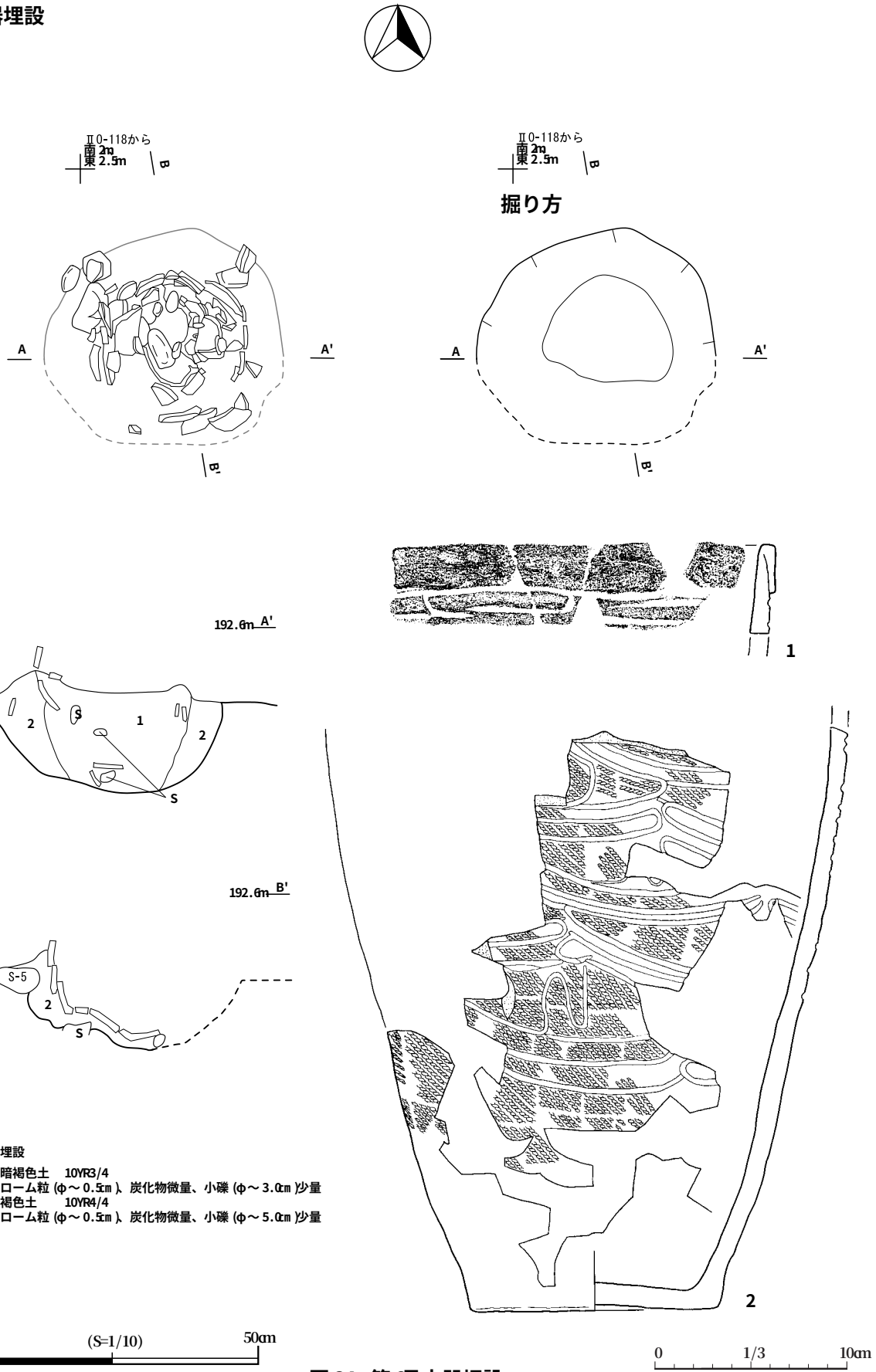


図33　第6号土器埋設

8土器埋設



第8号土器埋設
第1層　暗褐色土　10YR3/4
ローム粒（φ～0.5cm）、炭化物微量、小礫（φ～3.0cm）少量
第2層　褐色土　10YR4/4
ローム粒（φ～0.5cm）、炭化物微量、小礫（φ～5.0cm）少量

図 34　第 8号土器埋設

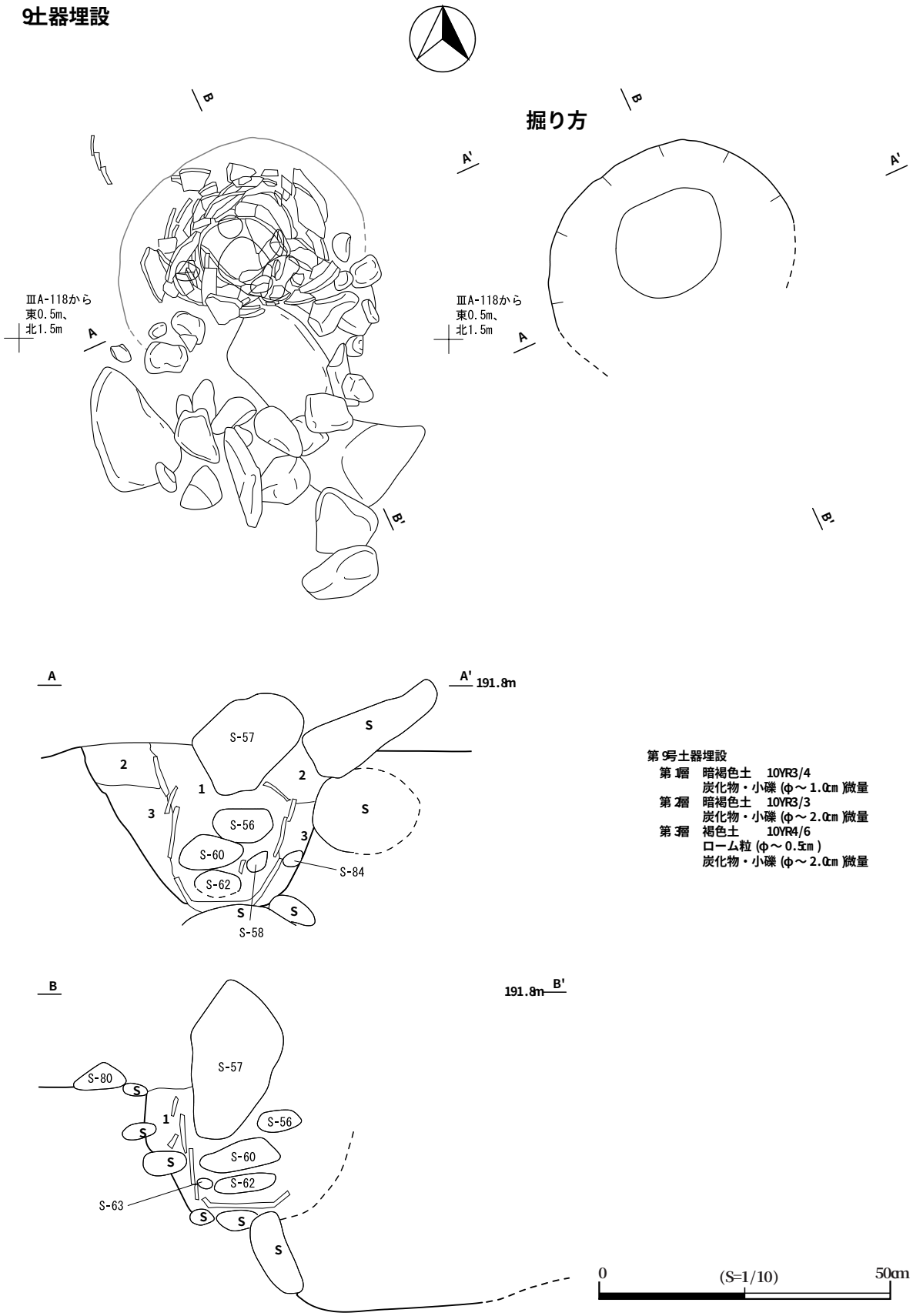
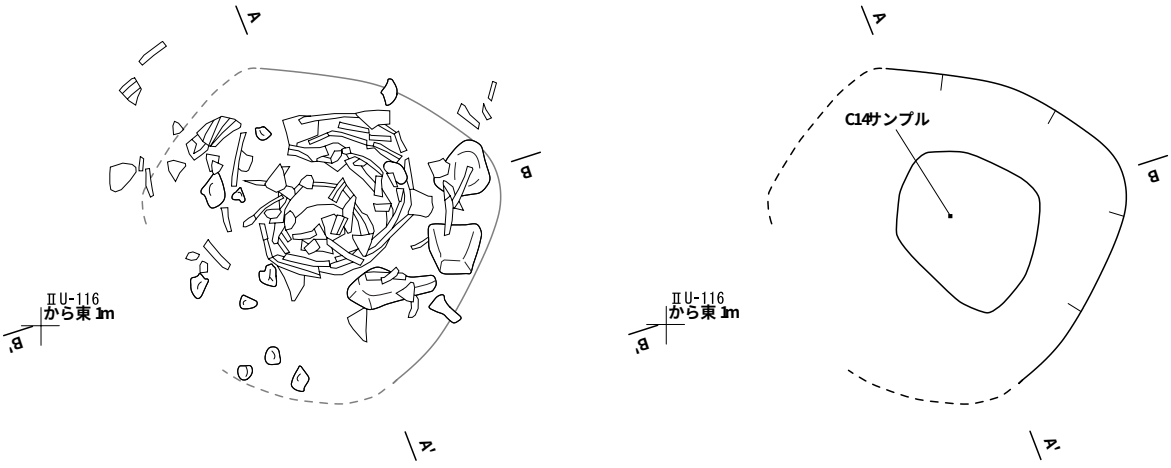
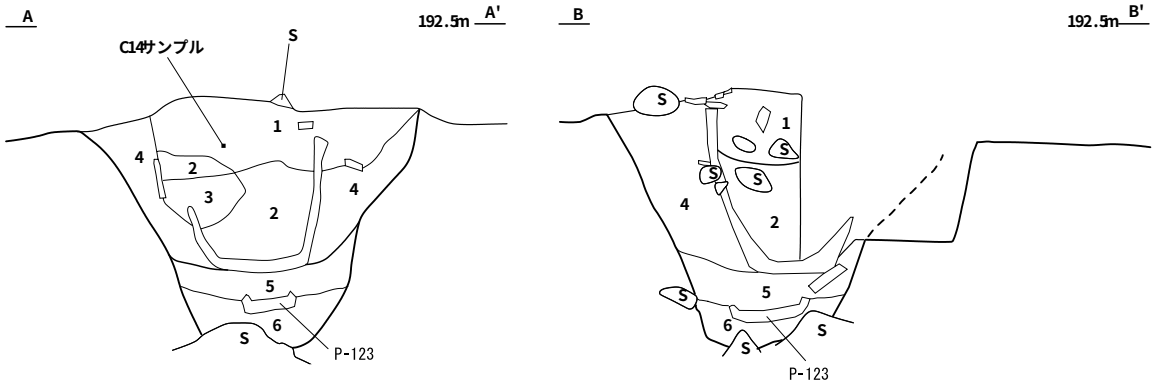

9土器埋設
掘り方
ⅢA-118から
東0.5m、
北1.5m
ⅢA-118から
東0.5m、
北1.5m
A
A'
B
B'
191.8m
S-57
S-56
S-60
S-62
S-58
S-84
S-80
S-63
S
1
2
3
第9号土器埋設
第1層 暗褐色土 10YR3/4
炭化物・小礫 (φ～1.0cm)微量
第2層 暗褐色土 10YR3/3
炭化物・小礫 (φ～2.0cm)微量
第3層 褐色土 10YR4/6
ローム粒 (φ～0.5cm)
炭化物・小礫 (φ～2.0cm)微量
0
(S=1/10)
50cm

図35 第9号土器埋設

10土器埋設Ａ

掘り方



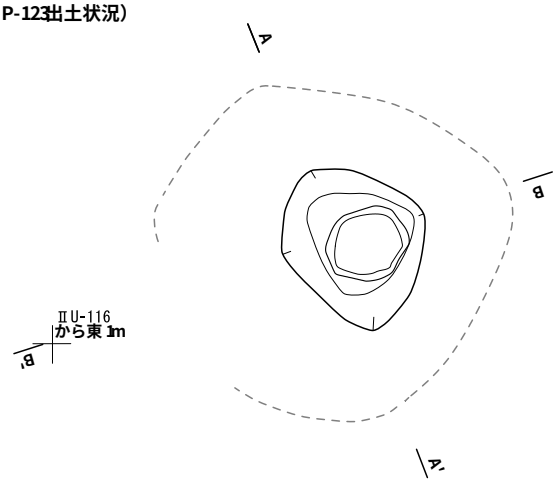


第 10号土器埋設

第 1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・小礫 (φ～ 2.0cm)微量
第 2層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物微量 小礫(φ～3.0cm)極微量、やや粘性あり
第 3層	褐色土	10YR4/6	粘土質土、炭化物・小礫 (φ～ 2.0cm)微量
第 4層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物・小礫φ～ 3.0cm)微量 (埋設Ａの掘り方)
第 5層	黄褐色土	10YR5/8	砂質土、基本層序第III層埋め戻し土、 小礫(φ～10cm)少量
第 6層	褐色土	10YR4/6	粘土質土、炭化物・小礫 (φ～ 2.0cm)微量 (埋設Ｂの掘り方)

10土器埋設Ｂ

（P-123出土状況）



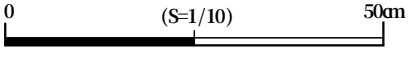


図 36　第 10号土器埋設

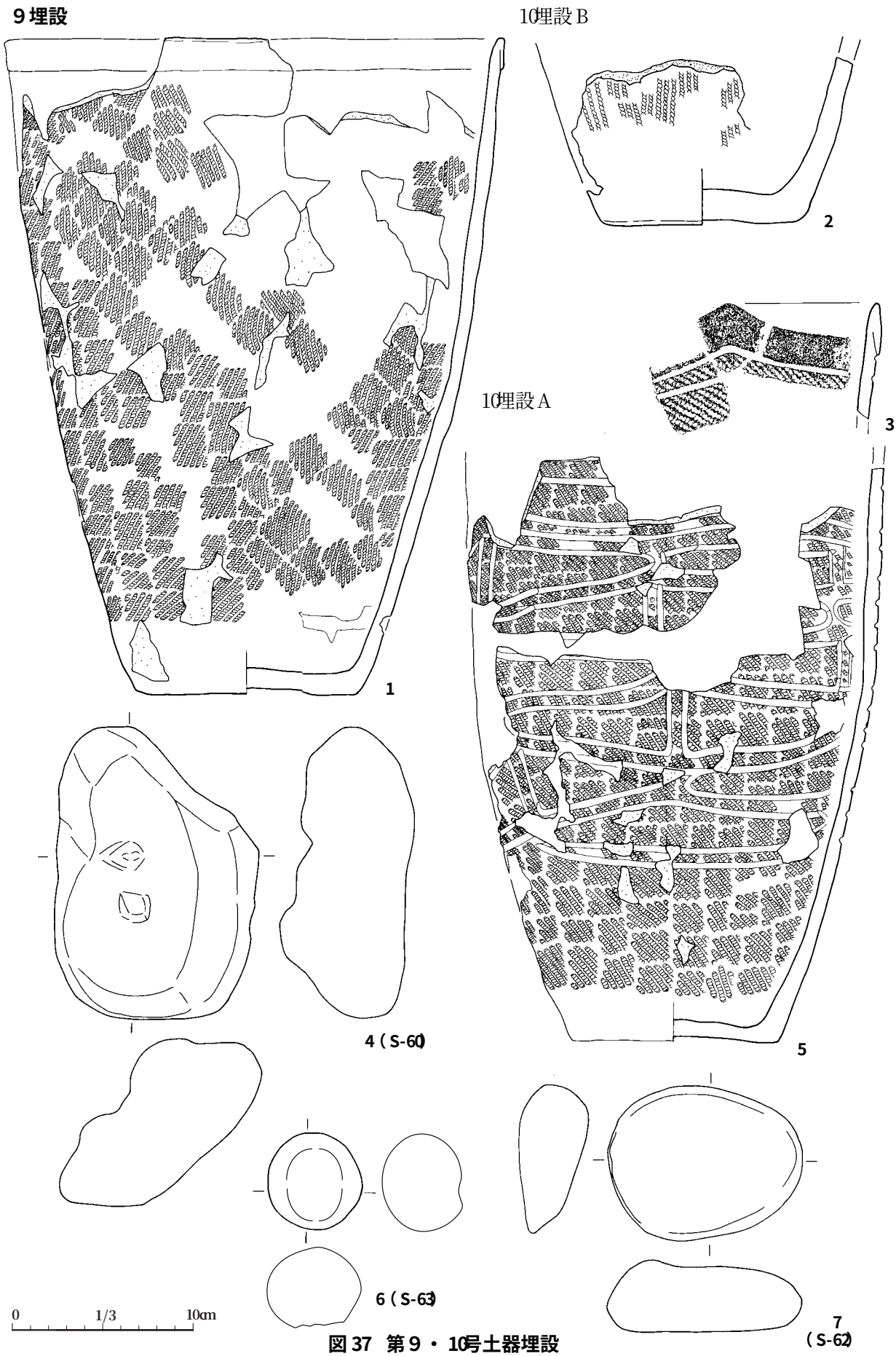
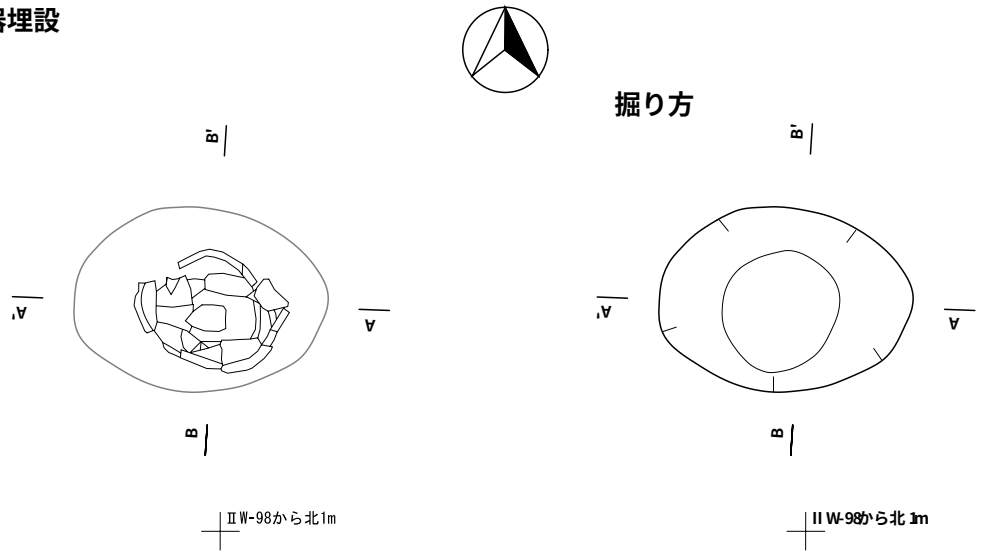


図37 第9・10号土器埋設

11土器埋設



第11号土器埋設

第1層　にぶい黄褐色土　10YR5/4　粘土質土、炭化物・小礫(φ～0.5cm)微量
第2層　黄褐色土　10YR5/8　基本層序第Ⅲ層埋め戻し土、炭化物・小礫(φ～1.0cm)微量

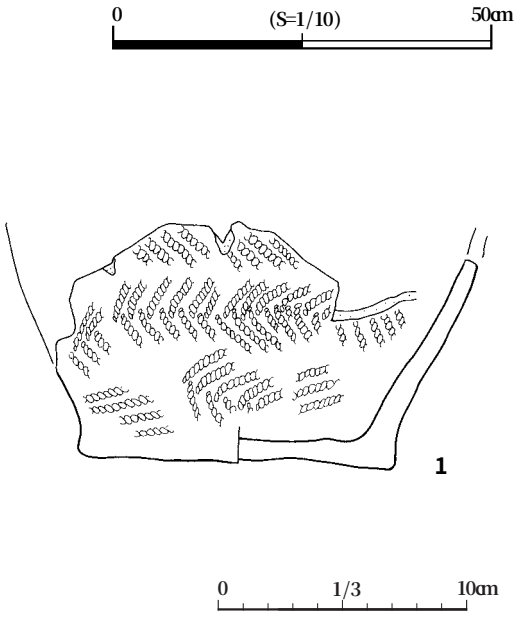
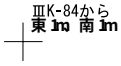
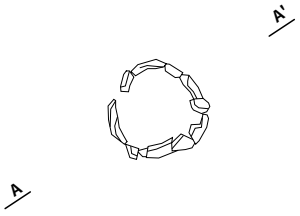
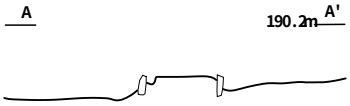


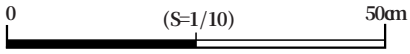
図38　第11号土器埋設

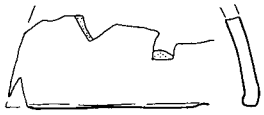
12土器埋設



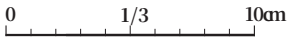




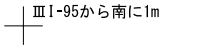


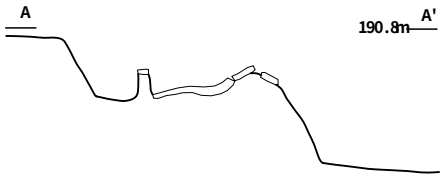


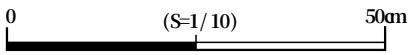
1

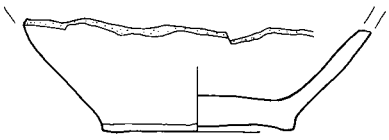


13土器埋設









2

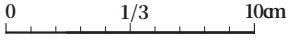


図39　第12・13号土器埋設

14土器埋設

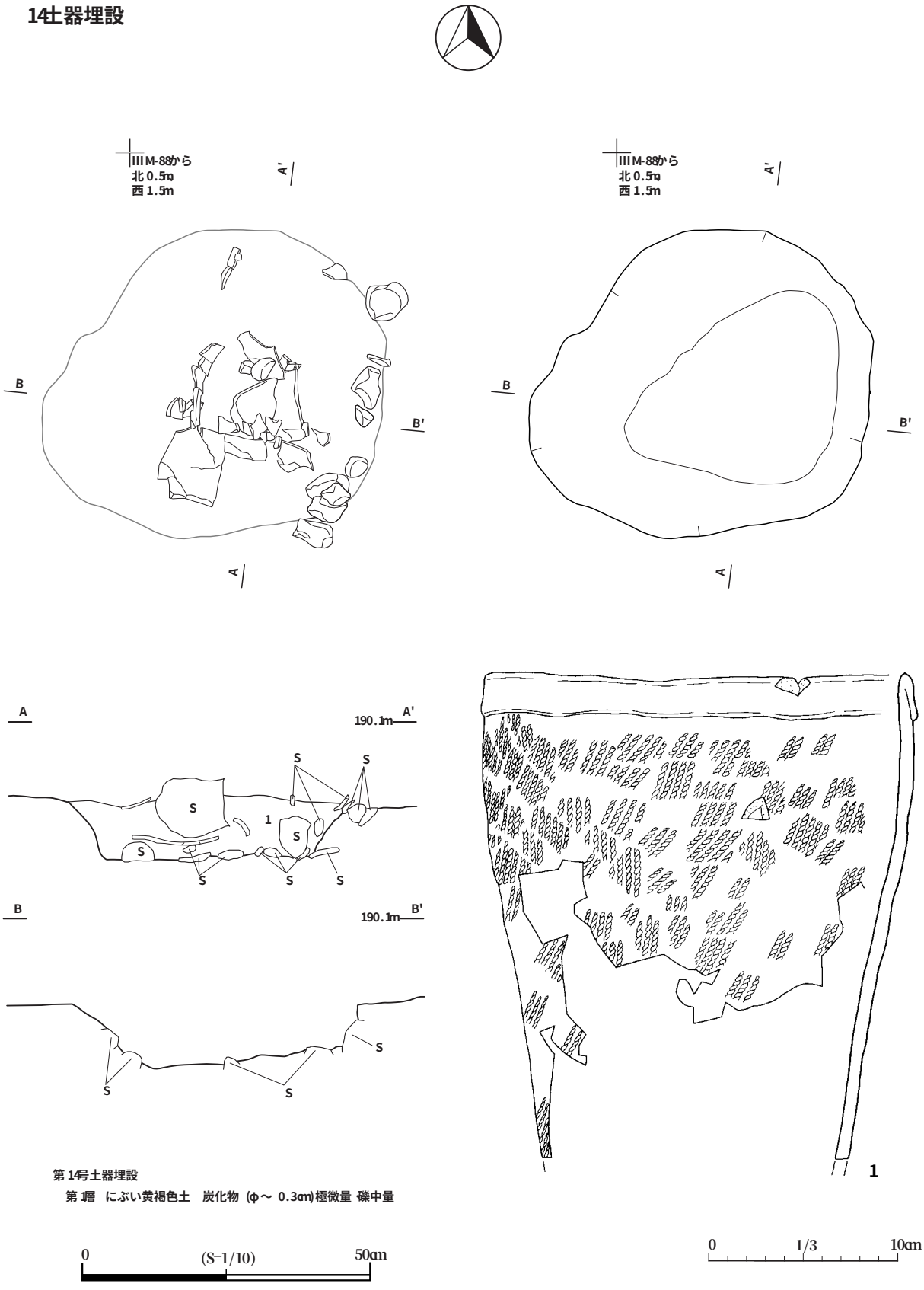


図 40　第 14号土器埋設

調査区　D区

第１号土坑（図 41・42）

［位置 ］調査D区のⅡL－ 84・85グリッドに位置している。

［形態・規模 ］平面形は長軸約 3m 40㎝、短軸約 2m 60㎝の隅丸長方形で、深さは約 40㎝である。

［堆積土 ］堆積土は炭化物を含んだ 5層に分層される。

［出土遺物 ］覆土から土器破片と石鏃のほか礫が出土している。

第２号土坑（図 41・42）

［位置 ］調査D区のⅡK－ 85グリッドに位置している。

［形態・規模 ］平面形は長軸約 1m 60㎝、短軸約 1m 20㎝の楕円形で、深さは約 20㎝である。

［堆積土 ］堆積土は炭化物を含んだ 2層に分層される。

［出土遺物 ］覆土から土器破片と剥片石器が出土している。

第３号土坑（図 41・42）

[位置 ］調査D区のⅡL－ 85グリッドに位置している。

[形態・規模 ］北側を掘りすぎたため、平面形は不明である。深さは約 30㎝である。

[堆積土 ］堆積土は 2層に分層される。

[出土遺物 ］覆土から土器破片と礫が出土している。

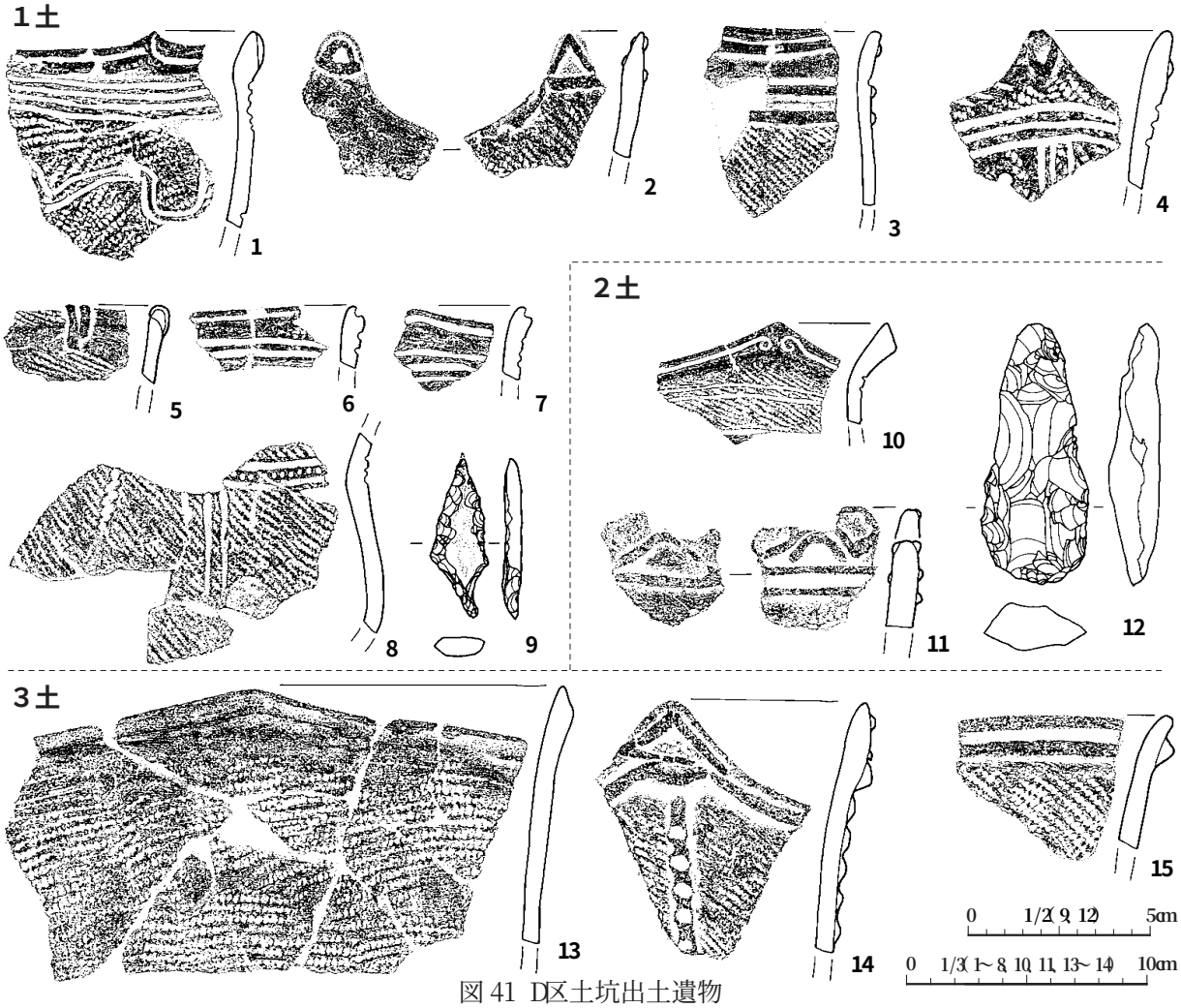
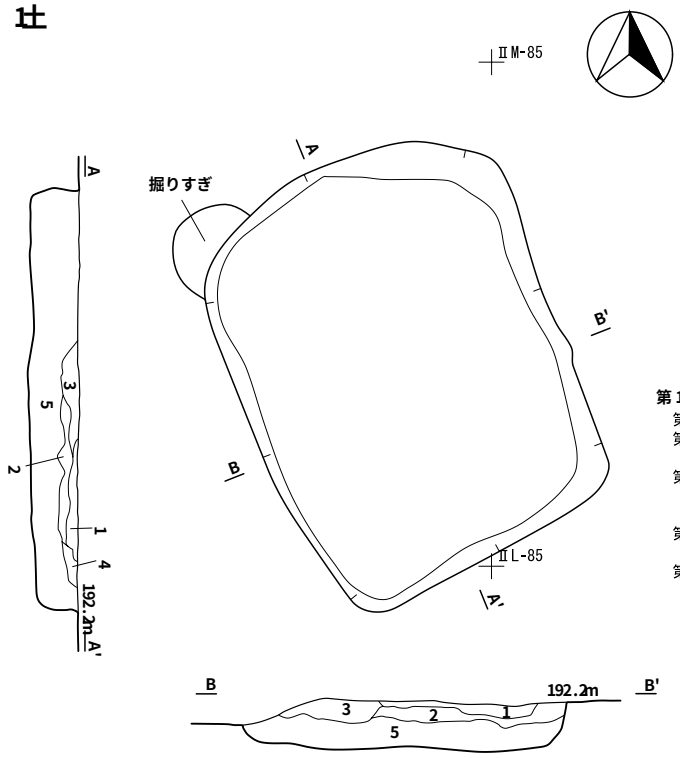


図 41　D区土坑出土遺物

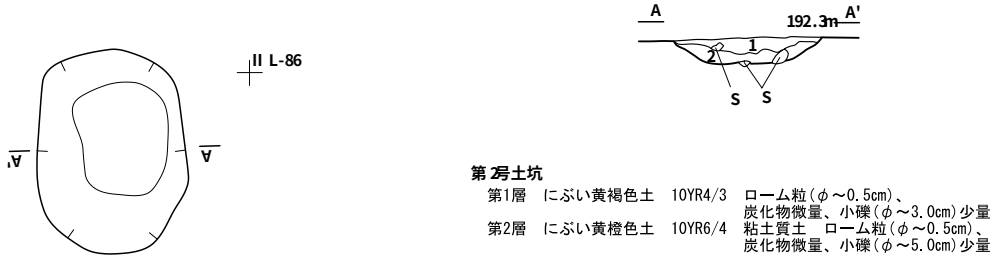
1土



第1号土坑

第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物微量、礫(小～中)少量
第2層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭化物微量、礫(小～中)少量、砂質土
第3層	褐色土	10YR4/4	粘土質土、礫小～中微量、灰積褐色土粒(粘土質土・φ1cm)微量、ローム粒(φ～1cm)微量
第4層	褐色土	10YR4/4	粘土質土、炭化物微量、焼土粒(φ0.5cm)極微量
第5層	黄褐色土	10YR5/6	粘土質土、焼土粒(φ1cm)極少量、小礫極少量

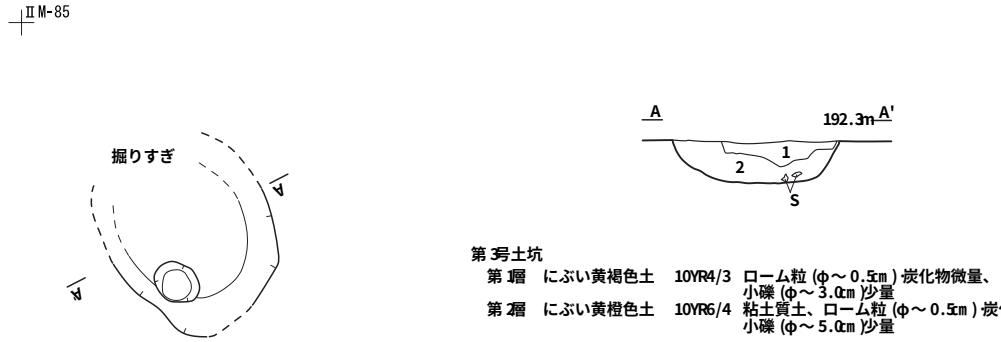
2土



第2号土坑

第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒(φ～0.5cm)、炭化物微量、小礫(φ～3.0cm)少量
第2層	にぶい黄橙色土	10YR6/4	粘土質土　ローム粒(φ～0.5cm)、炭化物微量、小礫(φ～5.0cm)少量

3土



第3号土坑

第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒(φ～0.5cm)炭化物微量、小礫(φ～3.0cm)少量
第2層	にぶい黄橙色土	10YR6/4	粘土質土、ローム粒(φ～0.5cm)炭化物微量、小礫(φ～5.0cm)少量

0　(S=1/60)　2m

図42　D区土坑

第 2項　出土遺物

1　土器 (図 43～ 46)

砂子瀬遺跡の調査で出土した縄文土器は、段ボール箱で 65箱分である。ほとんどが砂子瀬遺跡C区から出土しているが、旧砂子瀬集落の造成などによる影響を受けているため、破片資料が多くみられる。出土土器は地区によって若干の時期的な違いがみられ、C地区では縄文時代後期前半の土器を中心にしているのに対し、D区では中期中葉の土器が多く出土している。

土器の分類にあたっては、平成 18年度の調査報告 (本報告書第１章第７節第２項参照)に準拠し、新たに第Ⅲ群に１類中期前半の土器と２類中期後半の土器を設けている。

第Ⅰ群から第Ⅱ群の土器は出土していない。

第Ⅲ群　縄文時代中期の土器

２類　中期後半の土器（図 43－ 1～ 4・10、図 46－ 16～ 28）

C区では中期後半の円筒上層ｄ式、ｅ式、榎林式などの土器がみられ、口縁部の突起には様々なバラエティーがみられる。D区では、折返し口縁をもつものや口唇部に沈線をもつものなどが出土している。

第Ⅳ群　縄文時代後期の土器（図 43－ 5～ 9、 11～ 13、図 44、図 45、図 46－ 1～ 12、 29・30）

１類　後期初頭から前葉の土器

深鉢土器は、沈線文の他に、網目状には、沈線 (図 43－ 11～ 13)によるものと撚糸文 (単軸絡条体第 5類)(図 43－ 7・8)のものがみられる。また、沈線文をもつものの中には、図 44－ 1の突起が５つで口唇部に棒状押圧痕も持つものなどがある。そのほかに単軸絡条体第 1類や条痕により施文されているものも存在する。図 45－ 9、 10は結束でない羽状縄文である。

壺型土器の中には、小型の蓋付土器 (図 46－ 1・9・10)もあり、 1は赤漆が塗布され、蓋部に紐通し孔のある突起が確認できる。 10には赤漆と黒漆が塗布されていたと思われる。また、大型の壺型土器 (図 46－ 2・7・8・12)はその形態から土器棺と考えられ、 12は橋状把手がみられる。いずれも後期前半の十腰内Ⅰ式土器とみられる。

３類 後期後葉の土器

鉢型土器に粘土瘤が貼付けられるもので、十腰内Ⅴ式土器以降と考えられる。

第Ⅴ群　縄文時代晩期の土器

１類　晩期前葉の土器（第 46図－ 13～ 15）

ｃ羊歯状文が主体文様のもの

鉢類は頚部に羊歯状文がみられるもので、大洞ＢＣ式と考えられる。

(中嶋)

2　石器

砂子瀬遺跡の調査で出土した石器は、段ボール箱で 41箱分である。石器の分類にあたって、平成 18年度調査報告のものに準拠している。以下に器種ごとに概略を述べる。

剥片石器

平成 19年度砂子瀬遺跡の調査で 186点、平成 20年度の調査で 3点の計 189点が出土し、うち 11点が遺構内から出土している。

石鏃（図 20－ 3、図 47－ 1～ 18）

出土した 34点中 19点を図示した。円基 1点（図 47－ 1）、凹基 6点（図 47－ 2～ 7）、有茎が 12点（図 20－ 3、図 47－ 8～ 18)である。図 47－ 8は長さが短く抉りも浅いため、菱形に近い形になっている。図 47－ 12は平面形が丸みをおび、全長の半分ほどで最も幅広になっている。図 47－ 2は剥離調整が進んでおらず、未製品と思われる。

石槍（図 47－ 19）

1点が出土した。有茎で先端を欠損している。

石匙（図 47－ 20～ 22）

出土した 4点中 3点を図示した。2点が横型（20・21）、1点が縦型（22)である。22は幅広な素材の両側縁に緩く弧を描く刃部を形成している。

石錐（図 41－ 9、図 47－ 23～ 25）

出土した 5点中 4点を図示した。図 41－ 10はＤ区第１号土坑出土で、両端を加工し、下端部が針状になっている。図 47－ 23は上下両端を加工し、平面形が尖基の石鏃のようになっている。25は刃部のみの残存か、棒状のものの欠損品と思われる。

石箆（図 12－ 12、図 18－ 18、図 19－ 19、図 41－ 12、図 47－ 26～ 31）

出土した 43点中 10点を図示した。図 47－ 30は比較的大型で剥離調整が粗い。

削・掻器（図 18－ 7～ 10、21、図 32－ 2、図 47－ 32～ 44）

削器としたものは 79点中 16点、掻器とした 22点中 4点をそれぞれ図示した。遺構内からは削器と掻器で計 6点が出土している。遺構外出土の図 47－ 37は縦長の素材の上端部で横方向から、下端部では下方向からの抉りを入れ、側縁に刃部を形成している。43、44は掻器で、円または楕円形の素材を用いている。2点とも弧状の側縁に急角度な刃部を形成する。さらに直線的な側縁の方にも緩やかな角度の刃部が形成されているので、この部分を削器として使用した削・掻器の可能性もある。

礫石器

平成 19年度の調査で 11点が出土し、うち 2点が遺構内から出土である。

敲磨器類

Ⅰ・Ⅲ～Ⅵ類の出土はなかった。

Ⅱ類　使用痕が擦り＋叩きのもの（図 18－ 11、図 29－ 2、図 48－ 1・4・6）

図 18－ 11（第６号土坑出土）と図 29－ 2(第 2号土器埋設遺構出土)は、やや扁平な円または楕円礫の表裏面及び側面を擦りと叩きに使用している。遺構外出土（図 48－ 1・4・6)のもののうち、6は平面形が分銅形、全体を敲打と擦りにより整形し、全面に擦痕が残る。また、表面中央の凹みは敲打後に擦ったもので、裏面にも深い擦痕が残る溝状の凹みがある。類似した加工痕を持つものが、県内では六ヶ所村の富ノ沢（1)遺跡で 1点、富ノ沢（2)遺跡で 2点出土しているほか、北海道では泊村ヘロカウルス遺跡、奥尻町青苗遺跡、余市町栄町遺跡、札幌市Ｎ 309遺跡など縄文時代中期後半の円筒上層式土器に伴って出土し、側縁有溝石器として記載されているが、出土例が少なく用途も不明なことから、今回は敲磨器として分類した。

Ⅶ類　使用痕が凹みのみのもの（図 48－ 2・3）

3は楕円礫の稜線部を叩きに使用している。

石皿（図 48－ 5）

大型、有縁で、表裏に整形痕と思われる打痕が残っている。

磨製石斧（図 48－ 7～ 9）

3点とも擦り切り技法を用いており、特に 8は明瞭な段状の擦切痕を残している。

（佐藤・菅原 ）

3　土製品

縄文時代の土製品 11点が出土している。器種ごとに分類してその特徴を述べる。

土偶（図 48－ 10）

土偶は、遺構外から出土した板状土偶で、破損しているが体部の左上半部と推定できる。肩部がやや角張り、沈線と縄文による文様が施され、頭部と首の接合部にはアスファルトが付着している。時期は中期後半と思われる。

土面？（図 12－ 12）

第 2号竪穴住居跡からの出土で、円盤状の粘土版に、粘土を用いて目と口、眉を貼り付けたものである。時期については不明である。

円盤状土製品（図 12－ 11、図 48－ 11～ 16）

第 2号竪穴住居跡からと屋外配石炉から 1点ずつ、C区の遺構外から 6点の計 7点出土している。いずれも深鉢土器の胴部破片で、図 48-11、 13、 15は縄文、図 12-11は沈線と縄文、 12と 14は沈線のみ、 16は丁寧にミガキをかけた無文である。いずれも中期中葉から後期前葉と考えられる。

粘土の塊（図 48－ 17）

粘土に小礫（φ 0.5～ 1.5㎝)を含んだものである。用途および時期ともに不明である。

（中嶋）

4　石製品

縄文時代と思われる石製品は 5点が出土している。

石剣・石刀類（図 48－ 18・19）

出土した 2点は、いずれも両端を欠損しているもので、両側縁に刻みを施している。石質は粘板岩製である。

不明石製品（図 48－ 20～ 22）

20は凝灰岩の小型楕円礫を用い、長軸方向中央を通る溝が形成されている。一部欠損があるものの、この溝は全周すると考えられる。表裏及び側面には大小の擦痕が残る。また、稜線が面取りされているため、断面形は隅丸方形を呈している。用途は不明だが、溝部分に紐をかけて垂飾品にする利用法が考えられる。 21は異形石器と思われ、一部を欠損している。 22は粘板岩製で、端部を細くし、体部も面取りをして鉛筆のような形に整形している。片方の端部は欠損している。

（佐藤・菅原 ）

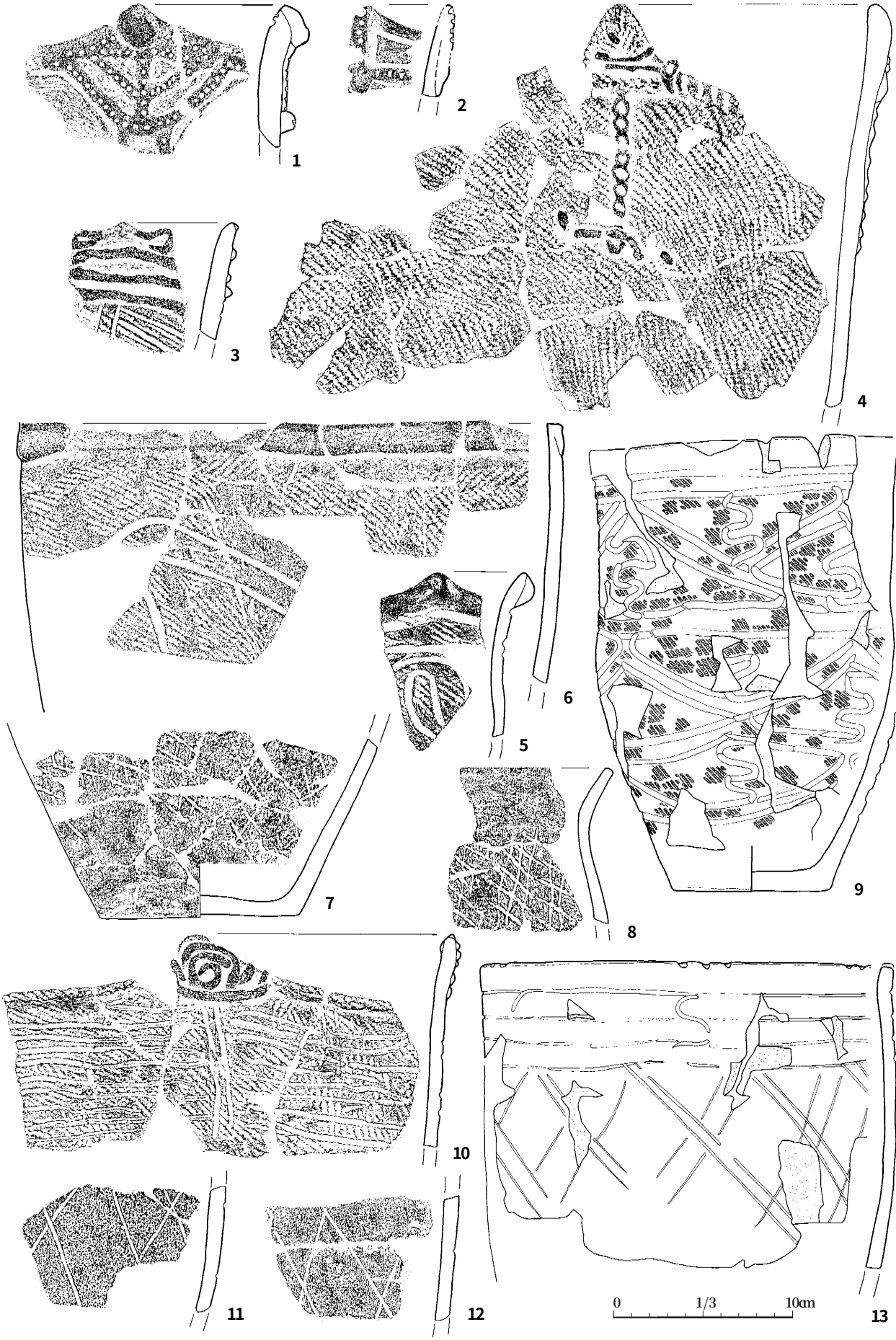


図 43　遺構外出土遺物（１）

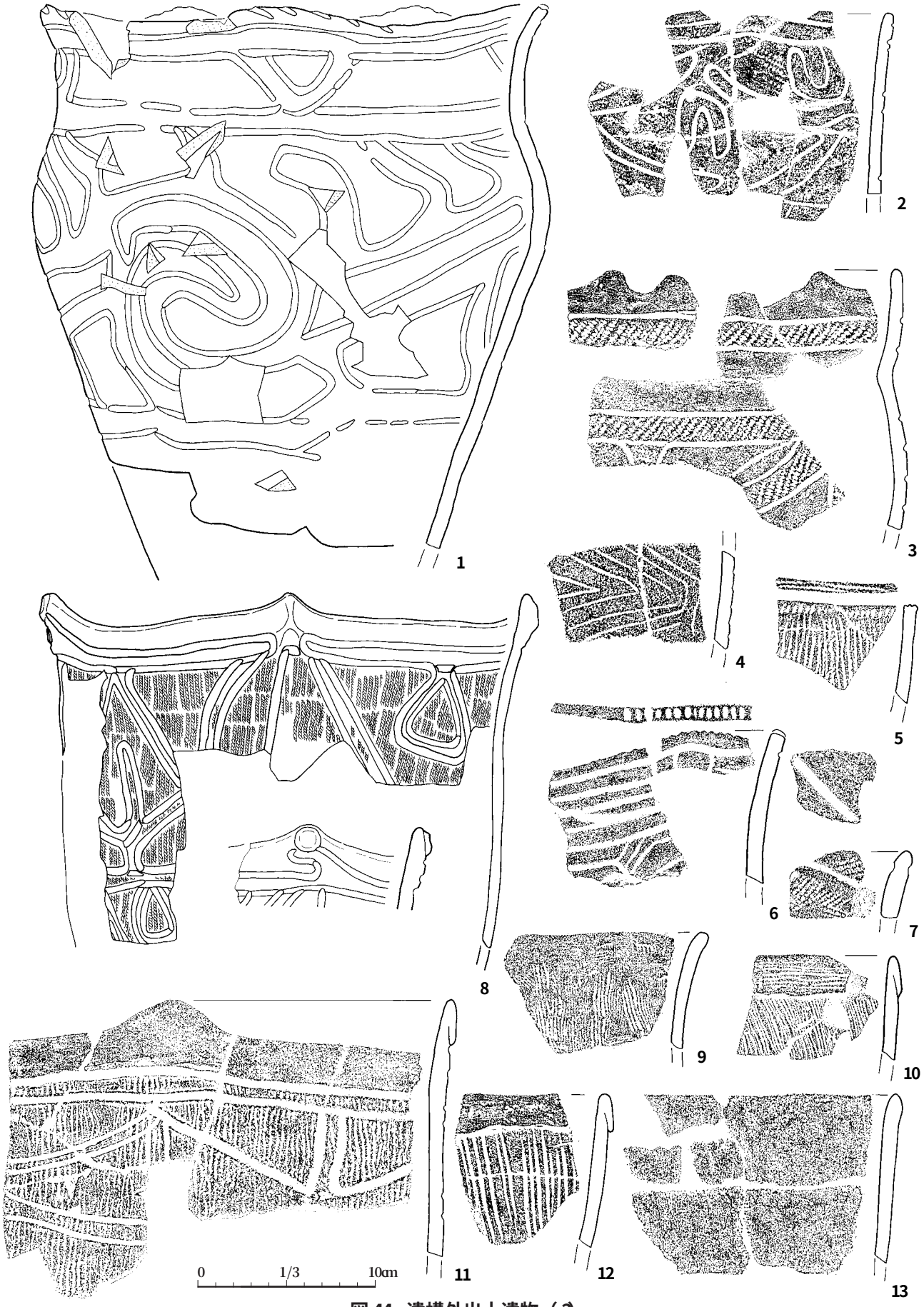


図 44　遺構外出土遺物（2）

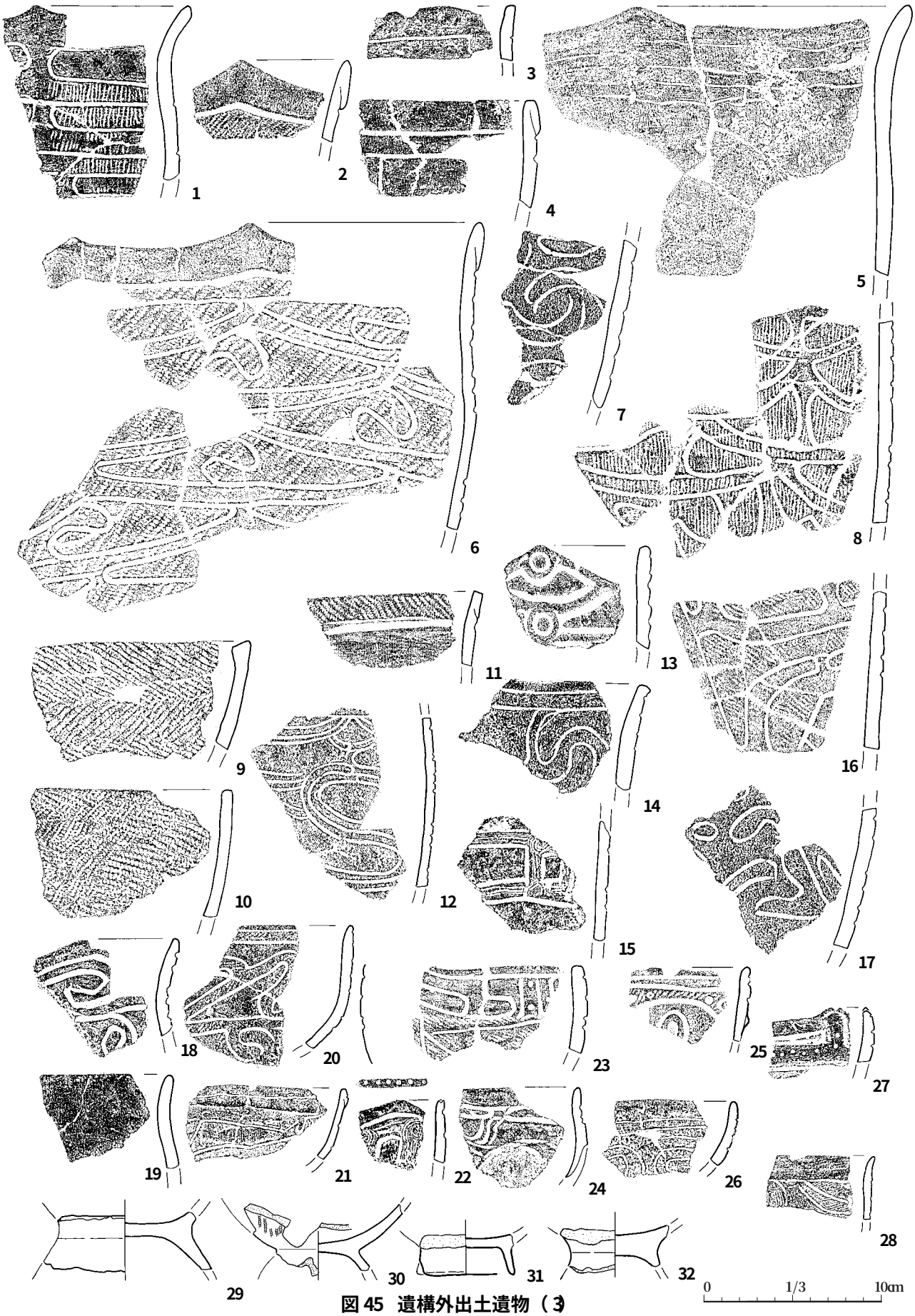


図 45　遺構外出土遺物（３）

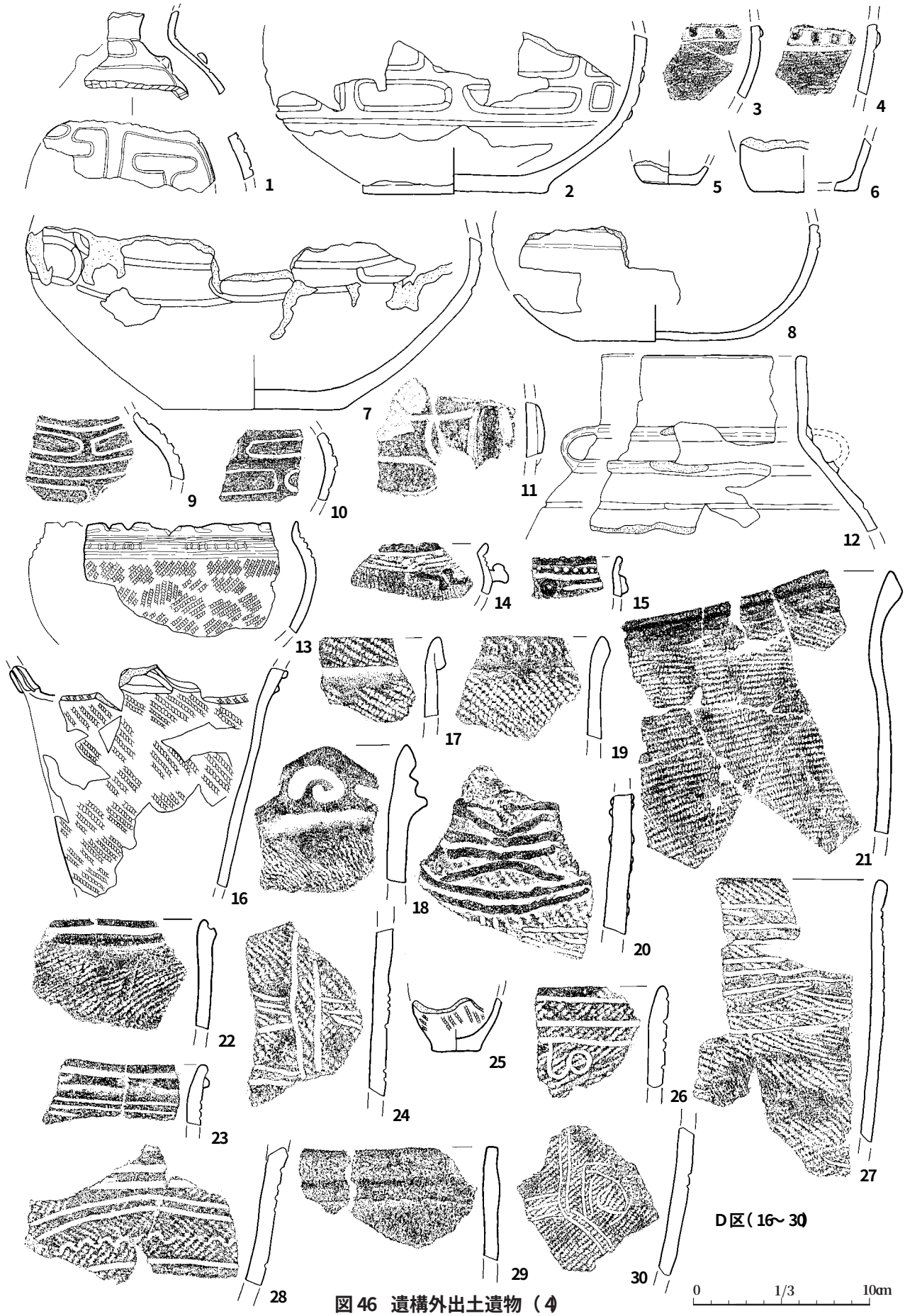


図46　遺構外出土遺物（4）

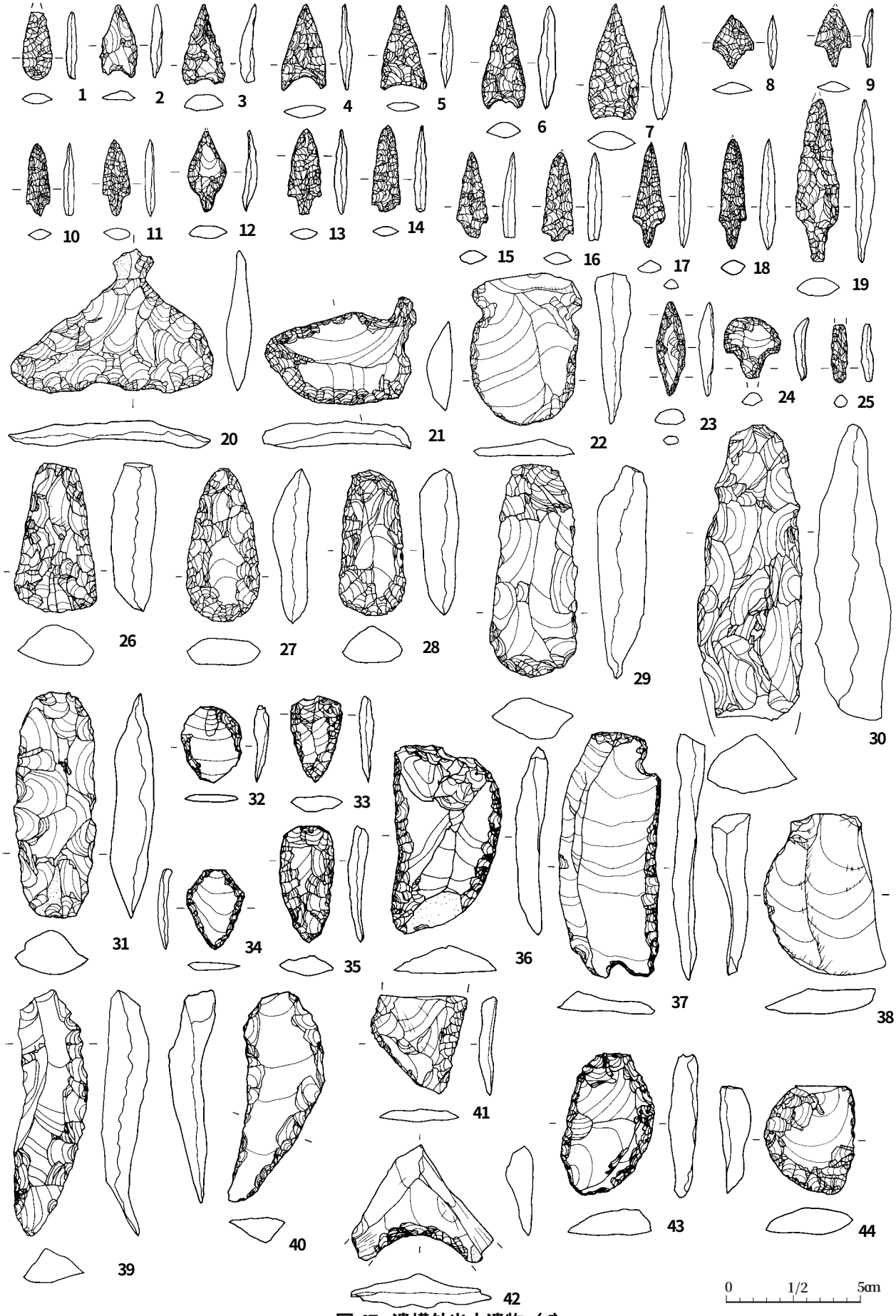


図 47　遺構外出土遺物（５）

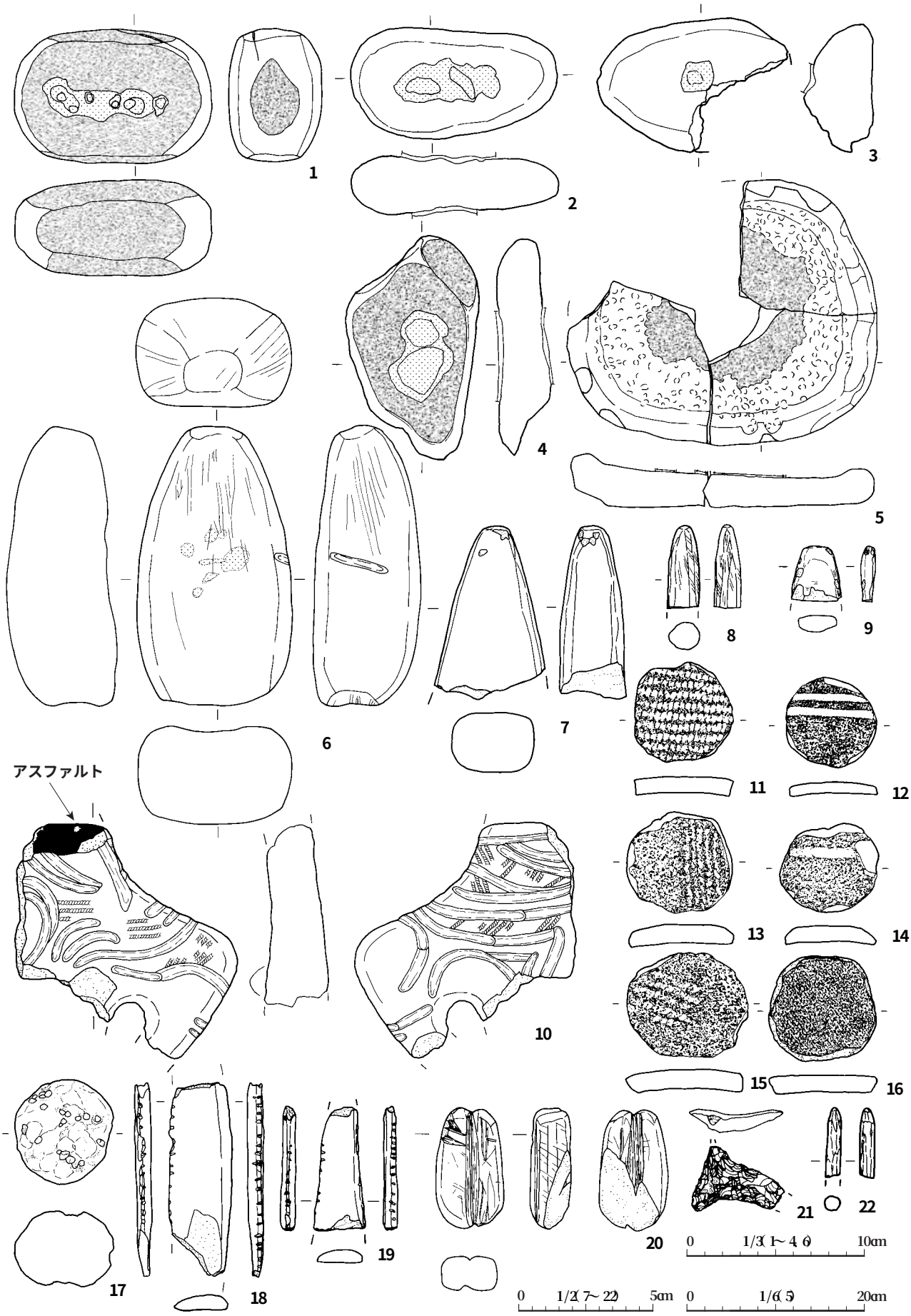


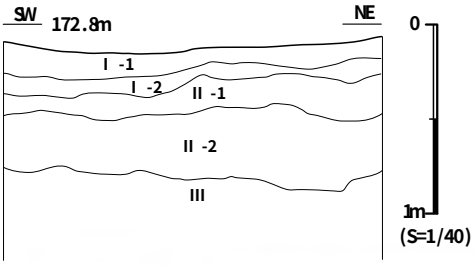
図 48 遺構外出土遺物（6）

第4章　水上(3 遺跡

第 1節　基本層序 (図 49)

調査区は遺跡の東南端にあり、南側は木戸ヶ沢に面した崖となっている。標高約 171mの段丘崖上に位置しているが、ダム内のために降雨時等には調査区一帯が水没する。基本層序は北側の調査区境界壁（X U-355グリッド）とした。第Ⅰ層は表土層であり、第Ⅰ－ 1層はダム使用以降の堆積土である。第Ⅱ層が遺跡の主体をなす縄文時代中～後期の遺物包含層であり、層中には大小の円礫を多量に含んでいる。また遺構はこの層の下面で検出されている。なお第Ⅱ－ 2層は炭化物を含んだ黒色土層で、調査区中央の低い部分を東西に貫くように帯状に検出されており、状況からこの部分には木戸ヶ沢に注ぐ小規模な沢があったものと考えられる。第Ⅲ層は大型の礫を層中に含み、無遺物・無遺構の層である。

基本層序



基本層序

Ⅰ-1層	10YR7/2 にぶい黄橙色土	締まり強、粘性強、ダム堆積土、泥質。 礫 (φ 5～ 30mm) 多量混入。草根を多量に含む。
Ⅰ-2層	10YR3/2 黒褐色土	締まり強、粘性強、旧表土、シルト質。礫 (φ 5～ 30mm 中量、 炭化物 (φ 1～ 10mm 少量混入。草根を多量に含む。
Ⅱ-1層	10YR4/6 褐色土	締まり強、粘性強、縄文中後期の遺物包含層、 シルト質。礫 (φ 5～ 30mm) 中量、炭化物 (φ 1～ 20mm)・褐鉄分少量混入。
Ⅱ-2層	10YR2/1 黒色土	締まり強、粘性中、縄文中後期の遺物包含層、 旧河川堆積土、シルト質。 礫 (φ 5～ 40mm 中量、炭化物 (φ 1～ 20mm 少量混入。
Ⅲ層	10YR6/8 明黄褐色土	締まり強、粘性中、シルト質。礫 (φ 100mm以上 を多量に混入。

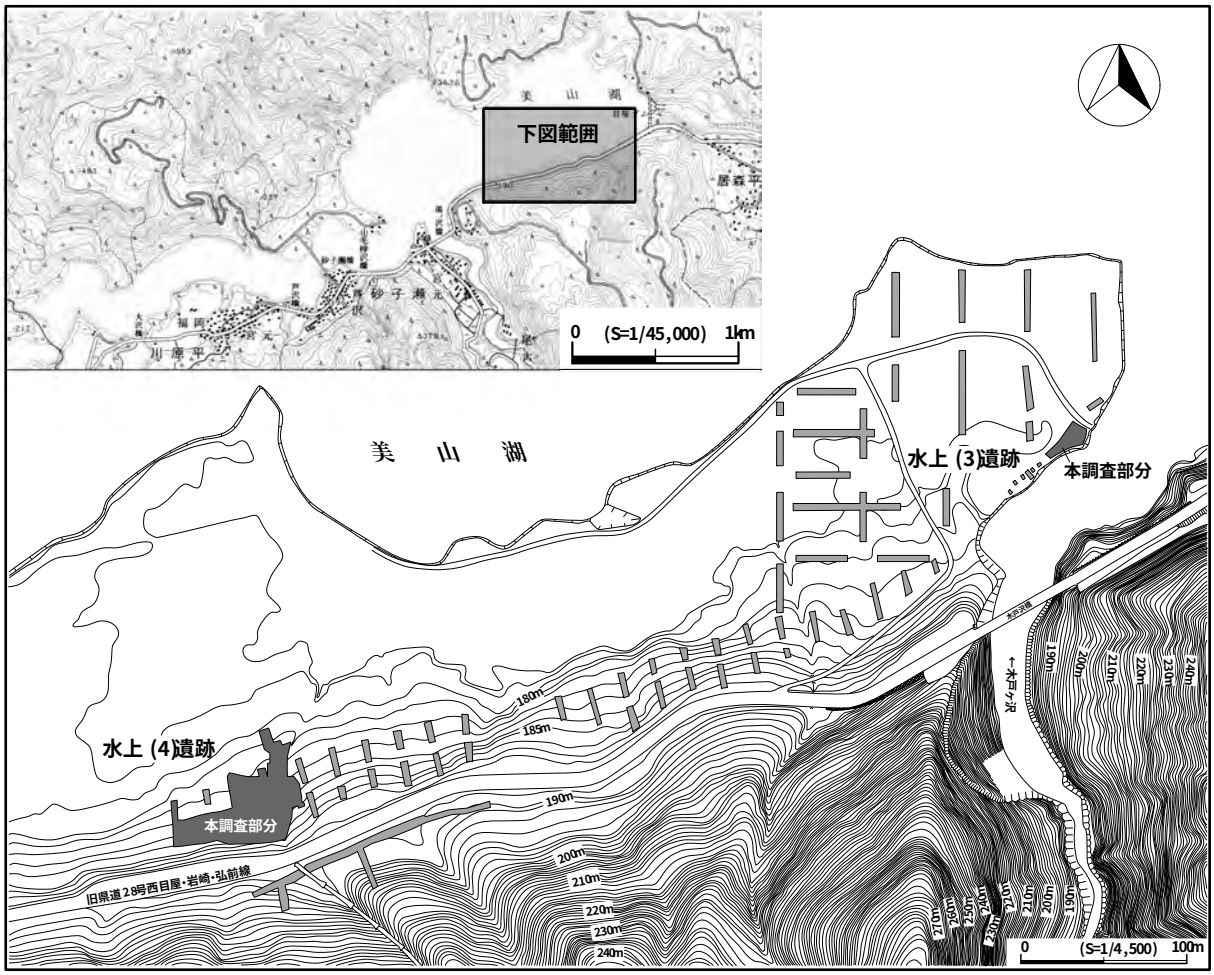


図 49　水上地区周辺地形図

第2節　検出遺構と出土遺物

第1項　検出遺構（図50）

水上 (3)遺跡から検出された遺構は、土坑１基、ピット 4基で、いずれも基本層序第Ⅱ層から検出されている。以下にまとめて記載する。

第 1号土坑はX S-355グリッドに位置し、 91× 79cmの不整楕円形を呈する。断面は東側が深いもので、底面には凹凸が目立つ。堆積土は暗褐色土を主体とするものであるが、土坑の形状自体が不明瞭であり、大型礫が抜けた痕跡である可能性もある。出土遺物はなく、時期は不明である。

ピット 4基は第 1号土坑の周辺に位置し、土坑同様に暗褐色土が堆積しているもので、ピット 1が径 34cm、深さ 11cm、ピット 2が径 45cm、深さ 20cm、ピット 3が径 35cm、深さ 13cm、ピット 4が径 27cm、深さ 14cm、といずれも小規模である。これらのピットからも遺物の出土はなく、時期は不明である。（神）

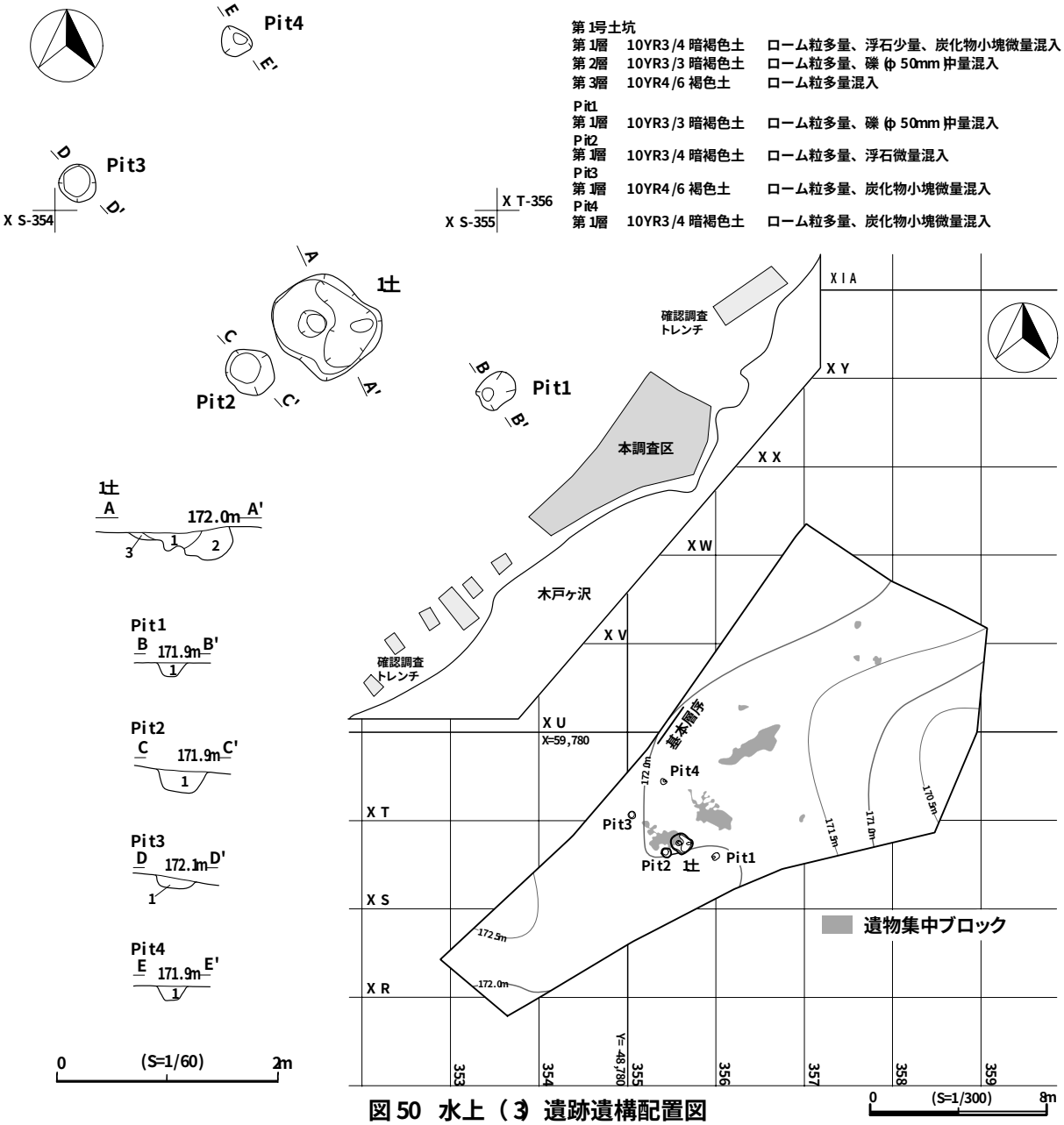


図 50　水上（3）遺跡遺構配置図

第２項　出土遺物

１　土器（図 51～ 53）

水上 (3)遺跡で出土した縄文土器は、後期から晩期を中心に段ボール箱で 9箱分であるが、器種別にみると深鉢土器類が少なく、注口土器破片が多いなど器種にかなりの偏りがみられる。

第Ⅰ群から第Ⅲ群の土器は出土していない。

第Ⅳ群　縄文時代後期の土器

３類 後期後葉の土器（図 51－ 1～ 9、図 52－ 1～ 12・16、図 53－ 1～ 9）

深鉢類は、口縁部から胴部上半にかけての文様帯に刻目帯や刺突帯をもち、文様の連結点や文様と無文部の境に粘土瘤が貼付けられている。注口土器も同様である。皿類は出土していない。壺類は口縁部と頸部に貼付けがみられる。いずれも十腰内Ⅴ式以降の土器と考えられる。

注口土器は後期後半の三叉文や粘土瘤がみられ、注口直下に粘土瘤をもつものが多く、底部が小さく作出されている。ミガキによる調整のみの無文土器も多くみられる。

第Ⅴ群　縄文時代晩期の土器

１類 晩期前葉の土器（図 51－ 10・11、図 52－ 13～ 15、図 53－ 10）

ａ入組縄文帯と三叉文が主体文様のもの

深鉢類（図 51－ 10・11）皿類ともに入組縄文帯と三叉文が口縁部から胴部にかけてみられる。注口土器（図 52－ 13～ 15）は注口直下に三叉文がみられる。

いずれも大洞Ｂ１式と考えられる。

（中嶋 ）

２　石器

水上 (3)遺跡で出土した石器は段ボール箱 1箱分で、剥片石器が 6点で、礫石器は出土していない。以下器種ごとに述べる。

剥片石器

石鏃（図 53－ 12）

抉りの浅い凹基か茎の短い有茎の石鏃で、先端が欠損している。

石匙（図 53－ 11）

縦型の石匙で、直線的な刃部である。表面は全面を剥離調整し、裏面は縁辺のみの調整である。

石箆（図 53－ 14）

撥型で刃部は緩い弧状である。基部が欠損している。

削・掻器（図 53－ 13・15）

削器は 2点が出土した。 13は薄手で円形の石材の両側縁を加工している。表面では縁辺のみ、裏面では全面を調整している。 15は半月型の石材の一側縁のみを調整している。調整は表面では側縁全体に、裏面では部分的に行われる。

石核（図 53－ 16）

礫の自然面は一部に残るだけで、さまざまな角度から打ち割られている。

（佐藤・菅原）

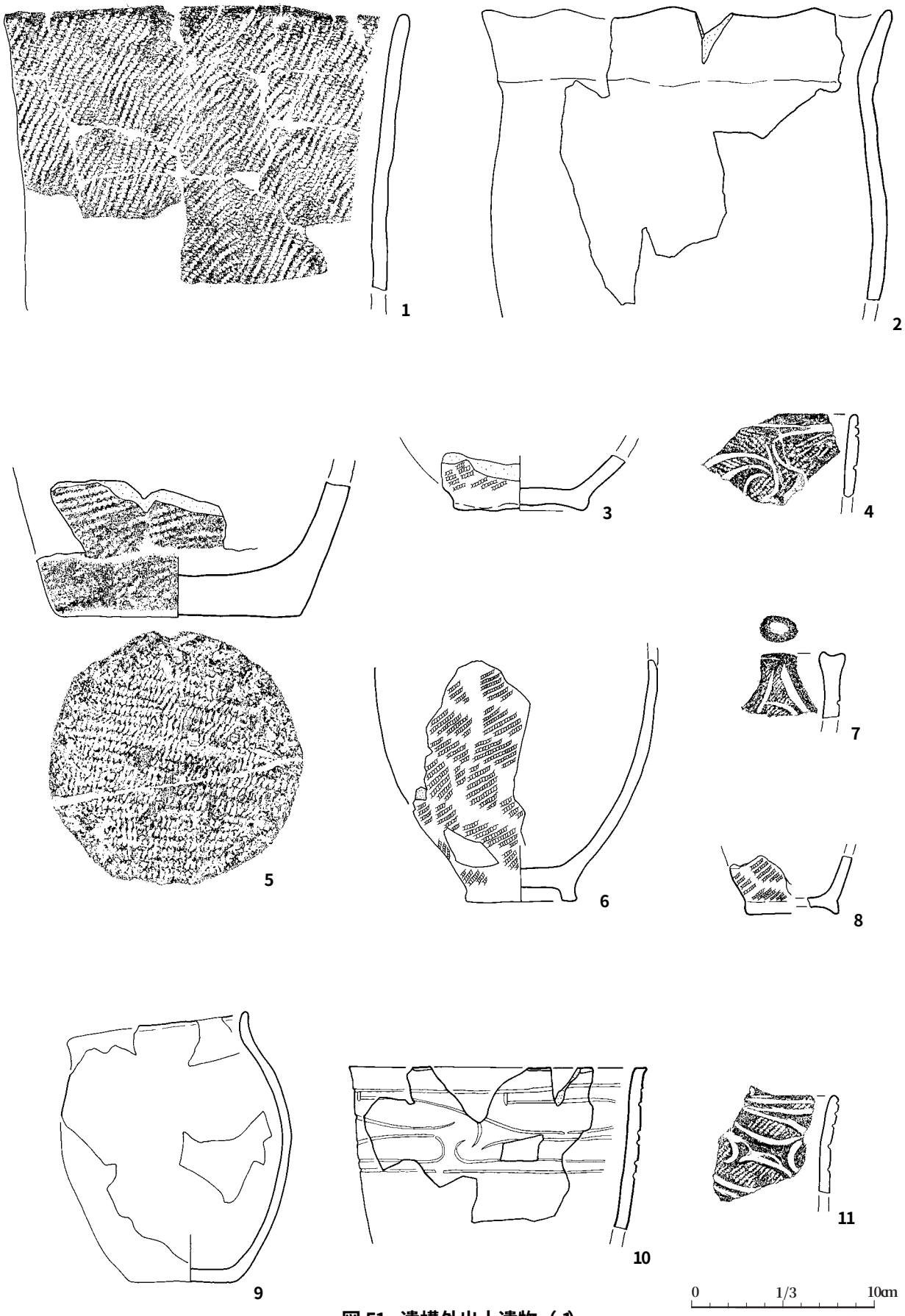


図 51　遺構外出土遺物（1）

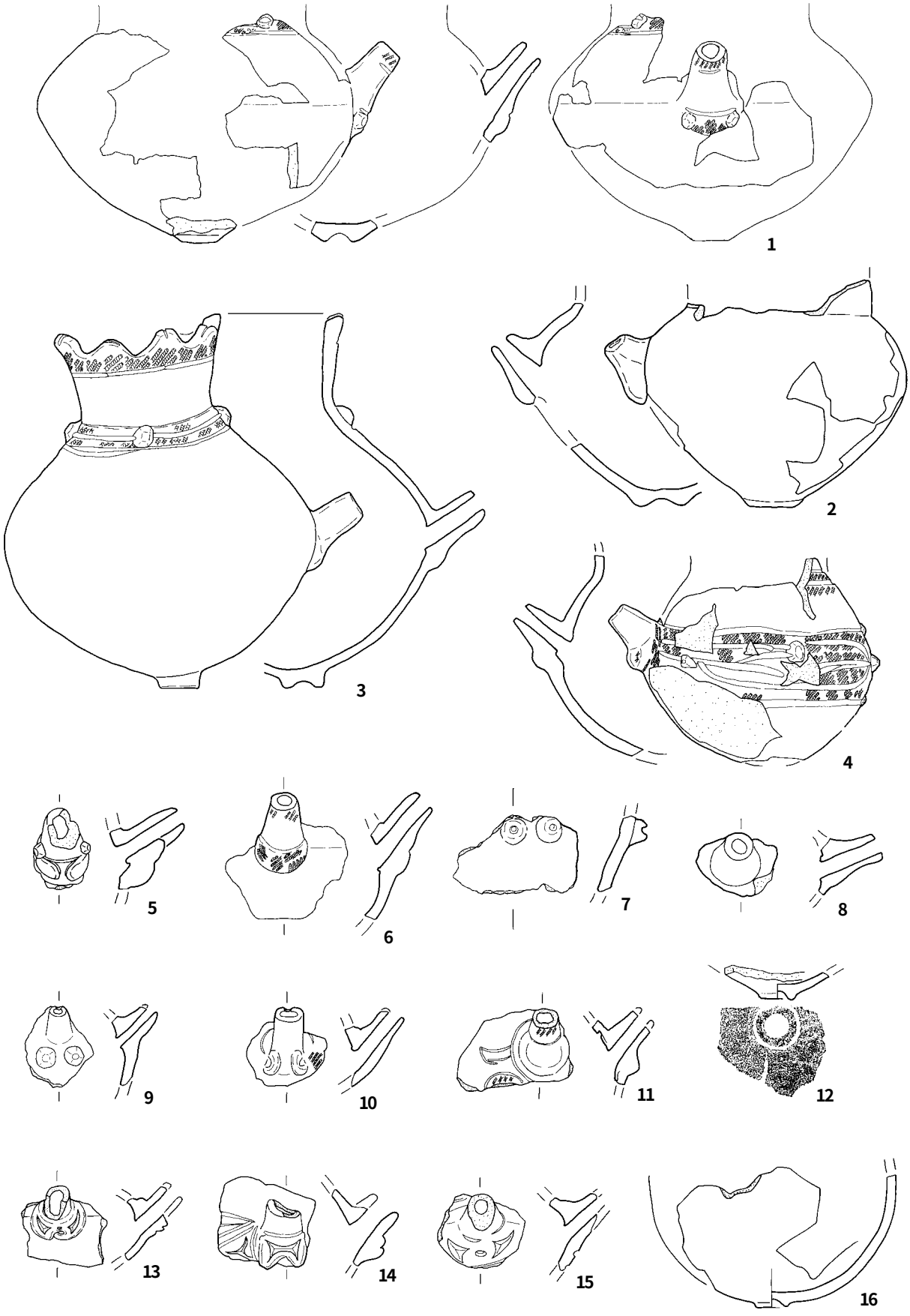


図 52　遺構外出土遺物（２）

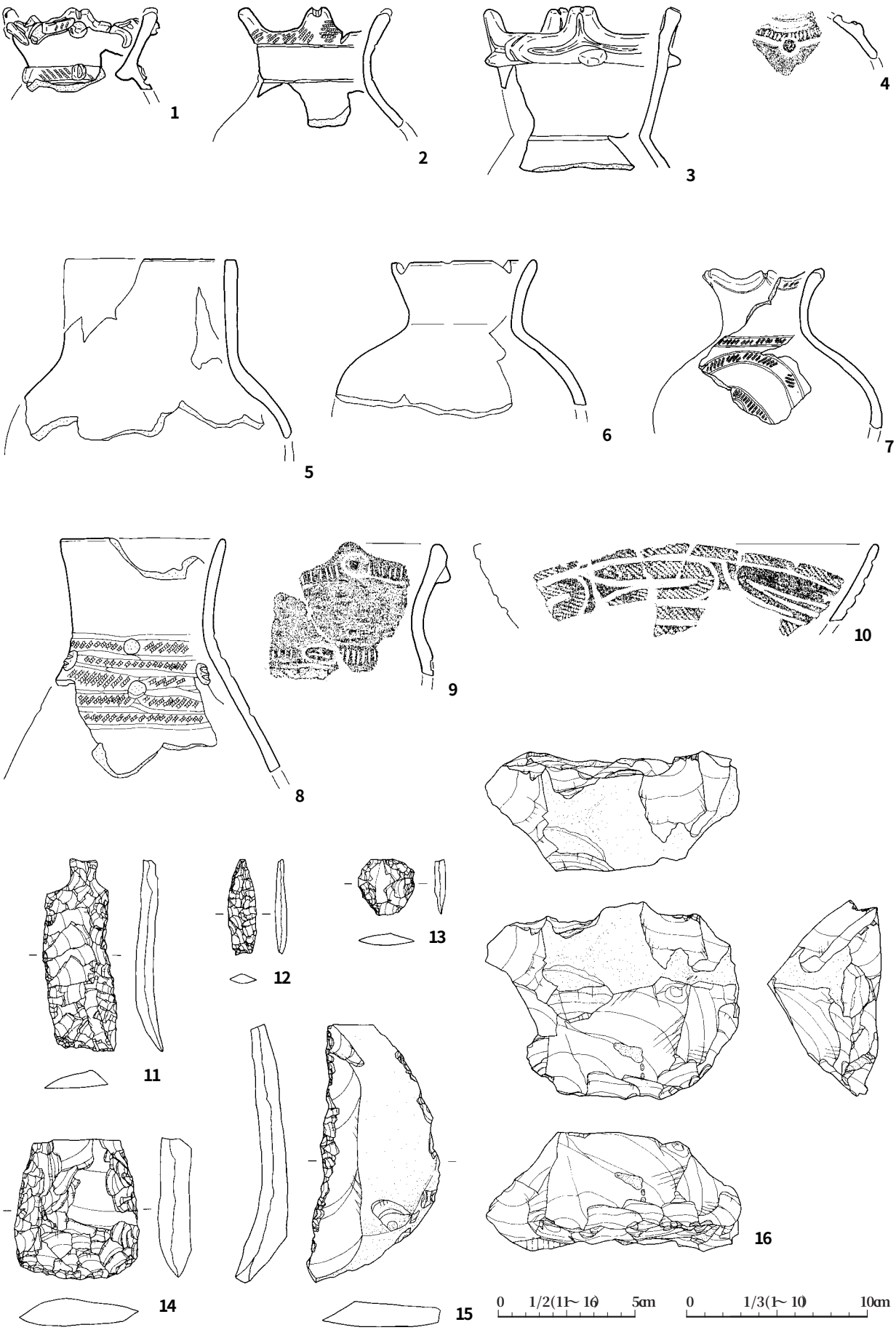


図 53 遺構外出土遺物（3）

第5章　水上(４) 遺跡

第 1節　基本層序 (図 54・55)

遺跡は美山湖南側となる標高 170～ 200mの北側緩斜面上に位置している。確認調査を主体としているが、このうち調査対象部分の西側（国土座標 X=59,520～ 59,620、 Y=-49,320～ -49,240付近）の遺物出土が著しいことから本調査を行った。基本層序については本調査区南側のⅧ G-237及び北側のⅧ U-230グリッドの２箇所に設定した。第Ⅰ層は表土層で暗褐色土を主体とする。基本層序には無いが、標高 180m以下の北側斜面においては第Ⅰ層上に数cmほどの泥砂の堆積がみられる。第Ⅲ層～第Ⅳ層が遺跡の主体である縄文時代中～後期の遺物を包含する層であり、遺構は第Ⅲ層面から下で検出されている。埋没川の堆積土については状況からこの第Ⅲ～Ⅳ層に対応するものと考えられる。第Ⅴ層は黄褐色系のローム土層で、この層以下から遺物・遺構は確認できない。

なお本調査区は全面的に湧水が激しく、調査区際に排水路を設定し調査を行っている。

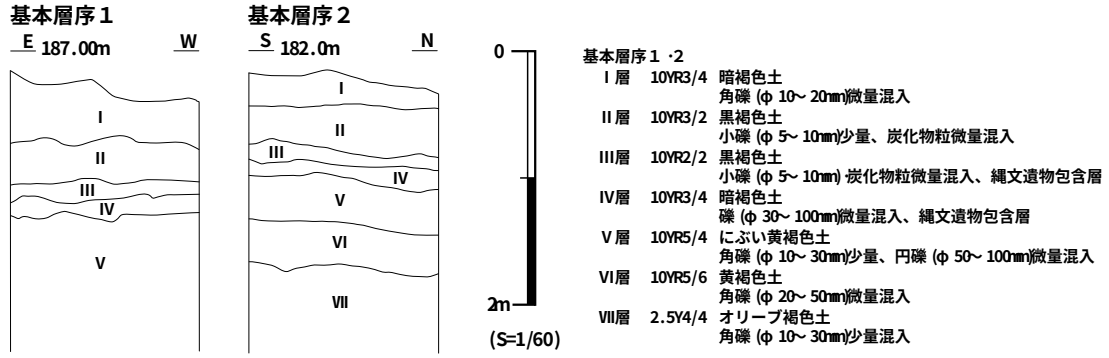


図 54　水上 (4)遺跡　基本層序

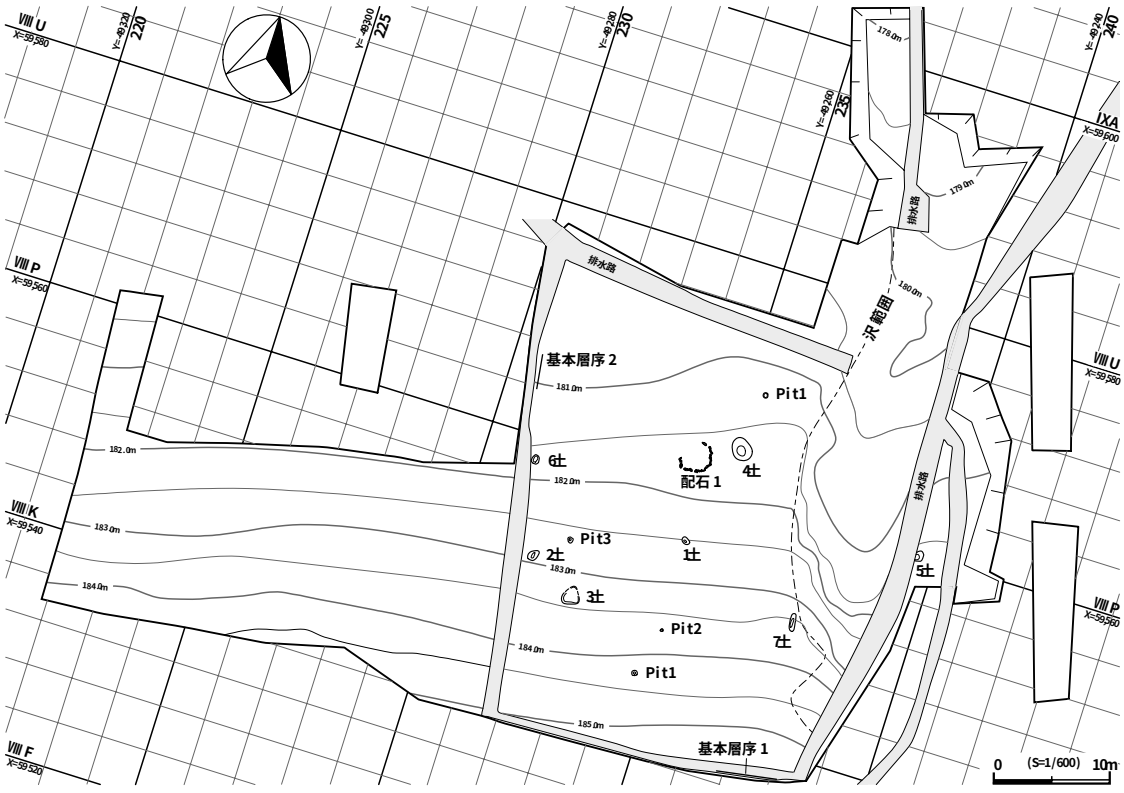


図 55　水上 (4)遺跡　遺構配置図

第 2節　検出遺構と出土遺物

第 1項　検出遺構（図 55）

本遺跡の本調査区からは、配石遺構１基、土坑７基、ピット４基が検出されたほか、沢とその右岸に遺物捨場が検出されている。時期は決定の根拠を欠き、不明なものが多数である。

１　土坑

第１号土坑（図 56）

［位置］本調査区東側のⅧ N-234グリッドに位置し、第Ⅲ層上で確認した。

［形態・規模］長軸 74㎝、短軸 50㎝の楕円形を呈し、深さは 24㎝である。

［堆積土］褐色土を主体とした 2層に分層した。

第２号土坑（図 56）

［位置］本調査区東側のⅧ M-231グリッドに位置し、第Ⅲ層上で確認した。

［形態・規模］長軸 112㎝、短軸 74㎝の不整円形を呈し、深さは 29㎝である。

［堆積土］暗褐色土を主体とした 2層に分層した。

第３号土坑（図 56）

［位置］本調査区東側のⅧ L･M-232グリッドに位置し、第Ⅲ層上で確認した。

［形態・規模］長軸 152㎝、短軸 152㎝の不整円形を呈し、深さは 22㎝である。

［堆積土］暗褐色土を主体とした 2層に分層した。

第４号土坑（図 56）

［位置］本調査区東側のⅧ P･Q-235グリッドに位置し、第Ⅲ層上で確認した。

［形態・規模］長軸 208㎝、短軸 165㎝の楕円形を呈し、深さは 30㎝である。

［堆積土］褐色土を主体とした 2層に分層した。

［出土遺物］ 2層から深鉢土器の破片が出土している。

第５号土坑（図 56）

［位置］本調査区東側のⅧ O･P-239グリッドに位置し、埋没川右岸捨て場の第Ⅴ層上面で確認した。

［形態・規模］西側の一部を排水溝により欠くが南北に 100㎝を計り、深さは 43㎝である。

［堆積土］にぶい黄褐色土を主体とした 2層に分層した。

［出土遺物］ 1層から深鉢土器の破片が出土している。

第６号土坑（図 56）

［位置］本調査区東側のⅧ O-231グリッドに位置し、第Ⅳ層上で確認した。

［形態・規模］長軸 79㎝、短軸 66㎝の楕円形を呈し、深さは 20㎝である。

［堆積土］褐色土を主体とした 2層に分層した。

第７号土坑（図 56）

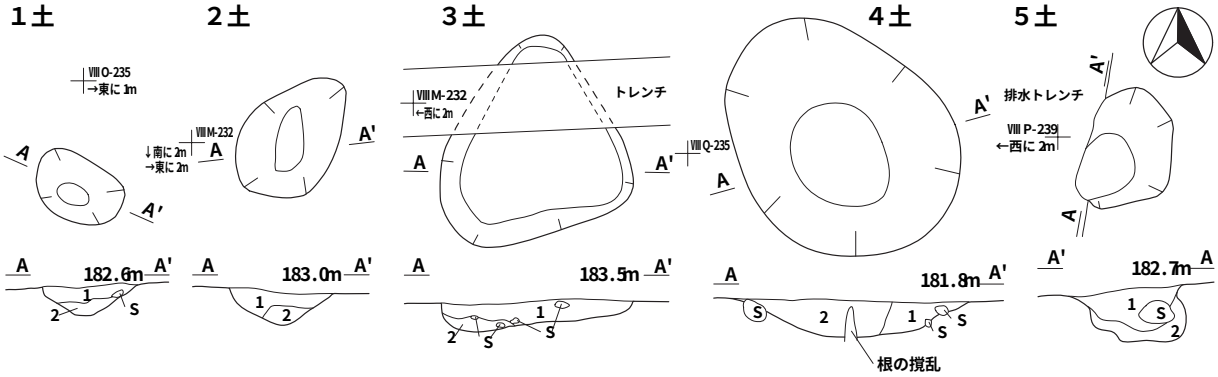
［位置］本調査区東側のⅧ M-237グリッドに位置し、第Ⅲ層上で確認した。

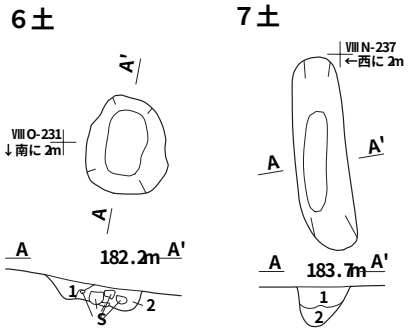
［形態・規模］長軸 155㎝、短軸 42㎝の長楕円形を呈し、深さは 42㎝である。

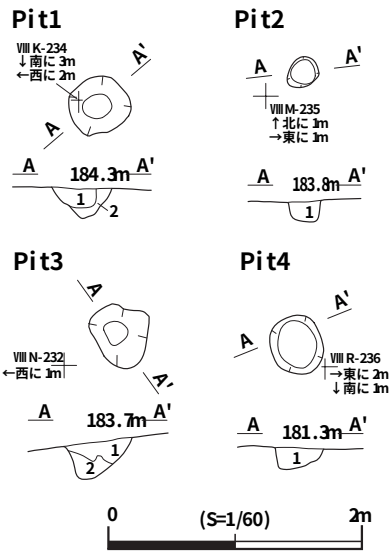
［堆積土］褐色土を主体とした 2層に分層した。

2　ピット（図 56）

調査区内からは４基のピットを検出した。調査区内に点在し、用途や時期等は不明である。ピット 1は径 50cm、深さ 26cm、ピット 2は径 27cm、深さ 17cm、ピット 3は径 44cm、深さ 31cm、ピット 4は径 47cm、深さ 18cmである。いずれも開口部は広いが浅いものである。遺物は出土していない。







第 1号土坑
第 1層　10YR4/4　褐色土　角礫 (φ 10mm～ 少量、礫 (φ 1～ 3mm)・炭化物 (φ 3mm～ 微量混入
第 2層　10YR3/4　暗褐色土　角礫 (φ 10mm～)・礫 (φ 1～ 5mm 微量混入
第 2号土坑
第 1層　10YR3/3　暗褐色土　角礫 (φ 10mm～)・円礫 (φ 1～ 5mm 微量混入
第 2層　10YR3/4　暗褐色土　角礫 (φ 10mm～)・円礫 (φ 1～ 5mm 微量混入
第 3号土坑
第 1層　10YR3/4　暗褐色土　炭化物 (φ 1～ 5mm 少量、礫 (φ 1～ 10mm 微量混入
第 2層　10YR4/4　褐色土　礫 (φ 1～ 10mm 少量混入
第 4号土坑
第 1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　角礫 (φ 1～ 10mm 中量混入
第 2層　10YR4/4　褐色土　角礫 (φ 1～ 10mm 少量混入
第 5号土坑
第 1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　円礫 (φ 1～ 100mm 少量、炭化物 (φ 1～ 50mm 微量混入
第 2層　10YR6/3　にぶい黄橙色土　角礫 (φ 20～ 50mm 微量混入
第 6号土坑
第 1層　10YR3/4　暗褐色土　ローム多量、角礫 (φ 10mm～ 少量混入
第 2層　10YR4/4　褐色土　ローム・角礫 (φ 10mm～ 多量混入
第 7号土坑
第 1層　10YR4/4　褐色土　砂多量、礫 (φ 1～ 3mm)・炭化物 (φ 1～ 3mm 微量混入
第 2層　10YR3/4　暗褐色土　円礫 (φ 10mm～ 中量、礫 (φ 1～ 5mm 少量混入

Pit1
第 1層　10YR4/4　褐色土　ローム多量、礫 (φ 1～ 10mm 微量混入
第 2層　10YR5/3　にぶい黄褐色土　ローム多量、礫 (φ 1～ 10mm 少量混入
Pit2
第 1層　10YR5/4　にぶい黄褐色土　白色粘土ブロック混入
Pit3
第 1層　10YR4/4　褐色土　円礫 (φ 10mm～ 微量混入
第 2層　10YR4/4　褐色土　炭化物 (φ 5mm～)・礫 (φ 1～ 3mm 微量混入
Pit4
第 1層　10YR4/3　にぶい黄褐色土　円礫 (φ 1～ 5mm 中量、炭化物 (φ 1～ 5mm 微量混入

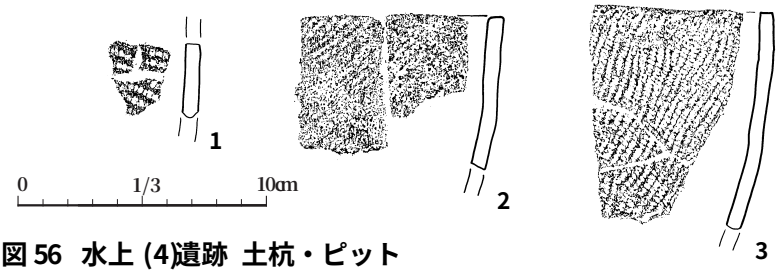


図 56　水上 (4)遺跡 土杭・ピット

3　配石遺構

第１号配石遺構（図 57）

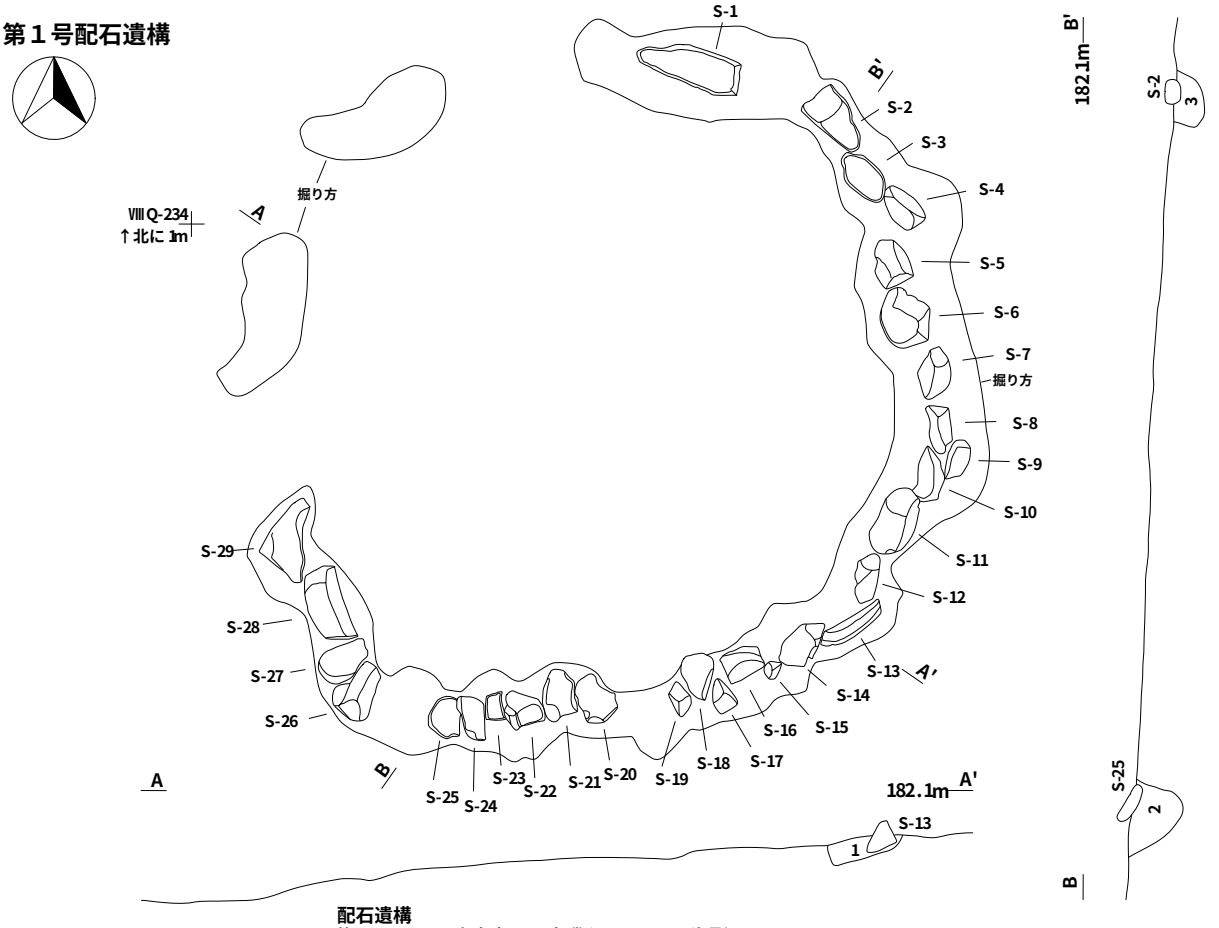
［位置］本調査区東側のⅧ P-234グリッドに位置し、第Ⅲ層上で確認した。

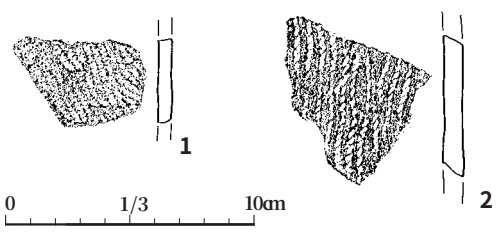
［平面形・規模］ほぼ円形状に礫が配列され、その径は 270～ 280㎝を計る。北西側の一部を欠くが、掘り方の残存状態から、この場所にも配石があったものとみられる。掘り方は比較的深く、最大で 20㎝ほどのものもみられる。使用されている礫は長径 10～ 40㎝であり、安山岩や凝灰岩等がみられる。

［堆積土］掘り方となる１層のみの検出である。

［出土遺物］明確に伴う遺物は出土していないが、周辺から土器片が出土している。

［時期］時期決定の根拠を欠くが、周辺遺物の状況からは後期の範疇に収まるものと推定される。





使用石材及び法量

番号	法量 (cm)	石材	番号	法量 (cm)	石材
S-1	(41.5)× (21.5)× 13.0	安山岩	16	(17.3)× 17.1× 10.8	安山岩
2	26.6 × 17.0 × 7.8	凝灰岩	17	14.0< (7.0)× 10.0	凝灰岩
3	(12.3)× 15.7× 11.8	安山岩	18	(16.0)× 13.6× 9.8	凝灰岩
4	(18.7× 15.8< 9.4)	凝灰岩	19	16.8< 11.0< 7.4	安山岩
5	(11.7)× (13.4)× (15.0)	凝灰岩	20	20.0< 14.8< 6.0	凝灰岩
6	16.8< 19.3< 9.7	凝灰岩	21	18.5< 14.3< 4.5	安山岩
7	(20.0)× 10.7< 11.5	凝灰岩	22	16.8< (11.6)× 8.5	凝灰岩
8	(17.5)× 14.8< 8.2	凝灰岩	23	(11.0)× (10.0)× 1.6	凝灰岩
9	16.0< (12.6)× 5.7	安山岩	24	(20.5)× 11.2< 7.3	安山岩
10	22.0< (14.0)× 5.0	凝灰岩	25	17.5< 15.0< 3.7	凝灰岩
11	28.0< 17.5< 12.2	デイサイト	26	23.5< 19.5< 7.5	凝灰岩
12	20.3< (13.0)× 6.8	凝灰岩	27	21.5< 14.0< 10.0	安山岩
13	27.5< 14.2< 10.0	粗粒凝灰岩	28	(29.2)× (12.4)× 8.3	凝灰岩
14	14.3< 15.7< 9.6	安山岩	29	36.6< 17.7< 6.5	デイサイト
15	10.0< 7.0< 4.0	凝灰岩			

図 57　水上 (4)遺跡 配石遺構

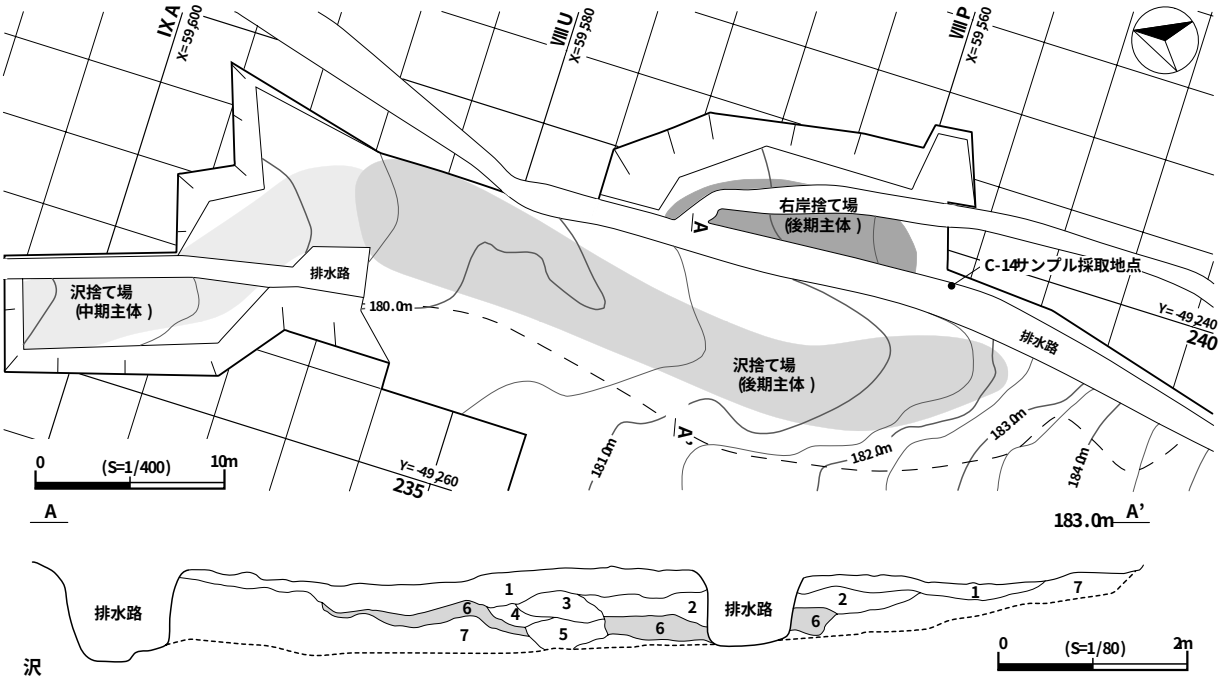
４　遺物捨て場（図 58）

沢部分は確認調査時にも表土下からの遺物が多く出土していた部分であり、後の本調査段階に表土から 2mほど沢を掘り下げたところ遺物の包含層を検出した。また沢の流水を迂回させる必要性から沢の右岸側に排水路を設けたが、この排水路断面においても表土下 1mに遺物の包含層が確認された。よって沢部分については沢捨て場、一段高い右岸側部分については右岸捨て場として調査を行った。

なお、遺構が検出されている沢の左岸側では、捨て場とされるようなまとまった遺物は検出されていない。出土した遺物重量ではあわせて土器 816.4504kg 剥片石器など 142.4507kgほどである。

このうち沢捨て場における遺物の出土範囲は、Ⅷ Nラインの北側に限定され、南側の沢上流からは僅かな出土にとどまる。主として遺物を包含するのは第 6層とした黒褐色土層であり、出土遺物の大半がここから出土している。出土遺物は大きく２つの時期に分けられ、Ⅷ N～ Uグリッドの上流側では後期の土器が、Ⅷ Wグリッドから北側の調査範囲外へ続く下流側では中期の土器がそれぞれ主体を占めており、捨て場としては少なくとも２時期にわたり使用された可能性が高い。

また右岸捨て場は、Ⅷ P～ R-239・240グリッドを中心とした南北約 8m、東西約 5mの規模で、厚さ 1～ 2㎝ほどの黒色土層が広がる範囲に捨て場が形成されている。出土遺物の時期も隣接する沢同様に後期を主体とすることから、沢捨て場に連続するものとみられる。なお右岸捨て場の東側に設定した確認調査トレンチからは、遺物・遺構とも検出されず、この右岸捨て場部分が遺跡の東端であると考えられ、旧県道 28号南側の確認調査用トレンチからも遺構・遺物ともに検出されなかったことから、旧県道下に捨て場の遺物を供給した集落跡が存在する可能性がある。　（神）



沢

第 1層	10BG5/1	青灰色土	暗オリーブ色土少量、礫 (φ 5～ 200mm)・褐色土微量混入
第 2層	10BG5/1	青灰色土	木材片多量、暗オリーブ色土中量、礫 (φ 5～ 300mm)・褐色土少量混入
第 3層	10YR4/6	褐色土	黄褐色砂中量、礫 (φ 5～ 200mm 少量混入
第 4層	10BG5/1	青灰色土	粘土と砂の混合層、礫 (φ 5～ 20mm 微量混入
第 5層	2 5Y4/2	暗灰黄色土	砂層、オリーブ黒色砂中量、褐色土・礫 (φ 5～ 100mm 少量混入
第 6層	10YR3/1	黒褐色土	土器包含層、基本層序III～IV層に対応、木片・果実皮等が中量、礫 (φ 5～ 10mm)・暗灰色土微量混入
第 7層	7 5Y4/2	灰オリーブ色土	無遺物の粘土層、オリーブ褐色土・灰色土中量、礫 (φ 5～ 100mm 微量混入

図 58　土器捨て場

第 2項　出土遺物

1　土器

水上 (4)遺跡で出土した縄文土器は、中期から晩期まで段ボール箱で 42箱分あり、大部分が縄文時代と考えられる沢の右岸捨て場から出土している。

第Ⅰ群から第Ⅱ群の土器は出土していない。

第Ⅲ群　縄文時代中期の土器（図 59、図 60－ 3・8、図 61－ 11・12）

第Ⅲ群では、出土したほとんどが深鉢式土器であり、中葉の円筒上層ｃ式からｅ式を中心に出土している。また、少数であるが、榎林式や最花式などの破片もみられる。図 62－ 11・12は大木 10式と思われる口縁部破片である。

第Ⅳ群　縄文時代後期の土器

1類　後期初頭から前葉の土器 (図 60－ 1・2・4～ 7・9～ 11、図 61－ 2・9、図 62－ 1～ 4)

深鉢土器は、鍵状の沈線文の他に、撚糸文 (単軸絡条体第 1類)や折返し口縁をもつものがみられる。図 62－ 1は結束でない羽状縄文である。いずれも後期前半の十腰内Ⅰ式土器とみられる。

3類 後期後葉の土器（図 60－ 12・13、図 61－ 1・3～ 8・10、図 62－ 5～ 7・9・11～ 13、図 63－ 1・3～ 5）

深鉢類は、薄手で粗製のものが多く、その形状は胴部から口縁部にかけて内湾している。中には図 61－ 1のように 1つだけ突起をもつものもみられる。また、文様帯に刻目帯や刺突帯をもつものは確認できなかったが、無紋や粘土瘤が貼付けられる深鉢も出土している。皿類 (図 63－ 5)は無紋でミガキ調整されているものである。いずれも十腰内Ⅴ式以降の土器と考えられる。

第Ⅴ群　縄文時代晩期の土器

1類 晩期前葉の土器（図 62－ 8・10、図 63－ 2・ 6～ 13）

ａ入組縄文帯と三叉文が主体文様のもの

深鉢類と台付鉢類は入組縄文帯と三叉文が口縁部から胴部にかけて施文され、平行沈線に刺突列 (図 63－ 2・11)を廻らせるものなどもみられる。注口土器 (図 63－ 7)は注口直下に粘土の貼付けがみられる。壺類、皿類は出土していない。大洞Ｂ1式と考えられる。

(中嶋)

2　石器

水上 (4)遺跡で出土した石器は段ボール箱 10箱分である。ほとんどが配石遺構に用いられた礫で、使用や調整の痕跡がみられるものは、剥片石器 13点と礫石器が 8点である。以下器種ごとに述べる。

剥片石器（図 64－ 1～ 9）

石鏃（図 64－ 1）

1点が出土した。有茎のものである。

石匙（図 64－ 2・3）

2点が出土した。いずれも横型で、 2は刃部がやや直線的に、 3は弧状に作られている。

石錐（図 64－ 7）

両面とも全面に剥離を施している。未製品の有茎石鏃の転用と思われる。

石篦（図 64－ 4～ 6）

3点が出土した。 4、 5は長楕円型である。 5はほぼ全面的に、 4、 6は縁辺のみに剥離調整を施し

ている 4は側縁につぶれがみられる。 6は基部を欠損し、全体形は不明である。 3点とも刃部は弧状である。

削・掻器（図 64― 8・9）

出土した 5点中 2点を図示した。 8は三角形の石材の直線的な側縁に両面から剥離調整をしている。 9は掻器としたもので、縁辺のほぼ全周を加工し、下端部で急角度の刃部を形成している。直線的な左側縁を緩い角度で調整しているので、ここを削器として使用した可能性がある。

礫石器（図 64― 10～ 17）

磨製石斧（図 64― 10・11）

縄文時代の沢（遺物捨て場)から 1点が出土している。 10は玢岩製で、基部が欠損しているほか、刃部にも細かな刃こぼれが見られる。研磨が弱く整形時の敲打痕が残り、稜も明瞭ではない。 11は遺構外出土で玢岩製である。基部が欠損しているほか、刃部にも細かな刃こぼれが見られる。こちらは丁寧に研磨され、稜も明瞭である。

敲磨器類（ 63― 12・14・15）

遺構外からⅢ類が 1 点、Ⅴ類が 2点出土した。Ⅲ類の 12は凝灰岩製で、表裏両面にやや深い叩き、上端及び側面部に擦りの痕がある。また、表面中央及び上端部に炭化物と思われるものが付着する。Ⅴ類は 14が凝灰岩製、 15が安山岩製である。 14は表面中央付近に浅い叩きの痕が残る。 15は表裏両面にやや深い叩きの痕が残るほか、炭化物と思われるものが付着している。

石皿（図 64― 13・16・17）

遺構外からの出土で、いずれも側縁は無く中央部に平坦又は浅く凹んだ使用痕が見られる。 16と 17の 2点は大型の石皿である。石材は凝灰岩 2点（13・16)、デイサイト 1点（17)である。

（佐藤・菅原）

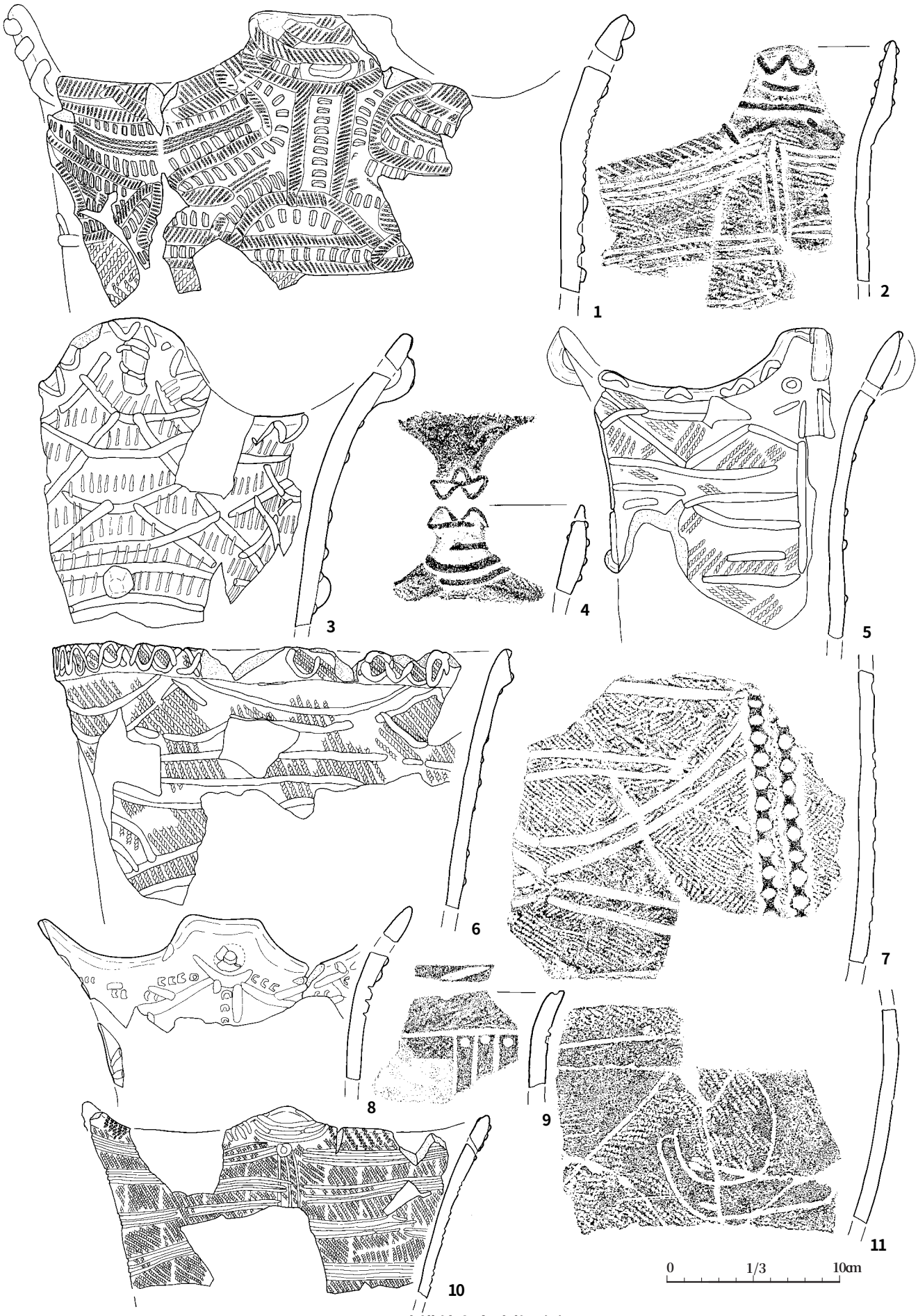


図 59　遺構外出土遺物（1）

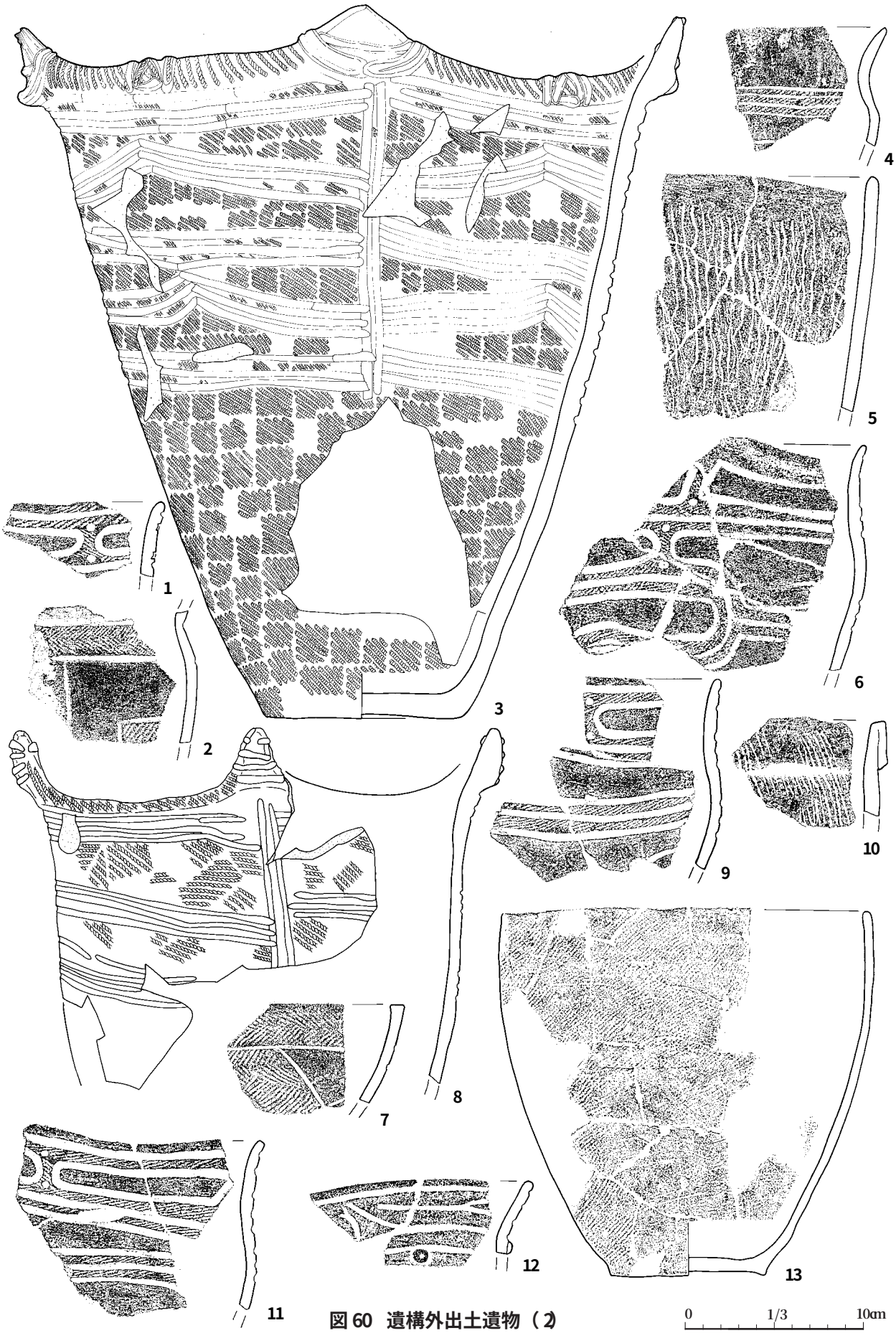


図 60　遺構外出土遺物（２）

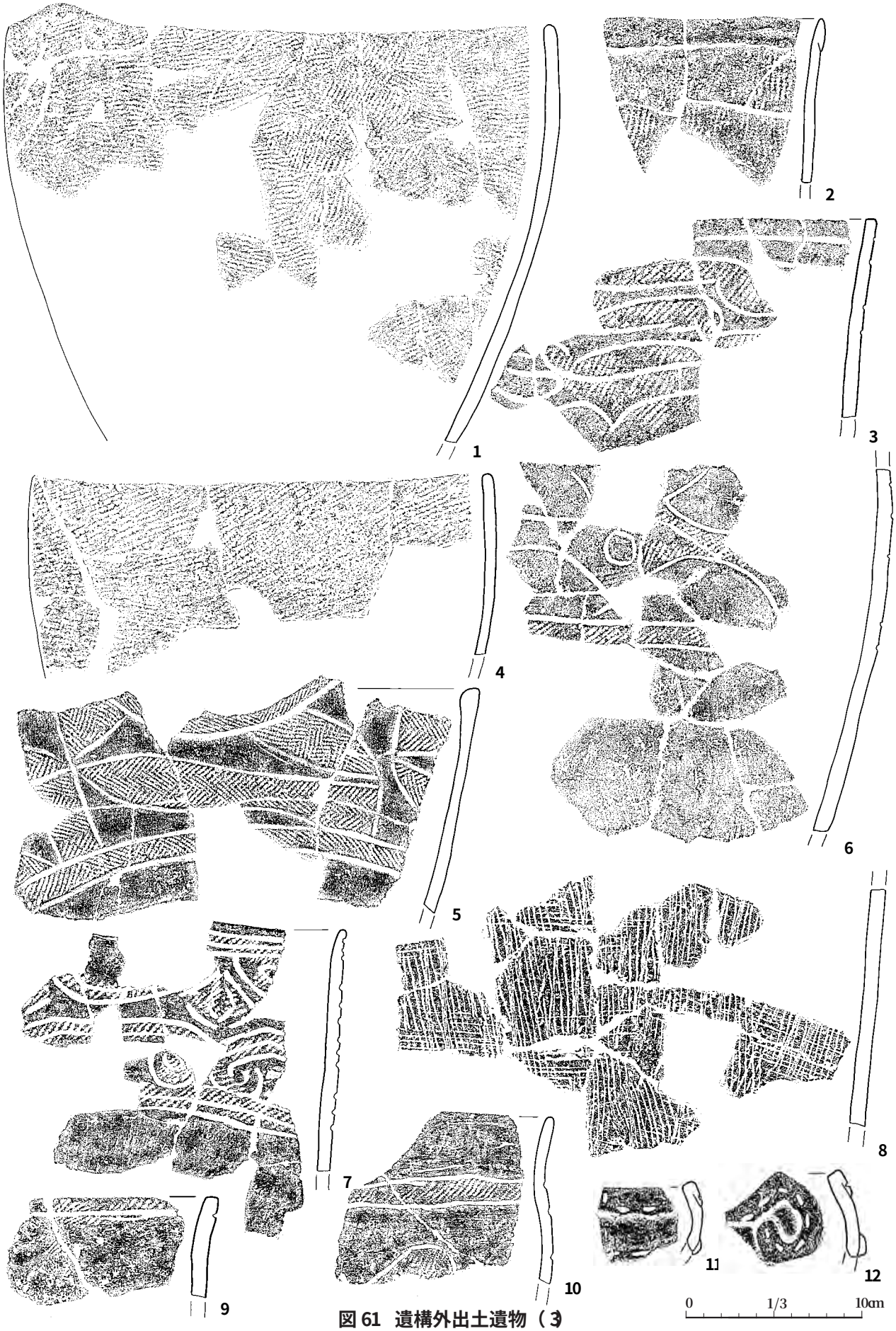


図 61　遺構外出土遺物（3）

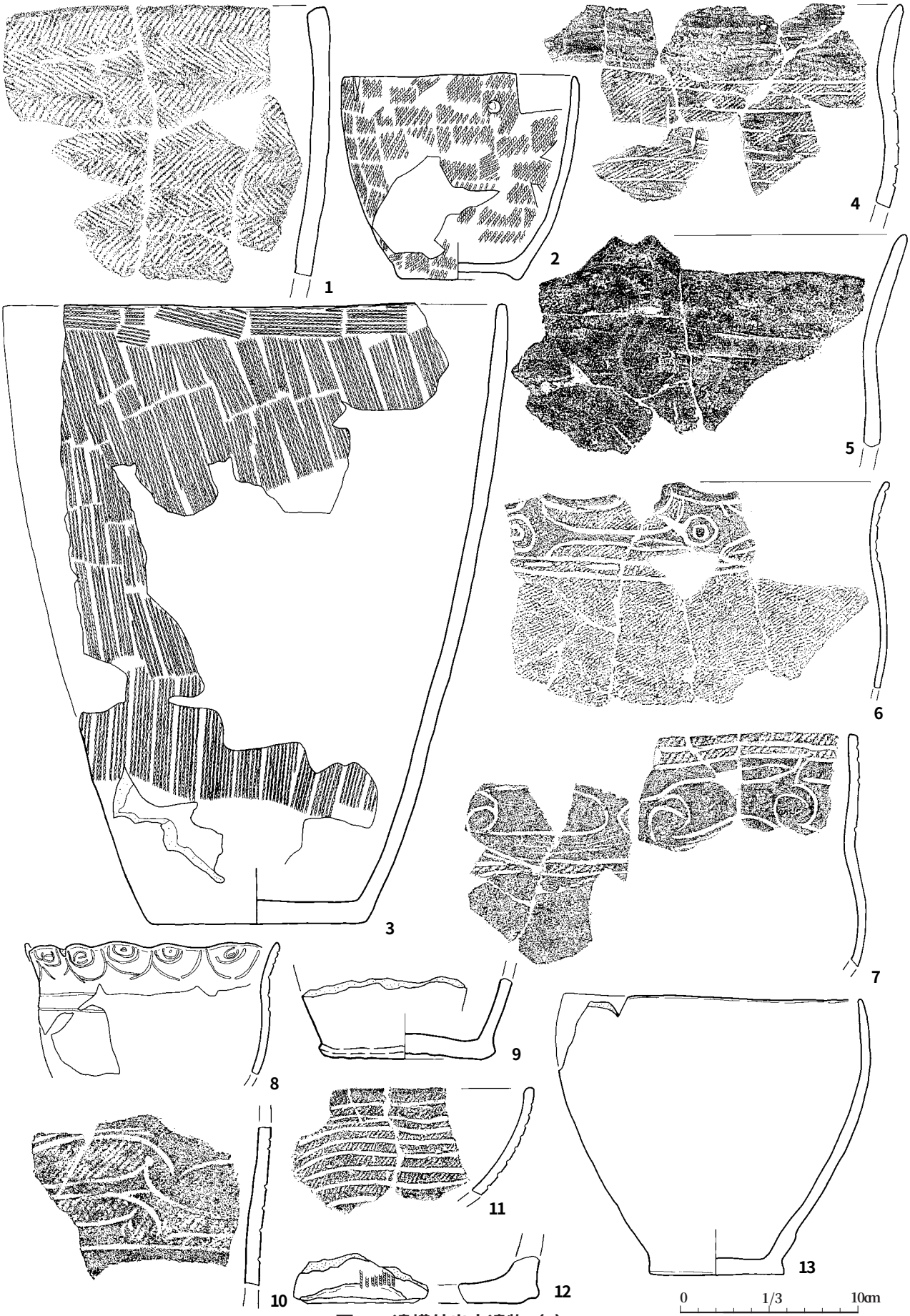


図 62　遺構外出土遺物（④

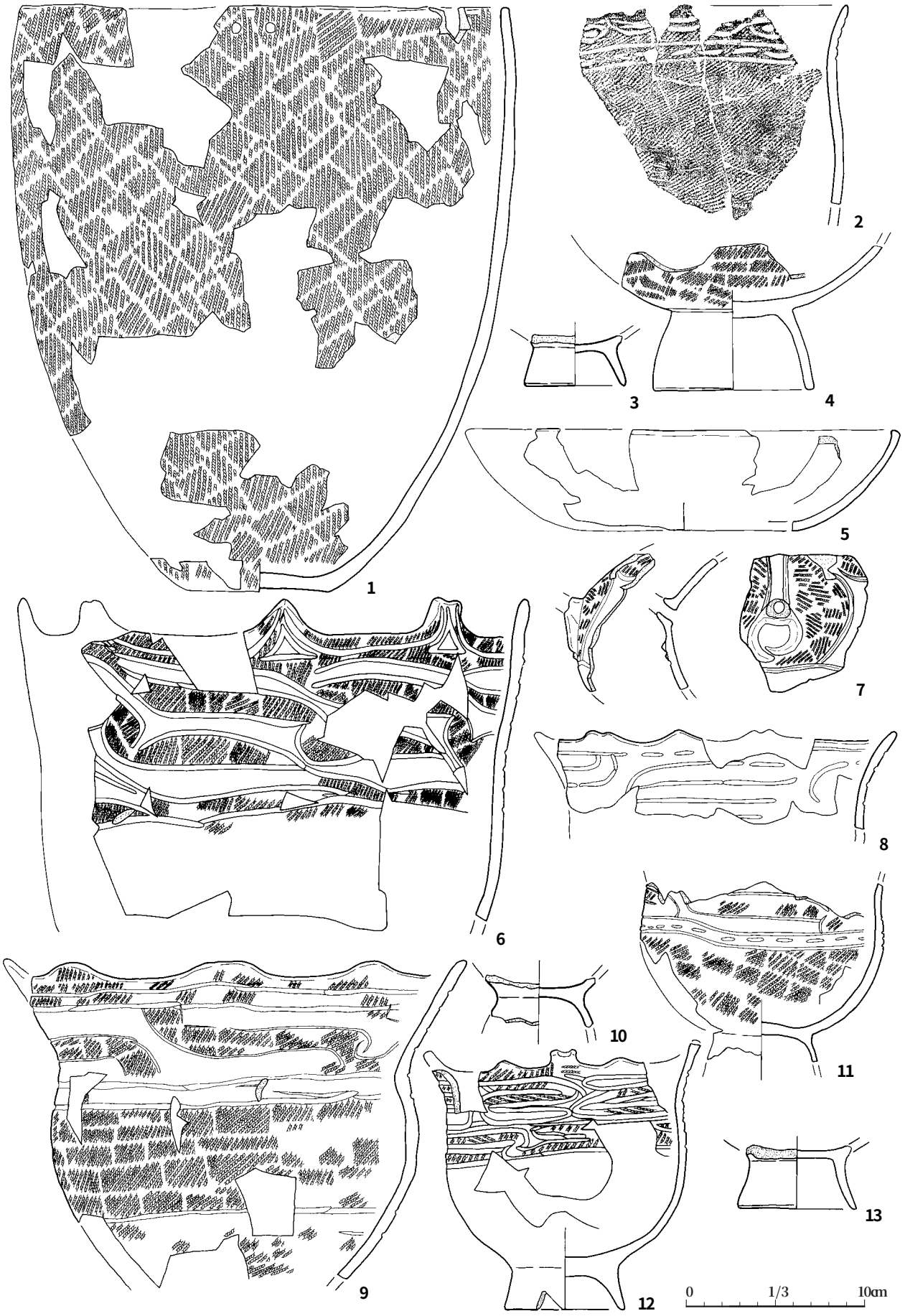


図 63　遺構外出土遺物（5）

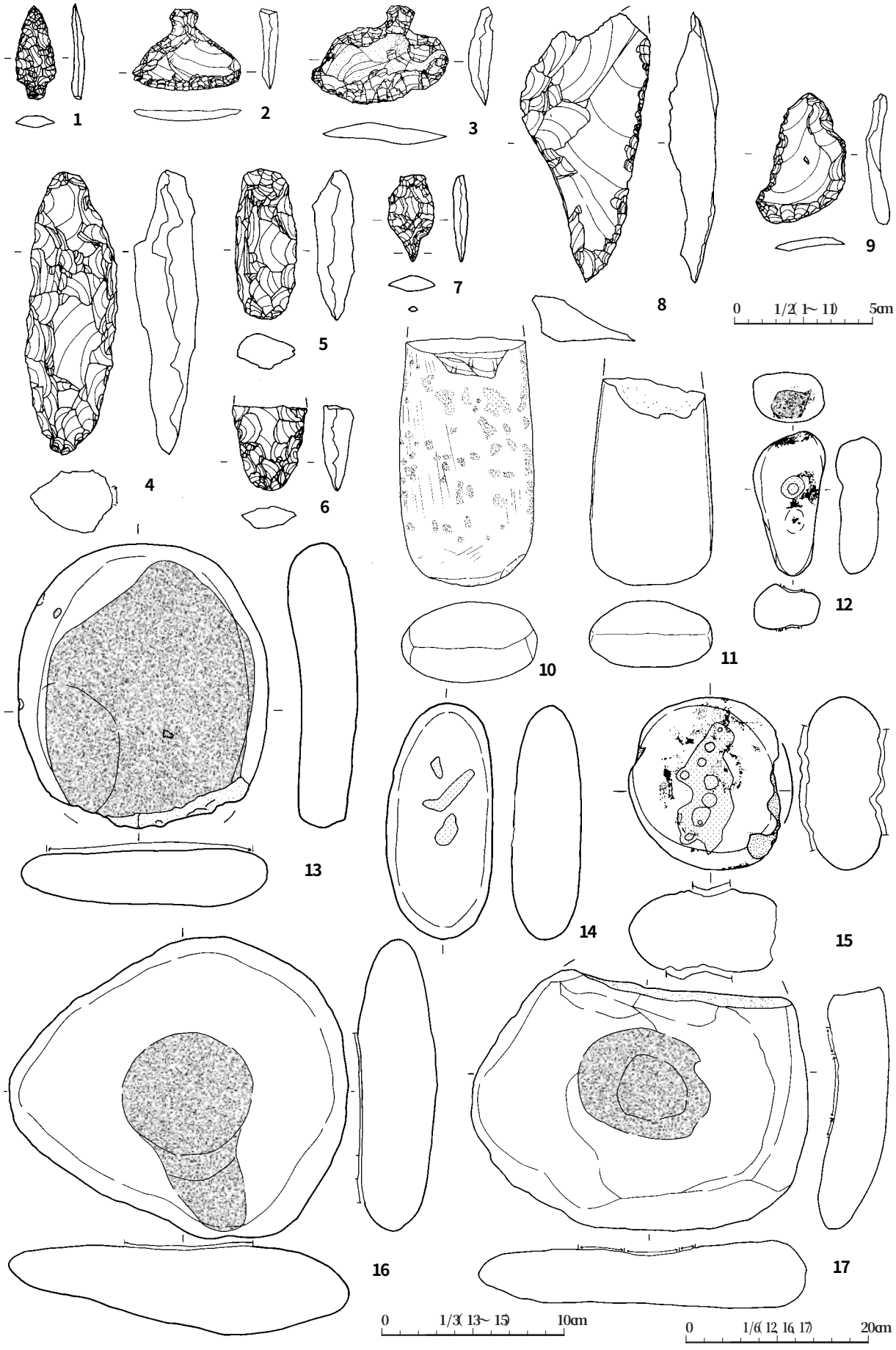


図 64　遺構外出土遺物（⑥

第 6章　理化学的分析

第 1節　放射性炭素年代測定結果報告書（AMS測定）（抄）

（株）加速器分析研究所

第１項　砂子瀬遺跡

（１）遺跡の位置

砂子瀬遺跡は、青森県西目屋村砂子瀬字宮元に所在する。

（２）測定の意義

遺跡内で検出された複数の埋設土器の年代を明らかにする。

（３）測定対象試料

測定対象試料は、MP-10（C区）(図 36参照)覆土から出土した木炭（SUNAKOSE01：IAAA-71791）、II J-86（D区）(図 10参照)III層上面から出土した木炭（SUNAKOSE02：IAAA-71792）、合計 2点である。

（４）化学処理工程

１．メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。

２．酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA：Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1Nの塩酸（ 80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 0.001～ 1Nの水酸化ナトリウム水溶液（ 80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が 1N未満の場合、表中に AaAと記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1Nの塩酸（ 80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、 90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。

３．試料を酸化銅 1gと共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、 500℃で 30分、 850℃で 2時間加熱する。

４．液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO_2）を精製する。

５．精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。

６．グラファイトを内径 1mmのカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

（５）測定方法

測定機器は、加速器をベースとした 14C-AMS専用装置を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxII）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

（６）算出方法

１．年代値の算出には、Libbyの半減期（ 5568年）を使用する（ Stuiver and Polash 1977）。

２．^{14}C年代（ Libby Age：yrBP）は、過去の大気中 ^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、 1950年を基準年（ 0yrBP）として遡る年代である。この値は、δ ^{13}Cによって補正された値である。^{14}C年代と誤差は、 1桁目を四捨五入して 10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（± 1σ）は、試料の ^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。

３．δ ^{13}Cは、試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰）で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により $^{13}C/^{12}C$を測定した場合には表中に（AMS）と注記する。

４．pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C濃度の割合である。

５．暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、 1標準偏差（ 1σ＝ 68.2%）あるいは 2標準偏差（ 2σ＝ 95.4%）で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04データベース（Reimer et al 2004）を用い、OxCalv4.0較正プログラム（Bronk Ramsey 1995　Bronk Ramsey 2001　Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001）を使用した。

（７）測定結果

MP-10（C区）から出土した木炭（SUNAKOSE01：IAAA-71791）の ^{14}C年代が 3790± 30yrBP、II J-86（D区）から出土した木炭（SUNAKOSE02：IAAA-71792）の ^{14}C年代が 4270± 40yrBPである。暦年較正年代（ 1σ＝ 68.2%）は、SUNAKOSE01が 2290～ 2190BC(58.2%)・2170～ 2140BC(10.0%)、SUNAKOSE02が 2920～ 2875BCである。化学処理および測定内容に問題はなく、炭素含有率も十分であることから、妥当な年代と考えられる。

第 2項　水上 (4)遺跡１

（１）遺跡の位置

水上 (4)遺跡は、青森県西目屋村砂子瀬字水上に所在する。

（２）測定の意義

沢の形成された時期と出土土器の年代を明らかにする。

（３）測定対象試料

測定対象試料は、沢 (Ⅷ S-227)のⅢ層 (図 58参照)から出土した木片 (MIZUKAMI(4)01：IAAA-71793)である。

（４）～（６）は第１節と同様のため省略する。

（７）測定結果

沢 (Ⅷ S-227) から出土した木片 (MIZUKAMI(4)01：IAAA-71793) の ^{14}C年代は 1410± 30yrBPである。暦年較正年代 (1σ＝ 68.2%) は、615～ 660ADである。化学処理及び測定内容に問題はなく、炭素含有率も十分であることから、妥当な年代と考えられる。

第３項　水上 (4)遺跡２

（１）測定対象試料

水上 (4)遺跡は、青森県中津軽郡西目屋村大字砂子瀬字水上地内に所在する。測定対象試料は、沢 (Ⅲ層) から出土した土器内面付着炭化物 (MIZU(4)-1：IAAA-80648：図 62-2)、捨て場 (Ⅲ層) から出土した土器内面付着炭化物 (MIZU(4)-2：IAAA-80649：図 63-11)、合計 2点である。

（２）測定の意義

遺物包含層の年代を明らかにしたい。

（３）～（５）は第１節と同様のため省略する。

（６）測定結果

^{14}C年代は、沢 (Ⅲ層) から出土した土器付着炭化物 (MIZU(4)-1：IAAA-80648) が 3040± 30yrBP、捨て場 (Ⅲ層) から出土した土器付着炭化物 (MIZU(4)-2：IAAA-80649) が 2950± 30yrBPである。資料の炭素含有率は、共に 60%程であり、十分な値である。付着炭化物は、土器の内面から得られたが、δ 13Cが共に -20～ -15 ‰であることから、通常の陸生由来試料であり、海洋リザーバー効果を考慮する必要は無い。処理および測定内容にも問題は無く、妥当な年代と考えられる。

参考文献

Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, *Radiocarbon* 19, 355-363

Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), 425-430

Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43(2A), 355-363

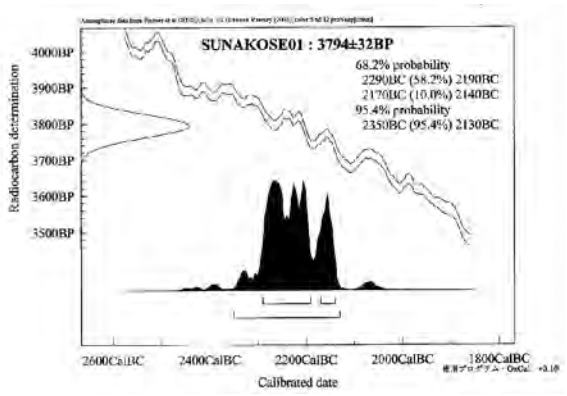
Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389

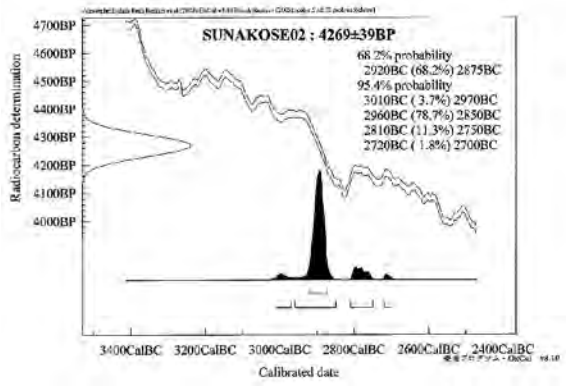
Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058

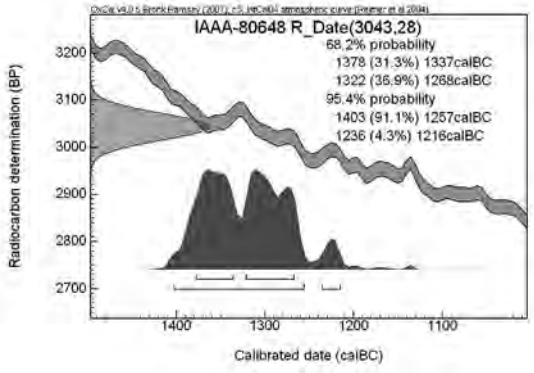
IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比			
IAAA-71791	試料採取場所：青森県西目屋村砂子瀬字宮元 砂子瀬遺跡跡　第10号土器埋設遺構	Libby Age (yrBP)	：	3,790	± 30
		δ ^{13}C (‰)、加速	＝	-24.46	± 0.59
砂子瀬	試料形態　：　木炭	Δ ^{14}C (‰)	＝	-376.4	± 2.5
C区	試料名 (番号)：SUNAKOSE01	pMC (%)	＝	62.36	± 0.25
	(参考)　δ ^{13}Cの補正無し	δ ^{14}C (‰)	＝	-375.7	± 2.4
		pMC (%)	＝	62.43	± 0.24
#2003-1		Age (yrBP)	：	3,790	± 30
IAAA-71792	試料採取場所：青森県西目屋村砂子瀬字宮元 砂子瀬遺跡　D区基本層序第Ⅲ層	Libby Age (yrBP)	：	4,270	± 40
		δ ^{13}C (‰)、加速	＝	-26.28	± 0.55
砂子瀬	試料形態　：　木炭	Δ ^{14}C (‰)	＝	-412.3	± 2.9
D区	試料名 (番号)：SUNAKOSE02	pMC (%)	＝	58.77	± 0.29
	(参考)　δ ^{13}Cの補正無し	δ ^{14}C (‰)	＝	-413.8	± 2.8
		pMC (%)	＝	58.62	± 0.28
#2003-2		Age (yrBP)	：	4,290	± 40
IAAA-71793	試料採取場所：青森県西目屋村砂子瀬字宮元 水上 (4)遺跡	Libby Age (yrBP)	：	1,410	± 30
		δ ^{13}C (‰)、加速	＝	-26.62	± 0.73
	試料形態　：　木片	Δ ^{14}C (‰)	＝	-160.8	± 3.4
水上 (4)	試料名 (番号)：MIZUKAMI(4)01	pMC (%)	＝	83.92	± 0.34
	(参考)　δ ^{13}Cの補正無し	δ ^{14}C (‰)	＝	-163.6	± 3.1
		pMC (%)	＝	83.64	± 0.31
#2004		Age (yrBP)	：	1,430	± 30
IAAA-80648	試料採取場所：青森県西目屋村砂子瀬字宮元 水上 (4)遺跡　沢 (Ⅲ層)	Libby Age (yrBP)	：	3,040	± 30
		δ ^{13}C (‰)、(加速	＝	-24.4	± 0.46
	試料形態　：炭化物 (土器付着物 図 62-2)	Δ ^{14}C (‰)			
水上(4)	試料名(番号)：MIZU(4)-1	pMC(%)	＝	68.46	± 0.24
	(参考)　δ ^{13}Cの補正無し	δ ^{14}C (‰)			
		pMC(%)	＝	68.6	± 0.24
#2328		Age(yrBP)	：	3,030	± 30

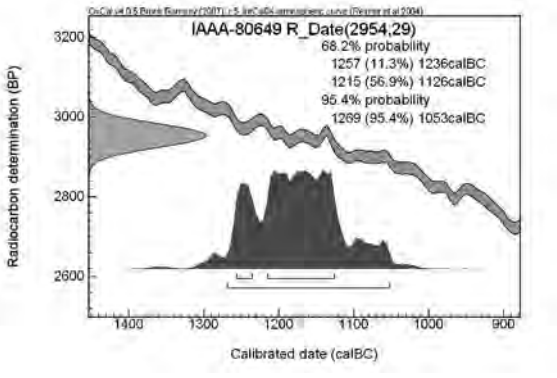
IAA Code No.	試　　料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-80649 水上(4) # 2328	試料採取場所：青森県西目屋村砂子瀬字宮元 水上 (4)遺跡　捨て場（III層） 試料形態　　：炭化物（土器付着物 図 63-11） 試料名(番号)：MIZU(4)-2 （参考）　　δ 13Cの補正無し	Libby Age(yrBP) : 2,950 ± 30 δ 13C (‰)、(加速 = -20.8 ± 0.4 Δ 14C (‰) pMC(%) = 69.23 ± 0.26 δ 14C (‰) pMC(%) = 69.8 ± 0.25 Age(yrBP) : 2,890 ± 30

試料番号	IAA Code No.	前処理方法	試料状態	処理前試料量	回収炭素量	燃焼量	精製炭素量	δ13C(‰)〔加速器〕	Libby Age (yrBP)	(yrBP・丸め込みなし)	暦年較正1σ (yrcalBP)	暦年較正2σ (yrcalBP)
SUNAKOSE01	IAAA-71791	AAA	乾燥	42.90mg	19.94mg	4.47mg	2.98mg	-24.46±0.59	3790±30	3794±32	2290-2190BC(58.2%) 2170-2140BC(10.0%)	2350-2130BC(95.4%)
SUNAKOSE02	IAAA-71792	AAA	乾燥	37.86mg	15.84mg	4.53mg	3.01mg	-26.28±0.55	4270±40	4269±39	2920-2875BC(68.2%)	3010-2970BC(3.7%) 2960-2850BC(78.7%) 2810-2750BC(11.3%) 2720-2700BC(1.8%)
MIZUKAMI(4)01	IAAA-71793	AAA	乾燥	330.50mg	24.46mg	5.39mg	3.15mg	-26.62±0.73	1410±30	1407±32	615AD-660AD(68.2%)	585-670AD(95.4%)
MIZU(4)-1	IAAA-80648	AaA	乾燥	21.26	13.29	3.02	1.85	-24.4±0.46	3040±30	3043±28	1378BC-1337BC(31.3%) 1322BC-1268BC(36.9%)	1403BC-1257BC(91.1%) 1236BC-1216BC(4.3%)
MIZU(4)-2	IAAA-80649	AaA	乾燥	20.81	9.69	3.08	1.87	-20.8±0.40	2950±30	2954±29	1257BC-1236BC(11.3%) 1215BC-1126BC(56.9%)	1269BC-1053BC(95.4%)









第 7章　まとめ

1　遺跡の立地

砂子瀬遺跡は、岩木川と湯ノ沢川に挟まれた河岸段丘上に位置し、標高はおよそ 190～ 200mである。調査区は、旧砂子瀬集落の跡地であったため、大部分が造成による影響を受けているが、縁辺部の一部に遺構が残存している。水上 (3)遺跡・水上 (4)遺跡も岩木川右岸の河岸段丘上に位置し、標高は 170～ 180m前後である。調査区は津軽ダムが建設される以前の集落跡で、平坦部を中心に田畑が広がっていた記録はあるものの、現況は萱原に雑木が茂り、僅かに旧道が確認でき、ダム湖 (美山湖)の増水期には大部分が水没している。

2　検出遺構

調査した遺構は、砂子瀬遺跡では、竪穴住居跡１軒、土坑 30基（D区の３基を含む ）、土器埋設遺構 14基、配石遺構５基、屋外配石炉１基である。水上 (3)遺跡では、土坑１基とピット４基で、水上 (4)遺跡では土坑７基、ピット４基、配石遺構１基、遺物捨て場１カ所で、いずれも縄文時代と考えられる。

3　出土遺物

出土した遺物は、砂子瀬遺跡が段ボール箱で 73箱分、水上 (3)遺跡が段ボール箱で 9箱分、水上 (4)遺跡が段ボール箱で 53箱分である。時期は縄文時代中期から晩期にかけての遺物である。

4　まとめ

調査の結果、砂子瀬遺跡のＣ区は、礫層を掘り込んで縄文時代後期前半の遺構が構築されているが、遺物は縄文時代中期から晩期までと幅広く出土し、周辺に当該時期の後期前半以外の遺構が存在すると思われる。

配石遺構の中で扁平な川原石を箱状に組み合わせているものが 2基確認されており、周辺からは土器棺と思われる土器破片も出土していることから石棺墓の可能性が考えられる。土器埋設遺構は調査区内に点在し、第 10号土器埋設遺構の年代測定から BC2,200という縄文時代後期の値で土器形式からも妥当と考えられる。

屋外配石炉は、環状列石で国史跡に指定されている青森市小牧野遺跡の石組と同じく規則的に縦横に配置されており、このような屋外配石炉は、県内では小牧野遺跡に次いで 2例目である。

Ｄ区もＣ区と同様に、旧砂子瀬集落跡によって大部分が削平されており、一部残存している部分から縄文時代中期後半と思われる土坑が検出されている。Ｄ区の遺構確認面は礫層ではなく、縄文時代中期 (第６章：放射性年代測定の項参照)に河川の氾濫によって礫層上に堆積した粘土質土層である。

水上 (3)遺跡は、工事計画の変更やダム湖の水位が上昇し調査区の一部が水没したことなどにより、当初予定していた範囲確認の調査は途中で見送られ、木戸ヶ沢に面した東端部分と工事用道路部分の発掘調査が行われた。調査では縄文時代後期後半の注口土器破片が多量に出土しており意図

的な廃棄だとすれば注目される。今後の調査が必要な面積は、約 27,000㎡である。

水上 (4)遺跡では、工事用道路部分の発掘調査を行った。平坦部に土坑などが検出されたものの竪穴住居跡は確認されていない。しかし、調査した沢からは、縄文時代中期中葉と後期後葉の土器が多量に出土しており、周辺に当該時期の集落が存在する可能性を示唆している。また、調査では縄文時代の遺物捨て場が、北側に広がっていることが分かり、今後調査が必要な面積は約 3,000㎡と推定される。

今後も津軽ダムの完成まで発掘調査が続けられ、調査対象遺跡も広範囲になることから、海岸線から遠く離れ標高 200m以上の山奥に生活を求めた縄文時代の人々の生活がより明らかになっていくと考えられる。今後の調査に期待したい。

最後に調査に協力していただきました多くの方々に心から感謝申し上げます。

（調査担当者）

《引用・参考文献》

青森県教育委員会　1992『富ノ沢 (2)Ⅴ遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 143集
青森県教育委員会　1993『富ノ沢 (2)遺跡Ⅵ富ノ沢 (3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 147集
青森県教育委員会　1998『青森県遺跡地図』
青森県教育委員会　2006『川原平 (1)･(4)遺跡　大川添 (1)･(2)遺跡　水上遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 409集
青森県教育委員会　2008『水上遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 452集
東北地方整備局津軽ダム工事事務所　2005『津軽ダム西目屋地域生活文化調査報告書』
北海道文化財研究所　1987『ヘロカルウス遺跡』北海道文化財研究所報告書第 3集
北海道泊村教育委員会　1997『ヘロカルウス遺跡Ｅ～Ｇ地点』埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
西目屋村役場　1991 村制施行百周年記念『西目屋村誌』
安孫子　昭　二　1994「瘤付土器」『縄文文化の研究４』雄山閣出版株式会社
葛　西　　勵　2002『再葬土器棺墓の研究』－縄文時代の洗骨葬－ 再葬土器棺墓の研究刊行会
葛　西　　勵　2006『続 ･再葬土器棺墓の研究』－切断壷形土器と子供の再葬を考える－ 再葬土器棺墓の研究刊行会
小　林　圭　一　2003「東北北半における縄文晩期前葉の注口土器」『研究紀要創刊号』(財)山形県埋蔵文化財センター
鈴　木　克　彦　2001『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣出版株式会社
鈴　木　克　彦　1994「亀ヶ岡式土器」『縄文文化の研究４』雄山閣出版株式会社
村　越　　潔　1984『円筒土器文化』 雄山閣出版株式会社

土器　観察表

06　水上 (2)遺跡（美山湖右岸上流遺跡）

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 5-1	トレンチ① -01　II層	深鉢	口縁部	口唇部－ I側圧　口縁部－ LI側圧　胴部－ LI縄文	ミガキ	II	
図 5-2	トレンチ⑧ -03　II層	深鉢	口縁部	口縁部－ LI側圧　胴部－ RI縄文	ミガキ	II	
図 5-3	トレンチ① -01　II層	深鉢	口縁部	口唇部－ I側圧　LI縄文	ミガキ	III	
図 5-4	トレンチ⑩ -02　II層	深鉢	口縁部	貼付　RI側圧　RI縄文	ミガキ	III	
図 5-5	トレンチ② -02　II層	深鉢	口縁部	刺突　沈線　RI縄文	ミガキ	III	
図 5-6	トレンチ② -01　II層	深鉢	口縁部	折り返し口縁　ボタン状突起　RI縄文	ミガキ	III	
図 5-7	トレンチ① -01　II層	深鉢	胴部	円形隆帯　沈線	ミガキ	III	
図 5-8	トレンチ⑨ -01　II層	深鉢	口縁部	貼付　RI側圧？　RI縄文	ミガキ	III	
図 5-9	トレンチ⑧ -02　II層	深鉢	口縁部	貼付－縄文端部刺突　RI縄文	ミガキ	III	
図 5-10	トレンチ① -01　II層	深鉢	口縁部	貼付 (上層 d)　RI縄文	ミガキ	III	
図 5-11	トレンチ② -01　II層	深鉢	口縁部	沈線　RI縄文 (最花)	ミガキ	III	
図 5-12	トレンチ② -01　II層	深鉢	口縁部	沈線　RI縄文 (最花)	ミガキ	III	
図 5-13	トレンチ① -01　II層	深鉢	口縁部	沈線　貼付　RI縄文	ミガキ	III	
図 5-14	トレンチ① -01　II層	深鉢	口縁部	沈線　LI縄文	ミガキ	III	
図 5-15	トレンチ③ -02　II層	深鉢	口縁部	貼付 (鋸歯状)　RI縄文 (上層 d)	ミガキ	III	
図 5-16	トレンチ① -01　II層	深鉢	口縁部	折り返し口縁　沈線　RI縄文	ミガキ	III	
図 5-17	トレンチ① -02　II層	深鉢	口縁部	LRI縄文	ミガキ	III	
図 5-18	トレンチ① -01　II層	深鉢	口縁部	無文帯	ミガキ	III	
図 5-19	トレンチ② -01　II層	深鉢	口縁部	竹管刺突　沈線　RI縄文	ミガキ	III	
図 5-20	トレンチ① -02　II層	深鉢	胴部	刺突　沈線　LI縄文	ミガキ	III	
図 5-21	トレンチ⑧ -01　II層	深鉢	胴部	竹管刺突　沈線	ミガキ	III	外面スス状炭化物付着
図 5-22	トレンチ① -01　II層	深鉢	胴部	刺突　貼付　RI縄文	ミガキ	III	
図 5-23	トレンチ② -01　II層	深鉢	口縁部	刺突　貼付　I側圧　(上層 c)	ミガキ	III	
図 5-24	トレンチ② -02　II層	深鉢	胴部	沈線　LI縄文	ミガキ	III	
図 5-25	トレンチ② -01　II層	深鉢	口縁部	貼付 (上層 d)　RI縄文	ミガキ	III	
図 5-26	トレンチ② -01　II層	深鉢	胴部	紐を通す耳付土器？	ミガキ	IV	
図 5-27	トレンチ① -01　II層	深鉢	口縁部	沈線	ミガキ	IV	赤色顔料付着
図 5-28	トレンチ② -01　II層	壷？	胴部	沈線　RI縄文	ミガキ	IV	
図 5-29	トレンチ① -01　II層	深鉢	胴部	条線文	ミガキ	IV	
図 5-30	トレンチ① -01　II層	深鉢	胴部	I単軸絡条体第１類	ミガキ	IV	
図 5-31	トレンチ① -01　II層	深鉢	口縁部	LI縄文	ミガキ	V	外面スス状炭化物付着
図 5-32	トレンチ② -03　II層	深鉢	口縁部～胴部	貼付 (鋸歯状・胸骨文) RI縄文	ミガキ	III	

06　水上 (3)遺跡（美山湖右岸下流遺跡）

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 6-1	トレンチ⑦ -04　I層	深鉢	胴部	口縁部－円形粘土貼付	ミガキ	IV	
図 6-2	トレンチ⑦ -04　I層	深鉢	胴部	口縁部－ RI縄文	ミガキ	IV	
図 6-3	トレンチ⑫ -03　I層	深鉢	胴部	胴部－条痕 (条線)縦	ミガキ	IV	
図 6-4	トレンチ⑫ -03　I層	深鉢	胴部	口縁部－沈線 4条　胴部－沈線？	ミガキ	V	

06　砂子瀬村元遺跡

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 6-5	トレンチ A　II層	深鉢	口縁部	RI縄文？　貼付 (上層 b)　折返し口縁	ミガキ	III	
図 6-6	トレンチ A　II層	深鉢	口縁部	折返し口縁	ミガキ	III	
図 6-7	トレンチ A　II層	深鉢	胴部	LI縄文　沈線	ミガキ	III	
図 6-8	トレンチ A　II層	深鉢	胴部	RI縄文　沈線	ミガキ	III	
図 6-9	トレンチ A　II層	深鉢	口縁部	LI縄文	ミガキ	III	
図 6-10	トレンチ B　II層	深鉢	胴部	LI縄文	ミガキ	IV	内面スス状炭化物付着
図 6-11	トレンチ A　II層	深鉢	口縁部	縄文？　沈線	ミガキ	IV	磨滅
図 6-12	トレンチ D　II層	深鉢	胴部	沈線	ミガキ	IV	

06　砂子瀬遺跡

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 6-13	トレンチ⑩ -01　I層	深鉢	胴部	LI縄文？　沈線	ミガキ	IV	
図 6-14	トレンチ⑦ -01　II層	深鉢	胴部	沈線	ミガキ	IV	
図 6-15	トレンチ⑤ -01　I層	深鉢	口縁部	RI縄文　沈線	ミガキ	IV	
図 6-16	トレンチ⑭ -04　I層	深鉢	胴部	沈線　I単軸絡条体第 類	ミガキ	IV	
図 6-17	トレンチ⑬ -02　I層	深鉢	口縁部	LI縄文	ミガキ	IV	
図 6-18	トレンチ⑧ -01　I層	鉢？	口縁部	LI縄文　沈線	ミガキ	IV	
図 6-19	トレンチ⑫ -03　I層	深鉢	胴部	沈線　条痕	ミガキ	IV	
図 6-20	トレンチ⑤ -01　I層	壷？	口縁部	沈線	ミガキ	IV	
図 6-21	トレンチ⑦ -01　II層	深鉢	胴部	沈線	ミガキ	IV	
図 6-22	トレンチ⑦ -01　II層	深鉢	胴部	沈線 (網目状)	ミガキ	IV	
図 6-23	トレンチ⑦ -01　I層	深鉢	胴部	沈線 (網目状)	ミガキ	IV	
図 6-24	トレンチ⑦ -01　II層	深鉢	胴部	沈線 (網目状)	ミガキ	IV	
図 6-25	トレンチ⑦ -01　I層	深鉢	底部	沈線 (小型土器)	ミガキ	IV	
図 6-26	トレンチ⑫ -03　I層	深鉢	胴部	LI縄文　沈線	ミガキ	IV	
図 6-27	トレンチ⑩ -01　I層	深鉢	底部	無文	ミガキ	IV	
図 6-28	トレンチ⑤ -01　I層	深鉢	胴部	沈線　刺突　貼付	ミガキ	IV	
図 6-29	トレンチ⑤ -01　I層	深鉢	胴部	沈線　刺突　貼付	ミガキ	IV	
図 6-30	トレンチ⑩ -01　I層	深鉢	胴部	沈線	ミガキ	IV	
図 6-31	トレンチ⑦ -01　II層	壷？	胴部	沈線	ミガキ	IV	
図 6-32	トレンチ⑦ -01　II層	深鉢	胴部	I単軸絡条体第 類	ミガキ	IV	
図 6-33	トレンチ⑦ -01　II層	深鉢	胴部	沈線	ミガキ	IV	
図 6-34	トレンチ⑩ -01　I層	深鉢	胴部	LI縄文　沈線	ミガキ	IV	
図 6-35	トレンチ⑩ -01　I層	壷	胴部	沈線	ミガキ	IV	
図 6-36	トレンチ⑭ -01　I層	壷	胴部	LI縄文　沈線	ミガキ	IV	磨滅
図 6-37	トレンチ⑬ -02　I層	壷？	胴部	LI縄文　沈線	ミガキ	IV	内面スス状炭化物付着
図 6-38	トレンチ⑪ -02　I層	壷	胴部	無文	ミガキ	IV	
図 6-39	トレンチ⑦ -01　II層	壷	胴部	沈線	ミガキ	IV	
図 6-40	トレンチ④ -01　I層	深鉢	口縁部	LI縄文　沈線	ミガキ	Ⅴ-1	大洞 BC

07　砂子瀬遺跡　竪穴住居跡

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 12-1	SI-2　覆土	深鉢	口縁部	I単軸絡条体第 類	ミガキ	IV	
図 12-2	SI-2　覆土	浅鉢	口縁部～胴部	I単軸絡条体第 類　沈線	ミガキ	IV	
図 12-3-1	SI-2　覆土	深鉢	口縁部	I単軸絡条体第 類　沈線　刺突	ミガキ	IV	
図 12-3-2	SI-2　覆土	深鉢	胴部	I単軸絡条体第 類　沈線	ミガキ	IV	
図 12-4	SI-2　覆土	小型土器	底部	沈線	ミガキ	IV	P-50
図 12-5	SI-2　覆土	深鉢	底部		ミガキ	IV	
図 12-6	SI-2　覆土	浅鉢	口縁部～胴部	沈線	ミガキ	IV	
図 12-7	SI-2　覆土	壷	口縁部～胴部	橋状把手　沈線	ミガキ	IV	
図 12-8	SI-2　覆土	浅鉢？	口縁部～胴部	沈線　LI縄文	ミガキ	IV	
図 12-9	SI-2　覆土	深鉢	口縁部	I単軸絡条体第 類　沈線	ミガキ	IV	P-25～ 27

07･ 08　砂子瀬遺跡　C区土坑

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 18-1	SK-5　覆土	深鉢	胴部	I単軸絡条体第 類	ミガキ	IV	
図 18-2	SK-6　覆土	深鉢	口縁部	沈線　LI縄文	ミガキ	IV	
図 18-3	SK-6　覆土	深鉢	口縁部	沈線　LI縄文	ミガキ	IV	
図 18-4	SK-6　覆土	深鉢	胴部	沈線　LI縄文	ミガキ	IV	
図 18-5	SK-6　覆土	深鉢	胴部	沈線　LI縄文	ミガキ	IV	

図 18-6	SK-6　覆土	深鉢	胴部	沈線　LR縄文	ミガキ	IV	
図 18-12	SK-8　1層	深鉢	口縁部	沈線　折返し口縁	ミガキ	IV	P-18
図 18-13	SK-8　覆土	深鉢	口縁部	沈線　R単軸絡条体第 1類	ミガキ	IV	
図 18-14	SK-8　1層・覆土	深鉢	胴部	沈線　R単軸絡条体第 1類	ミガキ	IV	
図 18-15	SK-8　覆土	深鉢	胴部	沈線（摩滅）　L単軸絡条体第 1類	ミガキ	IV	
図 18-16	SK-8　1層	深鉢	胴部	沈線	ミガキ	IV	
図 18-17	SK-8　覆土	小型土器	底部		ミガキ	IV	
図 18-19	SK-12　覆土	深鉢	口縁部～胴部	沈線　RL縄文（縦）	ミガキ	IV	
図 18-20	SK-9　覆土	深鉢	胴部	LR縄文	ミガキ	III	
図 18-22	SK-12　覆土	浅鉢？	口縁部	沈線　RL縄文（横）	ミガキ	IV	
図 18-23	SK-12　覆土	深鉢	口縁部	沈線　RL縄文	ミガキ	IV	
図 18-24	SK-12　覆土	深鉢	胴部	沈線　RL縄文	ミガキ	IV	
図 18-25	SK-12　確認面	深鉢	底部		ミガキ	IV	
図 19-1	SK-14　確認面	深鉢	口縁部～胴部	沈線　波状口縁	ミガキ	IV	
図 19-2	SK-14　確認面	深鉢	口縁部～底部	沈線	ミガキ	IV	
図 19-3	SK-14　覆土	深鉢	底部		ミガキ	IV	P-30・P-31
図 19-4	SK-15　2層	浅鉢？	口縁部	沈線	ミガキ	IV	
図 19-5	SK-15　2層上面	壷？	胴部	沈線	ミガキ	IV	
図 19-6	SK-18　覆土	深鉢	口縁部	鋸歯状貼付　RL縄文	ミガキ	III	
図 19-7	SK-19　覆土	浅鉢？	口縁部	沈線	ミガキ	IV	
図 19-8	SK-19　確認面	壷？浅鉢	胴部	LR縄文	ミガキ	IV？	
図 19-9	SK-20　確認面	鉢	口縁部	沈線　LR縄文	ミガキ	IV	
図 19-10	SK-20　確認面	深鉢？	口縁部	沈線　LR縄文	ミガキ	IV	
図 19-11	SK-20　確認面	深鉢	口縁部	沈線　LR縄文	ミガキ	IV	
図 19-12	SK-20　確認面	小型土器	底部		ミガキ	IV？	
図 19-13	SK-21　2層	深鉢	胴部	LR縄文	ミガキ	IV	
図 19-14	SK-31　1層	鉢	胴部	沈線	ミガキ	IV	08砂子瀬
図 19-15	SK-31　1層	鉢	胴部	沈線	ミガキ	IV	08砂子瀬
図 19-16	SK-34　1層	深鉢	口縁部	折返し口縁　RL縄文	ミガキ	IV	08砂子瀬
図 19-17	SK-37　覆土	壷？	口縁部	無文（ミガキ）	ミガキ	IV	08砂子瀬
図 19-18	SK-37　1層	壷？	胴部	沈線　LR縄文	ミガキ	IV	08砂子瀬
図 19-20	SK-38　1層	壷	胴部	沈線　（条痕）	ミガキ	IV	08砂子瀬

07 砂子瀬遺跡　配石遺構

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 20-1	配石 -1　覆土	深鉢	口縁部～胴部	LR縄文	ミガキ	V	P-2
図 20-2	配石 -1　覆土	鉢	胴部	R単軸絡条体第 1類　沈線	ミガキ	IV	
図 22-1	配石 -3　覆土	深鉢	口縁部	沈線	ミガキ	IV	P-1
図 22-2	配石 -4　覆土	深鉢	胴部	沈線　LR縄文	ミガキ	III	P-1

07 砂子瀬遺跡　屋外配石炉

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 24-8	屋外配石炉　覆土	深鉢	口縁部	LR縄文　沈線	ミガキ	IV	
図 24-9	屋外配石炉　覆土	深鉢	胴部	沈線　R単軸絡条体	ミガキ	IV	P-2
図 24-10	屋外配石炉　覆土	深鉢	胴部	条線　（条痕）	ミガキ	IV	
図 24-11	屋外配石炉　覆土	深鉢	胴部	LR縄文　沈線	ミガキ	IV	

07・08 砂子瀬遺跡　土器埋設遺構

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 28-1	1-埋設　掘り方	深鉢	胴部～底部	無文（ミガキ）	ミガキ	IV	
図 28-2	7-埋設　確認面	深鉢	胴部	R単軸絡条体第 1類　沈線	ミガキ	IV	
図 28-3	7-埋設　確認面	深鉢	底部	R単軸絡条体第 1類　底部－笹痕？	ミガキ	IV	
図 29-1	2-埋設　覆土	深鉢	胴部～底部	沈線　LR縄文（充填・磨消）	ミガキ	IV	外面スス状炭化物付着
図 30-1	3-埋設　掘り方	深鉢	胴部	R単軸絡条体第 1類	ミガキ	IV	
図 31-1	4-埋設　掘り方	深鉢	口縁部～底部	LR縄文→沈線	ミガキ	IV	
図 32-1	5-埋設　覆土	深鉢	口縁部～胴部	LR縄文	ミガキ	IV？	
図 33-ﾄﾚ2	6-埋設　掘り方	深鉢	口縁部～底部	口縁部－折返し口縁　胴～底部－無文（ミガキ）、沈線	ミガキ	IV	
図 34-ﾄﾚ2	8-埋設　覆土	深鉢	口縁部～底部	口縁部－折返し口縁　胴～底部－ LR縄文、沈線	ミガキ	IV	
図 37-1	9-埋設　覆土	深鉢	口縁部～底部	折返し口縁　RL縄文	ミガキ	III	
図 37-2	10-埋設　覆土	深鉢	胴部～底部	R単軸絡条体第 1類	ミガキ	IV	
図 37-3	10-埋設　覆土	深鉢	口縁部	折返し口縁	ミガキ	IV	
図 37-5	10-埋設　覆土・掘り方	深鉢	胴部～底部	沈線　LR縄文	ミガキ	IV	
図 38-1	11-埋設　覆土・確認面	深鉢	胴部～底部	LR+RL結束第 1種	ミガキ	III	
図 39-1	12-埋設　確認面	台付土器	口縁部～胴部	無文（ミガキ）	ミガキ	IV	
図 39-2	13-埋設　確認面	深鉢？	胴部～底部	無文（ミガキ）	ミガキ	IV	
図 40-1	14-埋設　覆土・確認面	深鉢	口縁部～胴部	折返し口縁　RL縄文	ミガキ	IV	08砂子瀬 D区

07 砂子瀬遺跡　D区土坑

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 41-1	SK-1　2層	深鉢	口縁部～胴部	沈線　LR縄文	ミガキ	III	
図 41-2	SK-1　2層	深鉢	口縁部	貼付　RL縄文	ミガキ	III	
図 41-3	SK-1　1層	鉢	口縁部～胴部	粘土紐貼付　RL縄文　沈線	ミガキ	III	
図 41-4	SK-1　覆土	深鉢	口縁部～胴部	口唇部－刻目　貼付　沈線　RL縄文　補修孔	ミガキ	III	
図 41-5	SK-1　1層	鉢	口縁部	折返し口縁　貼付　RL縄文	ミガキ	III	
図 41-6	SK-1　1層	深鉢	口縁部	口唇部－沈線　沈線　RL縄文？	ミガキ	III	
図 41-7	SK-1　1層	深鉢	口縁部	口唇部－沈線　沈線	ミガキ	III	
図 41-8	SK-1　確認面	鉢？	口縁部～胴部	刺突　RL縄文　L側圧　沈線	ミガキ	III？	
図 41-10	SK-2　確認面	深鉢	口縁部	沈線　RL縄文	ミガキ	III	
図 41-11	SK-2　覆土	深鉢	口縁部	粘土紐貼付	ミガキ	III	
図 41-13	SK-3　覆土	深鉢	口縁部～胴部	LR縄文	ミガキ	III	
図 41-14	SK-3　覆土	深鉢	口縁部～胴部	粘土紐貼付　圧痕　LR縄文	ミガキ	III	
図 41-15	SK-3　覆土	深鉢	口縁部	粘土紐貼付　LR縄文	ミガキ	III	

07・08 砂子瀬遺跡　C区遺構外

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 43-1	IIIQ-81　III層	深鉢	口縁部	粘土紐貼付　刺突　沈線	ミガキ	III -2	08砂子瀬
図 43-2	IIIB-119　II層下	深鉢	口縁部	沈線　貼付　刺突（環状他）	ミガキ	III -2	
図 43-3	IIIN-83　III層	深鉢	口縁部	粘土紐貼付　沈線　（土層 6）	ミガキ	III -2	08砂子瀬
図 43-4	IIIA-93　1層	深鉢	口縁部～胴部	口唇部－ RL側圧　粘土紐貼付－指頭圧痕　RL縄文	ミガキ	III -2	PC-301
図 43-5	IIX-121　II層下	深鉢	口縁部	沈線　L縄文	ミガキ	IV	
図 43-6	IIIC-119　撹乱	深鉢	口縁部～胴部	折返し口縁　沈線　RL縄文	ミガキ	IV	
図 43-7	IIIK-83　II層	深鉢	口縁部～底部	R単軸絡条体第 3類　底部－笹葉痕	ミガキ	IV	PC-305
図 43-8	IIIK-83　II層	深鉢	口縁部～底部	R単軸絡条体第 3類　底部－笹葉痕	ミガキ	IV	PC-305
図 43-9	IIIC-119　II層下	深鉢	口縁部～底部	沈線　RL縄文	ミガキ	IV	C区遺物集中
図 43-10	IIL-86　II層下	深鉢	口縁部～胴部	粘土紐貼付　沈線　RL縄文	ミガキ	III -2	
図 43-11	IIIP-80　III層下	深鉢	胴部	沈線　（網目状）	ミガキ	IV	08砂子瀬
図 43-12	IIIQ-80　III層下	深鉢	胴部	沈線　（網目状）	ミガキ	IV	08砂子瀬　PC-01
図 43-13	IIIQ-80　III層下	深鉢	口縁部～胴部	口唇部－竹管押圧　沈線	ミガキ	IV	08砂子瀬　PC-02
図 44-1	IIIP-80　III層下	深鉢	口縁部～底部	口唇部－竹管押圧　沈線	ミガキ	IV	08砂子瀬　C区遺物集中 P-1
図 44-2	IIQ-116　II層下	深鉢	口縁部～胴部	LR縄文　沈線	ミガキ	IV	
図 43-3	IIX-114・115　II層下	深鉢	口縁部～胴部	波状口縁　沈線　LR縄文	ミガキ	IV	08砂子瀬　C区遺物集中　P-25
図 43-4	IIIP-84　III層	深鉢	胴部	沈線	ミガキ	IV	08砂子瀬
図 44-5	IIY-122　II層	深鉢	口縁部～胴部	口唇部 -I単軸絡条体第 1類　胴部 -I単軸絡条体第 1類	ミガキ	IV	
図 44-6	IIIN-81　III層下、III層	深鉢	口縁部	口唇部－刻目　沈線	ミガキ	IV	08砂子瀬
図 44-7	IIIQ-83　III層	深鉢	口縁部	沈線　LR縄文	ミガキ	IV	08砂子瀬
図 44-8	IIIC-119　II層下	深鉢	口縁部～胴部	沈線　R単軸絡条体第 1類　突起部分形状 2種類	ミガキ	IV	C区遺物集中
図 44-9	IIII-88　III層	深鉢	口縁部	R単軸絡条体第 1類	ミガキ	IV	08砂子瀬

図 44-10	ⅡM-117　Ⅱ層	深鉢	口縁部	折返し口縁　Ⅰ単軸絡条体第 1類	ミガキ	Ⅳ	
図 44-11	ⅡW-114　Ⅱ層下	深鉢	口縁部～胴部	折返し口縁　沈線　Ⅰ単軸絡条体第 1類	ミガキ	Ⅳ	C区遺物集中 3
図 44-12	ⅢB-119　Ⅱ層下	深鉢	口縁部～胴部	折返し口縁　条線 (条痕)	ミガキ	Ⅳ	C区遺物集中
図 44-13	ⅢO ⅢP-84 Ⅲ層上	深鉢	口縁部	無文 (ミガキ)	ミガキ	Ⅳ	08砂子瀬
図 45-1	ⅡV-122　Ⅱ層下	深鉢	口縁部～胴部	沈線　Ⅰ単軸絡条体第 1類	ミガキ	Ⅳ	C区遺物集中
図 45-2	ⅢC-119　Ⅱ層下	深鉢	口縁部	折返し口縁　Rl縄文 (縦)	ミガキ	Ⅳ	C区遺物集中
図 45-3	ⅢQ-80　Ⅱ層	深鉢	口縁部	沈線	ミガキ	Ⅳ	風倒木
図 45-4	ⅢB-119　Ⅱ層	深鉢	口縁部	折返し口縁　沈線	ミガキ	Ⅳ	
図 45-5	ⅢR-80　Ⅲ層	深鉢	口縁部	沈線	ミガキ	Ⅳ	08砂子瀬
図 45-6	ⅡW-114　Ⅱ層下	深鉢	口縁部～胴部	折返し口縁　Rl縄文　沈線	ミガキ	Ⅳ	C区遺物集中 3
図 45-7	ⅢI-84　撹乱	深鉢	胴部	沈線	ミガキ	Ⅳ	08砂子瀬
図 45-8	ⅡW-114　Ⅱ層下	深鉢	胴部	沈線　Ⅰ単軸絡条体第 1類	ミガキ	Ⅳ	C区遺物集中 3
図 45-9	ⅢI-86　Ⅲ層	深鉢	口縁部	LR縄文　Rl縄文	ミガキ	Ⅳ	08砂子瀬
図 45-10	ⅢO-84　Ⅱ層	深鉢	口縁部	LR・Rl縄文	ミガキ	Ⅳ	PC-306　P-15
図 45-11	ⅢM-86　撹乱	深鉢	口縁部	折返し口縁　Rl縄文　沈線	ミガキ	Ⅳ	08砂子瀬
図 45-12	ⅢK-85　Ⅰ層	深鉢	胴部	沈線	ミガキ	Ⅳ	
図 45-13	ⅢJ-83　撹乱	深鉢	口縁部	沈線	ミガキ	Ⅳ	08砂子瀬
図 45-14	ⅢJ-84　撹乱	深鉢	口縁部	沈線	ミガキ	Ⅳ	08砂子瀬
図 45-15	ⅢN-84　Ⅱ層	深鉢	胴部	沈線　条痕 (条線)	ミガキ	Ⅳ	
図 45-16	ⅢB-119　Ⅱ層下	深鉢	胴部	沈線　Rl縄文	ミガキ	Ⅳ	
図 45-17	ⅢJ-84　撹乱	鉢？	胴部	沈線	ミガキ	Ⅳ	08砂子瀬
図 45-18	ⅢC-99　Ⅱ層	鉢？	口縁部	沈線	ミガキ	Ⅳ	
図 45-19	ⅢB-119　Ⅱ層	鉢	口縁部	無文 (ミガキ)	ミガキ	Ⅳ	
図 45-20	ⅡX-121　Ⅱ層下	浅鉢	口縁部～胴部	沈線　LR縄文	ミガキ	Ⅳ	
図 45-21	ⅢC-119　Ⅱ層	浅鉢	口縁部	折返し口縁　沈線	ミガキ	Ⅳ	P-185
図 45-22	ⅢN-84　Ⅱ層	深鉢	口縁部～胴部	口唇部－刺突　沈線　条痕 (条線)	ミガキ	Ⅳ	
図 45-23	ⅢY-122　Ⅱ層	浅鉢	口縁部	沈線　刺突　Rl縄文	ミガキ	Ⅳ	
図 45-24	ⅡY-117　Ⅱ層下	浅鉢	口縁部	沈線	ミガキ	Ⅳ	
図 45-25	ⅡR-115　Ⅱ層下	鉢	口縁部	沈線　管状刺突　LR縄文	ミガキ	Ⅳ	
図 45-26	ⅡX-122　Ⅱ層下	浅鉢	口縁部	沈線	ミガキ	Ⅳ	
図 45-27	ⅢA-120　Ⅱ層	鉢	口縁部	沈線　刺突	ミガキ	Ⅳ	
図 45-28	ⅡR-122　Ⅱ層	浅鉢	口縁部	沈線　LR縄文	ミガキ	Ⅳ	
図 45-29	ⅢE-90　Ⅰ層	台付土器	底部		ミガキ	Ⅳ	
図 45-30	ⅢI-85　Ⅱ層	台付土器	底部	Rl縄文 (縦)	ミガキ	Ⅳ	PC-302　P-17
図 45-31	ⅢS-118　Ⅱ層下	台付土器	底部		ミガキ	Ⅳ	
図 45-32	ⅢE-91　Ⅱ層	台付土器	底部		ミガキ	Ⅳ	
図 46-1	ⅡW-114　Ⅱ層下	切断フタ付き土器	口縁部～胴部	沈線	ミガキ	Ⅳ	外面赤色顔料塗布
図 46-2	ⅢB-119　Ⅱ層下	壷	胴部～底部	粘土紐貼付－沈線	ミガキ	Ⅳ	C区遺物集中
図 46-3	ⅢD-92　Ⅱ層	鉢	胴部	粘土瘤貼付　沈線　ミガキ	ミガキ	Ⅳ	
図 46-4	ⅡQ-117　Ⅱ層	鉢	口縁部	粘土瘤貼付　沈線　ミガキ	ミガキ	Ⅳ	
図 46-5	ⅢN-84　Ⅲ層	小型土器	底部	無文 (ミガキ)	ミガキ	Ⅳ	08砂子瀬
図 46-6	ⅢC-97　Ⅱ層	小型土器 (鉢)	底部	無文 (ミガキ)	ミガキ	Ⅳ	
図 46-7	ⅢC-119　Ⅱ層下	壷？	胴部～底部	沈線 (ミガキ)	ミガキ	Ⅳ	C区遺物集中
図 46-8	ⅢL-86　Ⅱ層	壷？	胴部～底部	沈線 (ミガキ)	ミガキ	Ⅳ	PC-304 外面赤色顔料付着
図 46-9	ⅢK-86　Ⅰ層	壷	胴部	沈線	ミガキ	Ⅳ	
図 46-10	ⅡW-114　Ⅱ層下	切断フタ付き土器?	胴部	沈線	ミガキ	Ⅳ	赤と黒の顔料塗布
図 46-11	ⅢC-119　Ⅱ層下	壷？	胴部	沈線　貼付	ミガキ	Ⅳ	C区遺物集中　P-212
図 46-12	ⅢC-119　Ⅱ層下	壷	口縁部～胴部	橋状把手　貼付 (隆帯)　沈線	ミガキ	Ⅳ	C区遺物集中
図 46-13	ⅢK-88　Ⅱ層・Ⅱ層上	浅鉢	口縁部～胴部	沈線　LR縄文	ミガキ	Ⅴ -1	内面スス状炭化物付着
図 46-14	ⅡS-114　Ⅱ層下	浅鉢？	口縁部	沈線　突起　Rl縄文	ミガキ	Ⅴ -1	内面スス状炭化物付着
図 46-15	ⅡS-114　Ⅱ層下	深鉢	口縁部	粘土瘤貼付　沈線　刺突	ミガキ	Ⅴ -1	

07 砂子瀬遺跡　D区遺構外

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 46-16	ⅡL-86　Ⅱ層下	深鉢	口縁部～胴部	口唇部－Rl縄文　Rl縄文　貼付	ミガキ	Ⅲ -2	
図 46-17	ⅡM-83　Ⅱ層下	深鉢	口縁部	折返し口縁　Rl縄文	ミガキ	Ⅲ -2	
図 46-18	ⅡK-86　Ⅱ層	深鉢	口縁部	沈線　Ⅰ単軸絡条体第 1類	ミガキ	Ⅲ -2	
図 46-19	ⅡL-83　Ⅱ層下	深鉢	口縁部	口唇部－Rl縄文　Rl縄文	ミガキ	Ⅲ -2	D区遺物集中
図 46-20	ⅡS-85　Ⅱ層	深鉢	口縁部	口唇部－粘土紐貼付・Rl側圧　粘土紐貼付　沈線　Rl縄文	ミガキ	Ⅲ -2	
図 46-21	ⅡM-84　Ⅱ層下	深鉢	口縁部～胴部	LR縄文	ミガキ	Ⅲ -2	
図 46-22	ⅡN-85　Ⅲ層	深鉢	口縁部	口唇部－沈線　Rl縄文	ミガキ	Ⅲ -2	
図 46-23	ⅡL-87　Ⅱ層下	深鉢	口縁部	沈線　粘土紐貼付	ミガキ	Ⅲ -2	
図 46-24	ⅡK-85　Ⅱ層	深鉢	胴部	沈線　Rl縄文	ミガキ	Ⅲ -2	
図 46-25	ⅡL-85　Ⅱ層下	小型土器	底部	Rl縄文	ミガキ	Ⅲ -2	
図 46-26	ⅡL-85　Ⅱ層	深鉢	口縁部	沈線　LR縄文	ミガキ	Ⅲ -2	
図 46-27	ⅡK-86　Ⅱ層下	深鉢	口縁部～胴部	Rl縄文　沈線	ミガキ	Ⅲ -2	
図 46-28	ⅡM-83　Ⅱ層下	深鉢	口縁部～胴部	沈線　LR↓Rl結束第 1種	ミガキ	Ⅲ -2	
図 46-29	ⅡN-84　Ⅱ層下	深鉢	口縁部	無文 (ミガキ)	ミガキ	Ⅳ	
図 46-30	ⅡL-85　Ⅱ層	深鉢	胴部	沈線　LR縄文	ミガキ	Ⅳ	

07 水上 (3)遺跡　遺構外

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 51-1	XS-355　Ⅱ層	深鉢	口縁部～胴部	LR縄文	ミガキ	Ⅳ -3	
図 51-2	XU-356　Ⅱ層	深鉢	口縁部～胴部	ミガキ (無文)　波状口縁	ミガキ	Ⅳ -3	
図 51-3	XT-356　Ⅱ層	深鉢	底部	LR縄文	ミガキ	Ⅳ -3	P-2
図 51-4	XT-358　Ⅱ層	深鉢	口縁部	沈線　LR縄文	ミガキ	Ⅳ -3	
図 51-5	XS-355　Ⅱ層	深鉢	胴部～底部	胴部－LR縄文　底部－網代痕	ミガキ	Ⅳ -3	P-1
図 51-6	XT-357　Ⅱ層	鉢	胴部～底部	LR縄文	ミガキ	Ⅳ -3	
図 51-7	XT-355　Ⅱ層	深鉢	口縁部	突起　沈線　LR縄文	ミガキ	Ⅳ -3	
図 51-8	XT-358　Ⅱ層	鉢 (小型)	底部	LR縄文	ミガキ	Ⅳ -3	
図 51-9	XV-357　Ⅱ層	鉢	口縁部～底部	ミガキ	ミガキ	Ⅳ -3	
図 51-10	XT-357・358　Ⅱ層	鉢	口縁部～胴部	沈線 (三叉文)	ミガキ	Ⅴ -1	大洞 B
図 51-11	XT-358　Ⅱ層	鉢	口縁部	沈線 (三叉文)　LR縄文	ミガキ	Ⅴ -1	大洞 B
図 52-1	XO-357・358　Ⅱ層	注口土器	略完形	粘土瘤貼付　沈線　LR縄文	ミガキ	Ⅳ -3	P-5
図 52-2	XU-359　Ⅱ層	注口土器	胴部～底部	ミガキ	ミガキ	Ⅳ -3	P-5
図 52-3	XU-357　Ⅱ層	注口土器	完形	粘土瘤貼付　沈線　LR縄文	ミガキ	Ⅳ -3	P-5
図 52-4	XU-357　Ⅱ層	注口土器	胴部～底部	沈線　粘土瘤貼付　LR縄文	ミガキ	Ⅳ -3	
図 52-5	XU-356　Ⅱ層	注口土器	注口	粘土瘤貼付　沈線	ミガキ	Ⅳ -3	
図 52-6	XT-355　Ⅱ層	注口土器	注口	LR縄文	ミガキ	Ⅳ -3	
図 52-7	XT-357　Ⅱ層	注口土器	胴部	粘土瘤貼付	ミガキ	Ⅳ -3	P-2　P-5
図 52-8	XR-353　Ⅱ層下	注口土器	注口	ミガキ	ミガキ	Ⅳ -3	
図 52-9	XT-358　Ⅱ層	注口土器	注口	粘土瘤貼付	ミガキ	Ⅳ -3	
図 52-10	XT-356　Ⅱ層	注口土器	注口	粘土瘤貼付　LR縄文　沈線	ミガキ	Ⅳ -3	P-2
図 52-11	XO-356　Ⅱ層	注口土器	注口	LR縄文　沈線	ミガキ	Ⅳ -3	
図 52-12	XU-357　Ⅱ層	注口土器	底部	ミガキ	ミガキ	Ⅳ -3	
図 52-13	XT-358　Ⅱ層	注口土器	注口	沈線 (三叉文)	ミガキ	Ⅴ -1	大洞 B
図 52-14	XR-355　Ⅱ層	注口土器	注口	沈線 (三叉文)　貼付	ミガキ	Ⅴ -1	大洞 B
図 52-15	XT-357　Ⅱ層	注口土器	注口	沈線 (三叉文)　摩滅	ミガキ	Ⅴ -1	大洞 B
図 52-16	XT-355　Ⅱ層	壷?注口土器?	胴部	ミガキ (無文)	ミガキ	Ⅳ -3	P-2
図 53-1	XU-357　Ⅱ層	注口土器	口縁部	粘土瘤貼付　LR縄文　沈線	ミガキ	Ⅳ -3	赤色顔料塗布
図 53-2	XU-357　Ⅱ層	注口土器?	口縁部	波状口縁 (刻目)　沈線　LR縄文	ミガキ	Ⅳ -3	
図 53-3	XU-356　Ⅱ層	注口土器	口縁部～胴部	沈線　粘土瘤貼付	ミガキ	Ⅳ -3	
図 53-4	XR-353　Ⅱ層下	壷？	胴部	粘土瘤貼付　刻目　沈線	ミガキ	Ⅳ -3	
図 53-5	XT-355　Ⅱ層	壷?注口土器?	口縁部～胴部	ミガキ (無文)	ミガキ	Ⅳ -3	P-2
図 53-6	XT-356　Ⅱ層	壷?注口土器?	口縁部～胴部	ミガキ	ミガキ	Ⅳ -3	
図 53-7	XU-357　Ⅱ層	注口土器?	口縁部～胴部	沈線　LR縄文	ミガキ	Ⅳ -3	
図 53-8	XU-357　Ⅱ層	壷	口縁部～胴部	粘土瘤貼付　沈線　LR縄文	ミガキ	Ⅳ -3	P-5
図 53-9	XR-354　Ⅱ層	壷or注口土器	口縁部	粘土瘤貼付　刻目	ミガキ	Ⅳ -3	
図 53-10	XT-355・356　Ⅱ層	浅鉢 (Ⅲ)	口縁部	沈線 (三叉文)　Rl縄文	ミガキ	Ⅴ -1	大洞 B

07 水上 (4)遺跡　土坑・ピット

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 56-1	SK-4 2層	深鉢？	胴部	Rl縄文	ミガキ	IV	
図 56-2	SK-5 1層	深鉢	口縁部	LR縄文（摩滅）	ミガキ	IV	
図 56-3	SK-5 1層	深鉢	口縁部	LR縄文	ミガキ	IV	

07 水上 (4)遺跡　配石遺構

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 57-1	配石 -1 IV層	深鉢	胴部	Rl縄文	ミガキ	IV	
図 57-2	配石 -1 I 層	深鉢	胴部	LR単軸絡条体第 1類	ミガキ	IV	

07 水上 (4)遺跡　遺構外

図版番号	出土位置・層位	器　種	部　位	外　面　文　様	内面調整	分類	備　　考
図 59-1	VIIIX-237 III層 (沢)	深鉢	口縁部～胴部	貼付　LR側圧　刺突　LR＋Rl縄文（上層 c)	ミガキ	III	
図 59-2	IXA-236 III層 (沢)	深鉢	口縁部～胴部	粘土紐貼付　口唇部－LR側圧　沈線　Rl縄文（上層 e)	ミガキ	III	
図 59-3	VIIIV-238 III層 (沢)	深鉢	口縁部	橋状把手　粘土紐貼付　刺突（上層 c)	ミガキ	III	
図 59-4	VIIIP-237 III層 (沢)	深鉢	口縁部	突起　粘土紐貼付	ミガキ	III	
図 59-5	VIIIV-238 III層 (沢)	深鉢	口縁部	橋状把手　粘土紐貼付　LR縄文（上層 d)	ミガキ	III	
図 59-6	VIIIW-238 III層 (沢)	深鉢	口縁部～胴部	粘土紐貼付　口縁－鋸歯状　Rl縄文（上層 c)	ミガキ	III	
図 59-7	VIIIY-236 III層 (沢)	深鉢	胴部	粘土紐貼付－指頭押圧　沈線　LR+Rl結束第 1種（上層 e)	ミガキ	III	
図 59-8	VIIIW-238 III層 (沢)	深鉢	口縁部～胴部	粘土紐貼付（剥落）　刺突（上層 c)	ミガキ	III	
図 59-9	VIIIR-238 III層	深鉢	口縁部	口唇部－竹管押圧　沈線　竹管刺突	ミガキ	III	
図 59-10	IXA-236 III層 (沢)	深鉢	口縁部～胴部	口唇部－LR側圧　粘土紐貼付　沈線　Rl縄文（上層 e)	ミガキ	III	
図 59-11	VIIIQ-239 III層	深鉢	胴部	沈線　Rl縄文　（最花）	ミガキ	III	
図 60-1	VIIIS-238 III層 (沢)	深鉢	口縁部	沈線　LR縄文　管状刺突	ミガキ	IV -1	
図 60-2	VIIIU-238 III層 (沢)	深鉢	胴部	沈線　LR・Rl縄文	ミガキ	IV -1	
図 60-3	IXA-236 III層 (沢)	深鉢	口縁部～底部	口唇部－LR側圧　粘土紐貼付　沈線　Rl縄文（上層 e)	ミガキ	III	
図 60-4	VIIIR-239 III層	深鉢	口縁部	沈線　LR縄文	ミガキ	IV -1	
図 60-5	VIIIU-238 III層 (沢)	深鉢	口縁部	LR単軸絡条体第 1類	ミガキ	IV -1	
図 60-6	VIIIS-238 III層 (沢)	深鉢	口縁部～胴部	沈線　LR縄文　管状刺突	ミガキ	IV -1	
図 60-7	VIIIU-238 III層 (沢)	浅鉢？	口縁部	LR・Rl縄文 (羽状）沈線	ミガキ	IV -1	
図 60-8	VIIIY-236 III層 (沢)	深鉢	口縁部～胴部	口唇部－Rl縄文　粘土紐貼付　沈線　Rl縄文（上層 e)	ミガキ	III	
図 60-9	VIIIS-238 III層 (沢)	深鉢	口縁部～胴部	沈線　LR縄文　管状刺突	ミガキ	IV -1	
図 60-10	VIIIT-238 III層 (沢)	深鉢	口縁部	折返し口縁　LR単軸絡条体第 1類	ミガキ	IV -1	
図 60-11	VIIIS-238 III層 (沢)	深鉢	口縁部～胴部	沈線　LR縄文　管状刺突	ミガキ	IV -1	
図 60-12	VIIIM-236 IV層	深鉢？	口縁部	沈線　粘土瘤貼付	ミガキ	IV -3	
図 60-13	VIIIQ-239 III層 (沢・壁)	深鉢	口縁部～底部	LR縄文	ミガキ	IV -3	
図 61-1	VIIIP-239 III層	深鉢	口縁部～胴部	LR縄文　突起 1個	ミガキ	IV -3	
図 61-2	IXA-236 III層 (沢)	深鉢	口縁部	折返し口縁　LR縄文	ミガキ	IV -1	
図 61-3	VIIIO-237 III層 (沢)	深鉢	胴部	LR縄文 沈線 摩滅	ミガキ	IV -3	
図 61-4	VIIIO-239 III層	深鉢	口縁部～胴部	LR縄文	ミガキ	IV -3	
図 61-5	VIIIU-238 III層 (沢)	深鉢	口縁部～胴部	沈線　LR・Rl縄文	ミガキ	IV -3	
図 61-6	VIIIR-239 III層 (沢)	深鉢	胴部	沈線　LR縄文	ミガキ	IV -3	
図 61-7	VIIIR-239 III層	深鉢	口縁部～胴部	沈線　LR縄文	ミガキ	IV -3	
図 61-8	VIIIU-238 III層 (沢)	深鉢	胴部	LR単軸絡条体第 1類	ミガキ	IV -3	
図 61-9	VIIIR-239 III層 (沢)	深鉢	口縁部	沈線　LR縄文	ミガキ	IV -1	
図 61-10	VIIIT-238 III層 (沢)	深鉢	口縁部	沈線　LR縄文	ミガキ	IV -3	
図 61-11	VIIIS-236 III層	鉢	口縁部	折返し口縁　刺突	ミガキ	III	
図 61-12	VIIIS-236 III層	鉢	口縁部	折返し口縁　刺突	ミガキ	III	
図 62-1	VIIIT-238 III層 (沢)	深鉢	口縁部～胴部	LR・Rl縄文 (羽状）	ミガキ	IV -1	
図 62-2	VIIIO-237 III層 (沢)	鉢	口縁部～底部	LR縄文　補修孔 (未穿孔)	ミガキ	IV -1	内面 X状炭化物付着 (C-14分析資料)
図 62-3	VIIIP-237 III層 (沢)	深鉢	口縁部～底部	LR単軸絡条体第 1類	ミガキ	IV -1	
図 62-4	VIIIR-238 III層 (沢)	深鉢	口縁部～胴部	沈線　LR縄文	ミガキ	IV -1	
図 62-5	VIIIS-237 III層 (沢)	深鉢	口縁部	無文（ミガキ）	ミガキ	IV -3	
図 62-6	VIIIP-239 III層	深鉢	口縁部～胴部	沈線　LR縄文	ミガキ	IV -3	
図 62-7	VIIIP-239 III層	鉢	口縁部	LR縄文　沈線	ミガキ	IV -3	
図 62-8	VIIIO-239 III層	鉢	口縁部	沈線　波状口縁	ミガキ	V -1	
図 62-9	VIIIV-238 III層 (沢)	深鉢	底部	無文　底部－砂底？	ミガキ	IV -3	
図 62-10	VIIIO-237 III層 (沢)	深鉢	胴部	LR縄文 沈線 摩滅	ミガキ	V -1	
図 62-11	VIIIR-238 III層 (沢)	浅鉢	口縁部	沈線　LR縄文	ミガキ	IV -3	
図 62-12	VIIIS-236 III層	深鉢？	底部	LR単軸絡条体第 1類　底部－網代痕	ミガキ	IV -3	
図 62-13	VIIIL-232 III層	鉢	口縁部～底部	無文（篦による粗目のミガキ・横）	ミガキ	IV -3	
図 63-1	VIIIL-235 III層	深鉢	口縁部～底部	LR縄文	ミガキ	IV -3	P-1
図 63-2	VIIIL-235 III層	鉢	口縁部～胴部	沈線 (三叉文) LR縄文	ミガキ	V -1	大洞 B
図 63-3	VIIIP-239 III層	台付土器	底部	無文（ミガキ）	ミガキ	IV -3	
図 63-4	VIIIR-239 III層 (沢)	台付鉢？	胴部～底部	LR縄文	ミガキ	IV -3	
図 63-5	VIIIO-237 III層 (沢)	浅鉢 (皿)	口縁部～胴部	無文（ミガキ）	ミガキ	IV -3	
図 63-6	VIIIO-237 III層	深鉢	口縁部～胴部	沈線 (三叉文) LR縄文	ミガキ	V -1	大洞 B
図 63-7	VIIIU-238 III層 (沢)	注口土器	胴部	沈線　LR縄文	ミガキ	V -1	
図 63-8	VIIIQ-239 III層	鉢	口縁部	沈線 (摩滅）	ミガキ	V -1	
図 63-9	VIIIO-237 III層 (沢)	鉢	口縁部～胴部	沈線　LR縄文	ミガキ	V -1	
図 63-10	VIIIQ-239 III層 (沢)	台付土器	底部	無文（ミガキ）	ミガキ	V -1	
図 63-11	VIIIQ-239 III層	台付土器	胴部～底部	沈線　LR縄文	ミガキ	V -1	内面ス状炭化物付着 (C-14分析資料)
図 63-12	VIIIO-237 III層 (沢)	台付鉢	口縁部～底部	沈線　LR縄文	ミガキ	V -1	大洞 B
図 63-13	VIIIW-238 III層 (沢)	台付土器	底部	無文（ミガキ）	ミガキ	V -1	

石器　観察表

06 水上 (2)遺跡（美山湖右岸上流遺跡）

図版番号	出 土 位 置	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 質	備　　考
図 7-1	トレンチ③ -02	II層	石鏃	1.75	1.3	0.35	0.5	珪質頁岩	凹基
図 7-2	トレンチ⑧ -03	II層	石鏃	(1.8)	1.5	0.25	(0.6)	珪質頁岩	凹基、先端欠損、基部両面に微量のアスファルト付着
図 7-3	トレンチ① -01	II層	石鏃	2.2	1.7	0.3	0.8	珪質頁岩	凹基、基部両面にアスファルト付着
図 7-4	トレンチ① -01	II層	石鏃	2.4	1.6	0.4	0.8	珪質頁岩	凹基、基部両面にアスファルト付着
図 7-5	トレンチ⑨ -03	I 層	石鏃	(2.6)	1.3	0.5	(1.9)	珪質頁岩	凹基、先端欠損
図 7-6	トレンチ② -01	II層	石鏃	3.4	1.3	0.6	3.0	珪質頁岩	有茎？
図 7-7	トレンチ② -01	II層	石鏃	3.4	1.3	0.5	1.7	珪質頁岩	有茎
図 7-8	トレンチ③ -02	II層	石鏃	(4.0)	1.5	0.9	(4.8)	珪質頁岩	有茎、先端欠損
図 7-9	トレンチ① -02	II層	石槍	(4.25)	1.9	1.3	(8.0)	珪質頁岩	基部欠損
図 7-10	トレンチ② -01	II層	石篦	5.3	2.35	0.8	(11.1)	珪質頁岩	長楕円型、一部欠損
図 7-11	トレンチ② -01	II層	石篦	(3.8)	2.4	1.2	(9.6)	珪質頁岩	撥型？、刃部欠損
図 7-12	トレンチ② -01	II層	石匙	3.4	5.6	0.9	12.7	珪質頁岩	横型
図 7-13	トレンチ② -01	II層	掻器	5.45	2.7	0.9	12.8	珪質頁岩	
図 7-14	トレンチ① -01	II層	掻器	5.2	2.3	1.3	9.1	珪質頁岩	
図 7-15	トレンチ⑤ -01	I 層	掻器	4.9	5.4	1.5	26.5	珪質頁岩	
図 7-16	トレンチ② -01	II層	削器	3.9	2.7	0.8	8.7	珪質頁岩	
図 7-17	トレンチ① -01	II層	削器	5.0	2.3	0.7	9.1	珪質頁岩	
図 7-18	トレンチ① -01	II層	削器	9.6	7.2	1.6	98.5	珪質頁岩	
図 7-19	トレンチ① -01	II層	削器	5.8	4.7	1.5	47.5	珪質頁岩	下端部欠損
図 7-20	トレンチ① -01	II層	削器	6.75	4.0	1.5	36.1	珪質頁岩	
図 8-1	トレンチ⑨ -01	II層	敲磨器類	8.0	9.9	6.1	835.9	凝灰岩	I 類
図 8-2	トレンチ① -01	II層	敲磨器類	8.4	7.3	5.4	388.6	凝灰岩	I 類
図 8-3	トレンチ④ -03	II層	敲磨器類	13.2	5.7	1.8	183.1	凝灰岩	I 類
図 8-4	トレンチ⑤ -01	II層	敲磨器類	7.0	3.7	2.0	44.5	珪質頁岩	II類

図 8-5	トレンチ② -01	Ⅱ層	敲磨器類	14.4	3.3	2.1	116.6	凝灰岩	Ⅱ類
図 8-6	トレンチ③ -01	Ⅱ層	敲磨器類	9.3	8.1	7.5	630.4	デイサイト	Ⅱ類
図 8-7	トレンチ① -01	Ⅱ層	敲磨器類	7.1	3.0	1.4	35.3	珪質頁岩	Ⅴ類
図 8-8	トレンチ⑧ -02	Ⅱ層	敲磨器類	17.3	7.5	4.7	890.8	流紋岩	Ⅶ類
図 8-9	トレンチ② -01	Ⅱ層	敲磨器類	13.0	4.9	2.5	256.6	凝灰岩	Ⅶ類
図 8-10	トレンチ② -01	Ⅱ層	磨斧	11.5	5.7	3.0	326.9	凝灰岩(粗粒)	基部欠損
図 8-11	トレンチ① -01	Ⅱ層	石皿	10.2	8.6	1.4	185.3	凝灰岩	

06 砂子瀬村元遺跡

図版番号	出 土 位 置	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	石 質	備　　考
図 7-21	トレンチ B	Ⅰ層	石鏃	(3.4)	1.0	0.55	(1.6)	珪質頁岩	有茎？、先端欠損
図 7-22	トレンチ E	Ⅱ層	石鏃	(4.3)	1.45	0.7	(4.1)	珪質頁岩	有茎？
図 7-23	トレンチ E	Ⅱ層	削器	5.3	3.8	1.0	15.6	珪質頁岩	
図 7-24	トレンチ E	Ⅱ層	削器	7.6	2.7	1.3	20.7	珪質頁岩	

06 砂子瀬遺跡

図版番号	出 土 位 置	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	石 質	備　　考
図 7-25	トレンチ⑭ -01	Ⅰ層	石篦	10.9	3.7	2.3	76.5	珪質頁岩	未完成品か再加工品？
図 7-26	トレンチ⑩ -01	Ⅰ層	削器	6.0	4.1	1.6	31.0	珪質頁岩	
図 7-27	トレンチ⑭ -04	Ⅰ層	掻器	6.4	2.25	1.1	15.9	珪質頁岩	
図 7-28	トレンチ⑬ -02	Ⅰ層	石鏃	3.0	1.5	0.5	1.9	珪質頁岩	有茎
図 8-12	トレンチ⑭ -01	Ⅰ層	敲磨器類	3.1	5.7	3.1	94.3	デイサイト	Ⅰ類
図 8-13	トレンチ⑦ -01	Ⅱ層	敲磨器類	5.7	4.6	4.1	125.4	凝灰岩	Ⅴ類

07 砂子瀬遺跡　竪穴住居跡

図版番号	出 土 位 置	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	石 質	備　　考
図 12-12	SI-02	覆土	石篦	(4.1)	1.7	0.9	(7.7)	珪質頁岩	刃部欠損、短冊型？

07・08 砂子瀬遺跡　C区土坑

図版番号	出 土 位 置	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	石 質	備　　考
図 18-7	SK-6	1 層	削器	2.8	3.0	0.85	5.0	珪質頁岩	S-X
図 18-8	SK-6	覆土	削器	3.9	3.4	0.8	11.1	珪質頁岩	S-15
図 18-9	SK-6	覆土	削器	3.0	3.3	0.8	4.4	珪質頁岩	S-X
図 18-10	SK-6	1 層	削器	8.9	4.6	1.5	31.4	珪質頁岩	S-X
図 18-11	SK-6	覆土	敲磨器類	9.5	8.2	5.0	545.1	安山岩	Ⅱ類
図 18-18	SK-8	覆土	石篦	5.6	2.2	1.6	17.3	珪質頁岩	S-4　長楕円型
図 18-21	SK-11	覆土	掻器	3.5	2.2	0.7	4.5	玉髄	S-1
図 19-19	SK-37	1 層	石篦	(2.0)	1.9	0.7	(2.8)	珪質頁岩	S-1、基部欠損　08砂子瀬

07 砂子瀬遺跡　配石遺構

図版番号	出 土 位 置	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	石 質	備　　考
図 20-3	配石 -1	1 層	石鏃	(4.15)	1.4	0.6	(2.9)	珪質頁岩	S-13、有茎、先端欠損

07 砂子瀬遺跡　屋外配石炉

図版番号	出 土 位 置	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	石 質	備　　考
図 24-1	屋外配石炉	確認面	自然礫	20.6	14.5	5.1	1,512.4	凝灰岩	
図 24-2	屋外配石炉	確認面	自然礫	18.0	16.0	6.0	2,249.0	デイサイト	被熱痕
図 24-3	屋外配石炉	確認面	自然礫	20.1	16.4	5.8	2,497.4	デイサイト	
図 24-4	屋外配石炉	確認面	自然礫	12.1	12.1	3.7	736.4	デイサイト	被熱痕
図 24-5	屋外配石炉	確認面	自然礫	17.6	13.7	4.7	1,549.4	凝灰岩	被熱痕
図 24-6	屋外配石炉	確認面	自然礫	17.0	10.6	5.0	1,431.2	安山岩	被熱痕
図 24-7	屋外配石炉	確認面	自然礫	11.5	7.6	4.0	479.5	凝灰岩	
図 26-1	屋外配石炉	確認面	自然礫	15.1	11.3	4.2	930.9	安山岩	被熱痕
図 26-2	屋外配石炉	確認面	自然礫	14.6	11.1	3.9	911.5	凝灰岩	
図 26-3	屋外配石炉	確認面	自然礫	17.0	13.6	4.8	1,434.2	安山岩	被熱痕
図 26-4	屋外配石炉	確認面	自然礫	15.5	4.0	7.3	362.8	凝灰岩	被熱痕
図 26-5	屋外配石炉	確認面	自然礫	23.5	11.9	4.7	1,843.4	凝灰岩	被熱痕
図 26-6	屋外配石炉	確認面	自然礫	13.8	9.4	5.9	858.1	安山岩	
図 26-7	屋外配石炉	確認面	自然礫	23.5	15.4	7.0	3,148.7	安山岩	
図 26-8	屋外配石炉	確認面	自然礫	19.0	13.5	4.6	1,738.9	安山岩	
図 26-9	屋外配石炉	確認面	自然礫	16.0	10.0	4.9	1,072.9	デイサイト	被熱痕
図 26-10	屋外配石炉	確認面	自然礫	19.1	12.7	4.3	1,385.0	凝灰岩	被熱痕
図 26-11	屋外配石炉	確認面	自然礫	29.1	18.8	5.2	6,200.0	安山岩	
図 26-12	屋外配石炉	確認面	自然礫	18.4	17.0	4.9	2,386.7	安山岩	被熱痕
図 27-1	屋外配石炉	確認面	自然礫	15.5	12.1	4.3	1,031.0	デイサイト	被熱痕
図 27-2	屋外配石炉	確認面	自然礫	13.8	9.8	3.8	655.4	デイサイト	
図 27-3	屋外配石炉	確認面	自然礫	15.0	13.3	4.0	937.5	安山岩	
図 27-4	屋外配石炉	確認面	自然礫	16.2	13.5	4.4	1,136.6	凝灰岩	
図 27-5	屋外配石炉	確認面	自然礫	13.0	14.2	4.0	877.5	安山岩	
図 27-6	屋外配石炉	確認面	自然礫	14.2	13.3	3.2	766.8	凝灰岩	被熱痕
図 27-7	屋外配石炉	確認面	自然礫	15.4	13.7	4.4	1,010.6	凝灰岩	
図 27-8	屋外配石炉	確認面	自然礫	23.7	14.5	5.8	2,238.5	安山岩	
図 27-9	屋外配石炉	確認面	自然礫	15.4	13.4	4.6	1,623.8	凝灰岩	被熱痕
図 27-10	屋外配石炉	確認面	自然礫	15.2	12.7	4.3	1,108.8	デイサイト	被熱痕
図 27-11	屋外配石炉	確認面	自然礫	15.4	9.4	4.0	700.4	凝灰岩	
図 27-12	屋外配石炉	確認面	自然礫	25.5	18.3	10.5	5,200.0	凝灰岩	被熱痕
図 27-13	屋外配石炉	確認面	自然礫	20.5	21.8	4.6	3,264.1	凝灰岩	

07 砂子瀬遺跡　土器埋設遺構

図版番号	出土位置・遺構	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	石 質	備　　考
図 29-2	3埋設	覆土	敲磨器類	11.6	7.85	5.65	686.8	玢岩	S-1（埋設土器内）、Ⅱ類
図 32-2	3埋設	覆土	削器	3.1	1.6	0.8	3.4	珪質頁岩？	
図 37-4	9埋設	1 層	自然礫	15.7	11.0	6.9	1,757.5	凝灰岩	S-60（埋設土器内）
図 37-6	9埋設	1 層	自然礫	5.2	5.1	4.4	119.3	凝灰岩	S-63（埋設土器内）
図 37-7	9埋設	1 層	自然礫	15.0	8.3	3.6	475.1	泥岩	S-62（埋設土器内）

07 砂子瀬遺跡　D区土坑

図版番号	出土位置・遺構	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	石 質	備　　考
図 41-9	SK-1	1 層	石錐	(4.35)	1.6	0.5	(3.3)	珪質頁岩	S-5、上下端部使用？
図 41-12	SK-2	確認面	石篦	7.1	2.8	1.3	24.1	珪質頁岩	S-3、撥型

07・08 砂子瀬遺跡　C区遺構外

図版番号	出土位置・遺構	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	石 質	備　　考
図 47-1	Ⅱ P-99	Ⅱ層下	石鏃	(2.5)	1.1	0.4	(1.0)	珪質頁岩	円基、先端欠損
図 47-2	Ⅲ R-80	Ⅲ層	石鏃	2.7	1.35	0.3	1.3	珪質頁岩	S-3、未完成　08砂子瀬
図 47-5	Ⅱ R-116	Ⅱ層下	石鏃	3.15	1.7	0.35	1.4	珪質頁岩	凹基
図 47-7	Ⅱ Q-116	Ⅱ層下	石鏃	4.2	1.8	0.7	4.4	珪質頁岩	凹基
図 47-8	Ⅲ P-84	Ⅱ層	石鏃	2.0	1.5	0.5	0.7	珪質頁岩	有茎
図 47-9	Ⅲ V-81	Ⅰ層	石鏃	(2.2)	1.3	0.4	(0.7)	珪質頁岩	有茎、先端欠損
図 47-10	Ⅲ C-118	Ⅱ層	石鏃	2.7	0.9	0.4	0.7	珪質頁岩	有茎、基部両面にアスファルト付着
図 47-11	Ⅱ Q-118	撹乱	石鏃	3.8	1.0	0.4	0.9	珪質頁岩	有茎
図 47-12	Ⅲ J-85	Ⅱ層	石鏃	(2.95)	1.4	0.45	(1.5)	珪質頁岩	有茎
図 47-13	Ⅱ S-116	Ⅱ層下	石鏃	3.2	1.2	0.4	1.6	珪質頁岩	有茎
図 47-14	Ⅲ A-121	Ⅱ層下	石鏃	3.2	1.1	0.4	1.3	珪質頁岩	有茎、基部両面にアスファルト付着
図 47-15	Ⅲ D-90	Ⅱ層	石鏃	3.15	1.2	0.55	1.2	珪質頁岩	有茎
図 47-16	Ⅱ P-118	Ⅱ層	石鏃	(3.25)	1.0	0.5	(1.8)	珪質頁岩	有茎、先端欠損
図 47-17	Ⅲ A-94	Ⅱ層	石鏃	3.9	1.2	0.45	1.4	珪質頁岩	有茎
図 47-18	Ⅱ Q-118	撹乱	石鏃	(4.1)	1.0	0.5	(1.6)	珪質頁岩	有茎、先端欠損

図 47-21	ⅡW-121	Ⅱ層下	石匙	3.1	5.4	0.9	20.5	珪質頁岩	横型
図 47-22	ⅡW-119	Ⅱ層	石匙	5.5	4.2	1.3	25.3	珪質頁岩	縦型　C区遺物集中３
図 47-23	ⅡX-114	Ⅱ層	石錐	3.5	1.1	0.6	1.9	珪質頁岩	上下両端を加工
図 47-24	ⅢO-83	Ⅱ層	石錐	(2.3)	2.1	0.5	(1.9)	珪質頁岩	錐部欠損、掻器？
図 47-25	ⅢC-118	Ⅱ層	石錐	(2.15)	0.65	0.5	(0.6)	珪質頁岩	つまみ部欠損？　C区遺物集中
図 47-26	ⅢC-117	Ⅱ層	石篦	5.5	3.0	1.5	28.6	珪質頁岩	撥型
図 47-27	ⅢI-85	Ⅱ層	石篦	5.7	2.7	1.4	20.4	珪質頁岩	撥型
図 47-28	ⅡT-116	Ⅱ層	石篦	5.4	2.5	1.4	20.8	珪質頁岩	撥型
図 47-29	ⅢH-87	Ⅱ層	石篦	7.9	3.2	1.8	44.4	珪質頁岩	撥型
図 47-32	ⅢO-86	Ⅲ層上	削器	2.8	2.2	0.6	3.0	珪質頁岩	08砂子瀬
図 47-33	ⅢK-85	Ⅱ層	削器	3.2	2.1	0.6	2.9	珪質頁岩	
図 47-34	ⅡU-114	Ⅱ層下	削器	2.95	2.1	0.4	2.1	珪質頁岩	
図 47-36	ⅢA-123	Ⅱ層	削器	6.9	4.1	1.0	29.0	珪質頁岩	
図 47-37	ⅡQ-117	Ⅱ層下	削器	6.1	3.7	0.9	28.8	珪質頁岩	右側縁上部と下端部に抉り
図 47-38	ⅡY-123	Ⅱ層下	削器	6.0	4.5	0.9	29.1	珪質頁岩	
図 47-41	ⅡY-123	Ⅱ層下	削器	(3.7)	3.6	0.6	(6.4)	珪質頁岩	上部欠損
図 47-43	ⅢC-119	Ⅱ層下	掻器	5.3	3.5	0.9	20.0	珪質頁岩	
図 47-44	ⅢO-80	Ⅱ層	掻器	4.0	3.4	1.1	14.4	珪質頁岩	
図 48-1	ⅡU-117	Ⅱ層下	敲磨器類	10.9	7.4	5.3	66.3	玢岩	Ⅱ類
図 48-2	ⅢB-119	Ⅱ層	凹み石	11.4	6.0	3.2	285.9	凝灰岩	S-13、Ⅶ類
図 48-3	ⅢD-89	Ⅱ層	凹み石	10.4	7.3	3.8	236.3	安山岩	Ⅶ類
図 48-4	ⅢB-119	Ⅱ層	敲磨器類	12.3	7.3	3.6	336.7	凝灰岩	S-44、Ⅱ類
図 48-5	ⅡW-114	Ⅱ層下	石皿	34.95	29.65	5.7	(4,205.0)	安山岩	有縁　C区遺物集中
図 48-6	ⅢJ-85	Ⅱ層	敲磨器類	15.4	8.6	5.9	991.4	シルト岩	S-1、Ⅱ類
図 48-7	ⅢO-84	Ⅰ層	磨斧	(6.4)	4.1	3.7	(92.5)	玢岩	刃部欠損
図 48-8	ⅢO-84	Ⅱ層	磨斧	(3.1)	1.2	1.0	(6.1)	片岩	刃部欠損
図 48-9	ⅢP-85	Ⅱ層	磨斧	(2.0)	1.9	0.6	(3.4)	片岩	刃部欠

07　砂子瀬遺跡　D区遺構外

図版番号	出 土 位 置	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 質	備　　考
図 47-3	ⅡL-85	Ⅱ層下	石鏃	2.9	1.6	0.6	1.9	珪質頁岩	凹基
図 47-4	ⅡL-84	Ⅱ層	石鏃	3.15	1.65	0.5	1.5	珪質頁岩	凹基
図 47-6	ⅡJ-86	Ⅱ層	石鏃	3.8	1.7	0.6	2.8	珪質頁岩	凹基、基部両面にアスファルト付着
図 47-19	ⅡL-86	Ⅱ層下	石槍	6.05	1.6	0.65	5.9	珪質頁岩	有茎、先端欠損
図 47-20	ⅡK-87	Ⅱ層下	石匙	5.35	7.5	0.9	26.9	珪質頁岩	横型
図 47-30	表採	—	石篦	11.0	3.9	2.2	111.5	珪質頁岩	撥型、刃部欠損
図 47-31	ⅡM-84	Ⅱ層	石篦	8.4	3.1	1.6	39.9	珪質頁岩	長楕円型
図 47-35	ⅡM-83	Ⅱ層	削器	4.3	2.0	0.7	4.5	珪質頁岩	
図 47-39	ⅡL-83	Ⅱ層下	削器	8.1	2.8	1.5	28.7	珪質頁岩	
図 47-40	ⅡL-83	Ⅱ層下	削器	7.1	4.9	1.0	25.8	珪質頁岩	
図 47-42	ⅡM-83	Ⅱ層下	削器	(4.3)	(5.2)	1.2	(12.0)	珪質頁岩	

007　水上 (3)遺跡　遺構外

図版番号	出 土 位 置	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 質	備　　考
図 53-11	XS-357	Ⅱ層	石匙	7.0	2.7	0.5	14.3	珪質頁岩	縦型
図 53-12	XU-356	Ⅱ層	石鏃	(3.5)	1.0	0.3	(1.3)	珪質頁岩	凹基か有茎、先端欠損
図 53-13	XS-356	Ⅱ層	削器	2.0	2.0	0.4	2.0	珪質頁岩	
図 53-14	XS-355	Ⅱ層	石篦	5.1	4.5	1.0	33.9	珪質頁岩	撥型？、基部欠損
図 53-15	表採	—	削器	9.4	4.8	2.6	47.7	珪質頁岩	
図 53-16	XT-357	Ⅱ層	石核	9.3	7.2	4.4	254.2	珪質頁岩	

07　水上 (4)遺跡　遺構外

図版番号	出 土 位 置	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 質	備　　考
図 64-1	ⅧO-235	Ⅲ層	石鏃	3.4	1.4	0.4	1.8	珪質頁岩	有茎
図 64-2	ⅧQ-239	Ⅲ層	石匙	2.9	3.9	0.3	4.6	珪質頁岩	横型
図 64-3	ⅧL-237	Ⅳ層	石匙	3.6	4.9	0.7	9.3	珪質頁岩	横型
図 64-4	ⅧU-238	Ⅲ層(沢)	石篦	10.2	3.1	2.2	66.2	珪質頁岩	長楕円型
図 64-5	ⅧS-237	Ⅲ層(沢)	石篦	5.4	2.2	1.45	18.1	珪質頁岩	長楕円型
図 64-6	ⅧT-237	Ⅲ層(沢)	石篦	(3.0)	2.65	0.9	(8.2)	珪質頁岩	基部欠損
図 64-7	ⅧR-239	Ⅲ層	石錐	3.1	1.7	0.6	2.3	珪質頁岩	
図 64-8	ⅧS-237	Ⅲ層(沢)	削器	(9.7)	4.7	1.65	(40.3)	珪質頁岩	
図 64-9	ⅧS-235	Ⅳ層	削・掻器	4.7	2.6	0.5	7.5	珪質頁岩	
図 64-10	ⅧX-236	Ⅲ層(沢底)	磨斧	(9.0)	4.9	2.9	(212.9)	玢岩	基部欠損
図 64-11	ⅧR-238	Ⅲ層(沢)	磨斧	(7.5)	4.3	2.5	(132.2)	玢岩	基部欠損
図 64-12	ⅧK-237	Ⅲ層	敲磨器類	15.7	7.8	5.5	791.8	凝灰岩	Ⅲ類
図 64-13	ⅧS-236	Ⅲ層	石皿	(15.3)	14.4	3.1	(1,049.7)	凝灰岩	
図 64-14	ⅧQ-239	Ⅲ層	敲磨器類	12.6	5.7	3.7	352.3	凝灰岩	Ⅴ類
図 64-15	ⅧQ-239	Ⅲ層	敲磨器類	9.0	8.1	4.4	474.5	安山岩	Ⅴ類
図 64-16	ⅧL-235	Ⅲ層	石皿	38.1	33.0	9.6	14,000.0	凝灰岩	石皿 -1
図 64-17	ⅧL-235	Ⅲ層	石皿	36.8	28.6	7.9	11,200.0	デイサイト	石皿 -2

土製品・石製品　観察表

07　砂子瀬遺跡　竪穴住居跡　土製品

図版番号	出 土 位 置	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備　　考
図 12-10	SI-2	覆土	円盤状土製品	4.5	5.15	1.3	27.3	沈線・LR縄文
図 12-11	SI-2	覆土	土面？	3.3	2.6	1.1	7.4	貼付

07　砂子瀬遺跡　遺構外　土製品

図版番号	出 土 位 置	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備　　考
図 48-10	C区　ⅢC-095	Ⅰ層	土偶	8.7	8.2	2.35	116.2	
図 48-11	C区　ⅢB-119	Ⅱ層	円盤状土製品	3.6	3.3	0.6	10.9	LR縄文
図 48-12	C区　ⅡV-126	Ⅱ層下	円盤状土製品	3.3	3.4	0.4	5.8	沈線
図 48-13	C区　ⅡV-114	Ⅱ層下	円盤状土製品	3.8	3.9	0.7	11.6	R単軸絡条体第１類
図 48-14	C区　ⅡR-116	Ⅱ層下	円盤状土製品	3.2	3.5	0.6	8.5	沈線 (摩滅)
図 48-15	C区　ⅢB-120	Ⅱ層	円盤状土製品	3.9	4.4	0.7	14.0	RL縄文
図 48-16	C区　ⅡY-123	Ⅱ層下	円盤状土製品	3.9	4.0	0.7	12.1	無文 (ﾐｶﾞｷ)
図 48-17	C区　ⅢB-119	Ⅱ層	粘土塊	3.9	3.6	2.7	33.2	

07　砂子瀬遺跡　遺構外　石製品

図版番号	出 土 位 置	層 位	器 種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石 質	備　　考
図 48-18	C区　ⅡX-123	Ⅱ層	石剣	(7.2)	2.3	0.6	(15.8)	粘板岩	両端部欠損、両側縁に刻み
図 48-19	C区　ⅡX-124	Ⅱ層下	石剣	(4.6)	1.9	0.6	(6.7)	粘板岩	両端部欠損、両側縁に刻み
図 48-20	C区　ⅡV-114	Ⅱ層下	石製品	4.5	2.5	1.5	17.1	凝灰岩	中央に溝、一部欠損
図 48-21	C区　ⅡQ-119	Ⅱ層	異形石器	(2.4)	(3.5)	0.8	(3.9)	珪質頁岩	先端２ヶ所欠損
図 48-22	D区　ⅡM-83	Ⅱ層下	不明石製品	(2.6)	0.55	0.5	(1.2)	粘板岩	下端部欠損

砂子瀬・水上（3）・水上（4）遺跡遠景（東→）

砂子瀬遺跡 屋外配石炉（南東→）

写真１　砂子瀬・水上（３）・水上（４）遺跡

水上(2) 遺跡トレンチ⑤ -03(南→)

水上(2) 遺跡トレンチ⑩ -02(西→)

砂子瀬村元遺跡(トレンチD)(北→)

砂子瀬村元遺跡 旧集落の石積み(トレンチD)(北東→)

水上(2) 遺跡トレンチ⑧ -06(東→)

水上(2) 遺跡トレンチ⑨ -02(西→)

写真2　平成18年度の発掘調査

水上(2) 遺跡トレンチ① -01(南→)

砂子瀬遺跡(トレンチ④ -01(南→)

砂子瀬遺跡(トレンチ⑬ -02(西→)

水上(2)・(3)・(4) 遺跡全景西→)

写真3　平成18年度の発掘調査

水上(2) 遺跡トレンチ① -01(南→)

砂子瀬遺跡(トレンチ④ -01(南→)

砂子瀬遺跡(トレンチ⑬ -02(西→)

水上(2)・(3)・(4) 遺跡全景西→)

写真3　平成18年度の発掘調査

砂子瀬遺跡全景（南→）

C区作業状況

D区作業状況

C区作業状況

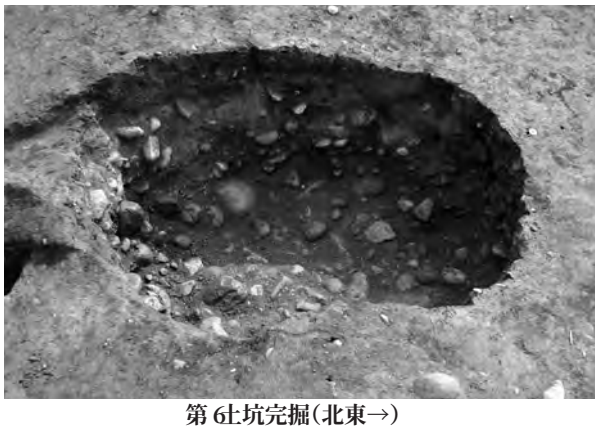
C区作業状況

写真４　砂子瀬遺跡

第 2号竪穴住居跡・第9号・第11号土坑完掘（南西→）

第 2号竪穴住居跡土層断面（西→）

第 2号竪穴住居跡 遺物出土状況（西→）



第 6土坑完掘（北東→）

第 15号土坑完掘（南→）

写真５　砂子瀬遺跡 竪穴住居跡・土坑

第 17号土坑完掘(南→)

第 21号土坑土層断面(西→)

第 26号土坑完掘(南→)

第 28号土坑完掘(南東→)

第 31号土坑完掘(南東→)

第 32号土坑完掘(南西→)

第 36号土坑完掘(南→)

第 37号土坑完掘(南→)

写真 6　砂子瀬遺跡 土坑

第 1号配石遺構（南西→）

第 1号配石遺構土層断面（東→）

第 2号配石遺構（南西→）

第 3号配石遺構（南→）

第 4号配石遺構（南西→）

第 5号配石遺構（西→）

屋外配石炉土層断面（西→）

屋外配石炉レプリカ作製作業

写真７　砂子瀬遺跡 配石遺構・屋外配石炉

第 2号土器埋設遺構土層断面図(北西→)

第 6号土器埋設遺構土層断面図(南西→)

第 9号土器埋設遺構土層断面図(南東→)

第 10号土器埋設遺構土層断面図(南西→)

第 14号土器埋設遺構土層断面図(北→)

砂子瀬遺跡作業状況

遺構外土器 (図 46-1) 出土状況

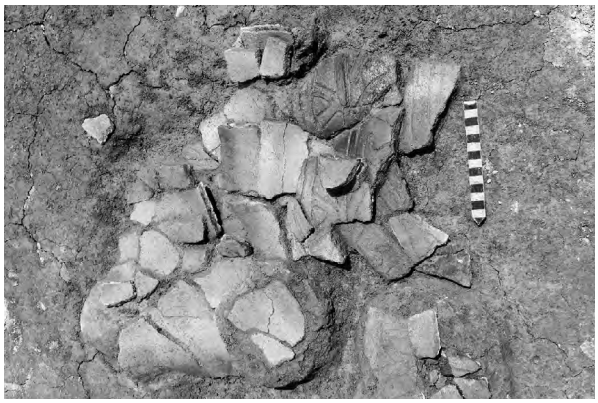

土器集中域の土器(図 44-1) 出土状況

写真 8　砂子瀬遺跡 土器埋設遺構・遺構外出土遺物

水上（3）遺跡調査区全景南西→）

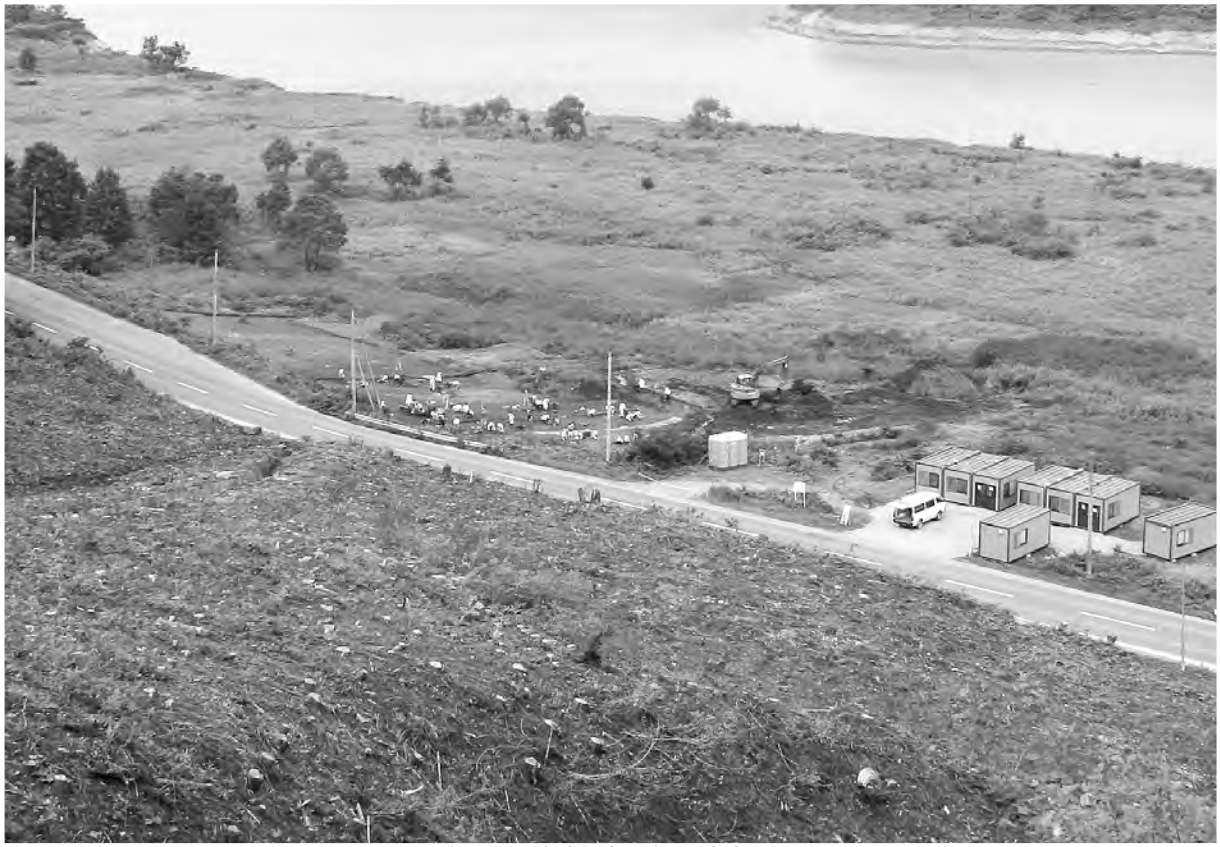
調査区（東→）

作業状況

作業状況

土器出土状況

写真９　水上（３）遺跡



水上（4 遺跡調査区全景（南東→）

第 1号配石遺構（東→）

遺物捨て場作業状況

作業状況

作業状況

写真 10　水上（4）遺跡

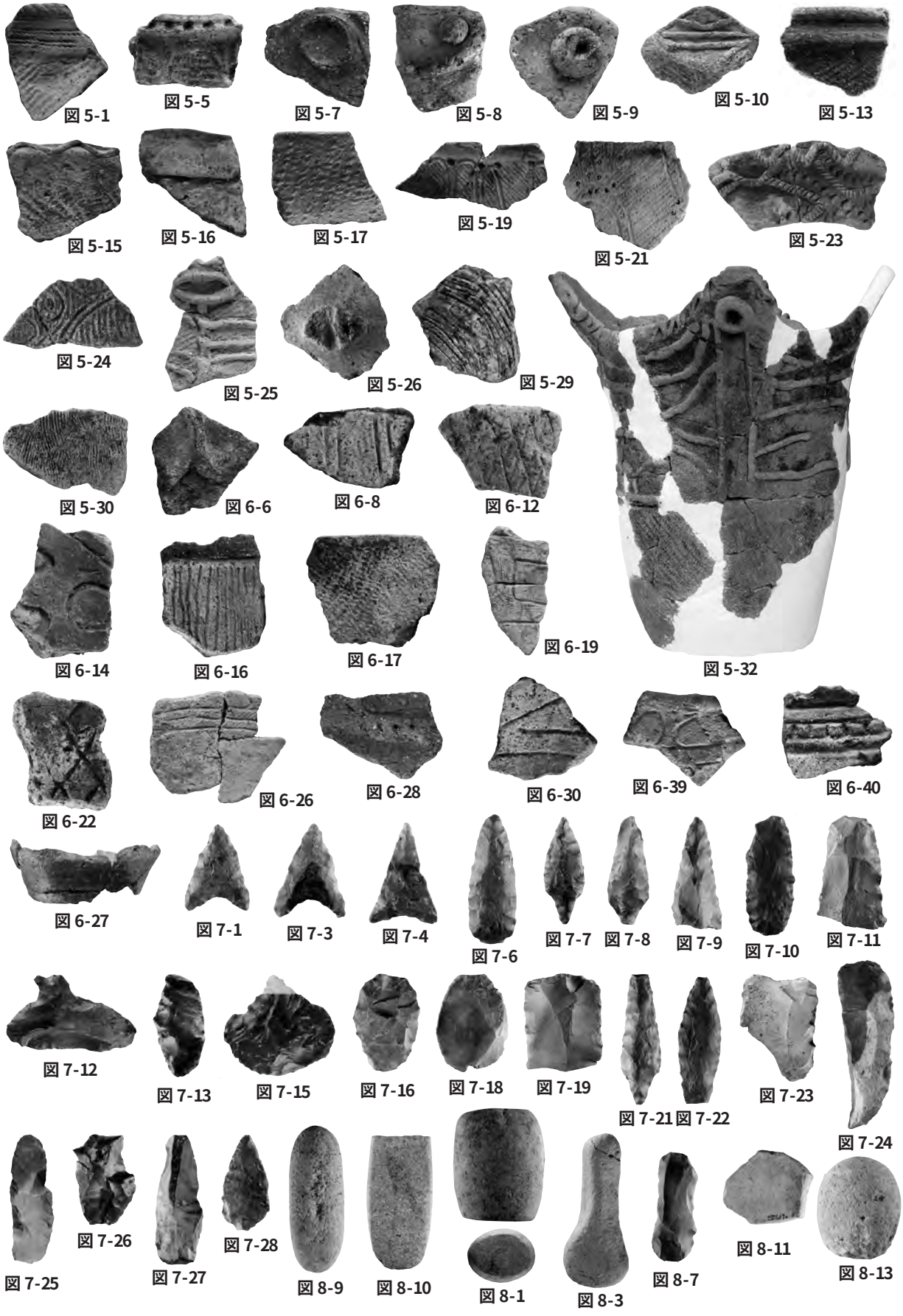


写真 11　平成 18年度の出土遺物

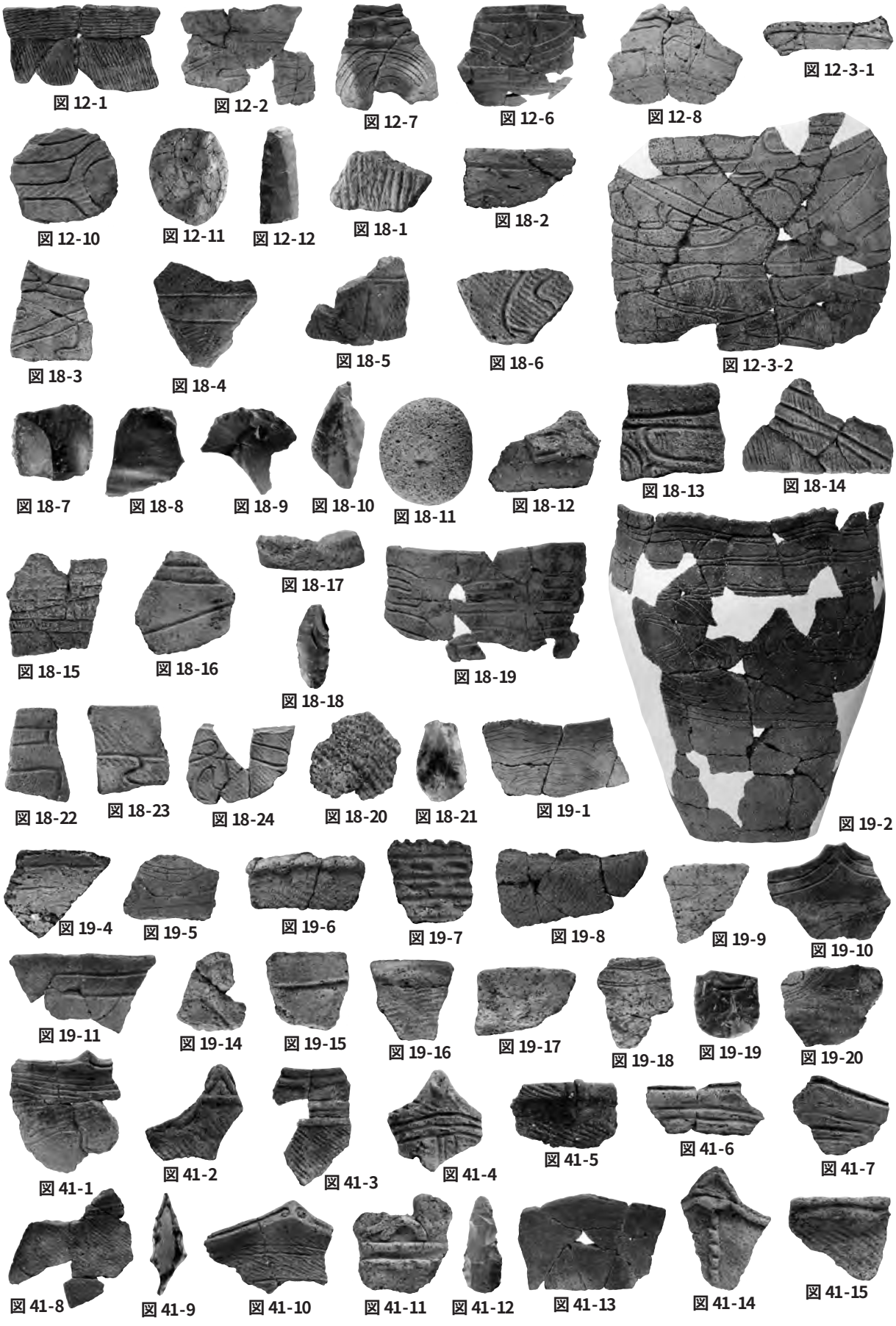


写真 12　砂子瀬遺跡竪穴住居跡・土坑出土遺物

図 20-1

図 20-2

図 20-3

図 22-1

図 22-2

図 26-1

図 26-7

図 26-2

図 26-10

図 26-9

図 26-6

図 26-3

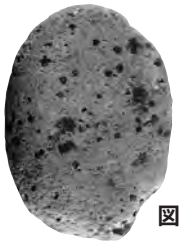


図 27-2

図 26-4

図 26-5

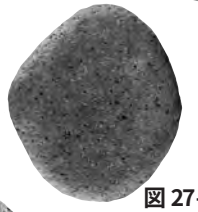


図 27-3

図 27-5

図 26-8

図 26-11

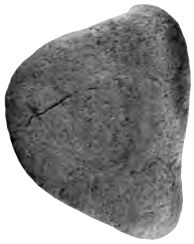


図 27-1

図 26-12

図 27-6

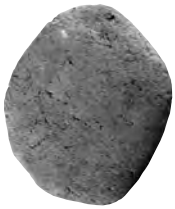


図 27-4

図 27-13

図 27-10

図 27-12

図 27-8

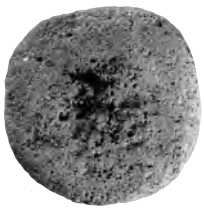


図 24-4

図 24-3

図 24-6

図 27-9

図 24-8

図 27-7

図 24-10

図 24-1

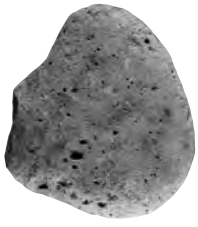


図 24-2

図 27-11

図 24-5

図 24-7

図 24-9

図 24-11

写真 13　砂子瀬遺跡配石遺構・屋外配石炉出土遺物

図 28-1

図 28-3

図 29-1

図 29-2

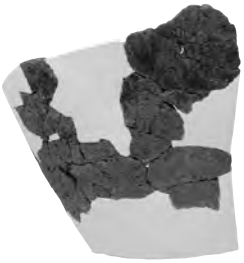


図 30-1

図 31-1

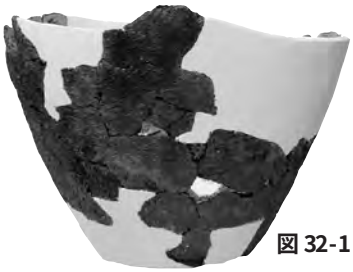


図 32-1

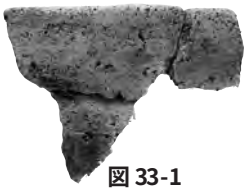


図 33-1

図 34-1

図 37-1

図 33-2

図 34-2

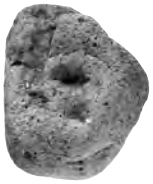


図 37-4

図 37-6

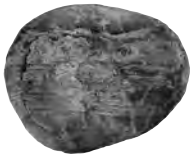


図 37-7

図 37-2

図 38-1

図 39-1

図 32-5

図 40-1

図 39-2

図 37-3

写真 14　砂子瀬遺跡　土器埋設遺構出土遺物

図 43-1

図 43-2

図 43-3

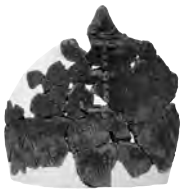


図 43-4

図 43-5

図 43-6

図 43-8

図 43-9

図 43-10

図 43-11

図 43-12

図 43-13.

図 44-3

図 44-5

図 44-6

図 44-7

図 44-2

図 44-4

図 44-8

図 44-9

図 44-1

図 44-10

図 44-11

図 44-12

図 44-13

図 45-1

図 45-3

図 45-6

図 45-7

図 45-2

図 45-9

図 45-8

図 45-4

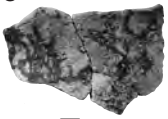


図 45-5

図 45-10

図 45-11

図 45-12

図 45-13

図 45-14

図 45-15

図 45-16

図 45-17

図 45-18

図 45-23

図 45-25

図 45-27

図 45-19

写真 15　砂子瀬遺跡　遺構外出土遺物 1

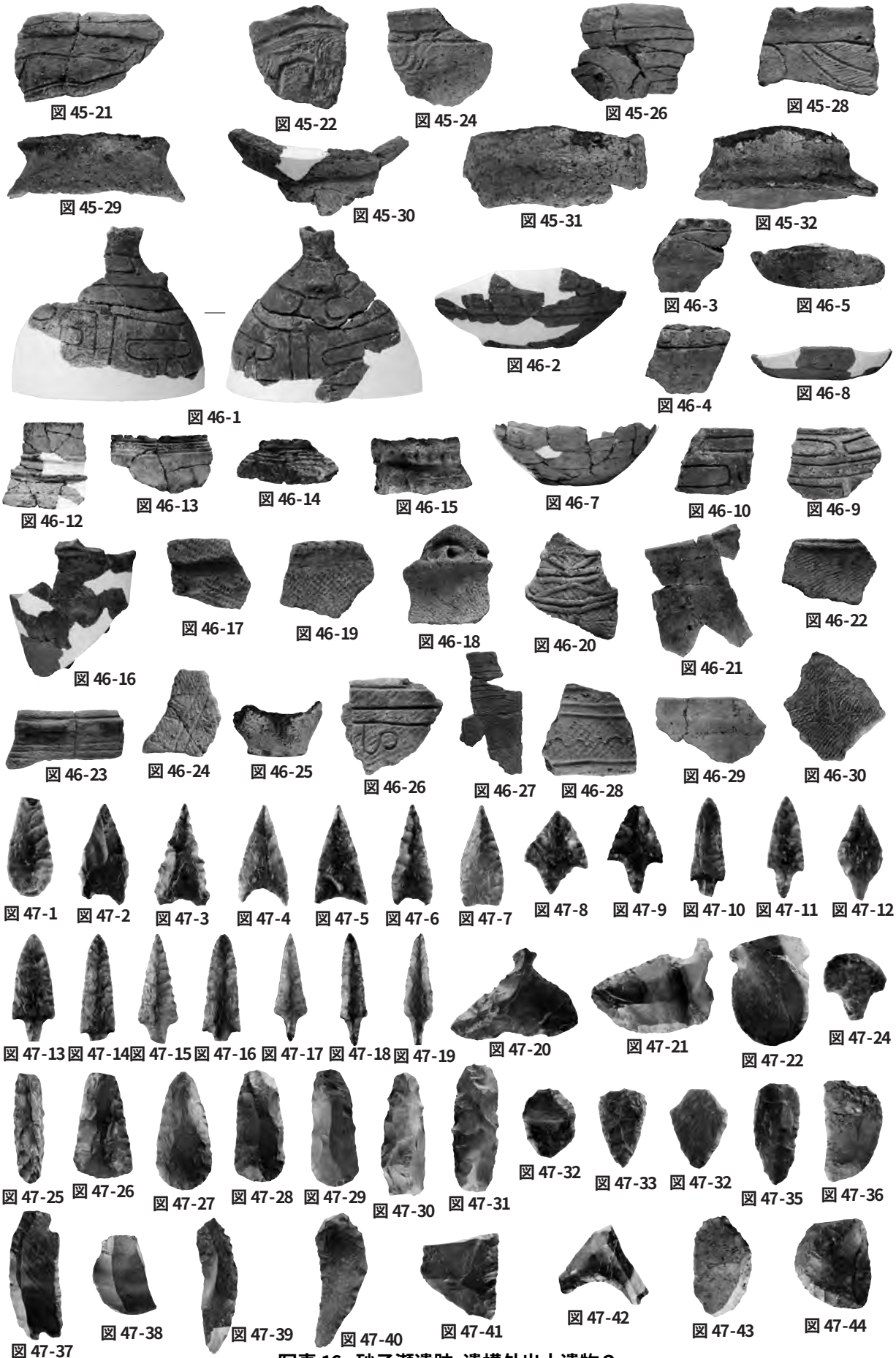


写真 16　砂子瀬遺跡　遺構外出土遺物 2

図 48-1

図 48-2

図 48-3

図 48-6

図 48-5

図 48-10

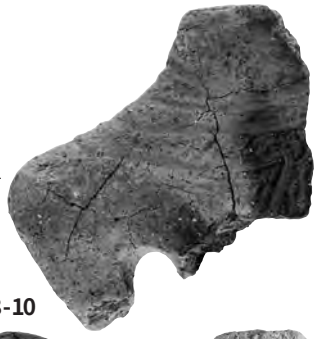


図 48-4

図 48-7

図 48-8

図 48-9

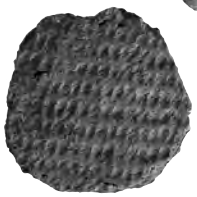


図 48-11

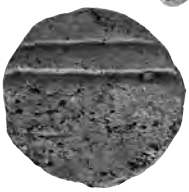


図 48-12

図 48-13

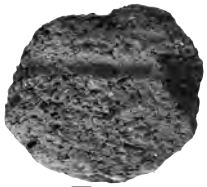


図 48-14

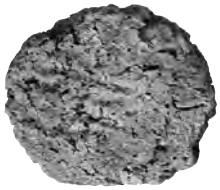


図 48-15

図 48-16

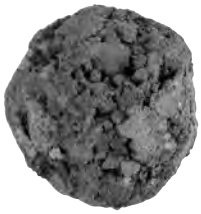


図 48-17

図 48-18

図 48-19

図 48-20

図 48-21

図 48-22

図 51-1

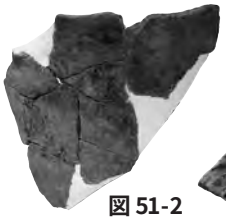


図 51-2

図 51-3

図 51-4

図 51-7

図 51-5

図 51-8

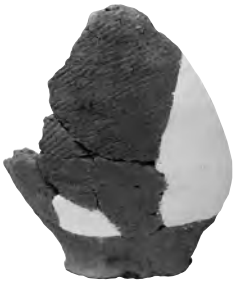


図 51-6

図 51-9

図 52-1

図 51-10

図 51-11

図 52-2

図 52-3

写真 17　砂子瀬遺跡　遺構外出土遺物３・水上(３)遺跡遺構外出土遺物１

図 52-4

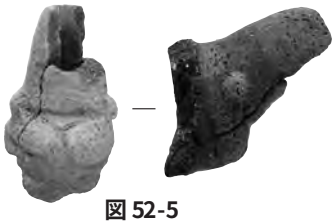


図 52-5

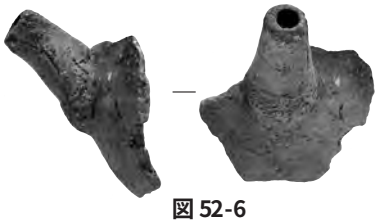


図 52-6

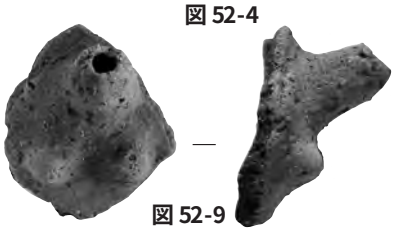


図 52-9

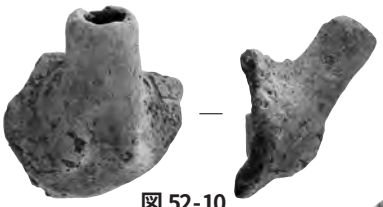


図 52-10

図 52-7

図 52-11

図 52-12

図 52-13

図 52-14

図 52-15

図 52-16

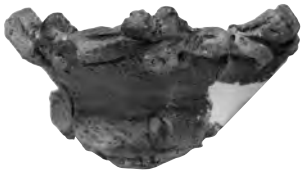


図 53-1

図 53-2

図 53-3

図 53-5

図 53-6

図 53-7

図 53-8

図 53-9

図 53-10

図 53-11

図 53-12

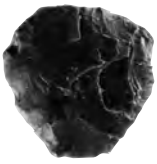


図 53-13

図 53-14

図 53-15

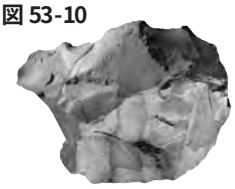


図 53-16

写真 18　水上（3）遺跡遺構外出土遺物 2

図 56-1

図 56-2

図 56-3

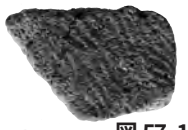


図 57-1

図 57-2

図 59-1

図 59-2

図 59-3

図 59-4

図 59-5

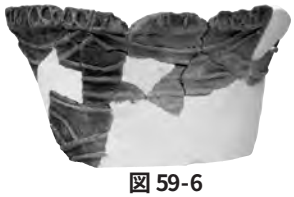


図 59-6

図 59-7

図 59-8

図 59-9

図 59-10

図 59-11

図 60-1

図 60-3

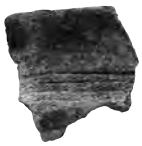


図 60-4

図 60-5

図 60-6

図 60-2

図 60-9

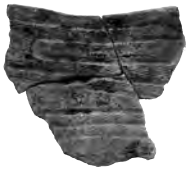


図 60-11

図 60-10

図 60-7

図 60-8

図 60-12

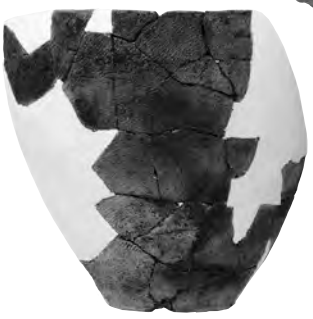


図 60-13

図 61-1

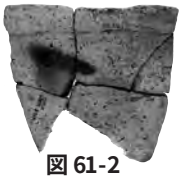


図 61-2

図 61-4

図 61-3

図 61-9

図 61-5

図 61-7

図 61-8

図 61-10

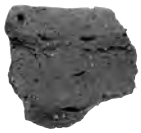


図 61-11

写真 19　水上（4）遺跡遺構内・遺構外出土遺物 1

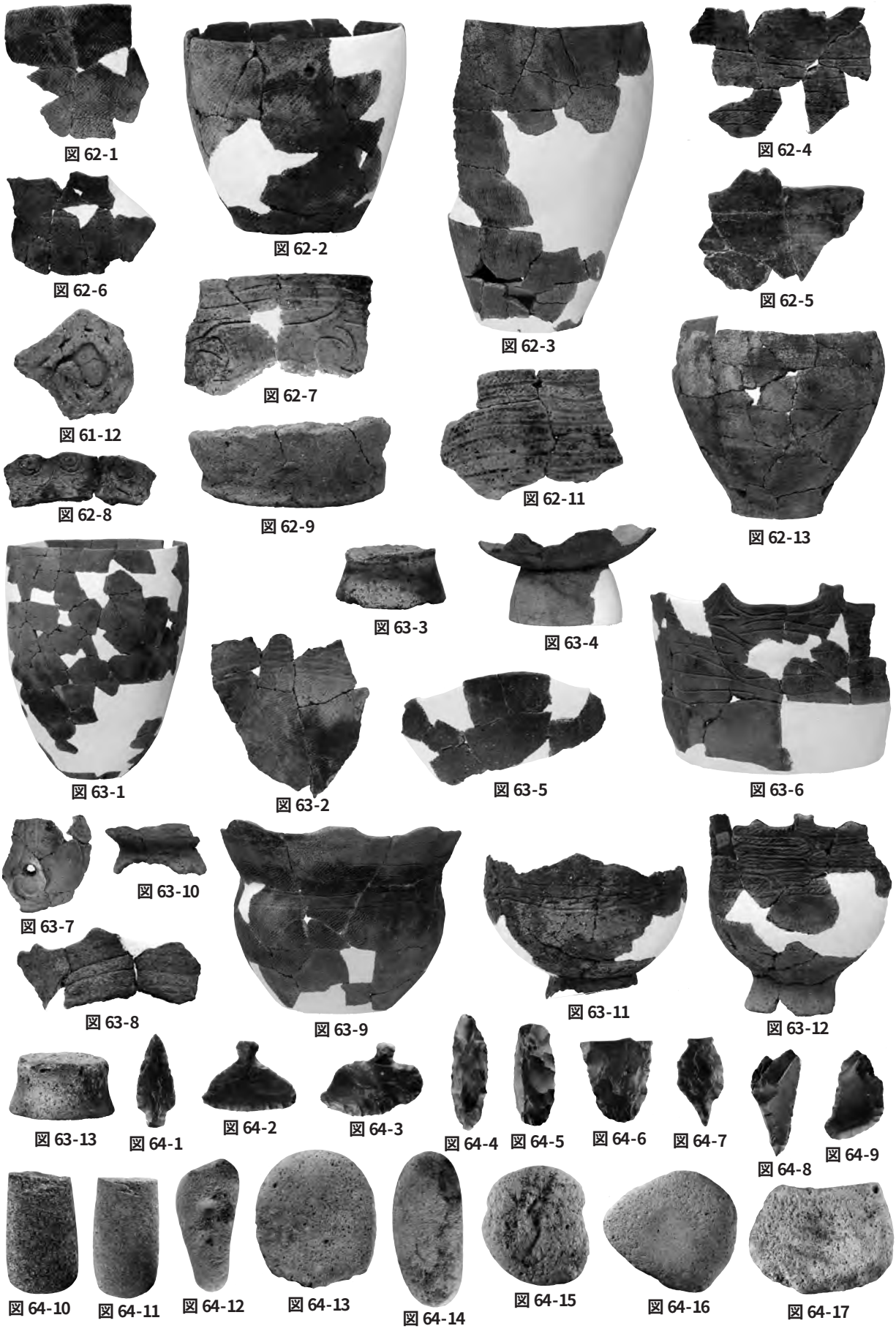


写真 20　水上 (4) 遺跡遺構外出土遺物 2

報 告 書 抄 録

ふりがな	すなこせいせき、みずかみ(3)いせき、みずかみ(4)いせき
書名	砂子瀬遺跡、水上(3)遺跡、水上(4)遺跡
副書名	津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第４６６集
編著者名	中嶋　友文・佐藤　純子・神　昌樹・菅原　優太
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター
所在地	〒038-0042 青森県青森市新城字天田内152-15　TEL:017-788-5701 FAX:017-788-5702
発行機関	青森県教育委員会
発行年月日	西暦2009年3月6日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	旧日本測地系 (Tokyo Datum) 北緯	旧日本測地系 (Tokyo Datum) 東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
すなこせ 砂子瀬遺跡	あおもりけんなかつがるぐん 青森県中津軽郡 にしめやむらすなこせ 西目屋村砂子瀬 あざみやもと 字宮元	02343	25008	40°31'37" 40°32'03" 40°31'58"	140°14'59" 140°15'33" 140°15'21"	20070508 ～ 20071031	13,300	津軽ダム建設事業に伴う事前調査
みずかみ 水上(3)遺跡	あおもりけんなかつがるぐん 青森県中津軽郡 にしめやむらすなこせ 西目屋村砂子瀬 あざみずかみ 字水上		25026	世界測地系 (JGD2000) 北緯	東経		2,100	
みずかみ 水上(4)遺跡	あおもりけんなかつがるぐん 青森県中津軽郡 にしめやむらすなこせ 西目屋村砂子瀬 あざみずかみ 字水上		25029	40°31'47" 40°32'13" 40°32'08"	140°14'49" 140°15'21" 140°15'09"		4,500	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
砂子瀬遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　1軒 土坑　30基 土器埋設遺構　14基 配石遺構　5基 屋外配石炉　1基	縄文土器 石器 土製品 石製品	屋外配石炉は、青森市小牧野遺跡で検出されたものと同様の石組みで、県内では２例目である。
水上(3)遺跡	散布地	縄文時代	土坑　1基		
水上(4)遺跡	散布地	縄文時代	土坑　7基 配石(集石)遺構　2基 遺物捨て場　1ヶ所		

要　約	調査の結果、砂子瀬遺跡では旧集落の造成による影響を受けているが、湯ノ沢川沿いの一部に遺構が残存している。検出した竪穴住居跡や土坑などの遺構は、縄文時代後期前半と考えられ、いずれも礫層を掘り込んで構築されている。また、配石遺構の中に、青森市の小牧野遺跡で検出された石組と同様の屋外配石炉が検出され、県内では２例目となった。 水上(3)遺跡では、竪穴住居跡などは確認できなかった。出土遺物の中に後期後半から晩期にかけての注口土器破片が約60点以上も出土している。 水上(4)遺跡では、中期中葉から後期の時期と思われる遺物捨て場や配石(集石)遺構が確認されている。

青森県埋蔵文化財調査報告書　第466集

砂子瀬遺跡
水上（3）遺跡
水上（4）遺跡

－津軽ダム建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－

発行年月日　平成21年３月６日

発　　行　青森県教育委員会

編　　集　青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042 青森県青森市新城字天田内152-15
TEL 017-788-5701　FAX 017-788-5702

印　　刷　青森相互印刷株式会社
〒038-0013 青森市久須志四丁目１-25
TEL 017-766-5161　FAX 017-766-5162